高山市埋蔵文化財調査報告書第13号

寺東遺跡、西保木(対岸)遺跡

発掘調査報告書

1988

高山市教育委員会

巻頭図版 1　　寺東遺跡全景

序

日本人古来の民俗と歴史が現代生活にどのような関わり合いを持っているか，世界の諸民族との類似性があるかなど，諸科学の応援を得ながら，考えられる時代になってまいりました。歴史と民俗は国際社会の中で，一民族の文化を表わす顔であり，日本特有の文化が，今ここに評価され，注目されています。それらを守り育てるため，地方史研究の成果が日本の歴史解明に果たす役割は大きく，また未来永劫の課題でもあろうと考えられます。

このたび，高山市の東方山間部に所在する寺東，西保木（対岸）遺跡を含む地区で団体営土地改良事業が計画されました。工事に先立ち緊急発掘調査を実施することになり，岐阜県考古学協会員の大江命氏，石原哲彌氏，吉朝則富氏，大江真人氏の指導協力をいただき，多大なる成果を納めて調査を終了することができました。

報告書刊行にあたり，岩井土地改良組合をはじめ土地所有者の方々，作業に従事，御協力していただいた諸氏に深く感謝の意を表わすとともに，本書が研究資料として活用され，文化財保護に役立つことを願うものであります。

昭和63年３月

高山市長　平　田　吉　郎

目　　次

序
目　　次
例　　言

第1章　地形と地質 …… 1
　第1節　地　　形 …… 1
　第2節　地　　質 …… 1

第2章　発掘調査の経過 …… 4

第3章　寺東遺跡の遺構 …… 10
　第1節　縄文時代の遺構 …… 10
　　1.第1号住居址 …… 11
　　2.第1号土壙 …… 12
　　3.第1号炉、第2号炉 …… 3 13
　　4.ピット群 …… 14
　　5.第2号住居址 …… 15
　　6.第3号住居址 …… 23
　　7.第4号住居址 …… 28
　　8.第5号住居址 …… 38
　　9.第6号住居址 …… 42
　　10.集石遺構 …… 45
　　11.硬玉製大珠包含層 …… 49
　　12.土　　壙 …… 50
　　13.ピット群 …… 52
　第2節　墓　　址 …… 62
　　1.第1号墓址 …… 62
　　2.第2号墓址 …… 62
　　3.第3号墓址 …… 62
　　4.^{14}C年代測定結果 …… 62
　　5.その他の遺構 …… 63

第4章　寺東遺跡出土の植物遺体 …… 64

第5章　西保木遺跡の遺構 …… 68
　第1節　縄文時代の遺物包含層 …… 68
　　1.地理的環境 …… 68
　　2.層　　序 …… 70
　　3.遺物包含状況 …… 73
　　4.遺　　構 …… 74

第6章　遺　　物 …… 77
　第1節　寺東遺跡遺構内の遺物 …… 77
　　1.第1号住居址　ＳＢ１ …… 77
　　2.第1号土壙　ＳＫ１ …… 79
　　3.第1号炉、第2号炉 …… 80
　　4.ＳＢ１周辺のピット群 …… 83
　　5.第2号住居址　ＳＢ２ …… 83
　　6.第3号住居址　ＳＢ３ …… 89
　　7.第4号住居址　ＳＢ４ …… 90
　　8.第5号住居址　ＳＢ５ …… 96
　　9.第6号住居址　ＳＢ６ …… 98
　　10.集石遺構 …… 100
　　11.硬玉製大珠包含層 …… 103
　　12.ピット45　P_{45} …… 103
　　13.第3号土壙　ＳＫ３ …… 110
　　14.ピット群 …… 110
　　15.その他の埋葬施設・その周辺 …… 114

16.第1号墓址 ……115
第2節　寺東遺跡構外の土器 ……115
1.縄文早期の土器 ……115
2.縄文中期の土器 ……115
3.後期の土器 ……116
4.晩期の土器 ……116
5.底　　部 ……117
6.注口土器 ……117
7.土　　偶 ……117
8.板状工製品 ……117
9.土　　錘 ……117
第3節　寺東遺跡、土器群のまとめ …125
第4節　寺東遺跡遺構外の石器 ……126
1.石　　鏃 ……126
2.尖頭石器 …… 134
3.石　　錐 ……135
4.磨製石斧 ……138
5.打製石斧 ……142
6.庖丁形石器 ……147
7.砥　　石 ……147
8.台　　石 ……148
9.石　　錘 ……148
10.掻　　器 ……149
11.削　　器 ……149
12.ピエスエスキーユ ……151
13.U.f ……152
14.剥片、削片 ……152
15.石　　匙 ……153
16.磨　　石 ……153
17.凹　　石 ……155
18.敲　　石 ……156
19.石　　皿 ……157
20.石　　核 ……157
21.石　　棒 ……157
22.石　　剣 ……158
23.石　　刀 ……158
24.石　　冠 ……159
25.玉　　類 ……159
26.そ の 他 ……159
第5節　西保木遺跡の土器 ……179
1.中期の土器 ……179
2.晩期の土器 ……179
第6節　西保木遺跡の石器 ……180

第7章　寺東遺跡遺構の埋設土器に
存在する脂肪の分析 …186
1.埋設土器試料 ……186
2.残存脂肪の抽出 ……186
3.残存脂肪の脂肪酸組成 ……187
4.残存脂肪のステロール組成 ……188
5.脂肪酸組成からの数理解析 ……188
6.脂肪酸組成による種特異性相関 …189
7.総　　括 ……189

あとがき ……197

例　　言

1．本書は，昭和62年４月20日から９月上旬まで現地発掘調査を実施した、岐阜県高山市岩井町字寺東，字荒垣内（字西保木の対岸）地内の遺跡発掘調査報告書である。

2．岩井町地区団体営土地改良総合整備事業（区画整理型）により，本遺跡が破壊されるため発掘調査を実施したものである。本遺跡発掘調査は，土地改良事業補助金（昭和62年８月12日付農計第296号の29），文化庁補助金（国宝重要文化財等保存整備費補助金・昭和62年６月24日付委保第71号），岐阜県補助金（岐阜県文化財保護費補助金・昭和62年４月20日付教文第74号）の交付を受けて実施した。

3．調査は下記の調査団によって実施した。

団長	高山市長	平田吉郎	作業従事者	坂口真裕美	筒井　毅
副団長	高山市教育長	谷脇豊蔵		足立由美子	大家トメ子　橋本　節子
指導	岐阜県教育委員会	文化課		樋口　敏子	宮本　智恵　西倉　淳子
調査担当者		田中　彰		水口　文子	島畑千恵子　中島ふさ子
調査員	日本考古学協会会員 岐阜県考古学会会長	大江　命		陣出　幸子	葛谷あや子　田中　リワ
	日本考古学協会会員 高山考古学研究会会長	石原哲彌		島田　トワ	谷口恵奈子　坂田　春子
	日本考古学協会会員	吉朝則富		洞口みち子	井上　仁吉　滝上　惣作
	大江　真人	徳田誠志		大家　誠	足立　一勇　宮本さよ子
事務局	高山市教育委員会事務局長	山本　桂		塚本　正作	島田　和七　川尻三右ヱ門
	文化課長	川上浩平		上野千恵子	中島　知之　内木真紀子
	文化財係長	桜野功一郎		中田　尚子	浅野　聡美

4．本編の執筆は第１章を石原哲彌，第２～３，5章を田中彰，第４章を渡辺誠氏，第６章を吉朝則富，第７章を北海道測量図工社が担当した。

5．本編の挿図作成，図版の写真撮影，遺物の復元は田中彰が行い，遺物の実測図作製，拓影の整理は吉朝則富が行った。

6．調査にあたり，人骨については京都大学霊鳥類研究所江原昭善先生，自然遺物については名古屋大学助教授渡辺誠氏，炭素年代測定を京都産業大学教授山田治氏，土器を増子康眞氏，石器の石質鑑定は高山考古学研究会会員岩田修氏に協力をいただいた。

7．調査中，山田忠兵衛氏に遺物の提供等ご協力をいただいた。

8．調査には，次のかたがたのご理解とご協力をいただいた。

高山考古学研究会，岩井土地改良組合，岩井町内会，岩滝小学校の先生，生徒諸君，野村崇作，藤本健三，山腰哲也，成瀬正勝，小林浩，住寿美子，丸山茂，土井邦夫の各位

9．第６号住居址の埋甕埋土について，㈱北海道測量図工社に脂肪酸分析を依頼した。

10．方位は磁北とし，住居址をＳＢ，土壙をＳＫ，集石をＳＣ，ピットをＰと略号で表わした。

第1章　地形と地質

第1節　地　　形

寺東遺跡の南側を大八賀川が西流している。川の南岸に連なる尾根は位山山脈と呼ばれ，太平洋側と日本海側の分水嶺で，大野郡朝日村との境界となっている。寺東遺跡から分水嶺を越えると，直線距離で約4～5㎞の範囲に，飛騨川に沿って青屋，万石，立岩（宮ノ腰），甲（森ノ下），見座（釜野），小屋名などの比較的規模の大きい縄文遺跡が点在する。

寺東遺跡は北東を流れる中曽洞谷が大八賀川に合流し，二つの川に狭まれた舌状台地の基部にあたる地点に位置している。岩井町字寺東1298，1301の1番地にまたがる畑地と水田である。大八賀川の川原から約6ｍの比高をもつ段丘面で海抜高度は753ｍを測る。

遠く日影平山（1593ｍ）の支脈の一つである松ヶ洞山（1166ｍ）から延びる尾根の末端が，遺跡の東側に迫っている。（挿図1参照）

岩井町と滝町を岩滝地域と呼称している。北から滝川，根方谷，生井川，中曽洞谷，大八賀川が並列して西に流れており，それぞれ河谷のわずかに開析された沖積地とゆるやかな斜面，或は，丘陵状の平坦な頂部が田畑に利用され集落が散在している。この地域に21ヶ所の小規模の先史時代遺跡が分布する。（図版1参照）

岩滝地区の地形は，滝町の北側を走る江名子断層（生井の奥から江名子，清見村に延びる活断層）と岩井町の南側を走る宮峠断層から派生する牛首山，丸黒山へと分水嶺に沿って走る断層に狭まれ，五つの谷もこの二つの断層方向に調和している。

遺跡の東側は急峻な山腹となり，その頂部は日影平の平坦面である。西側は数河，岩井町から深い峡谷となって高山盆地へとつながっている。四方を高い山に囲まれた凹地状の地形に，東から西に連なる丘陵性の尾根と，若い浸食谷によって特異な景観を形成している。

図版1　岩井神社西方の山頂より東方を望む（右から岩井谷，中曽洞谷，生井谷，根方谷）

高原状の日影平では，先土器時代の石器や縄文早期の土器片が出土している。

遺跡の西方約4㎞の大八賀川沿いには，塩屋町臼本（うすもと）遺跡があり縄文遺跡として知られている。

第2節　地　　質

岩滝地区の基盤岩類は大まかにまとめると，生井谷から北側が古生代の二畳紀から中生代三畳紀にかけての，玄武岩，石灰岩，チャートよりなる小八賀層である。また，根方，滝川の上流部は三畳紀の玄武岩，チャートの岩片を含む礫岩からなる根方(ごんぼう)層が分布している。生井谷の南側は分水嶺を含めて古生代二畳紀から中生代ジュラ紀にかけての，チャート，玄武岩，石灰岩からなる未区分の中・古生層で，美女峠から宮峠までの大西山塊は中生代ジュラ紀の珪質頁岩，砂岩からなり大西層と呼ばれている。

これらの基盤岩類の凹地を，約250万年前に「丹生川火砕流堆積物」と呼ばれる溶結凝灰岩が噴流して覆った。千町ヶ原から日影平，子ノ原高原，上宝村から丹生川，高山盆地周辺の丘陵地まで広く分布している。噴出源は丹生川村岩井谷東方と推定されている。

岩滝地区では日影平で厚さ100 m前後，生井川畔の旧岩滝小中学校付近から中曽洞にかけて小範囲に分布している。丹生川村山口ではこの岩石を採石している。

新鮮な部分は灰白色から灰色，風化した部分で灰緑色から赤紫色を呈し，凝灰岩のようで風化し易く，「まめこ石」と俗称されている。

「丹生川火砕流」が浸食・風化を受けた後，約80万年前に，「上宝火砕流堆積物」と呼ばれる溶結凝灰岩が噴流して覆った。この岩石は小八賀北方の八本原では西方に傾斜した火砕流台地の地形が残っている。上宝村の高原川沿い，丹生川村の荒城川沿いに広く分布し，岩滝地区が分布の南限である。噴出源は上宝村福地付近と推定されている。

生井川沿いの旧採石場は，この岩石の柱状節理が露出している。下部の丹生川火砕流との境いから5～6 mは柔かく容易に掘削りができるが，その上部は溶結して固結している。この部分は多孔質で加工が容易なため石材として採石していた。最上部は弱く溶結しているが風化してシラスのような砂質の状態となっている。

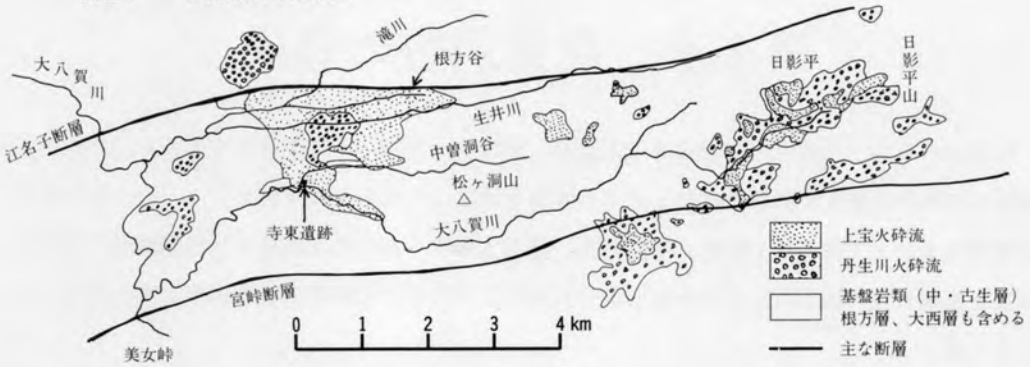
灰色から暗灰色を呈し，黒雲母を含み偏平化した黒色のガラス質レンズを含んでいる。風化し易く「ふご石」と俗称されている。

寺東遺跡の北東に見られる崖や，大八賀川岸の岩盤はいずれもこの岩石である。少し下流の露頭には基底岩盤の中・古生層のチャートが顔を出している。

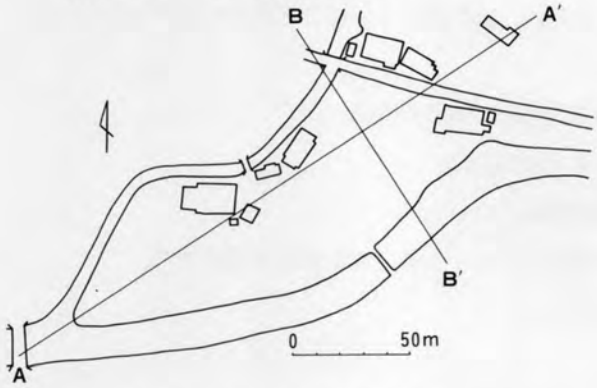
岩滝地区の特色ある地形は，以上のような岩石の生いたちや地殻の変動によって形成された。

寺東遺跡の土層は挿図3に示してあるように，黒色の耕作土の下部に酸化マンガンの集積層があり，II層は暗褐色で上宝火砕流やチャートの礫を多く含み，III層から地山であり，上宝火砕流のシラスを主体とする5層の砂層がみられる。I・II層が遺物の包含層で，竪穴住居は地山を掘り下げて構築されている。

挿図１　岩滝地区の地質図



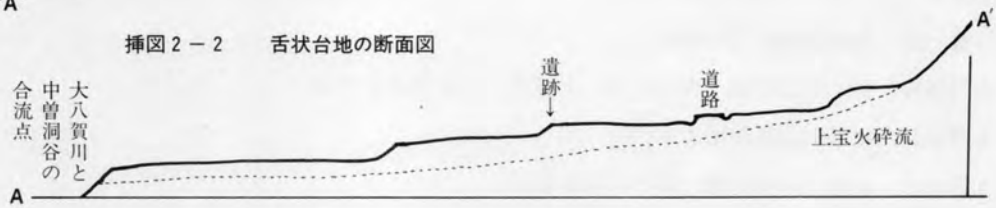
挿図２－１　舌状台地の平面図



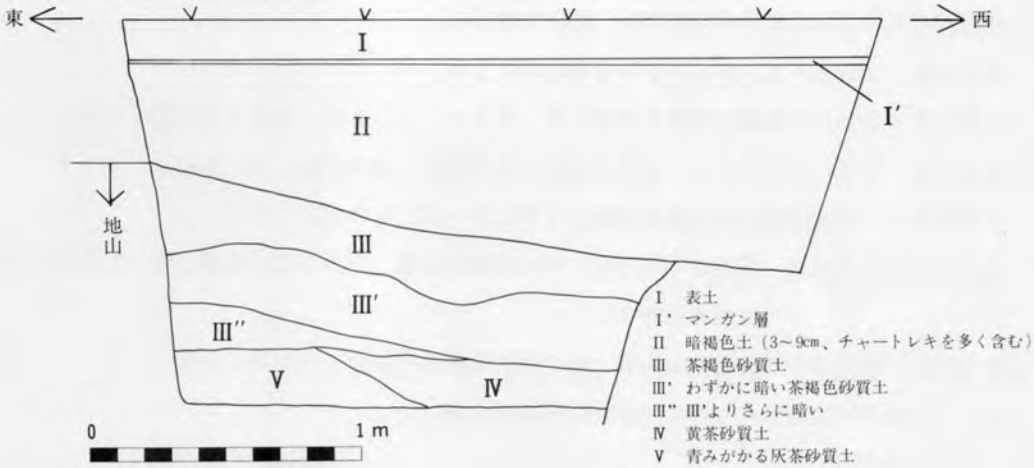
挿図２－３　舌状台地の断面図

水平：垂直比は１：２

挿図２－２　舌状台地の断面図



挿図３　寺東遺跡土層図



第２章　発掘調査の経過

昭和58年８月，埋蔵文化財包蔵地寺東遺跡，西保木（対岸）（註１）遺跡を含む地区において，岩井地区の土地改良事業が計画された。遺跡の破壊を懸念した高山市教育委員会は，58年９月６日関係者立会の上予備調査を実施。その結果，縄文土器片，石器等が確認され発掘調査の必要な範囲を協議した。調査は，遺跡を含む部分の施行に合わせて62年度に発掘調査を実施することになった。

昭和62年４月20日，現地においてプレハブの事務所を設置し事業に着手，９月19日に現地調査を終了し引き続いて報告書作成作業に入いる。以下調査日誌により調査経過の概要を記する。

西保木（対岸）遺跡

４月20日　発掘前現況写真撮影，発掘用具搬入，事務所設置。

４月21日　西保木遺跡土層調査開始，クイ打ち開始。

４月27日　〃　第一トレンチ調査開始。

５月23日　〃　包含層の下部に達した。ピット群，集石遺構８箇所確認。

６月５日　〃　空中撮影測量を行う。

寺東遺跡

５月11日　発掘前現況写真撮影

５月28日　表土除去開始，表土に多く土器片，石器等出土する。

６月18日　硬玉製大珠が出土。

６月22日　石冠，石棒を含む集石遺構を確認。

６月27日　ＳＢ１の貼床を確認，ピット群が検出される。

７月20日　ＳＢ２のプランを確認し，検出を進める。

７月21日　ＳＢ３，４，５のプランも明らかになる。

７月31日～ＳＢ５の東部に埋甕を検出する。ＳＢ２，３，４からも次々と検出された。

８月11日　ＳＢ６が検出され，埋甕を確認。８月20日　空中撮影，測量を行う。

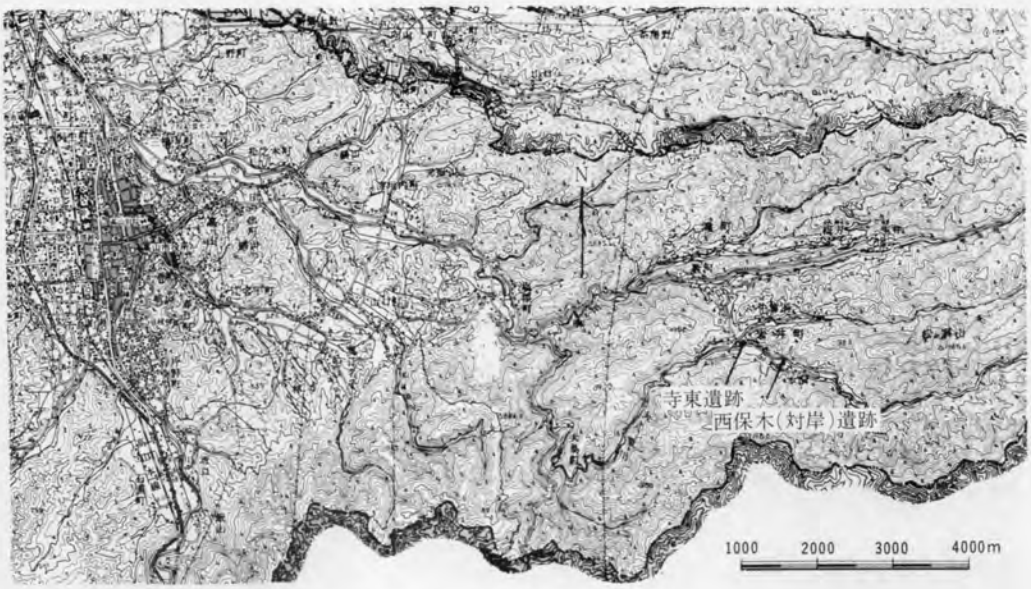
８月21日～　埋甕の断面図作製を開始。８月23日　市民見学会を行う。

８月25日～９月19日　埋甕の取り上げ，埋土断面図作製，床面下部の遺構面検出を行い，現地調査を終了。

９月20～　歴史民俗資料館高山市郷土館で遺物整理を行い報告書作製に着手。

（註１）　西保木遺跡は字西保木及び対岸に位置する字荒垣内を含む。

挿図4　遺跡の位置

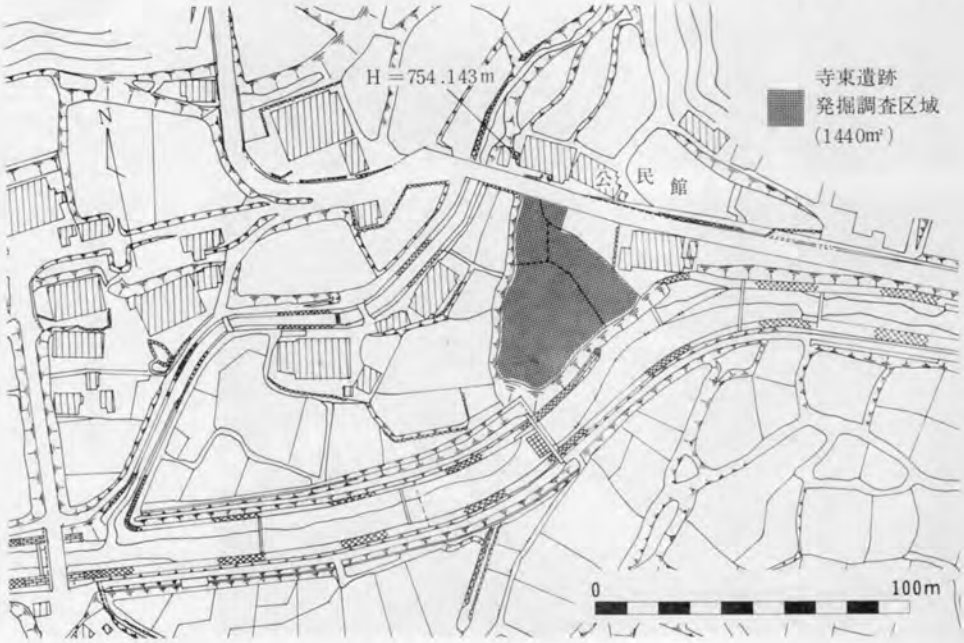


図版2　西保木遺跡(遠景)

図版3　寺東遺跡(遠景)

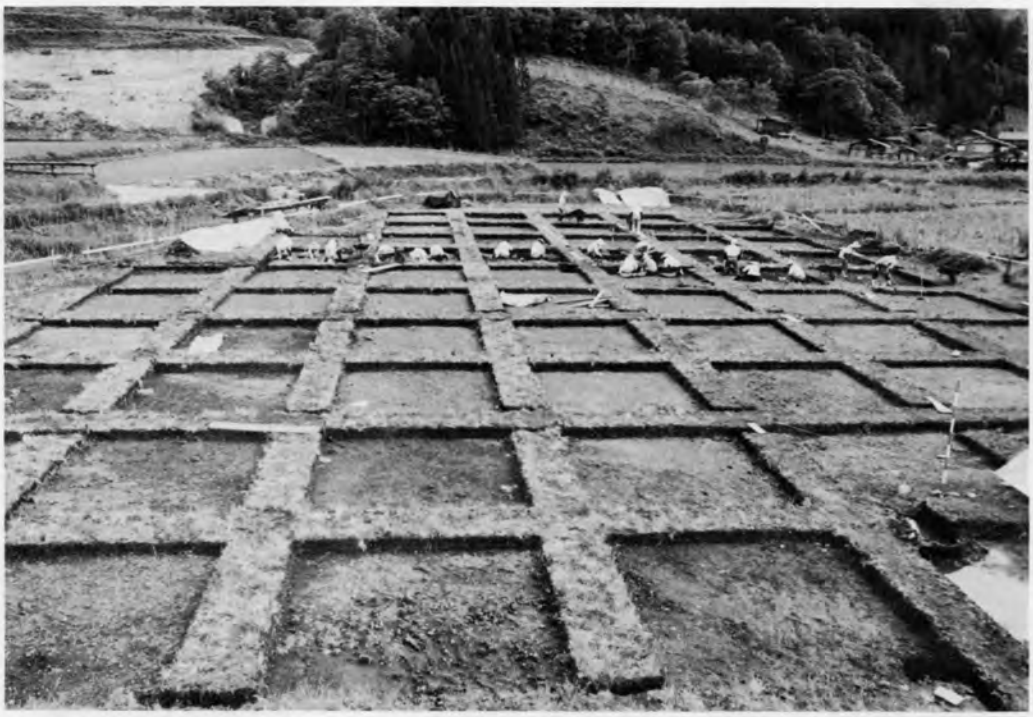
挿図 5　西保木遺跡発掘調査区域

挿図 6　寺東遺跡発掘調査区域

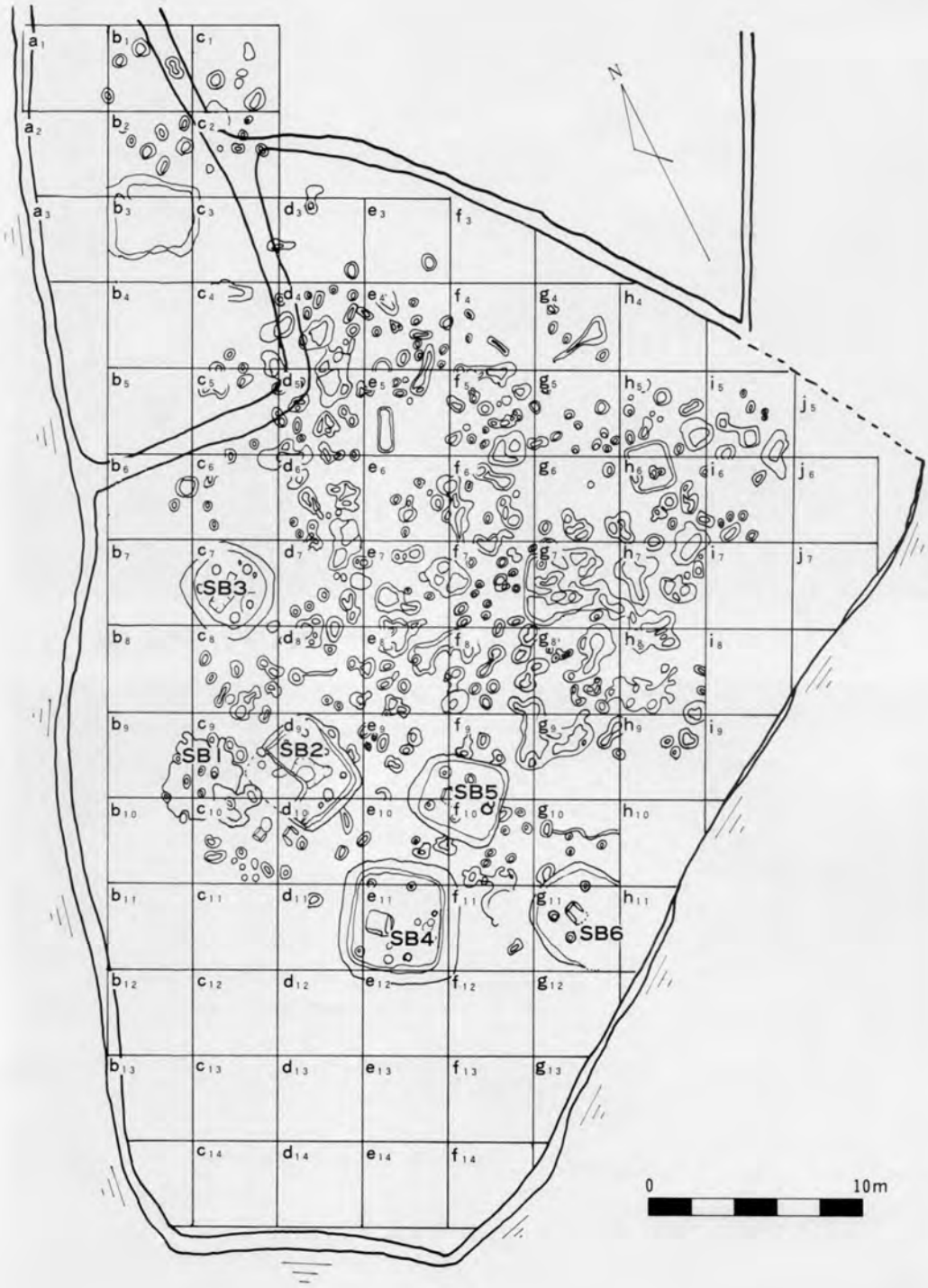


図版 4　　西保木遺跡（近景）

図版 5　　寺東遺跡（近景）



挿図7　寺東遺跡グリッド配置図



図版 6　　寺東遺跡遺構全景（空中撮影）

第３章　寺東遺跡の遺構

第１節　縄文時代の遺構

挿図８　遺構全体平面図

1. 第１号住居址　ＳＢ１（挿図９，図版７，８）

本住居址は台地南東に位置し，ｂ９，10，Ｃ９，10グリッドにかけて貼床が確認された。水田表面から15cm程下にマンガン層があり，それを取り除くと炭が混じる茶褐色土層があって，大量に土器，石器片を包含していた。６×12ｍ範囲を検出したがプランは発見できず，貼床が3.2×4.05ｍの範囲で確認された。床面は非常に硬く，1.5～２cmの粘土層が貼られている。南側は良く焼けて赤色を呈しているが，焼けていないところは灰青色を呈する。炉跡，入口，主柱穴とも不明である。東方に隣接して第２号住居址が存在し，高底差は53cmを計る。

また，関連する遺構として第１号土壙，第１号炉，第２号炉，ピット群を以下に記する。

挿図９　SB1とピット群、１号、２号炉

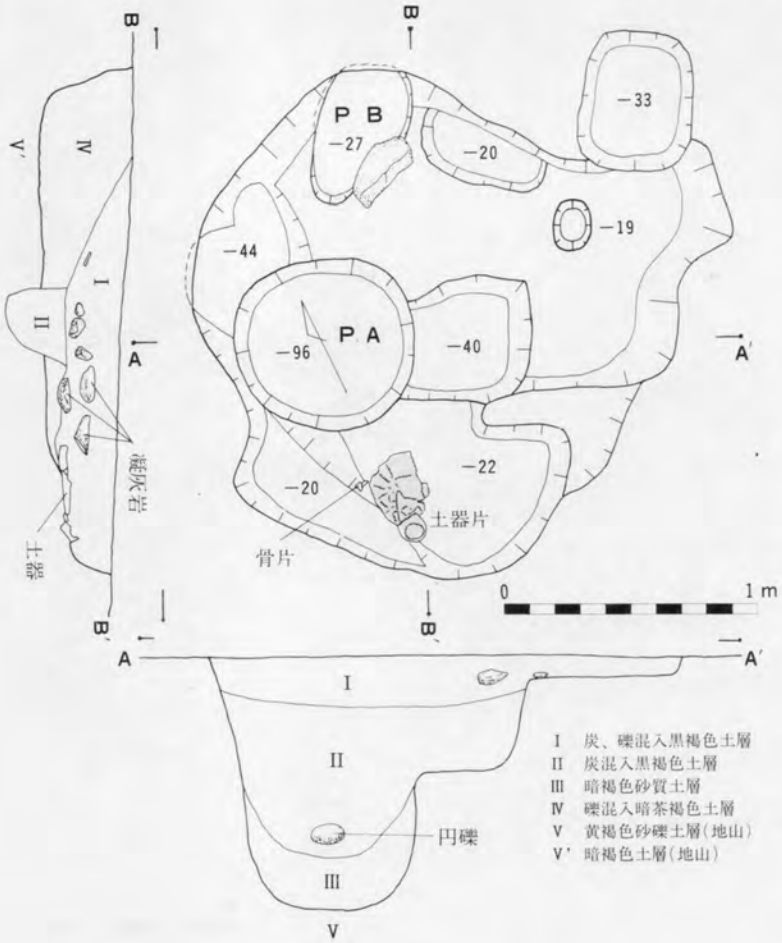
2．第1号土壙（ＳＫ１　挿図10，図版９，10）

プランが確認された段階では，底部を多く含む多量の土器片が上層に存在した。西側半分を掘り下げると正円形のピットが検出され，これをＰＡとした。ＰＡはほぼ垂直に円柱状をなし深さは96cmを測る。ＰＡのＩ層及びII層の上部は土器片が多く出土し，下層は少なくなる。II層下部には円礫が検出され，III層下部には小骨片（獣骨か人骨か不明）が確認された。

また，南側に土器片が$\frac{1}{3}$個体見つかり，その東側に骨片が散布し，西側にも関節部と思われる骨片(1.5×5.5cm)が確認された。いずれも人骨(註1)か獣骨か不明である。本土壙の性格は，いくつかのピットが重複している為に判断できないが，西側に残る貼床との関係から全体を炉の抜き取り穴とみるか，円柱状のピットや円礫，骨片の散布から墓壙とみるかなどが考えられよう。

(註1)保存が極めて不良で，骨質も脆く，細片化が著しい。出土した骨片量も少ない。その形質から人骨の可能性があるが，それすらも不確実である。

挿図10　第１号土壙実測図



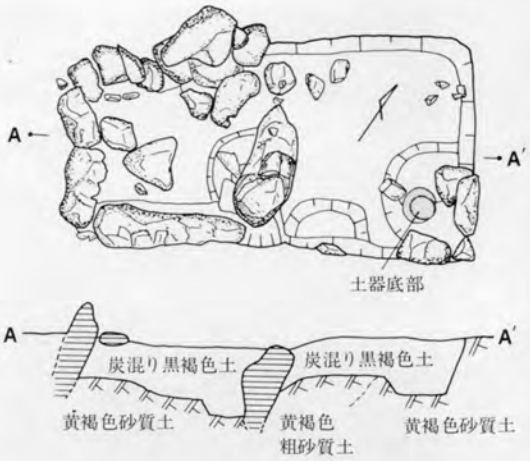
3．第1号炉、第2号炉（挿図11，図版11，12）

第1号炉は基本的に4枚の凝灰岩で組まれた石組炉で，東方に傾斜している。また，東側に隣接して方形のピットが確認され，土器底部などが検出されたが，複式炉の痕跡であるかどうかは判別できなかった。

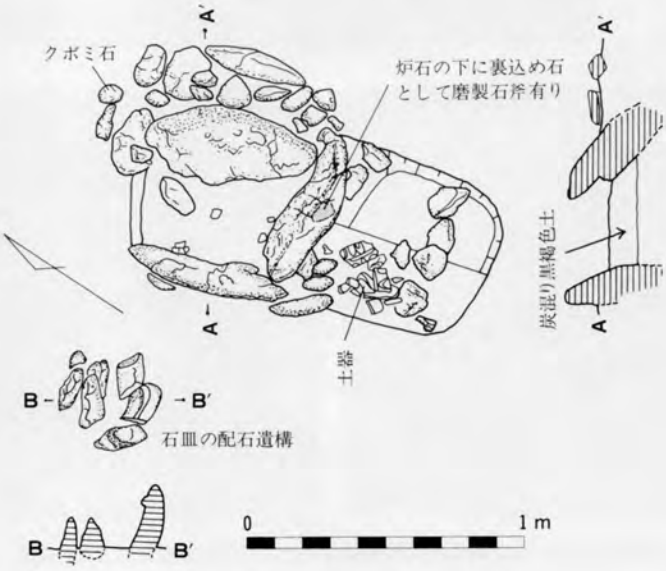
第2号炉も1号と同様4枚の凝灰岩で組まれ，南側の炉石下部には裏込め石として磨製石斧が見つかっている。また南側にピットが確認され，2分の1個体復元できる土器片が散布していた。第1号，第2号炉とも隣接して方形ピットをもち，炉との関連が強く推定できるがその性格は不明である。また，2基の石組炉が存在するものの住居址の貼床，主柱穴，プランはいずれも確認し得なかった。

挿図11　第1号炉、第2号炉実測図

第1号炉



第2号炉



4 ピット群（挿図9，図版7）

貼床のみが残る第1号住居址に関連する主柱穴を求めたが，何度となく行われたであろう建て替えによる多数のピットがあって，特定することは困難であった。全体をながめると貼床，1～2号炉，第1号土壙など時代を違えた数々の遺構が重なり合っているため，縄文時代中期から晩期にわたると考えられる。

表1　ピット群，ピット一覧表　（11頁挿図9）

ピット No.	大きさ 長径	短径	深さ	埋土	遺物の包含等	備考
1	200	200	45	最上層に人頭大のレキ有り 炭レキ混り，黒褐色土	縄文深鉢胴部，底部が土壙の底にへばりつく。磨製石斧	貼床を切り込む（SK1）
2	150	150	?	炭レキ混り，黒褐色土	縄文，底部各1，土器細片	
3	72	55	50	〃	土器細片	貼床を切り込む
4	34	33	9	〃		〃
5	62	50	60	〃	土器細片	〃
6	52	35	12	〃		〃
7	25	20	12	〃		〃
8	30	25	15	〃		〃
9	45	30	8	〃		〃
10	45	38	20	〃	土器細片	〃
11	20	20	5	炭混り，黒褐色土	土器細片，チップ6	
12	64	52	25	炭レキ混り，黒褐色土	土器細片，チップ1	
13	22	19	5	炭混り，黒褐色土		
14	25	21	10	炭レキ混り，黒褐色土		
15	23	20	15	〃		
16	32	30	10	〃	土器細片	
17	18	18	8	〃	土器線片	
18	30	30	13	〃（上層に人頭大の石有り）	土器細片	
19	20	20	10	〃		
20	46	41	18	炭レキ混り，黒褐色土（鉄分の沈着有り）	土器細片	
21	50	30	28	〃	土器細片，剝片1	
22	50	40	8	〃	土器細片，剝片1	
23	45	30	5	〃		
24	60	30	18	〃	土器細片，剝片	
25	50	35	30	炭レキ混り，黒褐色土		
26	38	34	33	岩レキ混り，黒褐色土（鉄分の沈着有り）	土器細片，底部2片，口縁1片	
27	30	25	4	〃		貼床を切り込む
28	40	25	22	〃	底部，縄文各1片	〃
29	48	31	10	〃	剝片	〃
30	50	39	8	〃	土器細片	〃
31	100	70	32	炭レキ混り，黒褐色土	土器細片，底部	
32	40	40	30	〃	土器細片，剝片	
33	48	40	15	炭レキ混り，黒褐色土（鉄分沈着）	土器細片，剝片	
34	22	20	12	炭レキ混り，黒褐色土		
35	60	40	10	炭レキ混り，黒褐色土（鉄分沈着）	土器細片，剝片	貼床を切り込む
36	75	65	7	レキ混り，黒褐色土		
37	60	40	40	炭レキ混り，黒褐色土（上層，人頭大石のなだれ込み有り，鉄分沈着有り）	土器細片	
38	25	20	13	炭レキ混り，黒褐色土	土器底部，土器細片	
39	55	45	35	〃	土器細片	貼床を切り込む

図版7　第1号住居址（床面検出時）

図版8　第1号住居址（第2号住居址と重複）

図版9　第1号土壙

図版10　第1号土壙出土遺物

図版11　第１号炉

図版12　第２号炉

図版13　ピット群（SBⅠ周辺）

5. 第２号住居址　（挿図　12～13　図版14～24，縄文時代中期後葉）

本住居址は台地の西北に位置し，ｄ９，10グリッドにかけて検出された。覆土から大型土器片，有頭石棒，床面から多くの黒曜石フレーク，埋甕施設４箇所が発見された。

入口は東南にあって東西4.26ｍ，南北4.09ｍの隅丸方形プランを有する。暗茶褐色，灰褐色砂質土層を掘り込んで構築された竪穴住居址である。周壁は東壁で49cm，西壁39cm，南壁42cm，北壁53cmで，深さ３～４cmの周溝が巡り，入口と考えられる南側で途切れている。入口部の壁が張り出す等の特別な施設は存在しない。中央部は皿状にくぼみ，炉石が抜き取られた痕跡と考えられる。床面は平均３～４cmの厚さの黄褐色粘質土が貼られていて，その下層はチャート礫層の地山となる。

埋甕は４箇所に見られ，いずれも正位である。時間をおいての住居改築が考えられ，第１号埋甕（ＳＸ１）が最終期の入口に設けられた施設であろう。それを裏付けるものとしては，ＳＸ２～４の埋土を観察するとわかるように，貼床がＳＸ２とＳＸ４の上部を覆っていることや床面レベルでは検出されずに，掘り下げた時点で検出されたことなどが考えられる。また，最終時期の埋甕ＳＸ１の土層と，住居内覆土とは同様のものと考えられ，住居使用時にはＳＸ１のⅠ，Ⅱ層はなかったと考え，Ⅲ層上部までは空であったと推定される。

主柱穴は，貼床を切り込んでいるP_1，P_2，P_9，P_{11}，の４箇所が考えられ，狭い間隔の柱穴P_4，P_6一対が穿たれている。貼床の下層には，建て替え以前の主柱穴P_3，P_7，P_{10}，P_{14}，P_{15}，が確認される。つまりＳＸ１が遺存する南側入口が住居址廃棄時のものであり，建て替え以前の入口は西側ＳＸ４の遺存する方向に求められるものである。ＳＸ２及びＳＸ３も入口部に設けられた埋甕施設と考えられ，住居が拡張されたと推定されるが，それぞれの所属するプランは不明である。

建て替えが何回行われたかを推察するのに，単純に埋甕の数からいえば3回ということになる。床面の貼床状態が何層も積み重ねられていないことから，建て替え時には床面をそのままのレベルで使用したか，あるいはある程度掘り込んで改築されたと考えられる。

埋甕の埋設方法　（挿図　13，図版14～22）

ＳＸ１　茶褐色砂礫層（地山）をロート状に掘り込んでいる。口縁，底部は欠損している。
ＳＸ２　〃　を大きめに掘り込んでいる。胴部が４分の１個体程度残る。
ＳＸ３　〃　を大きめに掘り込んでいる。口縁，底部は欠損している。
ＳＸ４　褐色砂層（地山）を円柱状に掘り込んでいる。口縁，底部は欠損している。

埋甕の内蔵物について

ＳＸ１　上層から土器片(別個体)１点。中層から土器片(別個体)１点，黒曜石チップ３点。
下層から黒曜色チップ２，下呂石チップ１点。

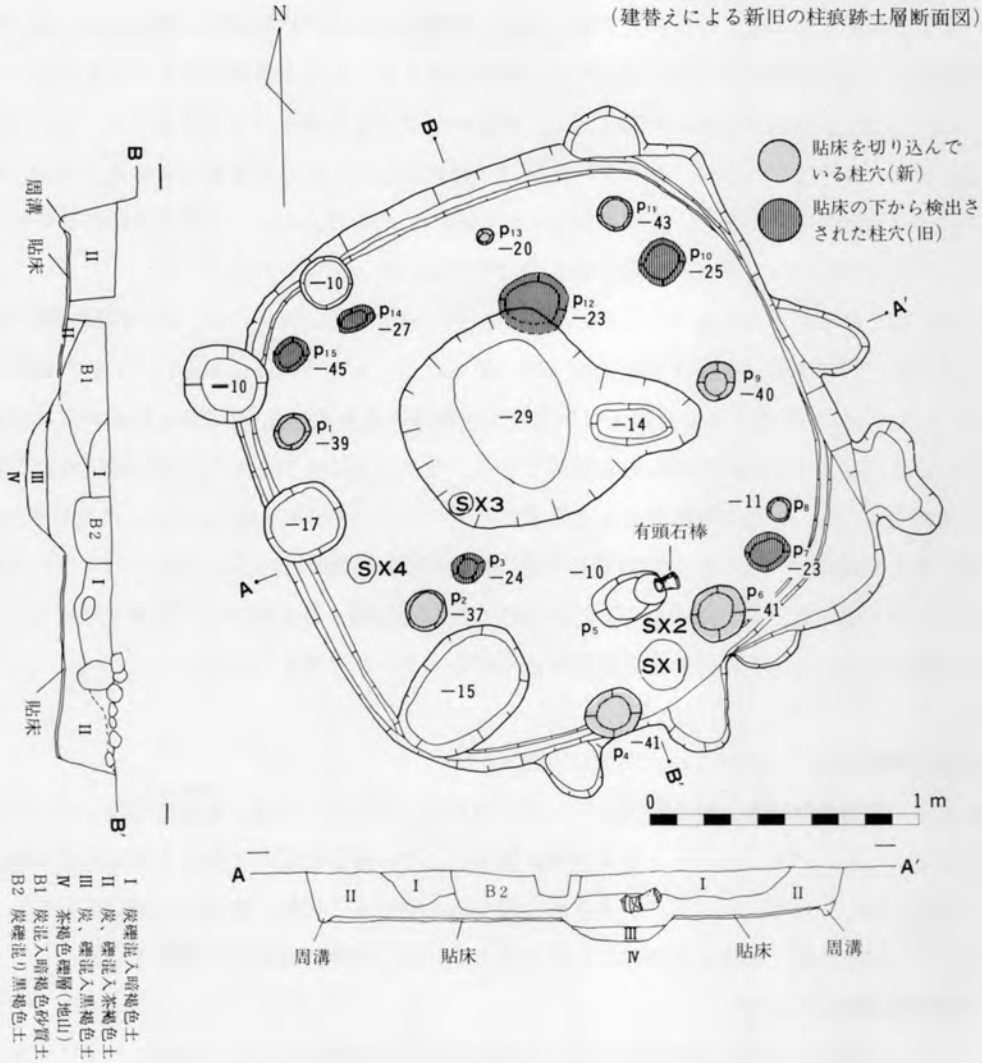
ＳＸ２　遺物はない。貼床が上部を覆う。

ＳＸ３　中層から土器片２点，炭片。貼床が埋甕の上部を覆っていたと推定され，炉石抜き取りの際に攪乱されたと考えられる。

ＳＸ４　中層に土器片が敷かれた状態にあった。（図版21）

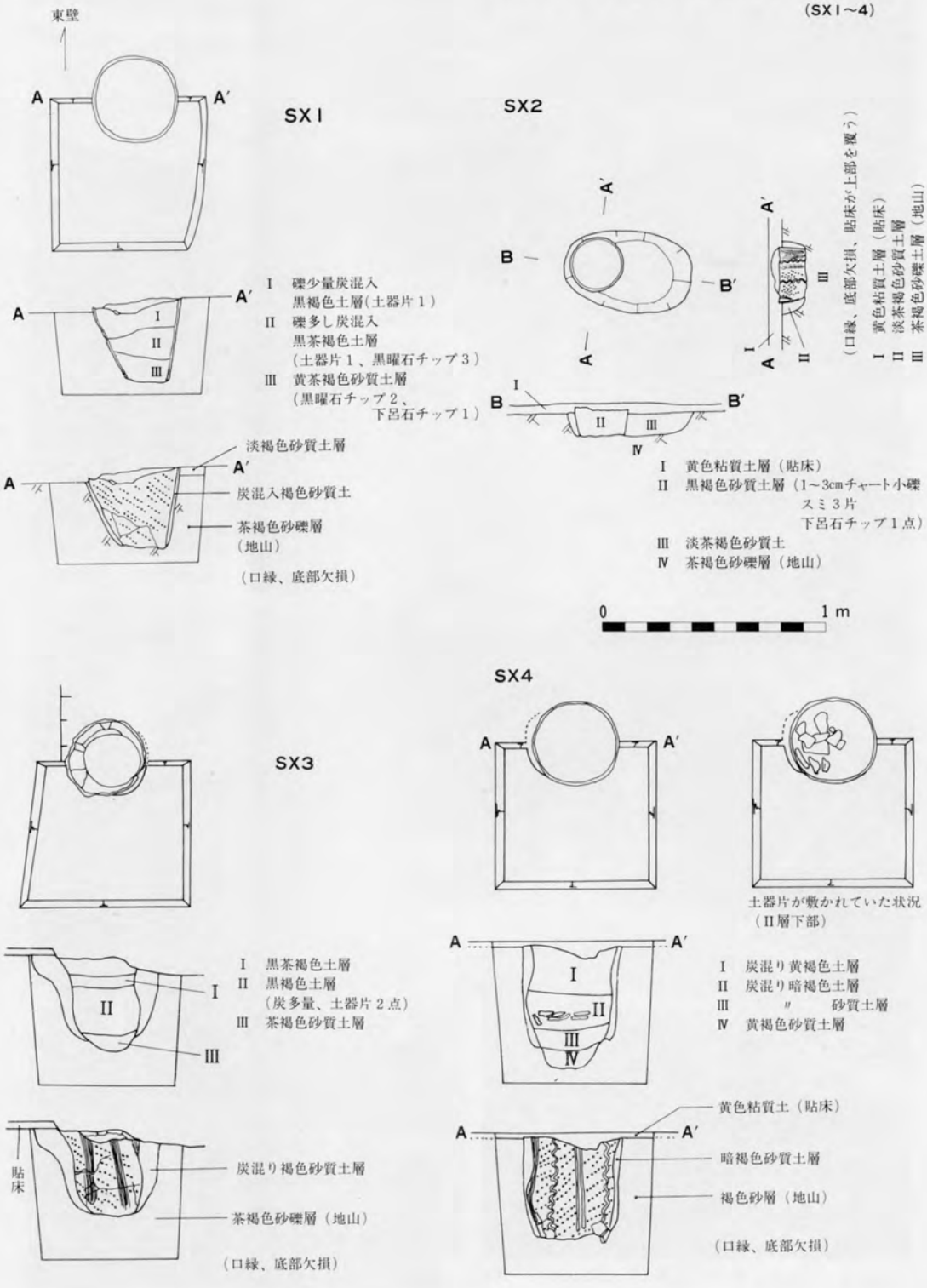
挿図12　第２号住居址実測図

（建替えによる新旧の柱痕跡土層断面図）



挿図13　第２号住居址 第1 ～４号埋甕 実測図

（SX１～4）



図版14
SB2のSXⅠと有頭石棒

図版15
SB2のSXⅠ(右)とSX2(左)

図版16　SB2のSXⅠ

図版17　SB2のSX2

図版18　SB2のSX3

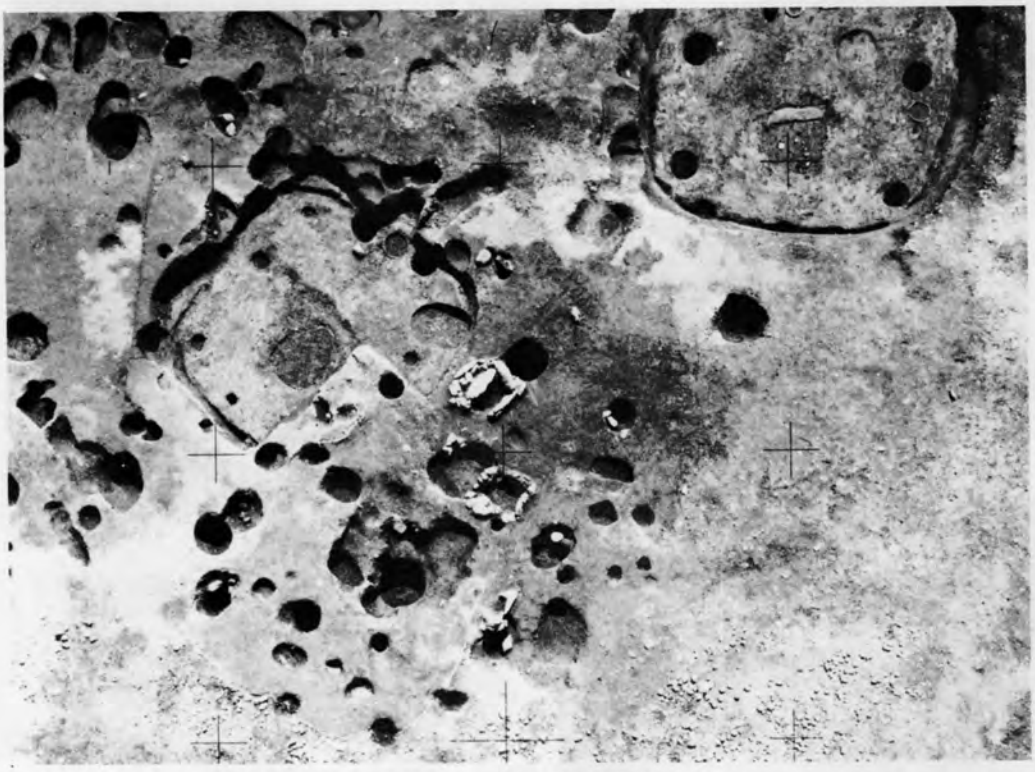
図版19　SB2のSX4

図版20　SB2のSX3断面

図版21　SB2のSX4内部の土器片

図版22　SB2埋土の土器出土状況

図版23　SB2（南から）



図版24　SB2（空中撮影）

6．第３号住居址（挿図14，15，図版25～32，縄文時代中期後葉）

本住居址は台地の中央西端に位置し，Ｃ７グリッドにかけて検出された。覆土から土偶片，埋甕施設２箇所が発見された。

入口は北東にあって，東西3.8m，南北4.1mの隅丸六角形プランを有する。暗褐色砂質土層を掘り込んで構築された竪穴住居址である。周壁は東壁で60cm，西壁56cm，南壁59cm，北壁45cmで，深さ４～10cm，巾６～14cmの周溝が巡り，東側が途切れている。中央部は，炉石が抜き取られた痕跡が顕著に確認された。床面は，黄褐色砂質土を薄く貼ってあり，遺存状態は軟弱である。その下層は砂層で，地山である。

埋甕は２箇所に見られ，いずれも正位である。第２号住居址と同様，時間をおいての住居改築が考えられ，第１号埋甕（ＳＸ１）が最終期の入口に設けられた施設であろう。ＳＸ２は建て替え以前のもので，挿図15でわかるように黄褐色の土が埋土となり，貼床の下に遺存していたことを表わす。ＳＸ１の埋土は，住居内覆土と同様暗褐色砂質土層で，第１号住居址のＳＸ１同様空であったと推察できる。

主柱穴は，貼床を切り込んでいるP_1，P_2，P_8，P_{10}が考えられ，狭い間隔の柱穴P_{16}，P_{17}一対が穿たれている。貼床の下層には，建て替え以前の主柱穴P_3～P_7，P_9，P_{11}～P_{14}が推定できる。つまり，ＳＸ１が遺存する東側入口が住居址廃棄時のものであり，建て替え以前の入口は南側ＳＸ２が存在する方向に求められるものである。ＳＸ２が設けられていた時期の住居址プランは，ピットの状況から最終期のプランと同規模であろうと考えられる。また，炉石抜取り痕は２箇所に見られ，炉址No.１はＳＸ１の時期に所属し，炉址No.２はＳＸ２の時期に所属するものであろう。

建て替えは，埋甕施設を伴う改築に限れば１回ということになり，ＳＸ２の時期にはピットの状況から数回，柱が立て替えられていると考えられる。

また，P_3，P_4，P_6，P_7，P_{13}のピットは，大きめの穴に柱を入れて，それを粘土で固定したものと考えられる。（図版32）

埋甕の埋設方法（挿図15，図版25～28）

ＳＸ１　茶褐色砂礫層（地山）をロート状に掘り込んでいる。口縁，底部は欠損している。

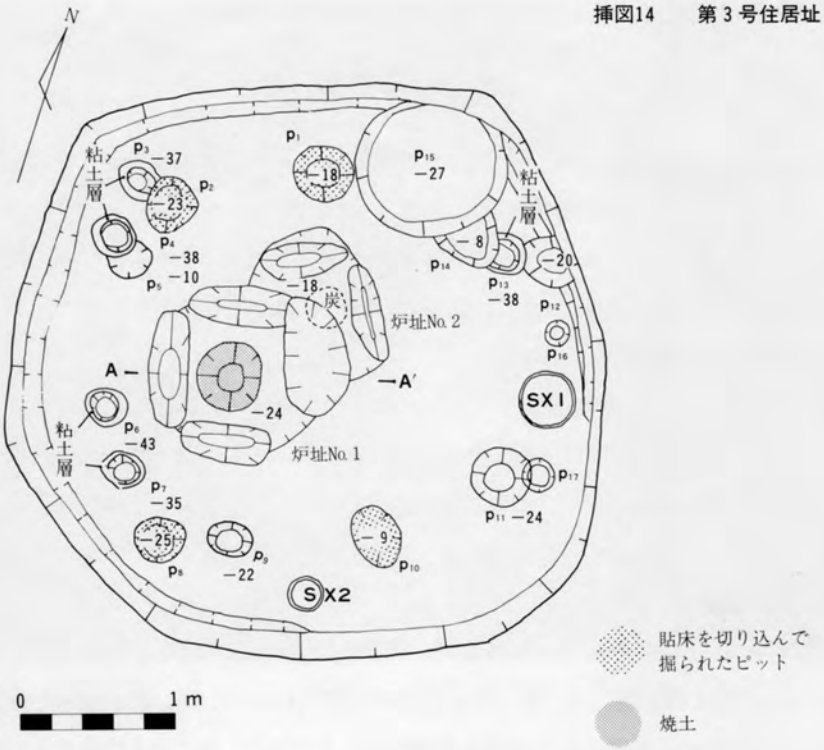
ＳＸ２　　〃　　をロート状に掘り込んでいる。口縁，底部は欠損し，胴部がわずかに残る程度。

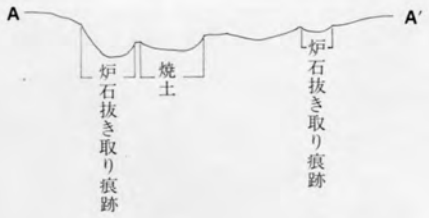
埋甕の内蔵物について

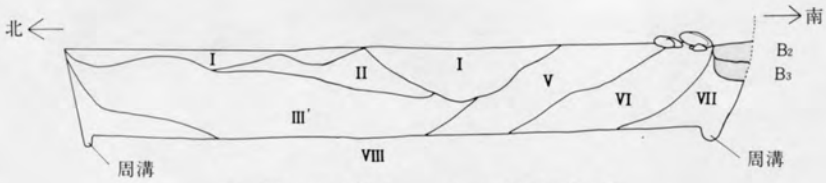
ＳＸ１　上層から炭片。中層からＳＸ１と同一個体土器片13，別個体土器片５，下呂石チップ３，黒曜石チップ４点，炭片。下層から同一個体土器片７点，別個体土器片３点。

ＳＸ２　Ⅰ層から土器片２点，炭片。Ⅱ層から土器片２点，炭片。Ⅲ層から土器片２点。

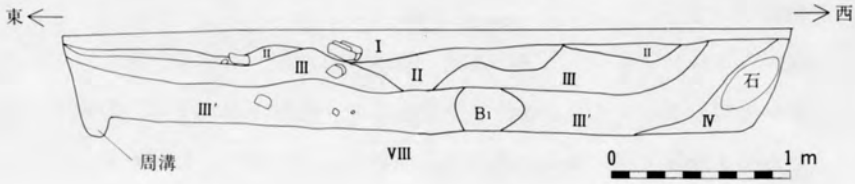
挿図14　第3号住居址 実測図



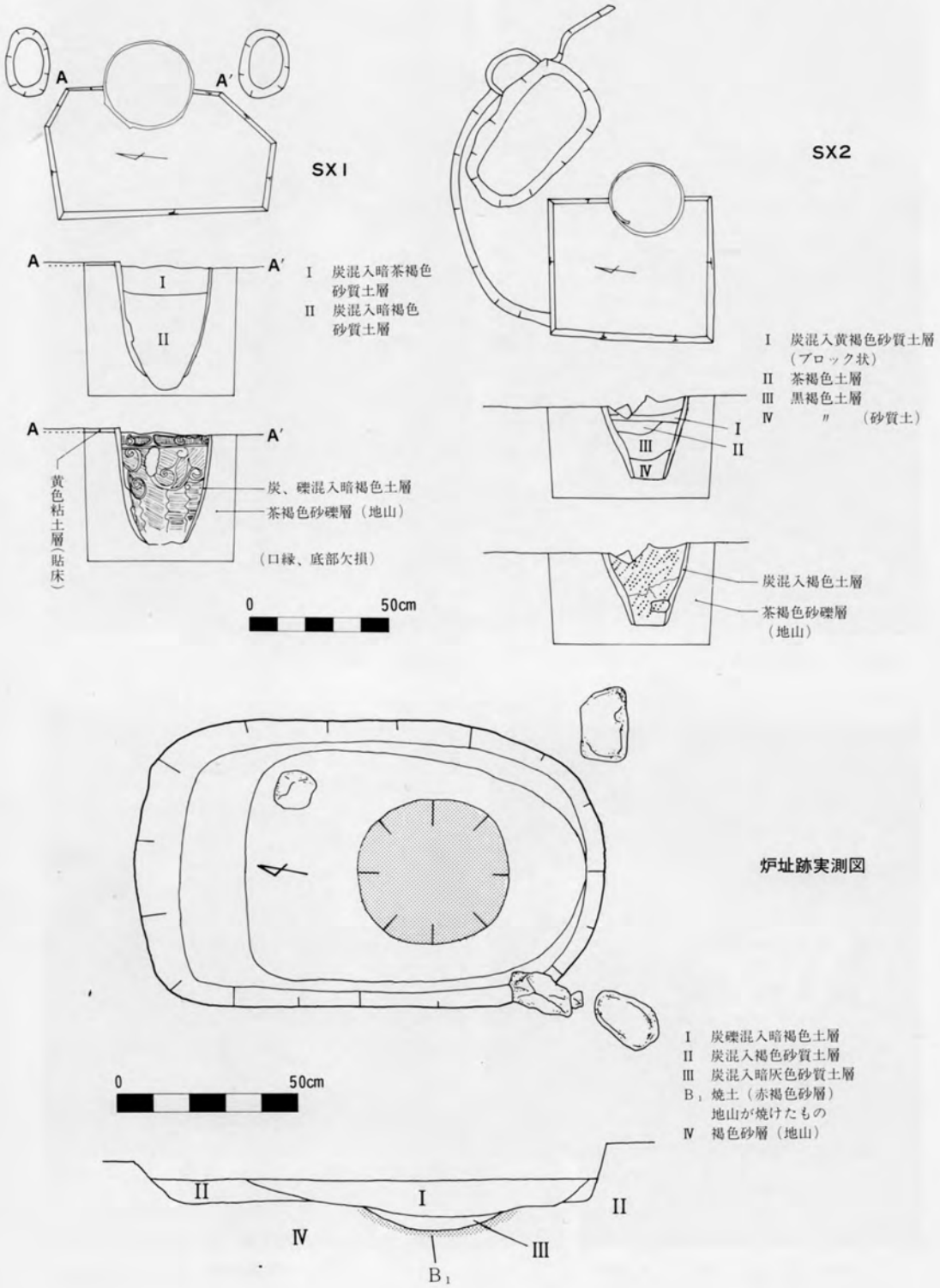




I　礫(3～10cm)混入黒茶褐色土層
II　礫少量、炭混入茶褐色土層（砂質）
III　炭多し、黒褐色土層
III′　III層より褐色がかる
IV　炭少量茶褐色土層
V　炭混入茶褐色土
VI　炭多し、黒茶褐色土
VII　炭少量、茶褐色土（砂質）
VIII　地山　多量礫(1～5cm大チャート)混入茶褐色土層



挿図15　第3号住居址の埋甕(SX1～2)、炉址実測図



図版25　SB3のSX1

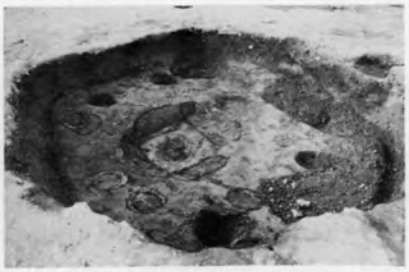
図版26　SB3のSX2

図版27　SB3覆土中の土偶

図版28　SX2の埋土状況

図版29　SB3（西から）

図版30　SB3（空中撮影）



図版31　SB3 貼床除去後

図版32　SB3 粘土が残る柱穴

7．第4号住居址　（挿図16～20，図版33～50縄文時代中期後葉）

本住居址は台地の北端に位置し，e11グリッドにかけて検出された。覆土からは大量の土器片，12個の磨製石斧，10個の打製石斧，9個の磨石，埋甕施設5箇所が発見された。

入口は東にあって，東西3.76m，南北4.05mの隅丸方形プランを有する。暗褐色砂質土層を掘り込んで構築された竪穴住居址である。周壁は東壁で60cm，西壁56cm，南壁59cm，北壁45cmで，深さ4～10cmの周溝が巡り，東と南側は確認しえなかった。中央部は皿状にくぼみ，中心に焼土面が見られ，炉石が抜き取られた痕跡と考えられる。東側は19×82cmの凝灰岩製炉石が残り，南側は一部の炉石が残る。南側の炉石が割れて中央に流れ込んでいる。（挿図20）　またP_{22}のある範囲のくぼみも炉跡と考えられ，南側が入口であった時期のものであろう。石組炉の形態は4枚の石で作られ，その規模は70～80cm四方であると推定される。床面は黄褐色砂質土が薄く貼られ，軟弱であった。その下層は砂層で，地山である。

埋甕は5箇所に見られ，いずれも正位である。第1，2号住居址と同様住居改築によるものと考えられ，第2号埋甕（ＳＸ２）が最終期の入口に設けられた施設であろう。ＳＸ２とＳＸ３は重複しているが，同時に意図的に2個体埋めたというよりは，建て替えによる時間差があると考えられる。ＳＸ１は胴部の下部のみが残り，埋土も地山の土層と同質で建て替え時に床面が掘り込まれて，その時に上部を失ったと推察できる。ＳＸ４も同様上部を失っている。ＳＸ２～５の埋土を観察するに⅓～¼程度の下層は地山と同質となっていて，それは埋甕を設置した時のレベルであろう。空の状態にあったところへ別の土が流れ込んだことがわかる。また，ＳＸ４は顕著に貼床で覆われている。（挿図19Ｂ－Ｂ′断面図）

主柱穴はP_1，P_2，P_7，P_{15}で貼床を切り込んでいる。狭い間隔の柱穴P_{19}，P_{20}はＳＸ２と共に入口に関係するピットである。また特筆すべきことに，抗痕跡№1，№2（挿図16）が東南隅に見られ，建て替えによって抗が打ち替えられた痕跡と思われる。（図版48）

建て替えをするたびに床面が掘り下げられることを前提にして，埋甕の設置時期を推定すると，その残存割合及び埋土の状況からＳＸ１（東），ＳＸ４（南），ＳＸ５（南），ＳＸ３（東），ＳＸ２（東）の順で設置されたということになるが，土器編年や東から再び南へ戻ることはないと考えられ、むしろ最初南方の入口で2回，東方の入口で3回入口が変わったと考えられる。

数回にわたる建て替えの割にはピット数が少いが，これも建て替え時の掘り下げによる所産で痕跡がなくなったものと考えられる。

埋甕の埋設方法　（挿図18，19，図版38～45）

ＳＸ１　茶褐色礫層（地山）をロート状に掘り込んでいる。底部と胴下部のみが残る。

ＳＸ２・ＳＸ３　地山を大きく掘り込んであり，ＳＸ３に切り込んでＳＸ２が設置される。

ＳＸ３は底部が残り，北側３分の１を欠いている。ＳＸ２は底部，口縁部を欠損する。

ＳＸ４　黄褐色砂層（地山）を大きめに掘り込んでいる。底部を欠き胴下部のみが残る。

ＳＸ５　　〃　　を円柱状に掘り込んでいる。底部を欠き胴下半部が残る。

埋甕の内蔵物について

ＳＸ１　遺物はない。

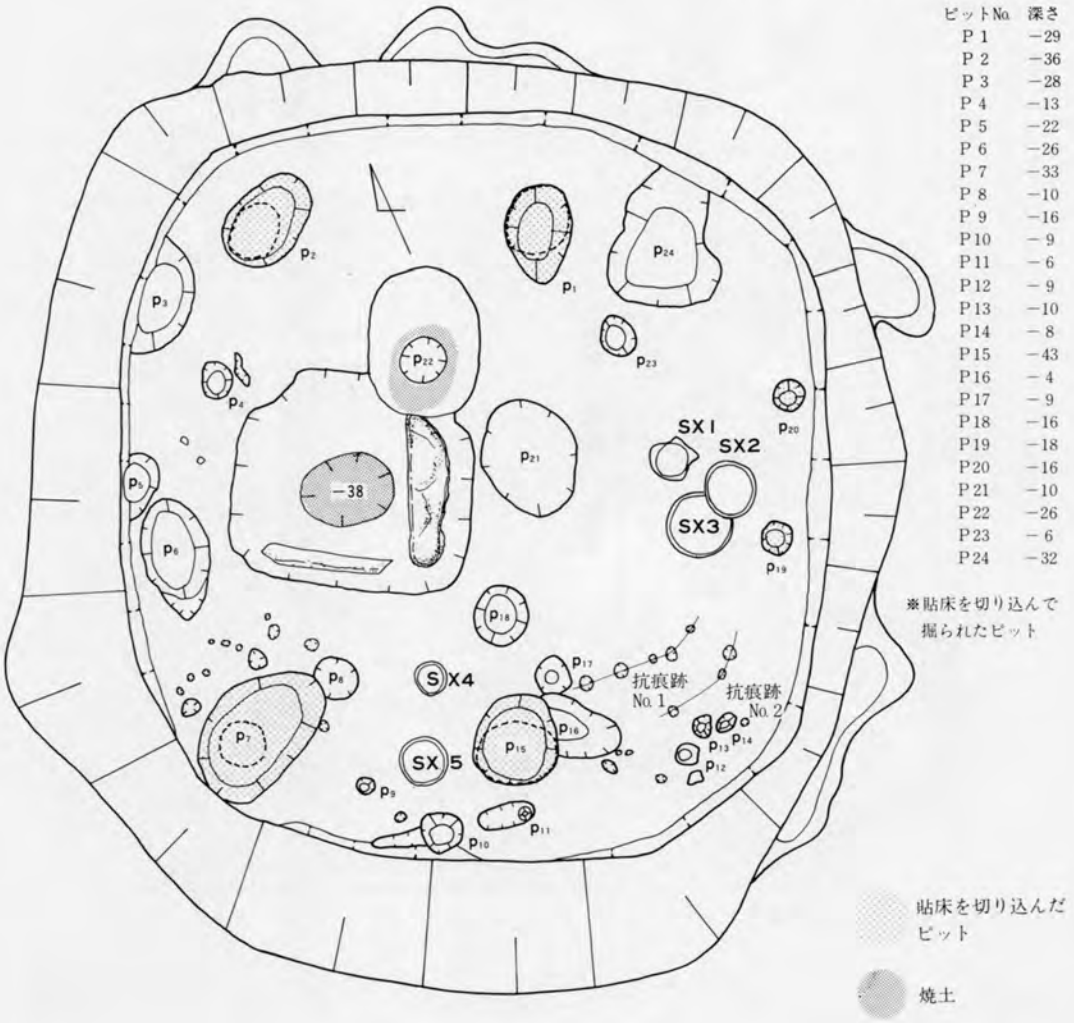
ＳＸ２　上層，中層に炭片が多い。

ＳＸ３　上層から小骨片1，土器片5，黒曜石チップ1点，炭片。中層から炭片と土器片１点。

ＳＸ４　上層から炭片と土器片６点。

ＳＸ５　上層から炭片，下呂石チップ１点。下層から小骨片２点。

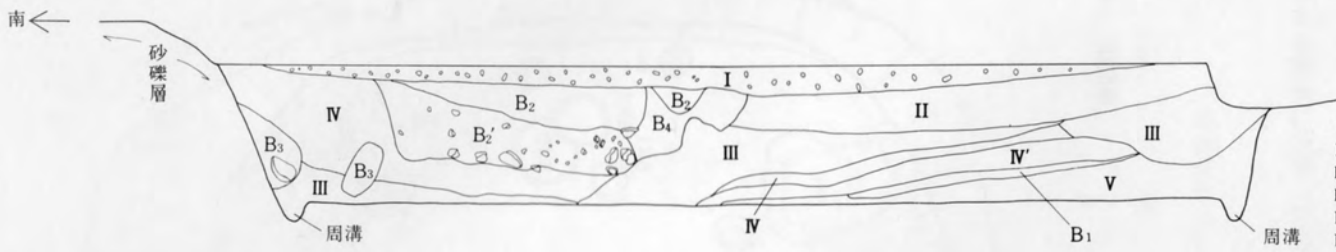
挿図16　第４号住居址実測図



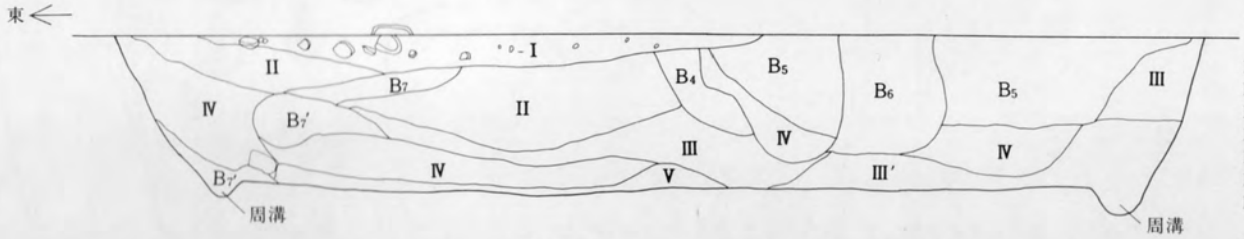
ピットNo.	深さ
Ｐ１	−29
Ｐ２	−36
Ｐ３	−28
Ｐ４	−13
Ｐ５	−22
Ｐ６	−26
Ｐ７	−33
Ｐ８	−10
Ｐ９	−16
Ｐ10	−９
Ｐ11	−６
Ｐ12	−９
Ｐ13	−10
Ｐ14	−８
Ｐ15	−43
Ｐ16	−４
Ｐ17	−９
Ｐ18	−16
Ｐ19	−18
Ｐ20	−16
Ｐ21	−10
Ｐ22	−26
Ｐ23	−６
Ｐ24	−32

※貼床を切り込んで掘られたピット

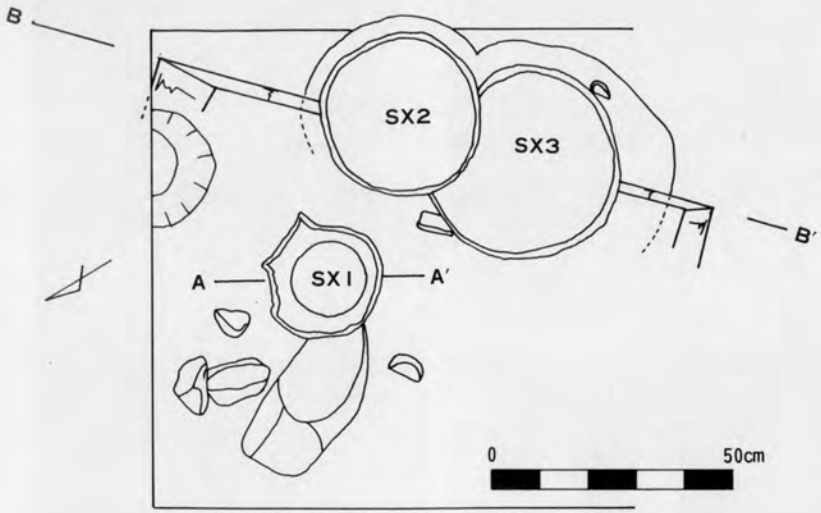
挿図17　SB4覆土断面図

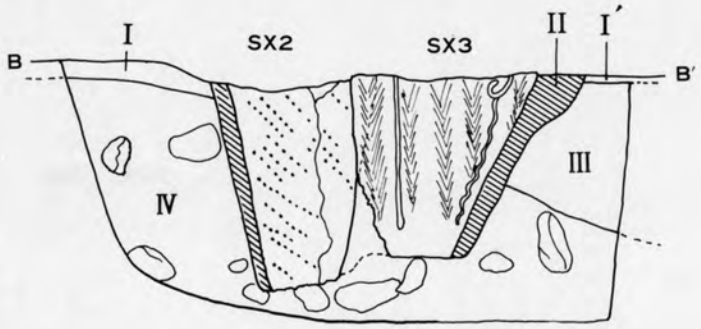


I　2～15cm大の礫、炭混入黒褐色土層
II　炭、土器混入黒褐色土層
III　炭混入茶褐色土層
III′　IIIより黒褐色がかる
IV　炭多量黒褐色土層
IV′　炭少量　〃
V　IV層より炭多い、黒褐色土層

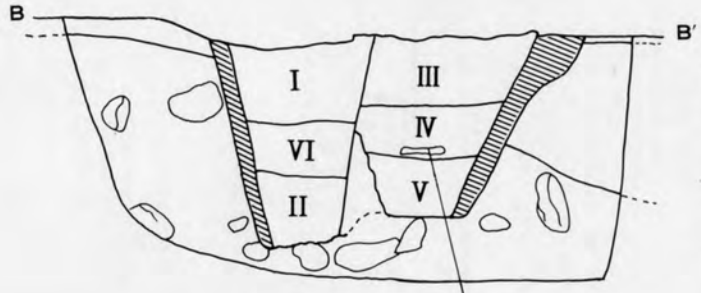


B_1　褐色砂質土層
B_2　礫多量、炭混入黒褐色土層
B_2'　B_2より礫多い
B_3　炭混入黒褐色砂質土層(赤みがかる)
B_4　B_3より炭少い
B_5　3～4cm大の礫、炭混入黒褐色土層
B_6　3～4cm大の礫多量含む
　炭少量褐色砂質土層
B_7　炭多量茶褐色土層
B_7'　炭少量茶褐色土層

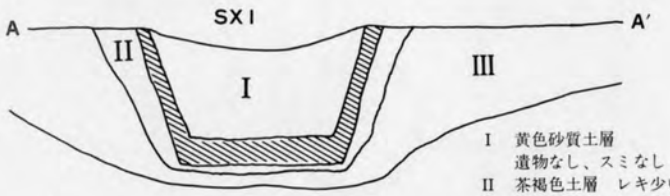




I　褐色砂層
I′　黄褐色粘質土層
II　炭混り褐色砂質土層
III　褐色砂層
IV　茶褐色砂礫層



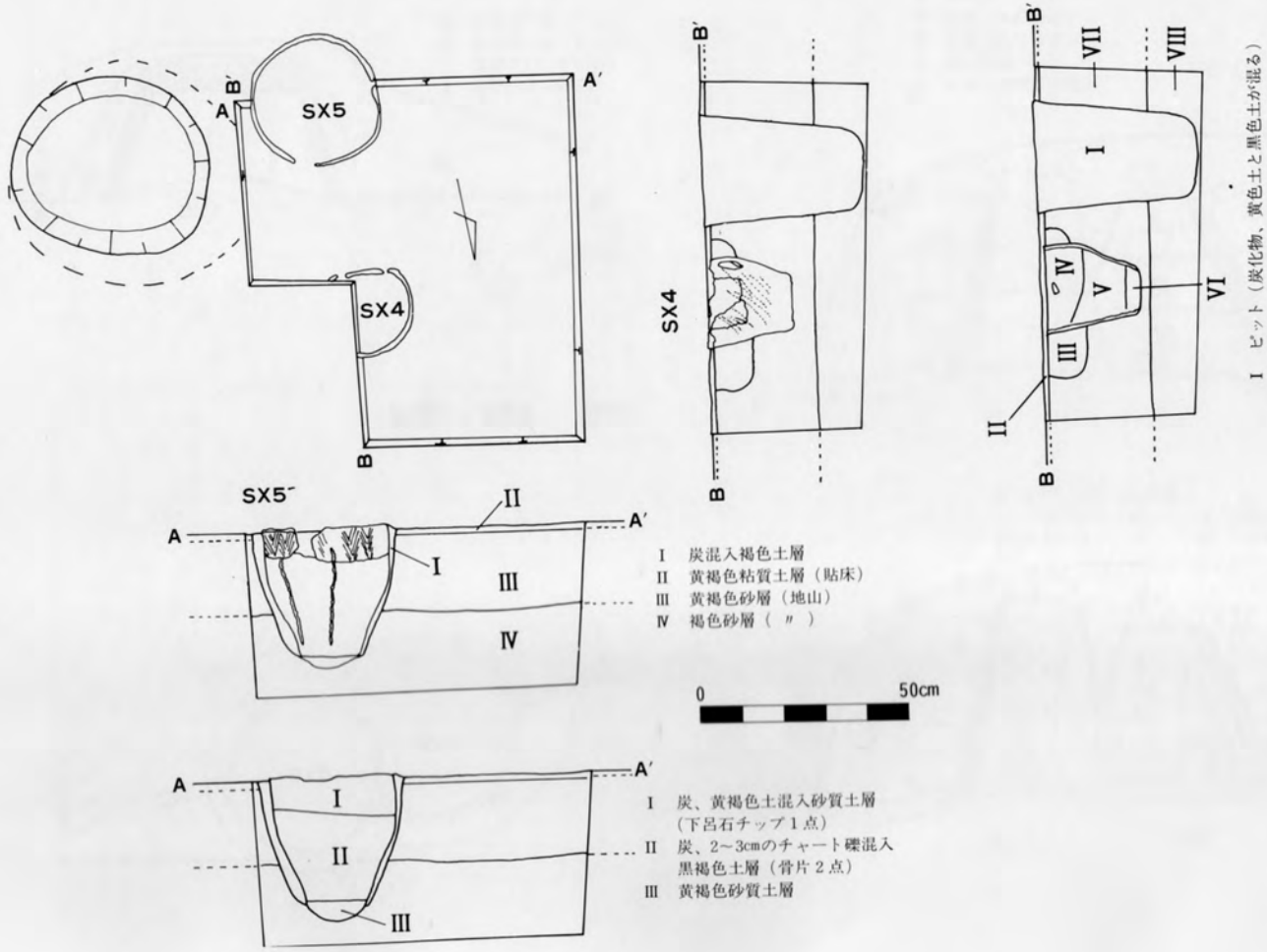
I　炭混り黒褐色砂質土
II　褐色砂層
III　炭多く含む黒褐色土
IV　炭多く含む黒褐色土
V　褐色砂
VI　炭混り黒褐色土



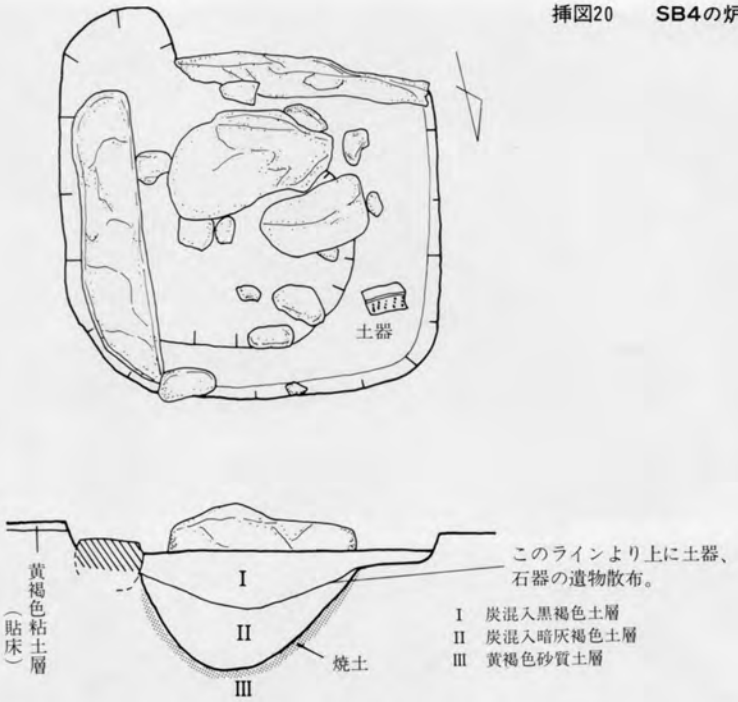
I　黄色砂質土層
　遺物なし、スミなし
II　茶褐色土層　レキ少い
III　茶褐色土層　レキ多い
（底部有）

挿図18　SB4の第1～3号埋甕(SX1～3)

挿図19　SB4の第4 ～ 5 号埋甕(SX4～5)



挿図20　SB4の炉址実測図

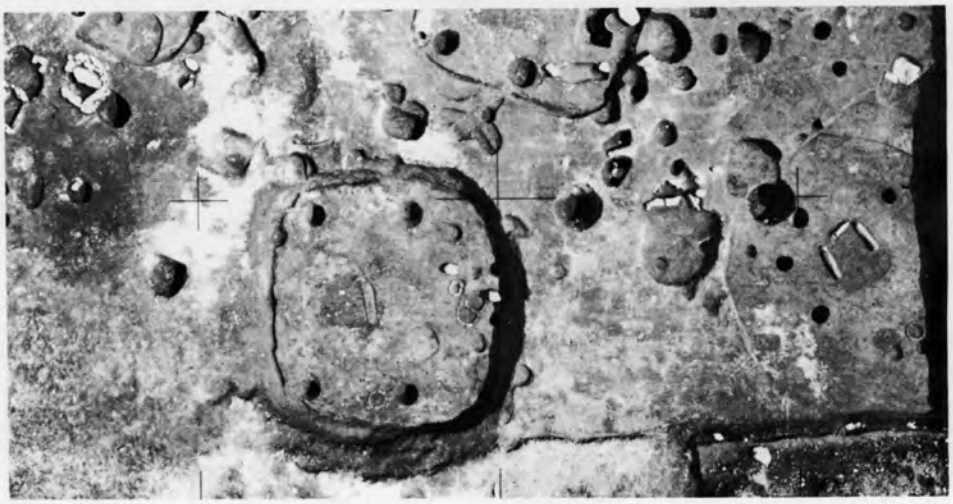


図版33　SB4 覆土プラン

図版34　SB4 セクションベルト

図版35　SB4埋甕断ち割り前

図版36　SB4全景

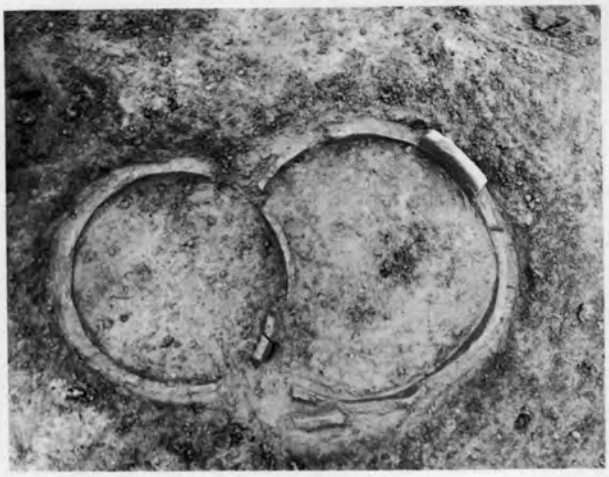


図版37　SB4（空中撮影）

図版38　SB4の埋甕

図版39　SB4のSX1～3（手前がSX1）

図版40　SB4のSX4～5（右がSX5）



図版41　SB4のSX2(左)とSX3(右)

図版42　SB4のSX2(左)とSX3

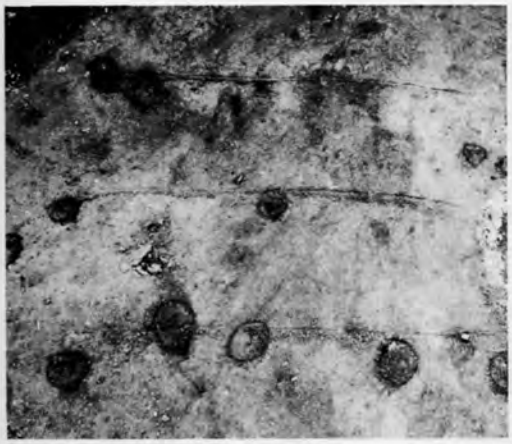
図版43　SB4のSX2(左)とSX3（内部）

図版44　SB4のSX5

図版45　SB4のSX4 断面図

図版46　SB4 床面直上の土器

図版47　SB4の炉址



図版48　SB4 床面の抗痕跡

図版49　SB4の炉址埋土除去後

図版50　SB4 貼床除去後

8．第5号住居址　（挿図21～24，図版51～54，縄文時代中期後葉）

本住居址は台地の北端に位置し，ｅ９，10，ｆ９，10グリッドにかけて検出された。覆土からは，床面近くに小形土器，トチの実の炭化物が発見され，北部壁ぎわに祭壇とも考えられる壇状石組（挿図22）と，埋甕施設１箇所が確認された。

入口は東南にあって，東西4.28ｍ南北3.85ｍの隅丸長方形プランを有する。暗褐色砂質土層を掘り込んで構築された竪穴住居址である。周壁は東壁で44cm，西壁43cm，南壁40cm，北壁50cmを測り，深さ３～６cm，巾９～10cmの周溝が存在する。北側には周溝を確認し得なかった。中央には石組炉の一部が残り，北側（13×75cm）と西側（12×54cm）に凝灰岩製の炉石がほぼ垂直に遺存しているが，東側，南側には残らない。中心部に焼土面が残り，床面からの深さは37cm，炭化した堅果類を多く含む。特筆すべきことに，炉の北西角に緑色鮮やかな蛇紋岩製の磨製石斧が垂直に立てられていて，火に対する信仰との関連が考えられる（図版54）。床面は，貼床が確認されず，覆土除去後は地山の砂層となる。

埋甕は１箇所に見られ，正位である。埋甕直上に４cm程かかって，40×33×高さ19cmの川原石が遺存する。埋甕の蓋か，あるいは入口施設に関する踏み石に使われたなどが考えられる。埋土は，やはり上層と中層に区別でき，Ⅱ層は地山と同様砂質土になって，住居使用時には埋甕が空であったことを伺わせる。

主柱穴はP_1，P_2，P_3，P_4である。第１号埋甕ＳＸ１に付随する狭い間隔のピットとして，P_5が１箇所見られる。

建て替えはなかったものと推定できる。

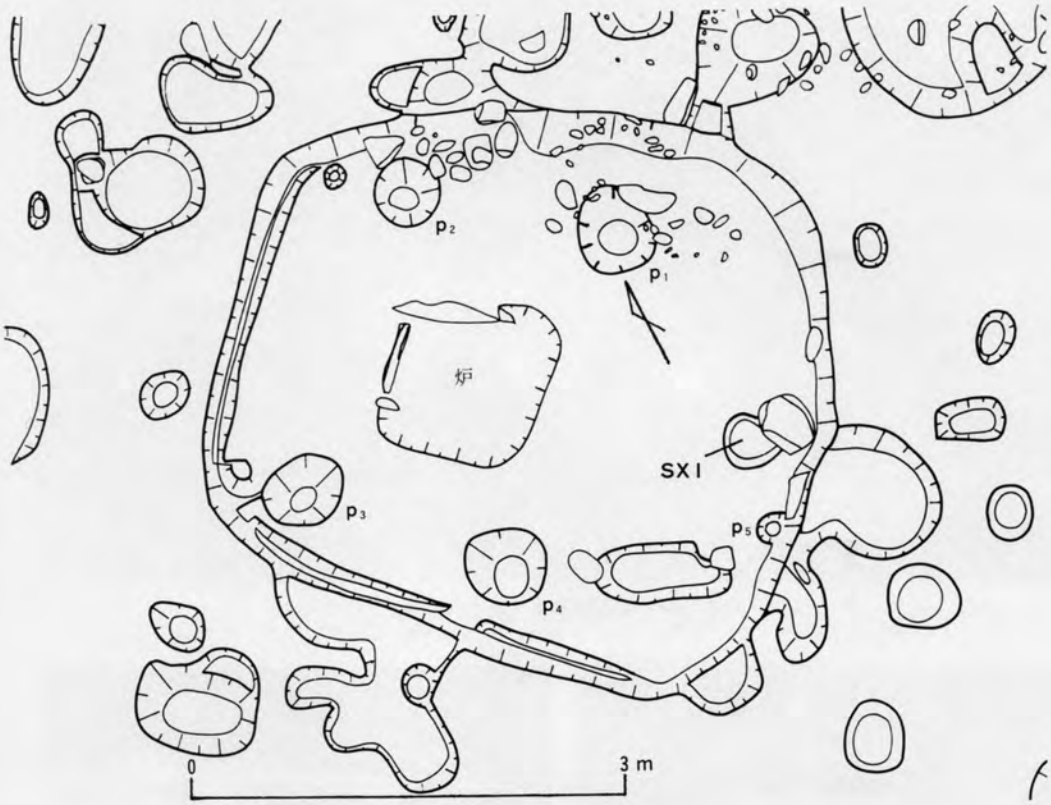
埋甕の埋設方法　（挿図23，図版52）

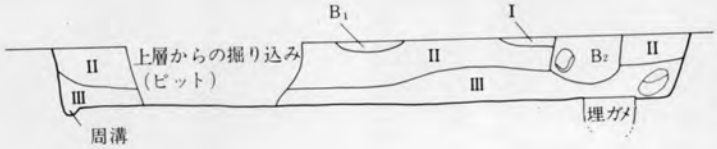
ＳＸ１　褐色砂層（地山）を円柱状に掘り込んでいる。底部を欠き，口縁部は３分の１程度残る。

埋甕の内蔵物について

ＳＸ１　上層から埋甕同一個体土器片２点，炭片。下層に遺物，炭片はない。

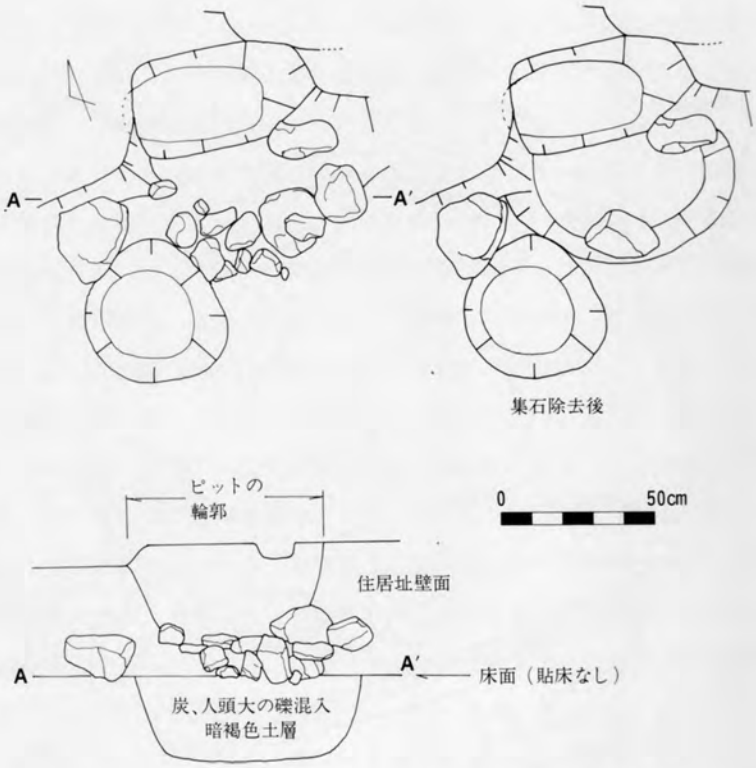
挿図21　第５号住居址実測図



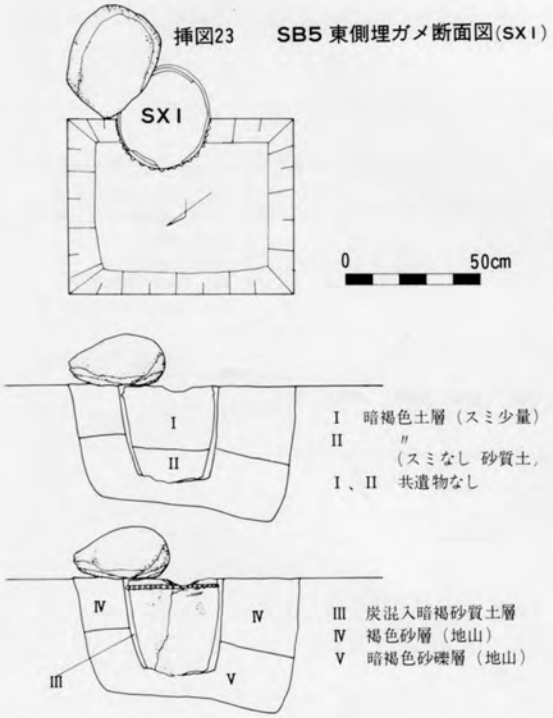


I　黄褐色砂質土層
II　炭、礫混入暗褐色土層
III　炭混入暗褐色砂質土層
IV　褐色砂層
B1　炭層
B2　炭、礫混入黒褐色土層
B3　炭、礫混入暗茶褐色土層

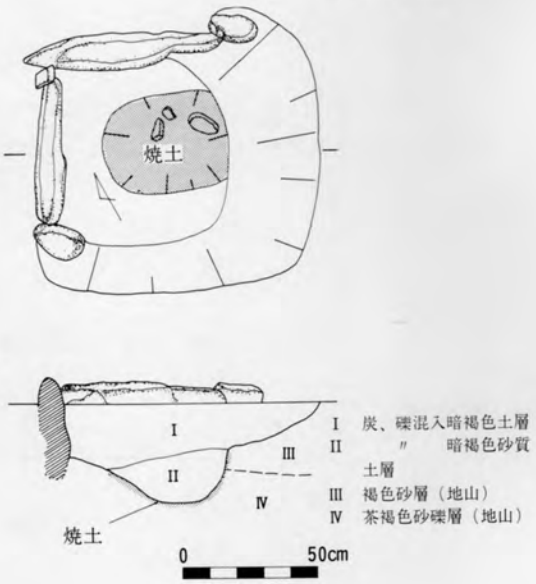
挿図22　SB5北西隅集石遺構「壇状の石組」



挿図23　SB5 東側埋ガメ断面図(SXI)



挿図24　SB05 石組炉



図版51　第５号住居址全景（南から）

図版52　SB5のSXⅠ

図版53　第５号住居址全景（西から）

図版54　SB5の炉址

9．第6号住居址　（挿図25～28，図版55～57，縄文時代中期後葉）

本住居址は台地の北端に位置し，g10，11グリッドにかけて検出された。覆土からは第4号住居址に比較すると少ない土器片，石器が発見され，埋甕施設一箇所が確認された。

入口は南にあって，東西4.33m，南北5.4mの長円形プランを有する。暗褐色砂質土層を掘り込んで構築された竪穴住居址である。周壁は西壁で32cm，北壁32cmを測り，周溝は確認されなかった。住居址内北側に寄って炉跡が遺存し，東，北，西側に凝灰岩製炉石が残り，南側を欠いている。中心部は40×37cmの範囲で焼土面があり，深さは床面から29cmである。

埋甕は1箇所に見られ，正位である。この埋土について，㈱北海道測量図工社に脂肪酸分析を依頼した。その結果は186ページ第7章に記する。

主柱穴はP_1，P_2，P_3で，南東方向にもう1本あったであろうが，確認できなかった。また，東方向は河川が接近している都合上，これ以上拡張することができなかった。

建て替えはなかったものと推定できる。

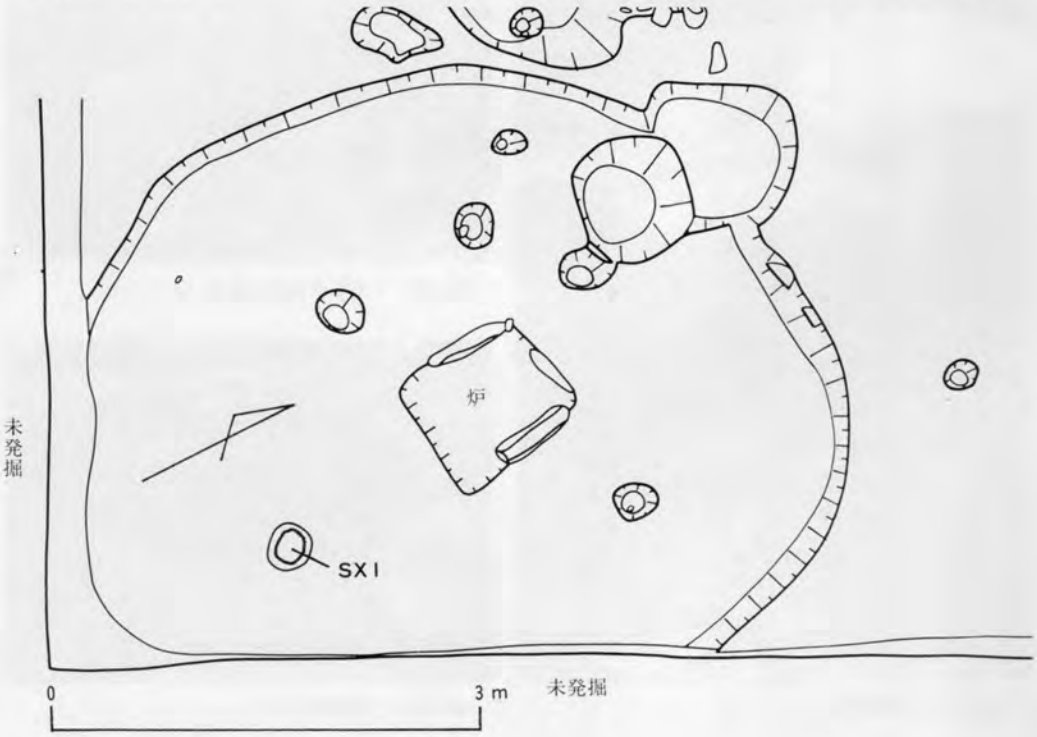
埋甕の埋設方法　（挿図27，図版57）

ＳＸ１　褐色砂層（地山）をロート状に掘り込んでいる。底部を欠き，口縁部が残る。

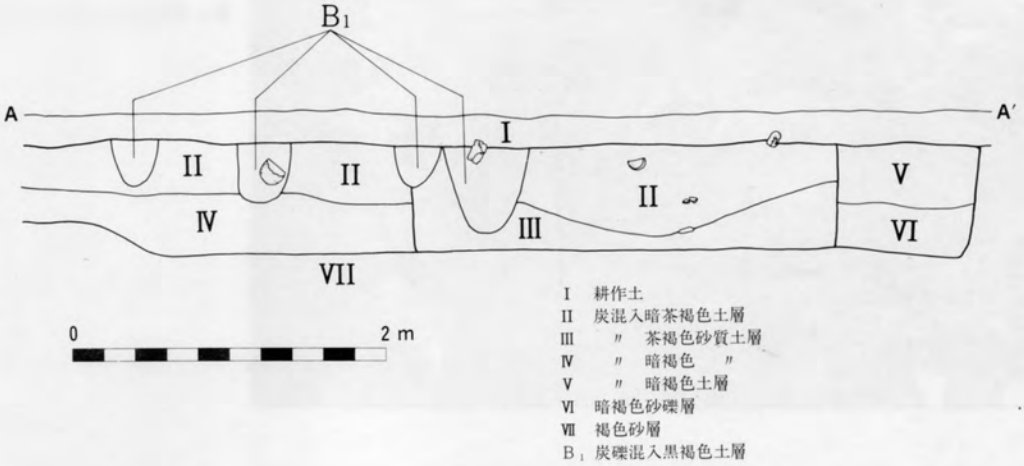
埋甕の内蔵物について

ＳＸ１　磨石２点。

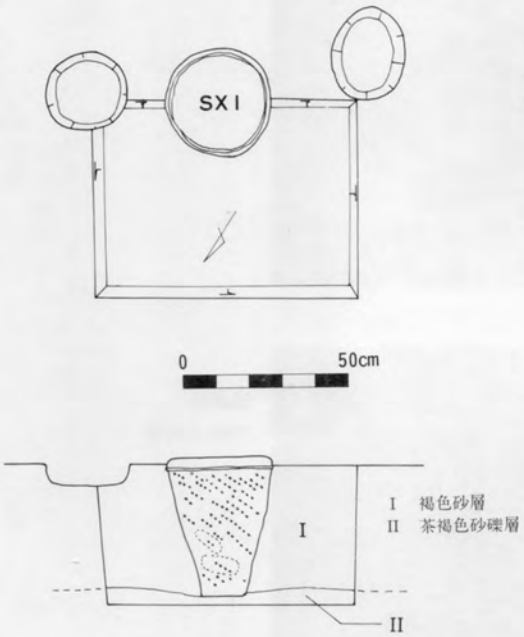
挿図25　第6号住居址実測図



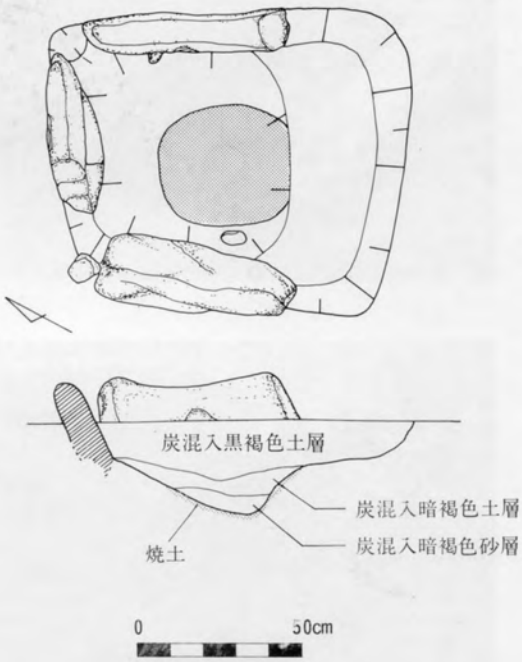
挿図26　SB06 東壁面土層図



挿図27　SB6のSXI



挿図28　SB6の石組炉



図版55
第６号住居址全景（南から）

図版56
SB6の炉址

図版57
SB6の埋甕

10. 集石遺構

第１～５号集石遺構（挿図29,図版58～63）

Ｃ９，10，ｄ９，10グリッドを検出中に，多量の礫が包含層にあった。その中で人為的に配石されたと考えられる箇所が第１～５号集石遺構である。ＳＣ１，２，５は円礫を中心に集石がなされ土器片を伴う。ＳＣ３は石皿別個体破片をほぼ垂直に立てた人為的なものであるが，その時代は第１号，２号炉（挿図9，図版13）に伴う住居址の時期と一致するか，あるいは時期が遅いものと考えられる。儀礼的なものであろう。

また，ＳＣ４は第２号炉が頭を出しているもので，炉石上部に礫が存在し，掘り下げてからやっと石組炉であることが判明した。

西方は帯状に小礫群が続く。ＳＢ２～６を掘り込んだ際の土砂を捨てた痕跡と推定する。

図版58　水田表土20cm除去後の集石

図版59　ＳＣ１

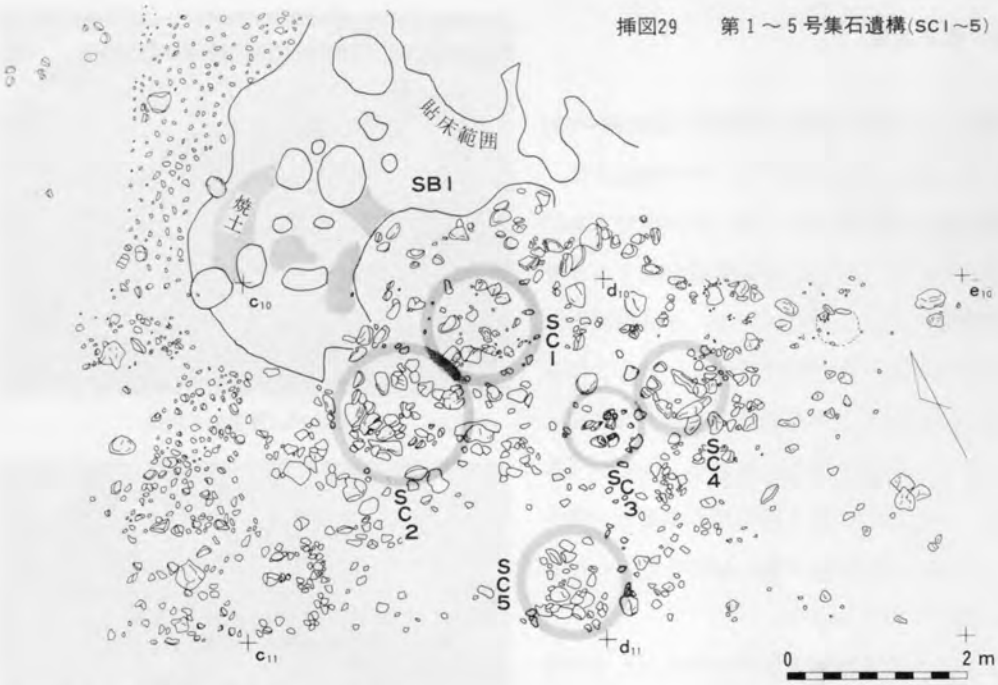
図版60　ＳＣ２

図版61　ＳＣ３

図版62　ＳＣ４

図版63　ＳＣ５

挿図29　第１～５号集石遺構(SC1～5)

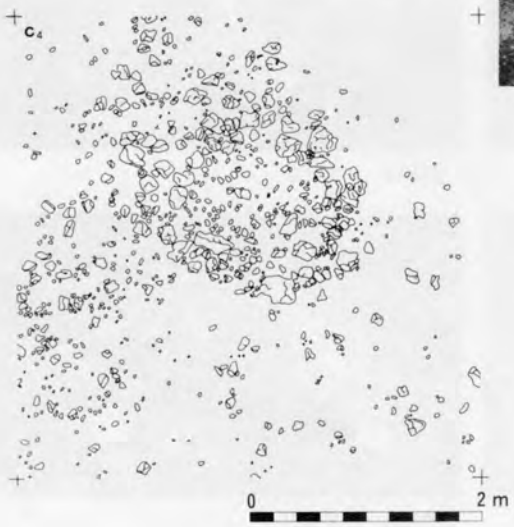


第６号集石遺構　（挿図30，図版64）

Ｃ４グリッドに正円形をなして（2×1.8ｍの集石が観察された。埋土にチップ，フレーク，土器片が数点含まれ，皿状に凹む。その性格は不明である。

図版64　ＳＣ６

挿図30　第６号集石遺構(SC6)

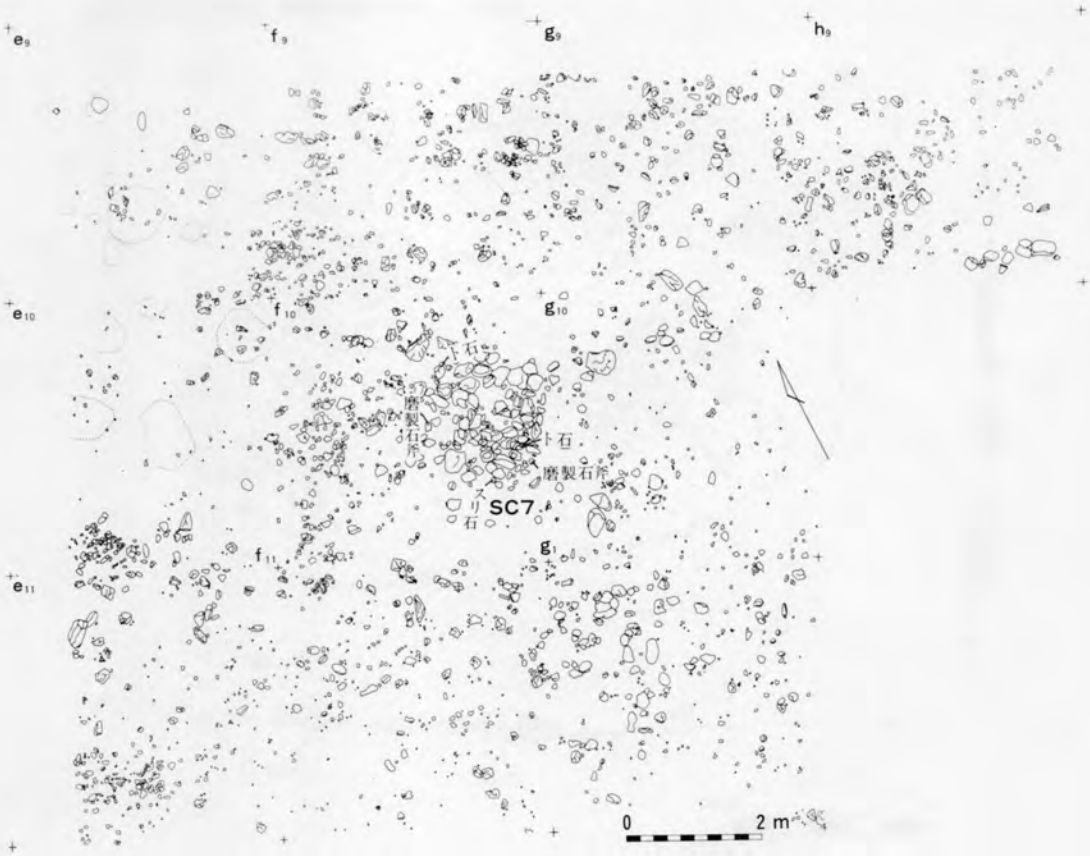


第７号集石遺構　（挿図31，図版65）

ｆ10，ｇ10グリッドにかけて東西約1.8m，南北２ｍの集石が確認された。集石に混じって磨製石斧２点，台石１点，スリ石１点が含まれ，祭祀に関係あるものと考えられる。15～35cm大の川原石がほとんどで，この集石遺構の下部には第５号住居址が存在するものの，住居址覆土中に投げ込まれたものではなく，住居址とは時間差がある。

図版65　ＳＣ７

挿図31　等７号集石遺構(SC7)とその周辺

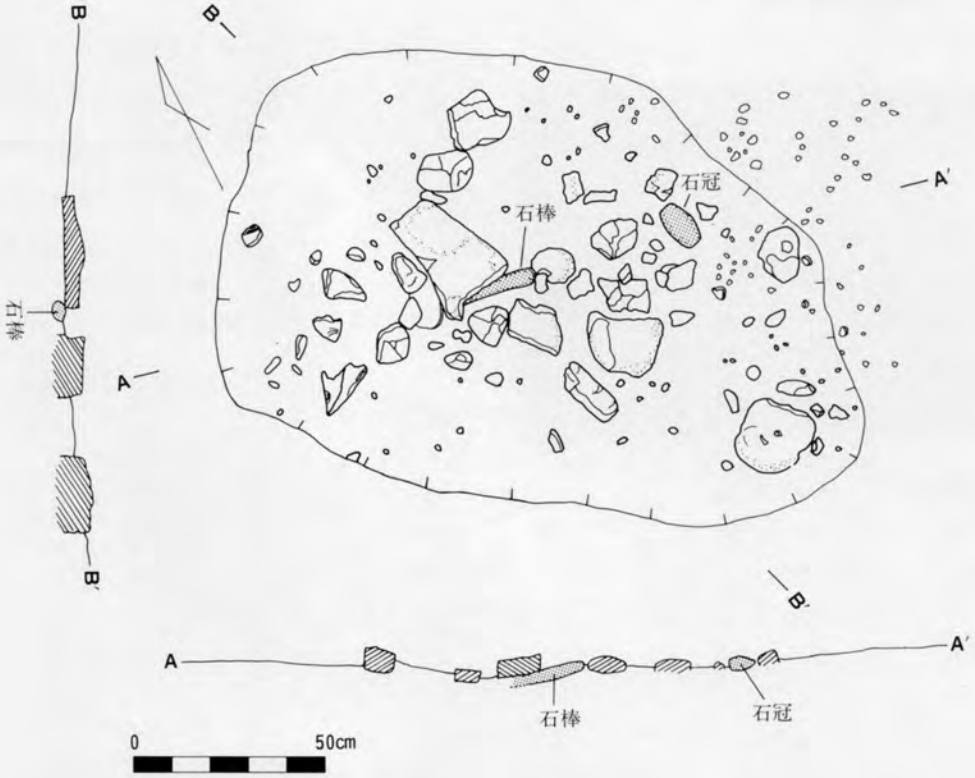


第８号集石遺構　（ＳＣ８，石冠，石棒を配石）（挿図32，図版66）

ｇ７グリッド上層に東西1.75ｍ，南北1.15ｍの範囲で集石が見られた。東側に石冠，ほぼ中央に石棒片が存在し，祭祀の遺構と考えられる。石冠は安山岩で火を受け，石棒は緑色片岩で火は受けていない。礫は焼けているものが多く見られ，集石の上で火をたいたか，火中に石を投じた可能性がある。石棒の上部に台石と思われる溶結凝灰岩礫が乗って，集石の間には土器片，スリ石，フレークが含まれていた。

図版66　ＳＣ８

挿図32　第８号集石遺構（石冠・石棒を配石）



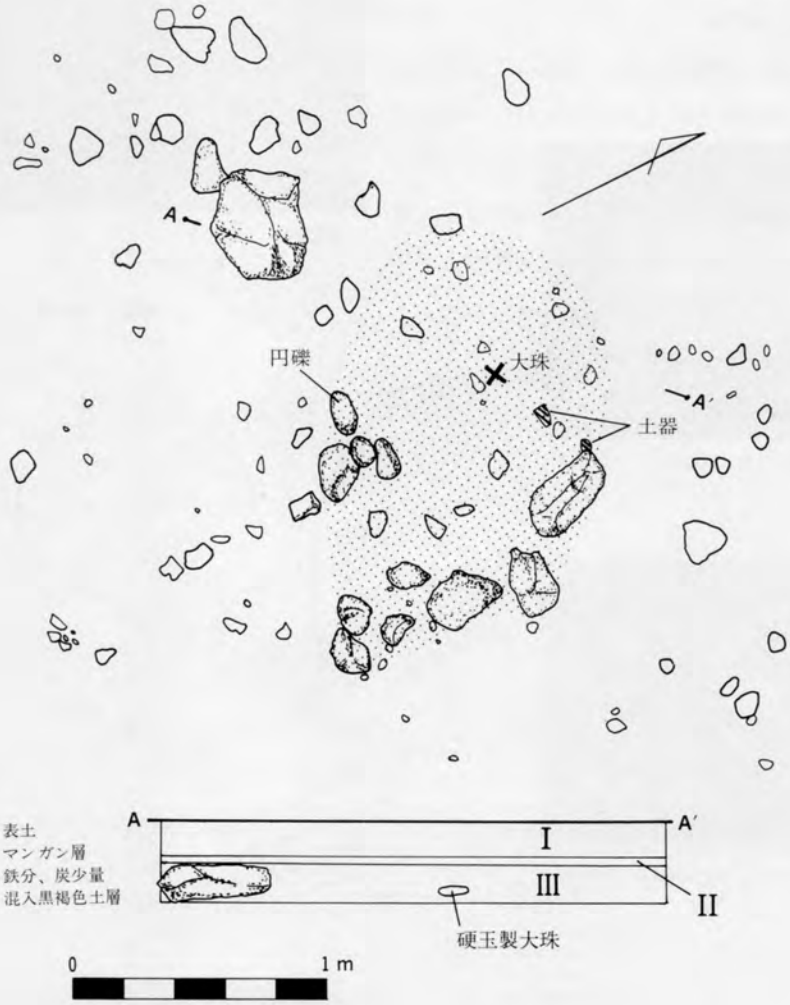
11. 硬玉製大珠包含層　（挿図33，図版67）

g 9 グリッドに，水田表面から深さ30cmのレベルで硬玉製大珠が発見された。周囲に，環状とも考えられる配石が見られるが，縄文時代中期の墓壙として断定するには致っていない。

しかし，第2～6号住居址，東ピット群の位置関係から考えるのに，墓址の位置として関係があると考えられる。大珠中央片側に抉りがあることも特筆すべきことである。

図版67　硬玉製大珠包含層

挿図33　硬玉製大珠包含層

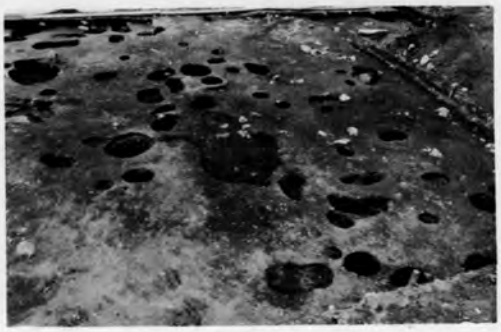


12. 土　　壙

第２号土壙（ＳＫ２）（挿図34，図版68，69）

ｆ10，11グリッドにかけて検出され，長径26cm，短径13cmの南北に長い土壙である。上層は黒色土が南側に円形プランをなし，北半分とは別の性格のピットである。上層部に土器小破片を多く包含し，中層以下褐色を帯びてくる。中央部の下層にトチの炭化物（渡辺誠教授に鑑定を依頼した。結果はＰ63に有り）が多量に集中出土した。また炭片，骨片も散在，底面は平担で焼土が見られる。

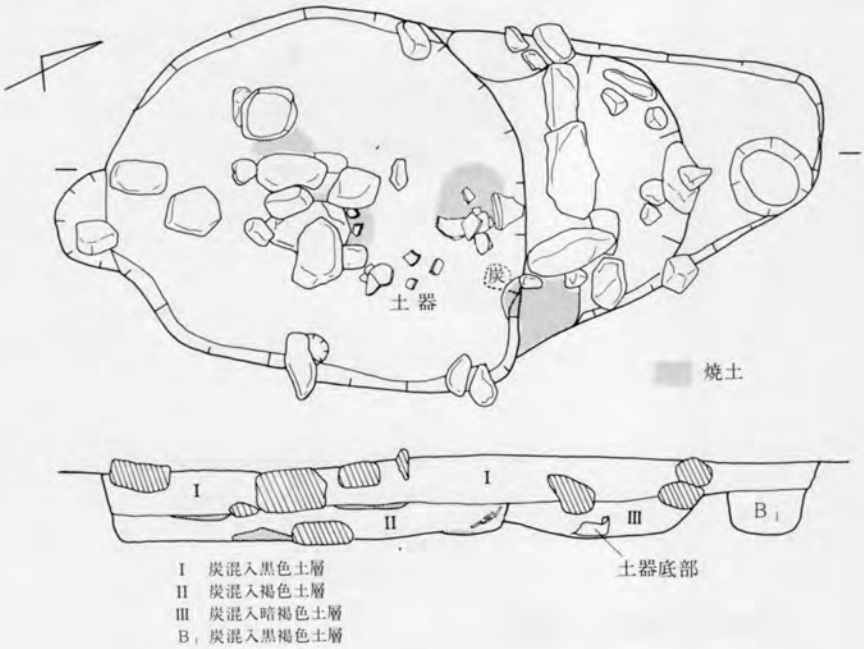
本土壙北部は礫が散在し，床面に土器底部を包含する。数回に渡って掘り込まれているため，性格は不明である。また，まわりをピット群が取り巻き，土壙とピット群との関連が考えられる。このピット群の下層から第６号住居址が発掘された。本土壙の年代は縄文時代後期である。



図版68　　SK2とSB4東ピット群

図版69　　ＳＫ２

挿図34　　第２号土壙(SK2)

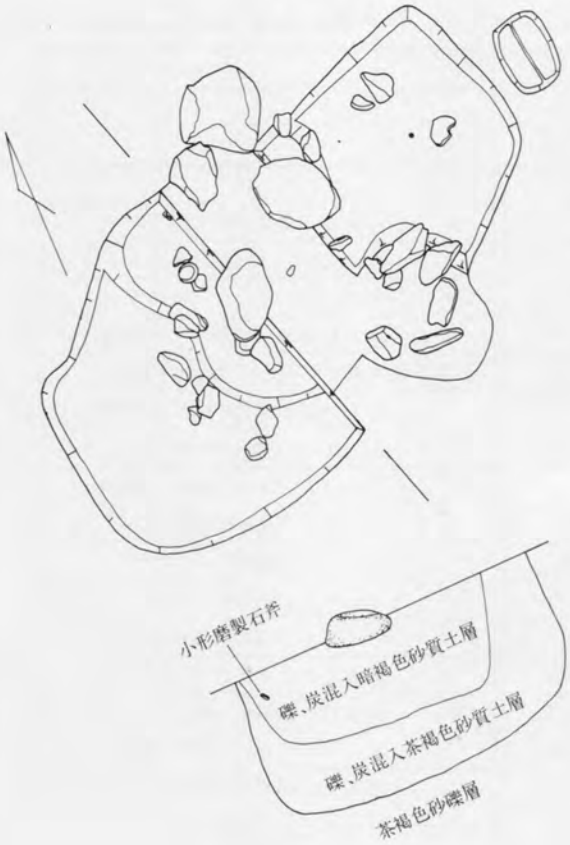


第３号土壙　（挿図35，図版70～72）

ｄ４グリッドに検出され，長径２ｍ，短径1.1ｍを測る。埋土から小型磨製石斧（土壙検出面から深さ22cm）２点，ウス玉（深さ19cm）が１点含まれ，埋葬品を伴う墓壙と考えられる。また南に張り出したプランは別遺構のものである。所属する時代は縄文時代後期であろう。

図版70　ＳＫ３

挿図35　第３号土壙（SK3）



図版71　SK3 出土，小形磨製石斧

図版72　SK3のセクション

13. ピット群　（挿図36～44，図版73～78，表２～４）

分類上，グリッドｄとｅ列を境に東側を東ピット群，ＳＢ４の東側をＳＢ４東ピット群，西側を西ピット群とした。東側には258箇所，ＳＢ４東には89箇所，西側には120箇所のピットを数え，ｅ６～８，ｆ６～８，ｇ６～９，ｈ６～９グリッドに存在するピットは，ＳＢ２～ＳＢ６が所属する時期を前提として，住居群の範囲と隣接する区域を構成していると考えられる。

また，ＳＢ１～ＳＢ６が残った台地北端は後世の削平を受けておらず，台地中央部は強く削平（20～30cm位）を受けているため，もっと遺存していたであろう住居址の床面は削り取られている。柱穴の一部が残っていると推定される痕跡が，西側ピット群，東側ピット群北部に見られる。これらのピットには縄文後期の土器を含むピットも多く，上層に後期の遺構が存在していたことを伺わせる。柱穴の組合せにより，住居址を想定することはできなかった。

西側ピット群の北端は縄文時代後期の土器を多く含み，Ｐ97からは斧状石冠が出土している。（挿図40，図版75）また，西側ピット群の南端に埋甕施設があったが，住居内のものか屋外のものかは不明で，内蔵遺物は確認されなかった。（挿図45，図版76）

表２　西側ピット群出土石器一覧表

Ｐ６	チップ１（下呂石）	Ｐ49	チップ１（下呂石）
9	フレーク１（下呂石）	50	石鏃１（黒曜石）
10	磨製石斧１（凝灰岩）	52	フレーク３（下呂石）　チップ１（下呂石） 尖頭石器１（下呂石）　チップ１（下呂石）
17-2	削器１（玄武岩）　石鏃１（下呂石） チップ２（下呂石1，黒曜石1）	55	砥石１（砂岩）　スクレーパー１（チャート） 石鏃１（下呂石）　原石４（黒曜石） チップ６（黒曜石4，チャート1，下呂石1） 敲石１（流紋岩）　削器１（チャート）
22-2	打製石斧１（凝灰岩）		
22-4	石鏃（下呂石）		
22-5	凹石（凝灰岩）　打製石斧（凝灰石）		
24	石鏃２（下呂石）	56	フレーク３（下呂石2，チャート1） チップ４（下呂石2，黒曜石2） チップ１（黒曜石）
27	石鏃１（下呂石）　フレーク１（下呂石）		
29-1	磨製石斧（蛇紋岩）　チップ１（黒曜石）		
33	チップ１（チャート）	59	フレーク２（下呂石）　チップ５（下呂石） チップ２（チャート）　削器１（下呂石）
38	磨製石斧１（凝灰岩）		
40	フレーク２（下呂石）　チップ２（下呂石）	60	打製石斧１（凝灰岩） 打製石斧（未製品，砂岩） チップ９（下呂石3，黒曜石3，玉髄1，チャート2）
41	石鏃１（下呂石）　チップ１（チャート）		
42	磨製石斧１（蛇紋岩）		
43	磨製石斧（凝灰岩）	72	磨石１（流紋岩）　石核１（下呂石） フレーク３（下呂石3） チップ７（下呂石5，カル石1，玉髄1）
47	チップ２（下呂石）　チップ１（黒曜石） フレーク１（下呂石）		
48	チップ１（黒曜石）	73	フレーク１（下呂石）　チップ３（下呂石）
49	磨製石斧１（未製品，蛇紋岩）	76	チップ１（下呂石）

P77	フレーク1(下呂石) チップ2(下呂石,黒曜石)
78	石鏃2(下呂石)　チップ1(玉髄)
79	チップ1(黒曜石)
80	スクレーパー1(チャート) 削器1(チャート)
81	掻器(黒曜石)　チップ1(チャート) 打製石斧1(凝灰岩)　掻器1(黒曜石)
83	フレーク1(チャート)　石鏃1(黒曜石) チップ7(黒曜石3,下呂石3,チャート1)
84-2	チップ1(黒曜石)
90	削器1(下呂石) チップ3(下呂石1,チャート2)
96	チップ1(黒曜石)
P97	チップ1(下呂石)　石冠(流紋岩)
99	フレーク1(下呂石) チップ3(下呂石2,黒曜石1)
100	チップ2(下呂石,黒曜石)
104	チップ2(下呂石,チャート)　丸石1(?)
108	チップ1(下呂石)
109	石刀1(緑色片岩)
109-A	凹石1(流紋岩) 打製石斧1(緑色片岩) チップ3(下呂石2,チャート1)
110	打製石斧1(凝灰岩)　チップ1(下呂石)
f 3 G 土壙一括	uf2(下呂石) フレーク2(下呂石,チャート) チップ4(下呂石2,黒曜石1,チャート1)

表3　東側ピット群出土石器一覧表

P10	凹石1(流紋岩)
20	チップ2(チャート)
25	フレーク1(下呂石)
27	削器1(下呂石)
29	チップ1(下呂石)　石
38	凹石1(流紋岩)
41	石1(砂岩)
46-A	石皿1(流紋岩)
46	チップ5(下呂石)　フレーク1(下呂石)
47	磨製石斧1(蛇紋岩)
50	磨石1(流紋岩)
55	砥石1(流紋岩)
78	フレーク1(下呂石)
81	フレーク2(下呂石) チップ1(チャート)
82	打製石斧1(砂岩)
85	砥石(砂岩)
86	チップ1(チャート)
93	石鏃1(下呂石)
95-A	チップ6(下呂石4,チャート2) uf1(下呂石)
101	チップ3(下呂石,黒曜石,チャート)
102	チップ2(黒曜石,チャート)
114	フレーク5(下呂石4,チャート1)
P117	打製石斧1(砂岩)
121	敲石1(砂岩)　チップ2(黒曜石)
123	チップ1(下呂石)
124	削器1(下呂石)　フレーク2(下呂石)
125	打製石斧1(凝灰岩)
128	チップ1(チャート)
137	磨製石斧1(蛇紋岩)
139	石錐(頁岩)
140	チップ1(下呂石)
144	石鏃1(下呂石)　打製石斧2(凝灰岩)
146	磨石2(流紋岩)　フレーク3(下呂石) チップ5(下呂石1,チャート3,黒曜石1) 磨石1(流紋岩)　打製石斧1(緑色片岩) uf1(下呂石)
148	石核1(チャート)
151	チップ1(下呂石)
152	フレーク1(下呂石)
154	チップ1(玉髄)
162	打製石斧1(凝灰岩)
165	チップ2(下呂石)
173	打製石斧1(砂岩)
181	石鏃1(チャート) チップ7(下呂石3,チャート4)　石1
182	磨製石斧2(砂岩,蛇紋岩)　石核1(下呂石)

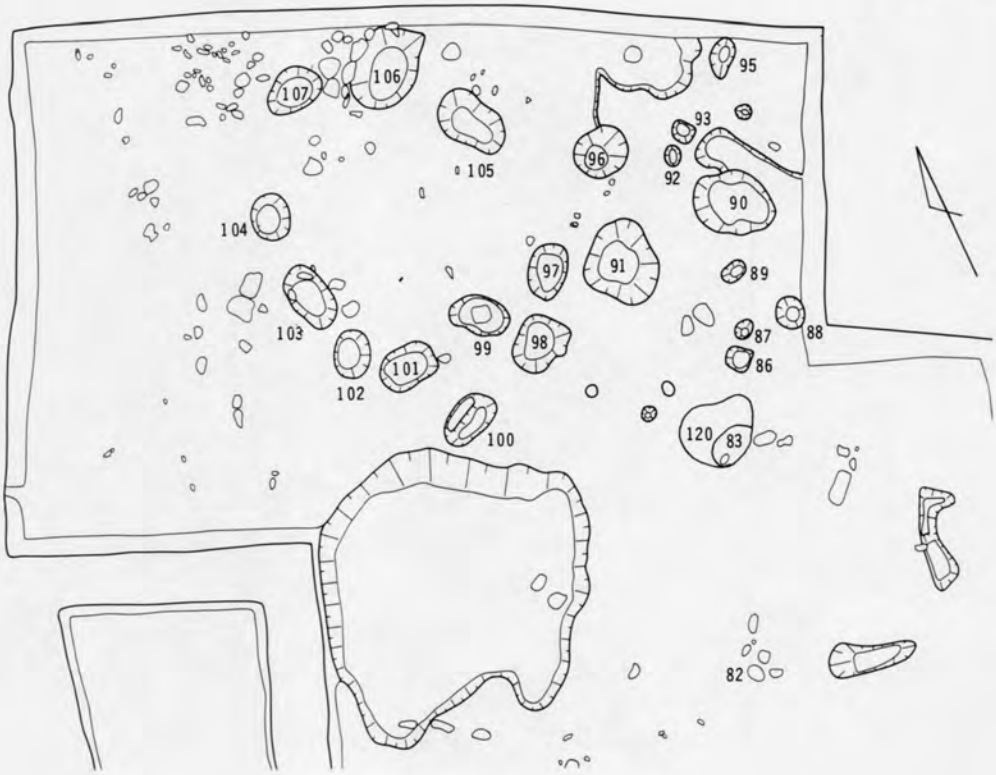
P182	石棒1(砂岩)　削器1(チャート) チップ9(下呂石)　凹石1(流紋岩)	P227	打製石斧2(緑色片岩,凝灰岩)
183	チップ2(下呂石1,チャート)	229-E	石匙1(チャート)　石鏃1(下呂石) フレーク5(下呂石4,チャート1) 石錐2(頁岩,チャート)
189	石鏃1(下呂石)		
190	チップ1(下呂石)	229	打製石斧3(凝灰岩2,緑色片岩1) 磨製石斧2(蛇紋岩) フレーク1(下呂石)　石庖丁(凝灰岩) チップ5(下呂石3,チャート2)
192	打製石斧1(凝灰岩)		
199	uf1(黒曜石)　フレーク1(下呂石) チップ5(下呂石)		
200	uf1(下呂石)	231	打製石斧2(凝灰岩1,角閃石凝灰岩1) フレーク3(下呂石2,チャート1) チップ3(黒曜石2,チャート1)
201	打製石斧1(凝灰岩)　石棒1(粘板岩)		
207	フレーク1(下呂石)		
210	砥石1(凝灰岩)	242	チップ2(下呂石,黒曜石) 凹石(緑色片岩)
212	磨製石斧1(蛇紋岩)		
225	フレーク2(下呂石)	地床炉	チップ1(黒曜石)
226	チップ1(チャート)		

表4　SB4東側ピット群出土石器一覧表

P5	丸石(火を受ける)	P51	石核1(下呂石)
14	フレーク1(下呂石)	54	フレーク1(チャート)
17-2	削器(玄武岩)	55	チップ1(下呂石)
19	打製石斧(凝灰岩)	60	石錐1(下呂石)　フレーク1(下呂石) チップ2(下呂石)
23	打製石斧(角閃石凝灰岩)		
26	フレーク1(下呂石)　チップ1(下呂石)	76	打製石斧(凝灰岩)
27	フレーク1(下呂石)	78	石1　チップ1(下呂石) フレーク2(下呂石,チャート)
28	打製石斧(流紋岩)		
30	磨製石斧(凝灰岩質砂岩) 石皿ミニ(凝灰岩)　フレーク1	85	打製石斧1(角閃石凝灰岩) フレーク4(下呂石3,チャート1) チップ5(黒曜石4,下呂石1) 砥石1(砂岩)
35	チップ2(下呂石,黒曜石)		
37	フレーク1(下呂石)		
44	フレーク1(下呂石)　チップ1(下呂石)	86	チップ5(下呂石)　丸石1
46-A	石皿(流紋岩)	87	フレーク2(下呂石,チャート) チップ1(下呂石)
46-B	フレーク(下呂石)		
47	磨製石斧1(蛇紋岩)	90	チップ1(下呂石)
50	凹石1		

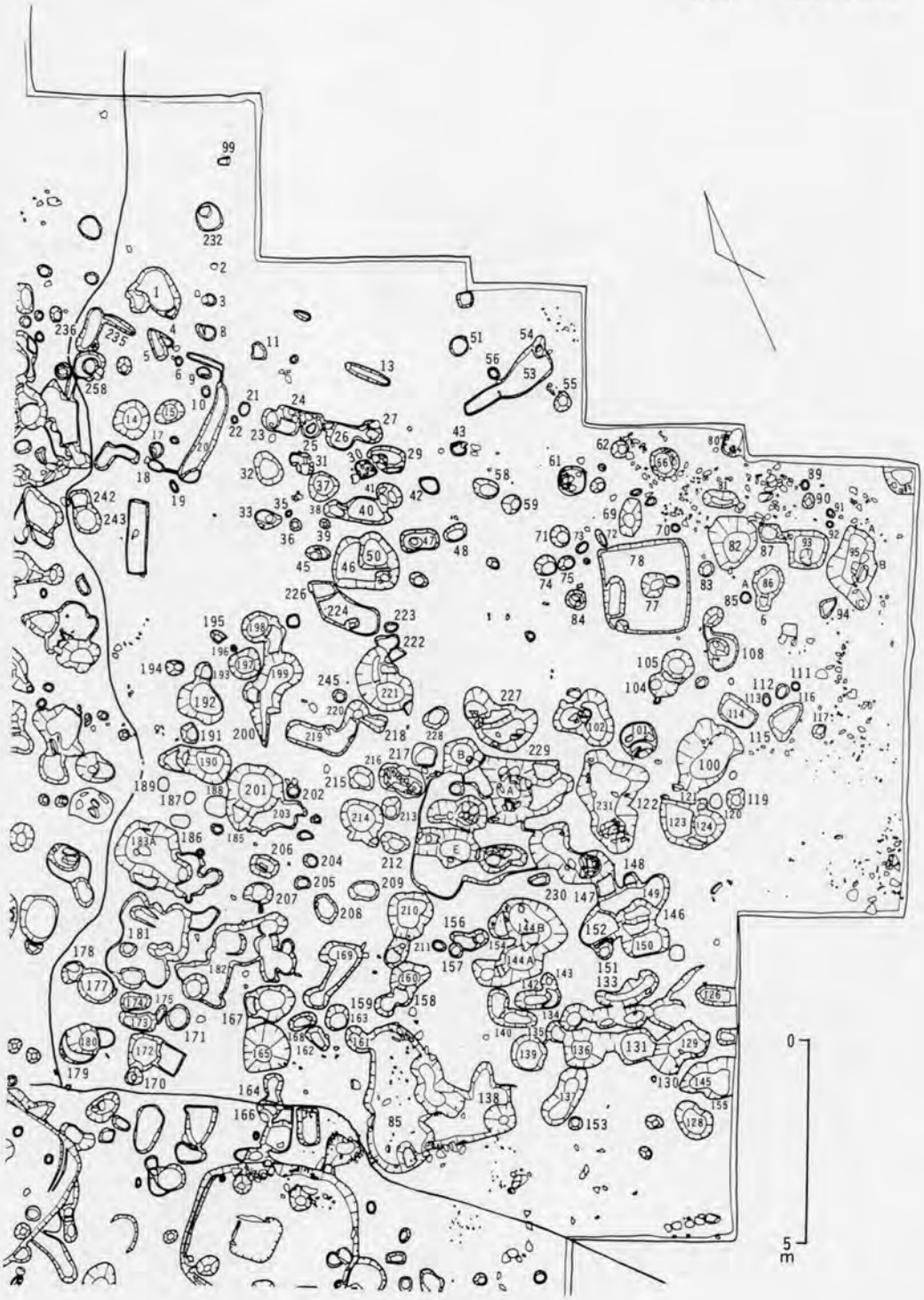
挿図36　ピット群区域図

挿図37　西ピット群北部



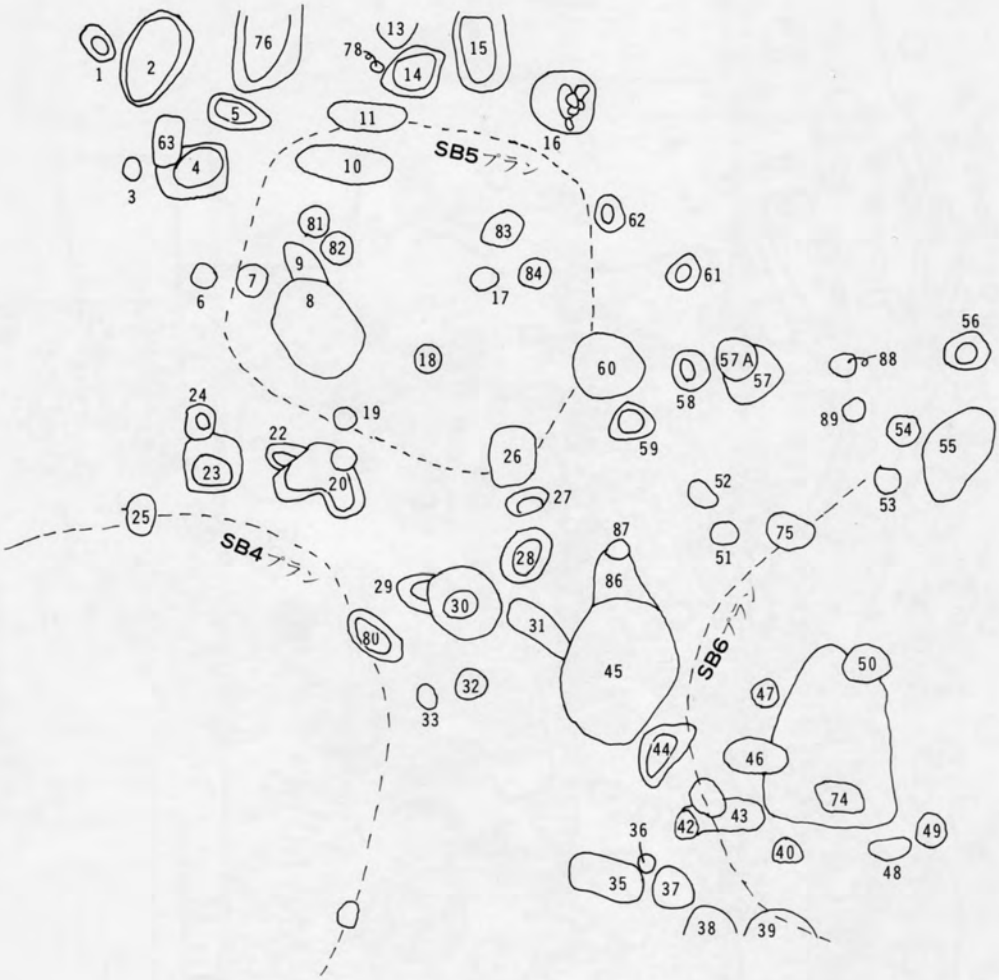
挿図38　西ピット群

挿図39　東側ピット群

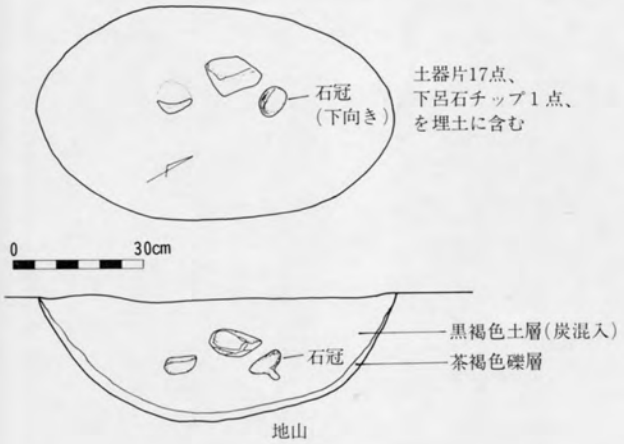


挿図40　SB4東側ピット群

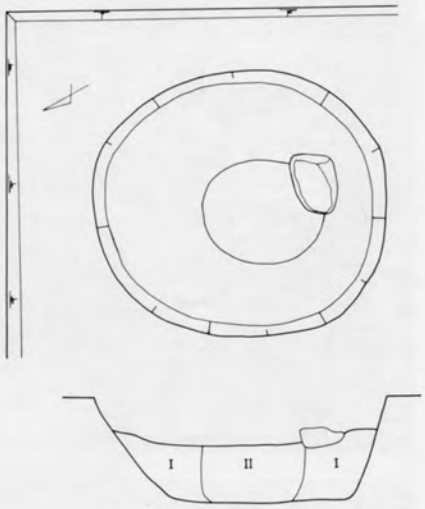
（SB4～6を掘り下げる前に検出されたピット群）



挿図41　西側ピット群 P97（石冠出土）



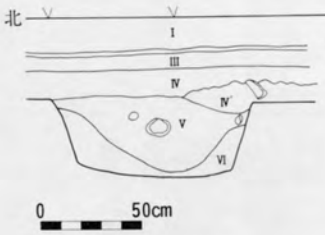
挿図42　東側ピット群 P99



I　褐色砂ブロック入り暗褐色砂質土層
II　炭を多く含む黒褐色土層

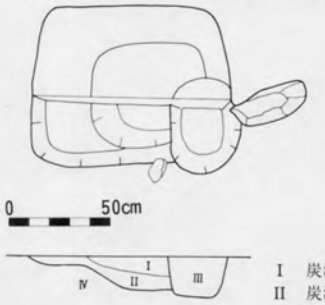
0　50cm

挿図43　東側ピット群 P155



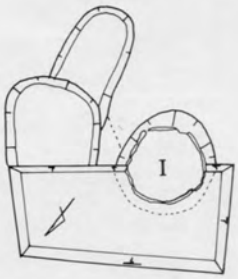
I　表土
II　マンガン層
III　黒色土
IV　黒褐色土（スミ）
IV'　〃　（IV層より黒い）
V　礫、砂質黒褐色土スミ混入
VI　黒茶褐色土（砂多し）

挿図44　東側ピット群 P120

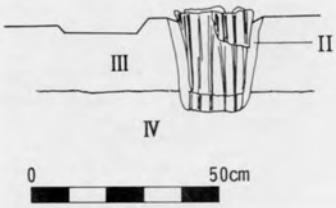


I　炭混り暗赤褐色土層（小豆色）
II　炭混り黄褐色土層
III　炭礫混り黒褐色土層
IV　礫混り褐色砂質土層

挿図45　その他の埋甕施設

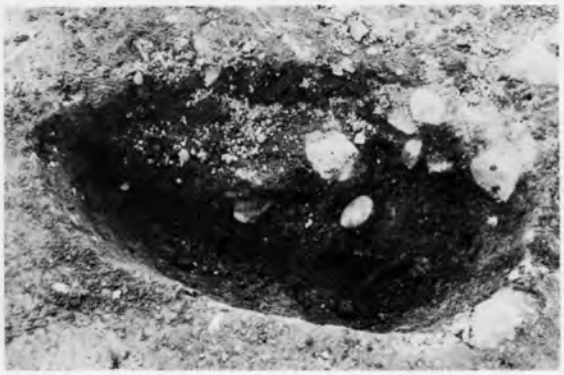


I　黄褐色土層
（埋ガメ埋土）
II　黒褐色砂質土層
III　炭混入黒褐色土層
IV　黄褐色砂質土層



図版73　西側ピット群(北方)

図版74　西側P群(南側)空中撮影



図版75　西P群P 97の石冠出土状況

図版76　その他の埋甕施設

図版77　東側ピット群（空中撮影）

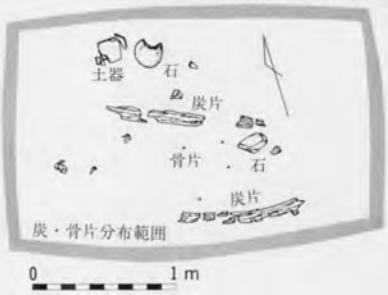
図版78　東側ピット群

第2節　墓　　址

1．第1号墓址（挿図45，図版79）

g10グリッドにかけて2.6×1.7mの範囲で炭片と人骨片が多量に散布する地点が見つかった。炭は東西に板状に残り、敷かれているような状態をなす。人骨片は京大霊鳥類研究所，江原昭善先生に鑑定を依頼した。その結果を記する。

挿図46　第1号墓址



第1号墓址より完全に細片化した人骨が、散布された状態で出土した。一部に火を蒙った痕跡がある。骨片の数はさほど多くはないが，重複している部分がなく，またそれらの部分骨は頭骨から四肢骨にまで及んでいることから，同一個体の一体分と推定してもよい。わずかに残存している頭骨片の縫合部の状態，四肢骨片の形状から成年に達していたといえる。左脛骨の骨体遠位部が一部残存しており，火熱の影響による変形もみられず，その大きさから女性の可能性がつよい。

細片化がいちじるしく，その量も少いために，時代的特徴を読みとることは不可能である。

2．第2号墓址（挿図46，図版80）

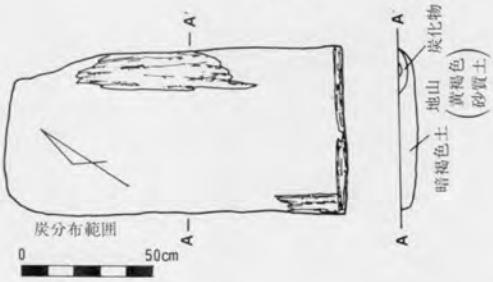
e6グリッドにかけて約2×3mの範囲で炭片，人骨片が散布していた。第1号墓址と同じく炭は板状に残り，敷かれているような状態であった。中央に長管骨，頭蓋骨片が残り，埋葬状態の一部を知ることができた。土器片も覆土に含まれている。

挿図47　第2号墓址

3．第3号墓址（挿図47，図版81）

e8グリッドにかけて1.35×0.7mの範囲に炭片，人骨片が散布していた。人骨片は小破片で，炭は板状に残り，敷かれている状態をなす。

挿図48　第3号墓址



4．^{14}C年代測定結果

第2号墓址の炭片を，京都産業大学理学部山田治教授に測定を依頼した。その結果 2,610±40（BP）と測定値が出て，第1～3号墓址の年代は縄文時代晩期と推定される。

図版79　第１号墓址

図版80　第２号墓址炭片

図版81　第２号墓址

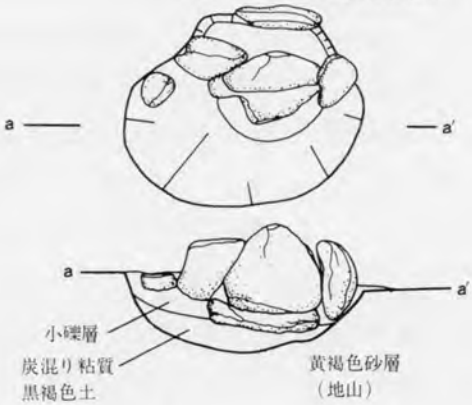
５．その他の遺構（配石遺構・挿図49，図版82）

ｄ４グリッドの調査において配石遺構が検出された。直径80cm，短径55cmの黄褐色砂層を掘り込んだ皿状ピットの北東側に片寄って，４枚の凝灰岩自然礫が長方形（若干の移動がある）に組み合わされ，その下に扁平な凝灰岩平石が敷かれていた。ピットの深さは15cmで，底の平石面まで小礫のみで満たされ，平石の下は炭片の混じった粘質黒褐色土で硬く，土器片，チップ，微細骨片を含んでいた。

土器片が微細であるため時期の判定は困難であるが，縄文後期に属する墓壙の一種と考えられる。

図版82　配石遺構

挿図49　配石遺構実測図



第４章　寺東遺跡出土の植物遺体

(1)　はじめに

このたび高山市教育委員会より調査の機会を与えられた，同市寺東遺跡出土の植物遺体を報告するに当り，植物遺体のみまだ報告されていなかった糠塚遺跡出土の植物遺体についても，合わせて報告することとなった。市内ではこの他に向畑およびツルネ遺跡からも植物遺体が出土しており，後者については大阪市立大学の粉川昭平教授によって報告されている（粉川1978)。これらはいずれも縄文時代の遺跡であるが，その細別時期については個別に記すこととする。向畑遺跡資料については，その概要のみを記すこととする。

(2)　植物遺体のリスト

寺東遺跡および向畑遺跡より検出された炭化植物遺体の種名は，次の４種である。

1．クルミ科オニグルミ　*Juglans mandshurica* subsp. *Sieboldiana* MAXIM.

2．ブナ科クリ　*Castanea crenata* SIEB et ZUCC.

3．ブナ科コナラ属の１種　Quercus sp.

4．トチノキ科トチノキ　*Aesclus trubinata* BLUME.

いずれも野生の堅果類であり，縄文時代の重要な食料資源であった。

次にこれらの遺存状態・数量などを，遺跡ごとに検討することにする。

(3)　寺東遺跡出土の植物遺体（図版83－１～８）

本遺跡より検出された植物遺体の種名は，オニグルミ・クリ・トチの３種である。これらをラベルごとに，種名・遺存状態・数量などを記す。

No.１　「ＳＫ２のII層．後期」

トチの種皮を含む種皮片少量。バインダーで固められているので，個々に取り上げることはしなかった（図版83－１)。

No.2．「ＳＫ２のII層．後期．遺物番号No.3522」

オニグルミの核片５片（0.83ｇ，同２）と，不明種皮片少量。

No.3．「第５号住居址（ＳＢ５）覆土上層．中期後葉．遺物番号No.3548」

トチの種子片10点（9.65ｇ，同３)。このなかには種皮のついた完形に近いものも含まれている（左下)。

No.4．「第３号住居址（ＳＢ３）南方ピット群中ピット17より出土．後期．遺物番号No.3292」

クリの種子１点。高さ1.33，幅1.64，厚さ1.00cmで，0.74ｇである。

No.5．「第５号住居址（ＳＢ５）覆土上層．中期後葉．遺物番号No.3049」

トチの種子片１点（2.73ｇ，同４）。

No.6.　「第５号住居址（ＳＢ５）北西部分覆土下層．中期後葉．遺物番号No.3556」

トチの種子片５点（3.24ｇ，同５）。

No.7.　「第５号住居址（ＳＢ５）西側中央覆土下層．中期後葉．遺物番号No.3664」

トチの種子片１点（0.52ｇ，同６）。

No.8.　「第５号住居址（ＳＢ５）北側中央覆土上層．中期後葉．遺物番号No.3658」

トチの種子片１点（0.78ｇ，同７）。

これらの出土地区は，No.１・２，No.４およびNo.３・５～８とに大別される。そして前者は縄文後期に，後者は縄文中期後葉に属す。

オニグルミはNo.２，クリはNo.４の後期にのみみられるが，両時期にまたがってトチの多いのが特徴的であり，かつ重要なことである。

(4)　糠塚遺跡出土の植物遺体（図版83－９・10）

本遺跡より検出された植物遺体の種名は，クリとブナ科コナラ属の１種（いわゆるドングリ類）の２種である。縄文前期の包含層より検出されたものである。

クリは破片２点（0.32ｇ，図版83－９），ブナ科の１種は破片１点（0.08ｇ，同10）である。

(5)　向畑遺跡出土の植物遺体の概要

縄文前期後葉～縄文中期中葉の遺構や包含層から，オニグルミ・クリ・コナラ属などが若干出土している。本遺跡との関連において注目すべき点は，トチが検出されていないことである。このことによってトチの実食用化の上限が一層明確になることとなった。

(6)　若干の考察

他遺跡資料をも含めたこれらの資料の重要性は、トチの実の利用が確実に縄文中期後葉にまでさかのぼって確認できたことである。

今回検出された４種の堅果類のうち，ドングリ類とトチの実はアク抜きを必要とするが，オニグルミとクリはその必要がない。そして縄文時代の草創期よりすでにドングリ類のアク抜きは行われているのであり，このためにこそ縄文土器が発達したのであることが，近年明らかになってきたのである（渡辺1987）。したがってトチを除くそれらの堅果類の食べかすの出土の有無は，かなり偶然性に左右されているとみなされる。

これらに対しトチの実の利用は新しい。これはアク抜きの難しさによることである。ドングリ類のアクは水溶性のタンニンであるが，トチのアクは非水溶性のサポニンやアロインである。したがって前者は，特に飛騨に多いナラ類のドングリを例にすれば，丹念な煮沸と水さらしを何度も繰り返せばアク抜きができるし，製粉さえすれば水さらしだけでも

アク抜きができる。縄文前期以降の石皿などの製粉用具の発達は，このことと深い関係があるとみなされる（渡辺1988）。

しかし後者の場合は，アルカリ（灰）で中和して除去するという難しさがある。実際今日でもトチ餅などのためにこれを行っている人々は，異口同音にトチのアク抜きだけは別格に難しいと言っているのである。そしてこのトチのアク抜き技術は，青森県十和田市明戸遺跡などで確認されたように，縄文中期初頭に東北地方北部において開発されたことなのである（渡辺1984）。

今回これが飛騨には，縄文中期後葉に南化してきたことが一段と明らかになった。そして灰の確保ときわめて密接な関係をもつ複式炉も，ほぼこの時期に共に東北地方より南下してきている。飛騨の郷土食を特徴づけるこのトチの食用化の背景が明確になったことも，大事な成果と言えるであろう。

もっともモチゴメ出現以前の縄文時代の利用法は，今日ほとんど消えてしまったトチのコザワシとよばれるものであり，トチ餅は弥生時代以降のことであることも付記しておく。

（渡辺　誠）

引用文献目録

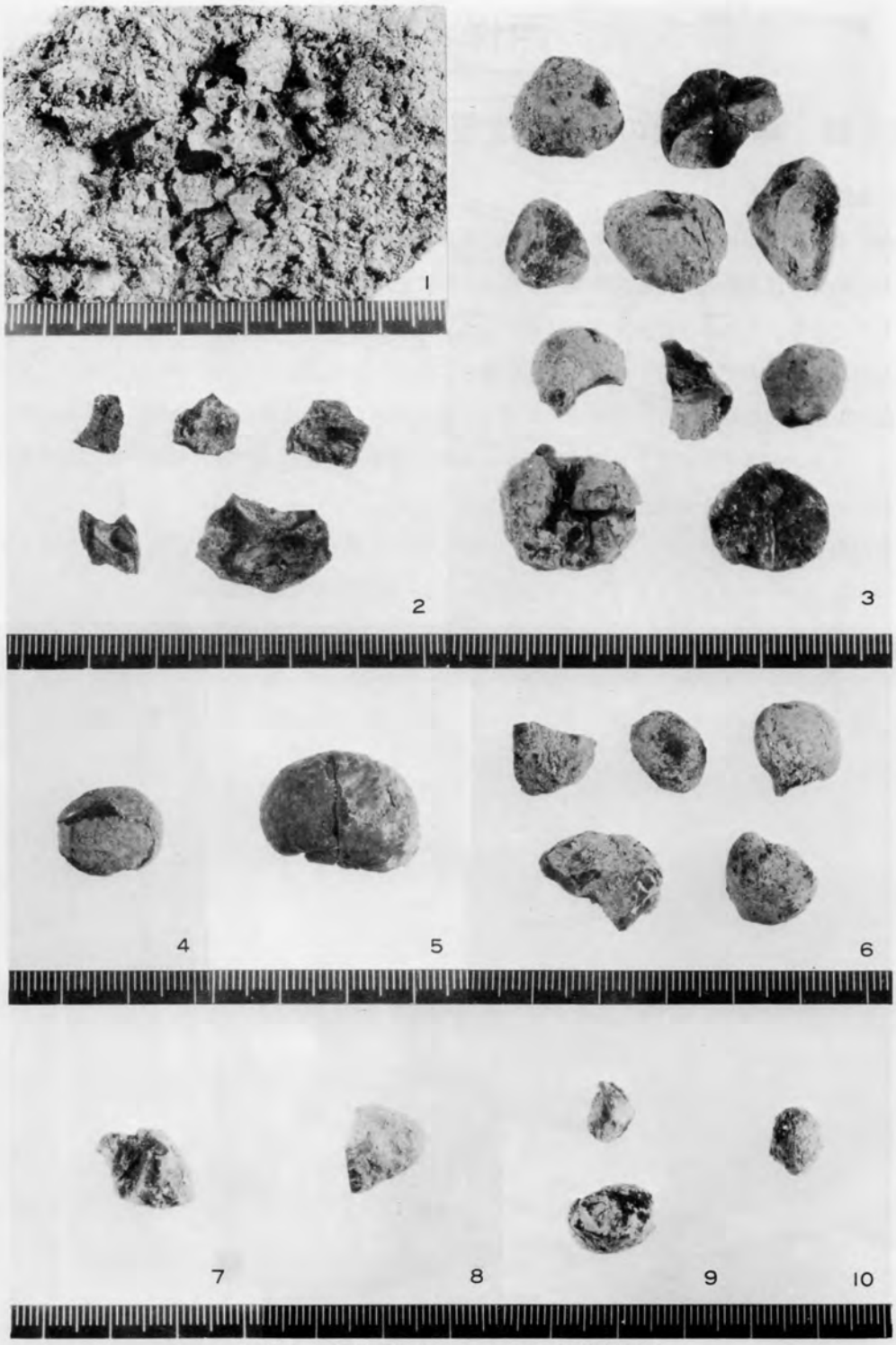
大江　命，1982：糠塚遺跡発掘調査報告書。高山市埋蔵文化財調査報告書．5

粉川昭平，1978：高山市ツルネ遺跡の種子類について。ツルネ遺跡発掘報告書．47～50頁。高山市教育委員会。

渡辺　誠，1984：青森県十和田市明戸遺跡出土の植物遺体。十和田市埋蔵文化財調査報告書，3．87～90頁。十和田。

———，1987：縄文時代の植物質食料・ドングリ類。考古学ジャーナル，279．24～27頁。東京。

———，1988：縄文時代中期の石器―打製石斧を中心に―。考古学ジャーナル，287．11～15頁。東京。



図版83　植物遺体（ただし 9・10は糠塚遺跡資料）

1：種皮片，2：オニグルミ核片，3·5～8：トチ種子，4·9：クリ種子，10：コナラ属種子

第５章　西保木遺跡の遺構

第１節　縄文時代の遺物包含層

１．地理的環境

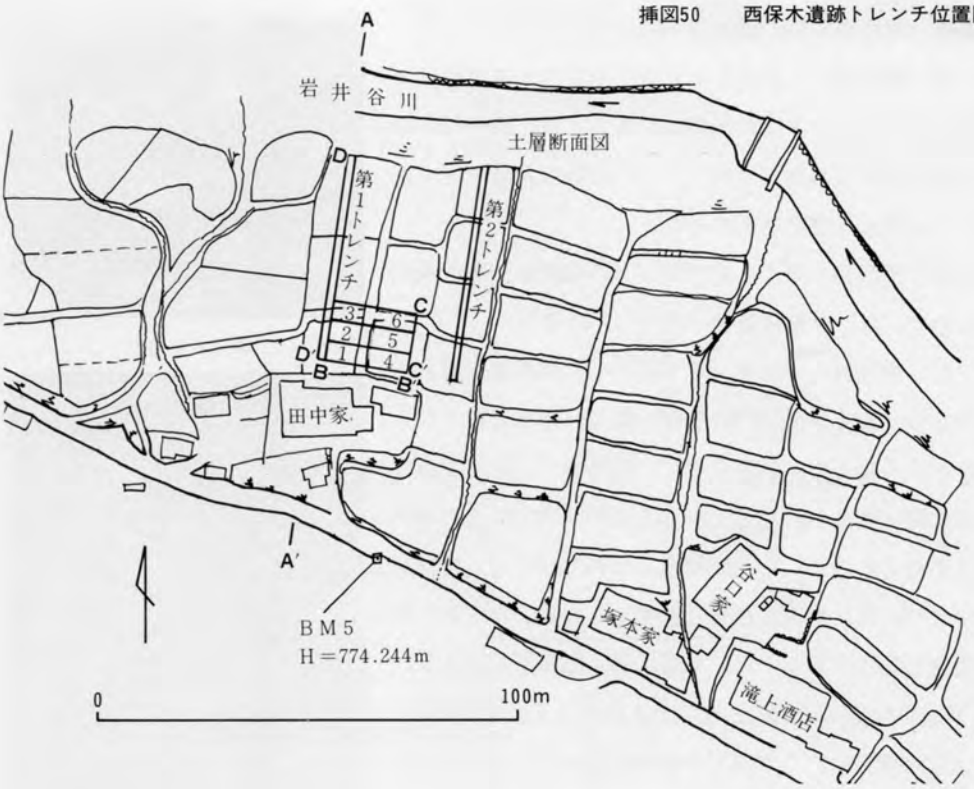
西保木遺跡は岩井谷川左岸の字荒垣内（あらがいと）と，右岸の字西保木（にしほき）を含めた河岸段丘上に位置する。過去に縄文時代遺物の散布状況が確認されていることから，今回左岸の字荒垣内を発掘調査したものである。右岸の字西保木は既に滅失している。

平担部は50～ 100 m ぐらいの幅で東西に続き，南側には山裾がせまって耕地は少ない。生活道路は山裾に取り付けられ，道路沿いに点々と農家が連なる。道路の上部山裾に緩斜面が所々あって，本洞遺跡と呼ばれる。縄文早期から後期の遺物が散布していると遺跡台帳に記載されるが，道路より上は今回土地改良が行われなかった。

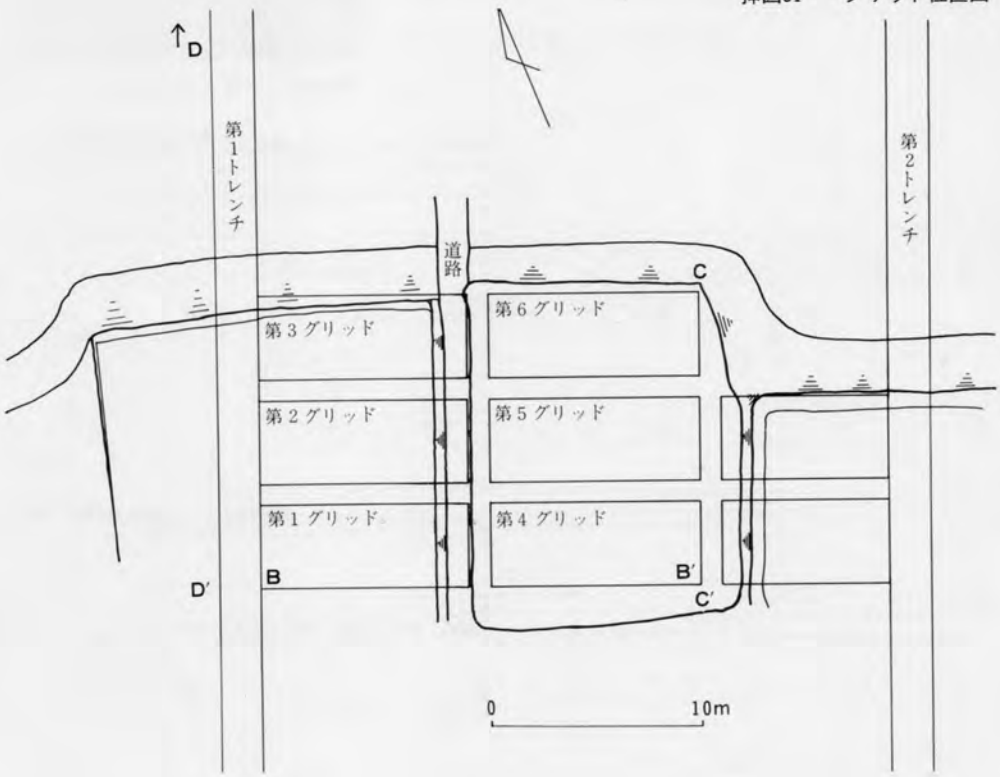
発掘調査は，岩井谷川(大八賀川)が南へ湾曲し終った部分の左岸に第１，第２トレンチを入れ，平担部の中央に第１～６グリッドを設定した。（挿図50，51・図版84）

図版84　　西保木遺跡全景（空中撮影）

挿図50　西保木遺跡トレンチ位置図



挿図51　グリッド位置図



2．層序（挿図52～54，図版85・86）

A′－A（挿図52）　水田２から岩井谷川河床まで約11ｍあって，水田１～３までの基盤は比高1.1ｍと緩く北に傾斜し，ほぼ平担である。水田１・２に遺物包含層がみられ水田３は基盤まで攪乱されていた。

B′－B（挿図53）第１，４グリッドの南断面土層を実測したもので，Ⅳ，Ⅴ層に遺物を包含している。

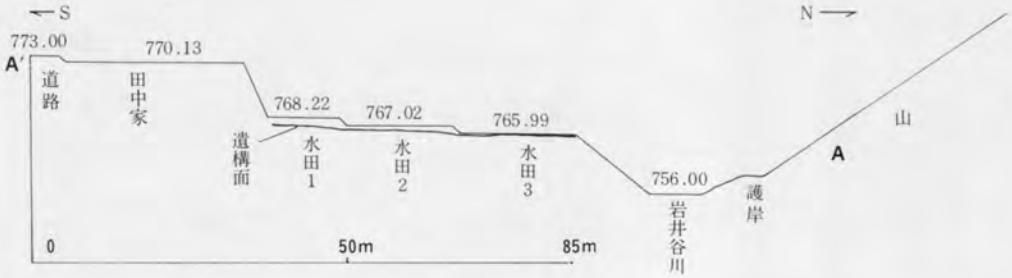
C－C′（挿図54）　第４～６グリッドの東断面土層を実測したもの。表土下部(Ⅱ)は小礫が沈み，水田の敷となる。Ⅲ層は鉄分を含んで赤茶色をなし、相当硬い。B′，Ⅳ層は水田造成時に攪乱された埋土である。Ⅳ′～Ⅵ″は，その堆積要因は不明であるが，序々に堆積したのではなく，山津波，水害などで一気に形成されたとも考えられる。Ⅳ′，Ⅳ″，Ⅴ層に遺物を包含するが，Ⅳ″，Ⅴ層に多く散布する。また，Ⅳ′とⅤ層が黒色土で，Ⅳ″の褐色土を間にはさんでいる。

D′－D（挿図54）　水田１・２の土層は、C－C′の地区と同様である。水田３の北端は崖になって岩井谷川となり，切り立っている。　　A′－A断面図の一部である。

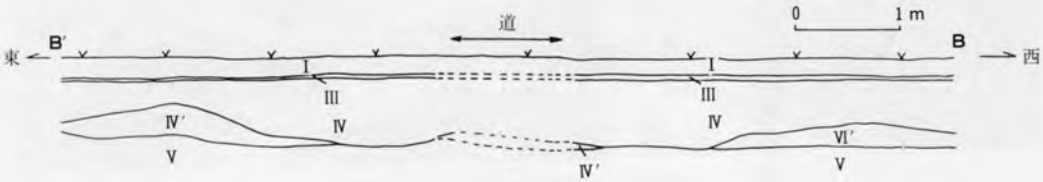
図版85　第２トレンチ

図版86　第１トレンチ

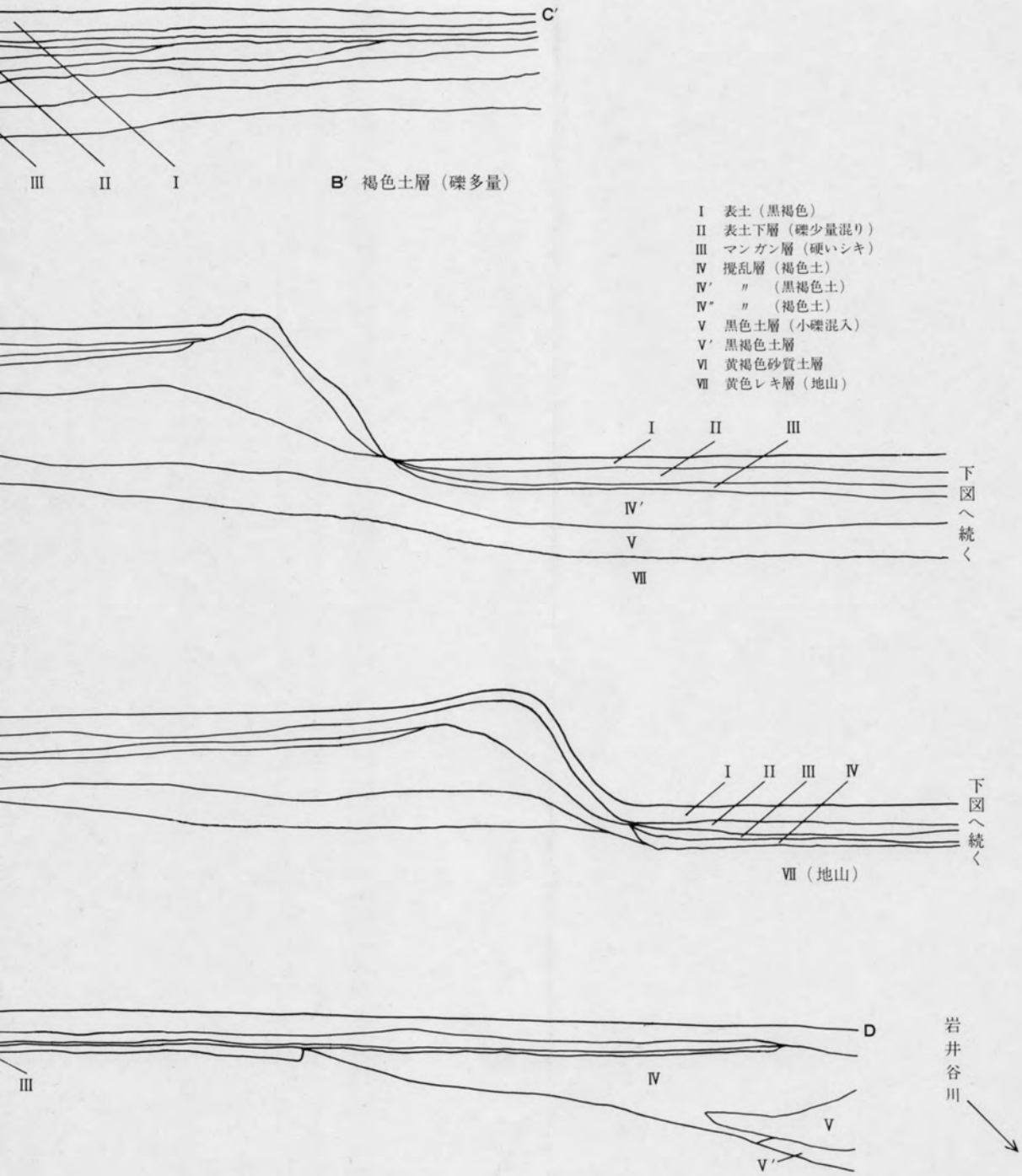
挿図52　地形断面図A－A

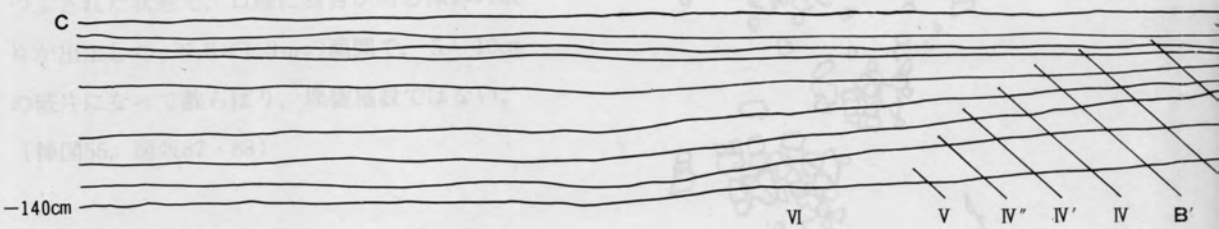


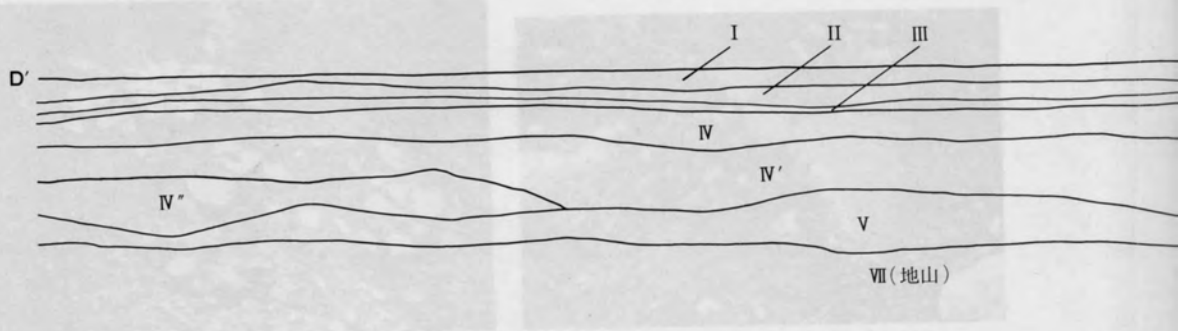
挿図53　土層断面図B′－B

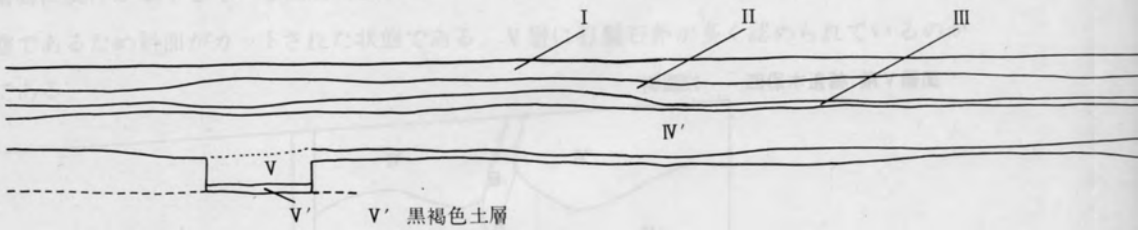


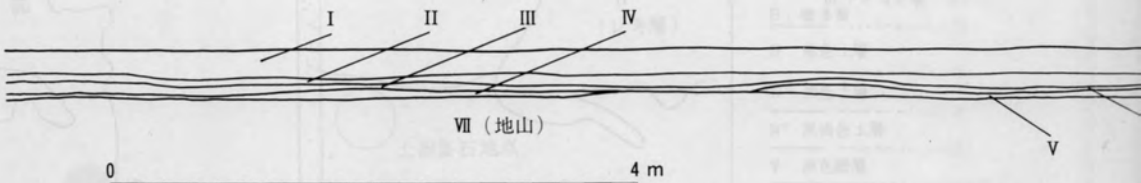
挿図54　土層断面図C－C′・D′－D




C
−140cm
Ⅵ
Ⅴ
Ⅳ″
Ⅳ′
Ⅳ
B′


D′
Ⅳ″
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅳ′
Ⅴ
Ⅶ（地山）

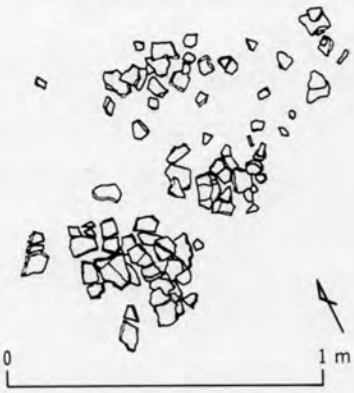

Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ′
Ⅴ
Ⅴ′
Ⅴ′ 黒褐色土層


Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅶ（地山）
Ⅴ
0
4 m

3．遺物包含状況

掘り進めてゆくと，第Ⅳ層の下部から、押しつぶされた状態で，口縁に刻目がある深鉢の破片が出土した。0.8×1.3mの範囲で，5～10cmの破片になって散らばり，埋甕施設ではない。（挿図55，図版87・88）

挿図55　第Ⅴ層 土器集積地点

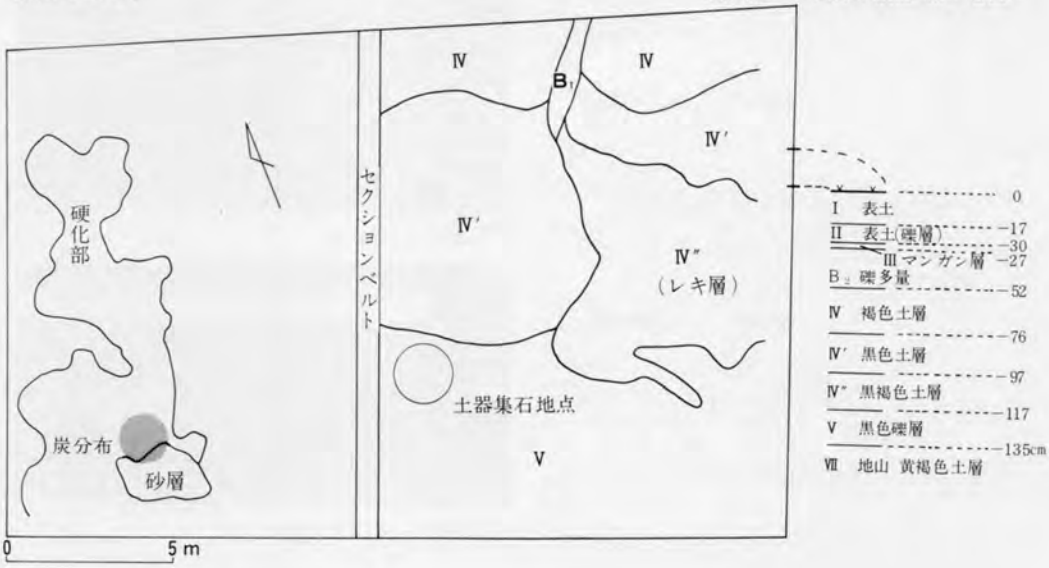


図版87　土器集積地点

図版88　土器集積地点（部分）

第1～第6グリッドを1m平担に掘り下げたところ，西半分に黒褐色土の硬化部分が認められ，南側に炭片が集中している箇所（2.4×2.5m）が認められた。東半分は，水平に掘り下げた状態であるため斜面がカットされた状態である。Ⅴ層に打製石斧が多く認められているのが特色である。

挿図56　西保木遺跡 第Ⅴ層面



4．遺構

建物址（挿図59，図版89）

東西に1間幅平均90cm，南北に1間幅100，120cmの間をおいた掘立建物址が確認された。ピットの深さは，検出面から10～24cmで，直径は14～40cmを測る。その性格は不明であるが，本遺跡第Ⅴ層のレベルは打製石斧の多いこと，住居址はないが土器底部や胴部破片などの遺物が散布することから考え，集落に近い農耕の場所であったと推定でき，農作業小屋のような形態であったかもしれない。

集石ＳＣＩ（挿図57，図版90・91）

5～25cmの小礫（角が少しとれている程度）を集めたピットが確認された。長径2ｍ，短径1.5ｍを測り，深さは35cmで，遺物は含まれていない。

集石ＳＣ２（挿図58，図版92・93）

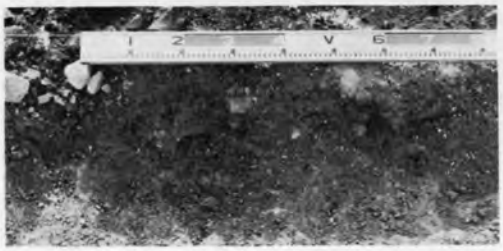
5～25cmの小礫が集められ，直径130cmを測る。深さは29cmで，底に厚さ5cmの炭層がある。屋外炉とも考えられる。遺物は含まれていない。

図版89　建物址

図版90　ＳＣＩ

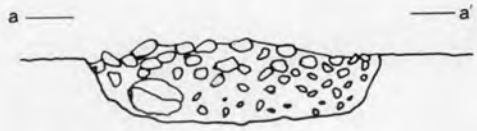
図版91　ＳＣＩ断ち割り

図版92　ＳＣ２

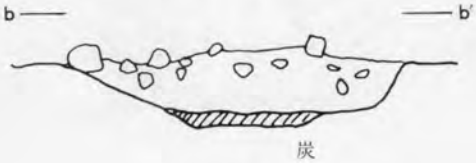


図版93　ＳＣ２断ち割り

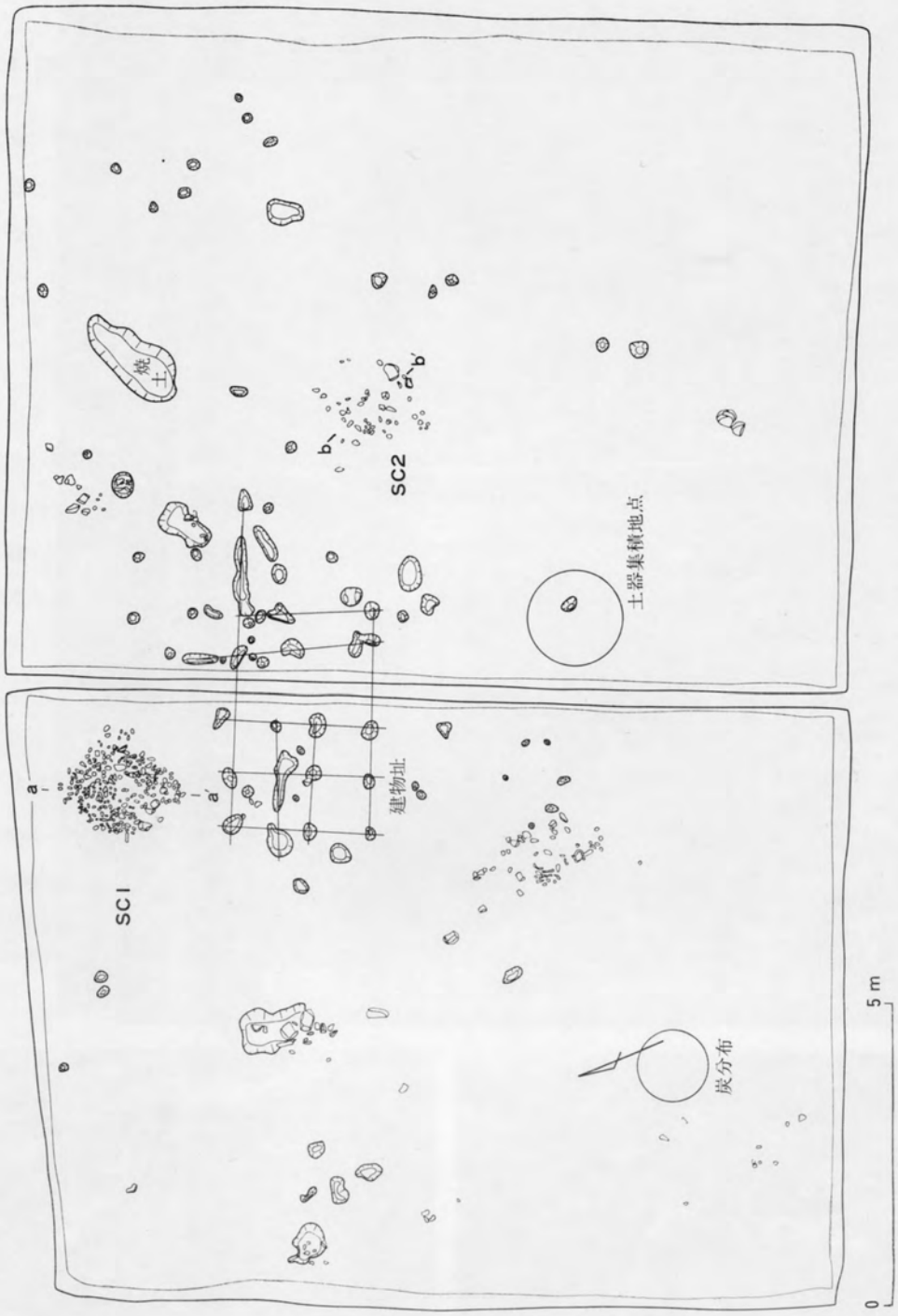
挿図57　ＳＣＩ断面図



挿図58　ＳＣ２断面図



挿図59　西保木遺跡 遺構全体図



図版94　西保木遺跡遺構全景（空中撮影）

図版95　第Ⅴ層検出状況

図版96　第Ⅴ層下部検出状況

第6章　遺　　物

第1節　寺東遺跡遺構内の遺物

1．第1号住居址　SBI　（挿図60－1、2、3　図版100、161、162）

土器（挿60－1）

遺物は第3層の茶褐色土層中に攪乱の状態で検出され、全て住居址に関連づける事は困難であるが、ほぼ縄文後期の範囲内でとらえられる様相を示している。

1、2、3は後述の2号炉に全形を伺う好資料があるが、波状口縁の貼付隆線をもつ土器である。縦位に区画した間を蛇行する隆線が配される後期初頭のローカル的な土器である。

7、8、9は中葉段階で、加曽利B式や北陸系のものがみられる。

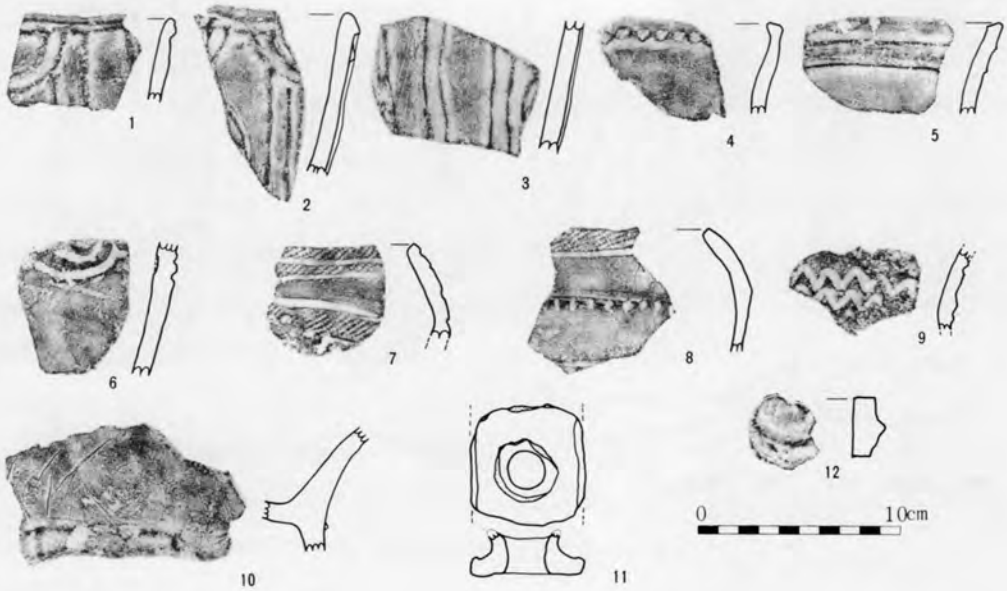
10は台付土器、11は変形土器で、もし釣手土器ならば2窓式のブリッジの部分に口の付く形態となろう。12は円盤状土製品である。

石器（挿60－2、3）

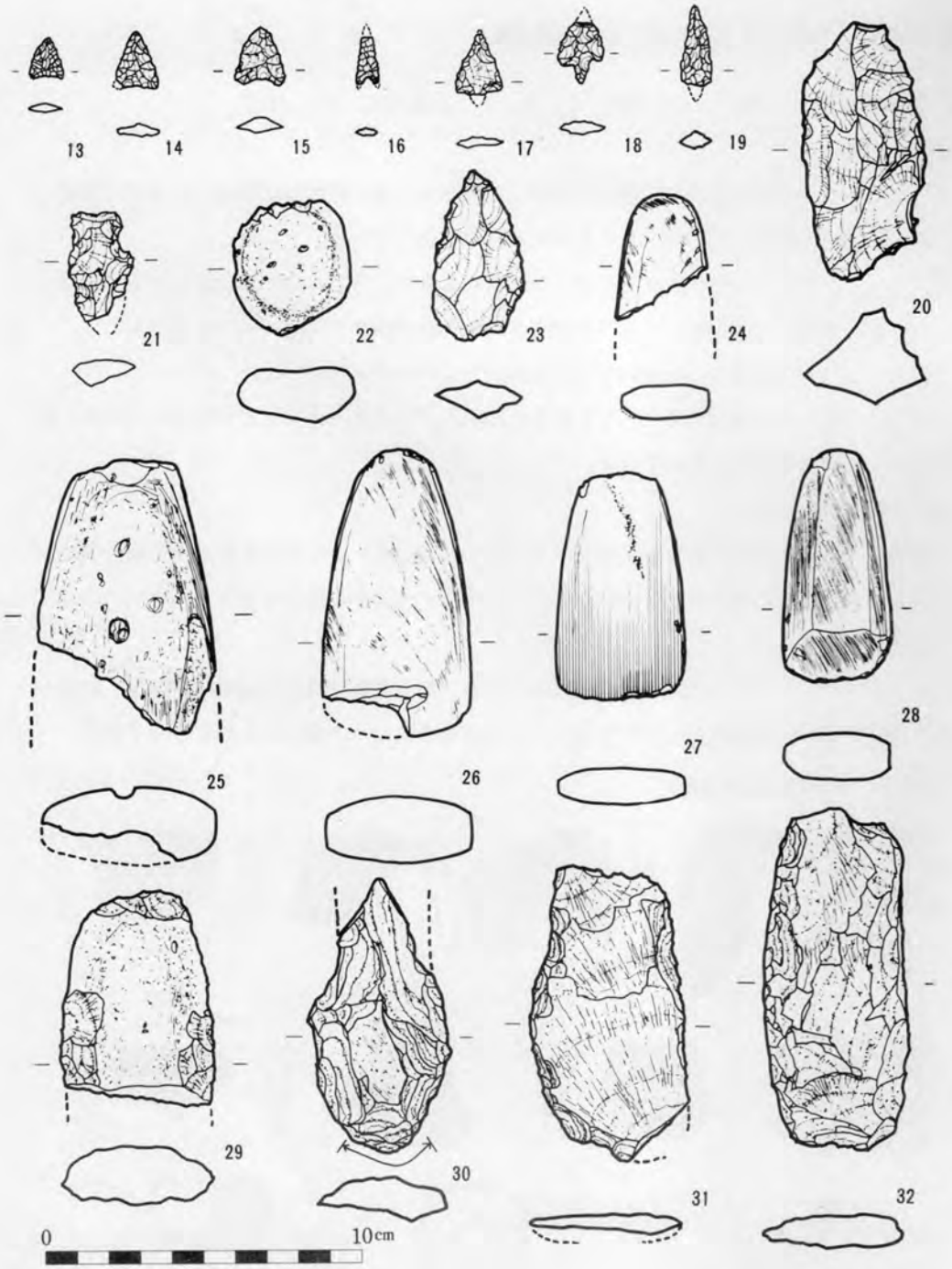
寺東遺跡より出土した石器の個別の解説は、第4節（126頁）及び第36表出土遺物集計表において示した。従って遺構内出土分に関しては、その出土状況や特徴的なあり方についてのみ言及することにしたい。

ＳＢ１はプランが不明で範囲が限定出来ないため、出土遺物の特定が困難であった。石器としては風化の著しい磨製石斧１、スリ石１の他は少量のフレーク類がみられるのみである。

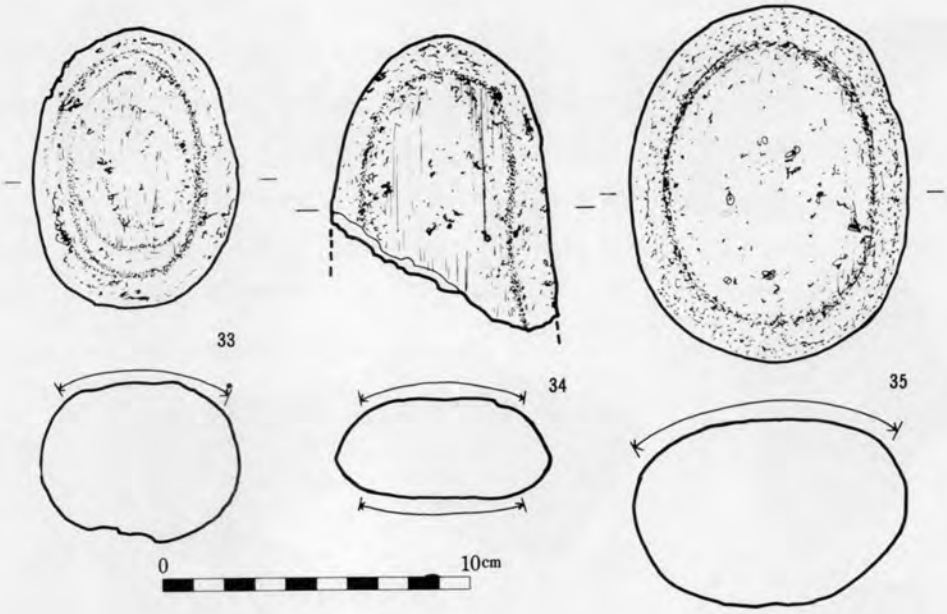
挿図60－1　第1号住居址の遺物



挿図60－2　第１号住居址の遺物



挿図60－3　第１号住居址の遺物



２．第１号土壙　SKI　（挿図61－１、２、図版101～103、163）

土器（挿61－１）

第１号住居址の貼床を切り込んでいる点において後出の時期であろうが、土器群の内容にはさほどの時間差はない。土壙深部（Ⅲ層）の約50片の土器片は９割が縄文のみの施文で、隆起帯を持つものがわずかにある。（１、６）

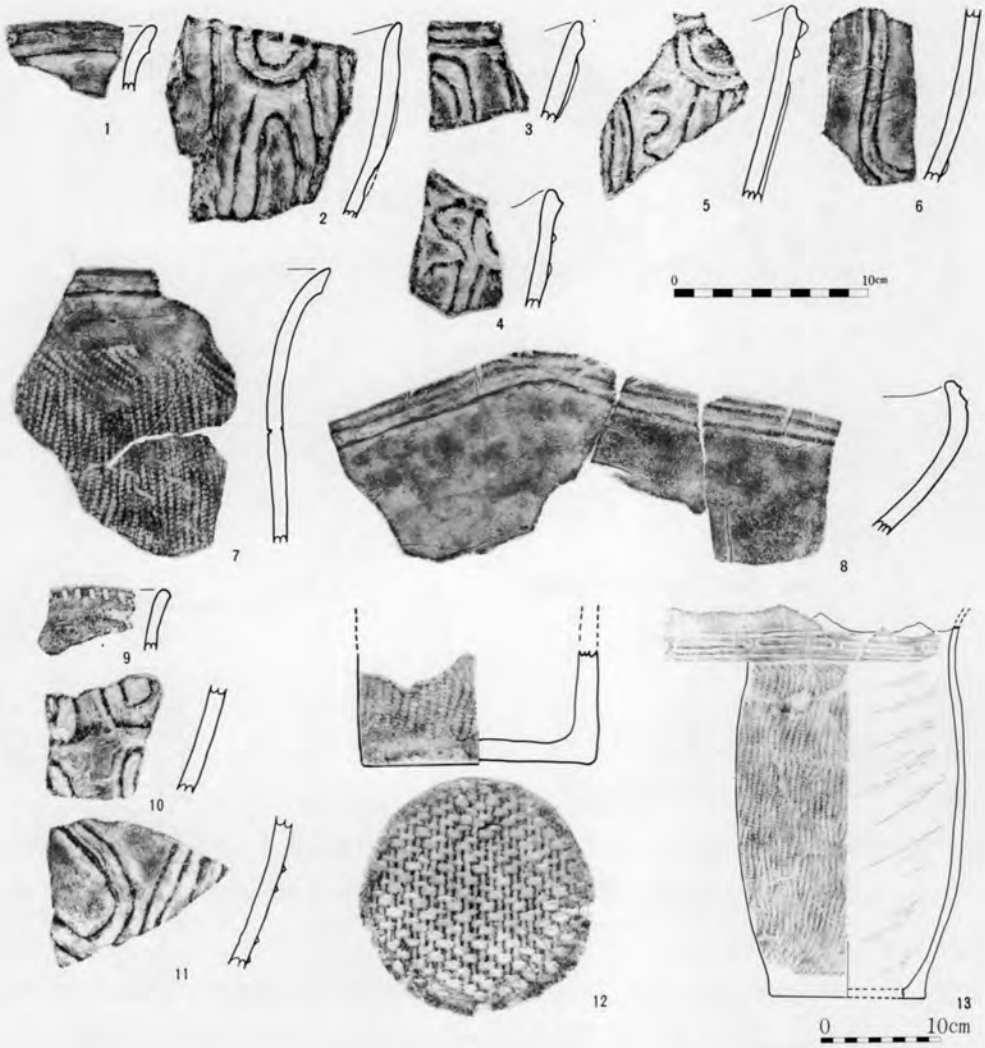
中層（Ⅱ層）も同様に縄文が多いが、ＳＢ１でみられた隆起線文土器がかなりみられ、後期初頭の様相を示している。（２、５）　口縁に２条の細隆帯をもつ波状の隅丸方形浅鉢（８）も、この時期を構成するものであろう。

上層（Ⅰ層）にはⅡ層の同一個体破片とともに、骨片を伴う縦割半個体の土器(13)がみられる。灰白色、薄手、やや焼成の弱い土器で、口縁部は無文、頸部に沈線による工字状区画文を配し、胴部以下はＬＲの縄文のみとなる。底部は網代圧痕が残り、穿孔された気配がある。北陸の中期末～後期初頭の要素を残す土器である。

石器（挿61－２）

上層からは磨製石斧(15)が出土しているが深部より打製石斧(16)、凹石(18)、石鏃(17)とともに安山岩の円礫（1320ｇ）が出土している。加工痕はないが滑らかで、明らかに意図的に投入されているものである。ＳＫ１の墓壙的な性格を裏付ける資料となろう。

挿図61－1　第１号土壙の遺物



３．第１号炉、第２号炉　（挿図61－２、62　図版104～106、163）

土器（挿62）

２基の石組炉の同時性は判定されていないが、炉に伴う方形ピットの内部から出土した土器については、若干の異なる遺物が存在する。

１号炉ピット出土の１は網代底の赤礼色、砂を含む胎土の粗な縄文のみの深鉢土器で、胴部が張る。２・４は口縁部に隆帯で囲まれた楕形文風の沈線文様が巡る深鉢で、中期的な印象が強いが、混入かも知れない。暗灰色、焼成、胎土は良好。

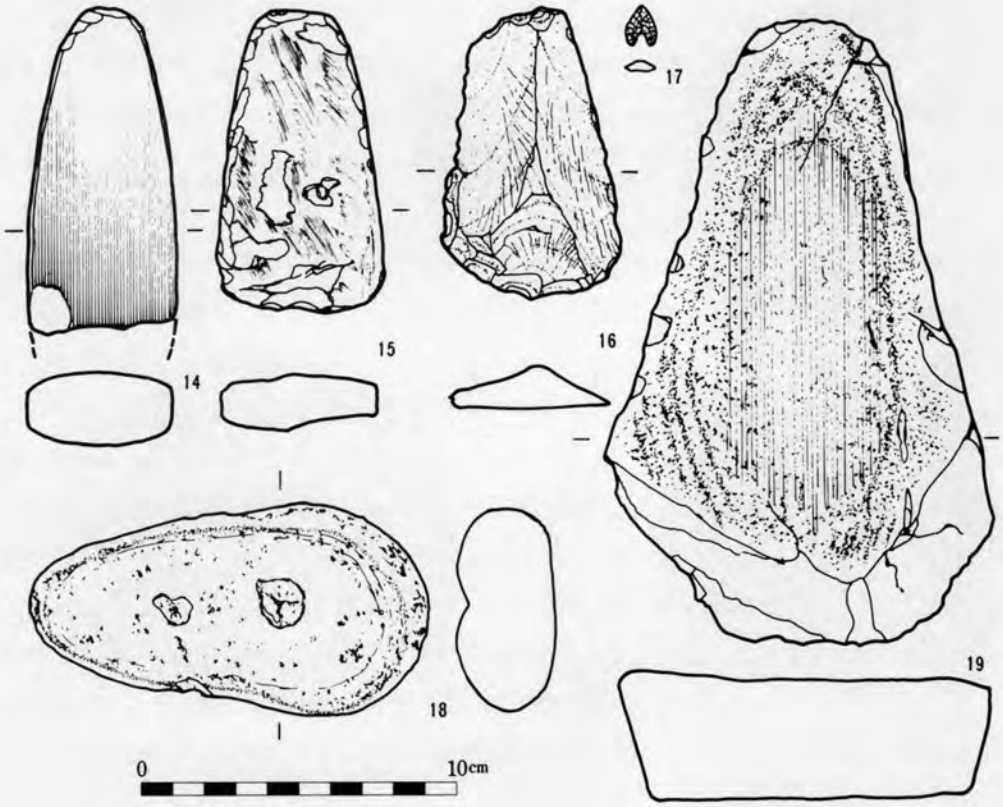
２号炉南に接する方形ピット出土の土器(５)は、底部を除いてほぼ全形が伺える好資料である。器形は大きく２山の波状となる、いわば舟形を呈し、上から見ると楕円形である。胴部に最大

径を持ち、底部へそのまますぼまる形となろう。文様は、各４条の刻目の入る貼付細隆線によって縦に８分割された間を２条の蛇行する細隆線が配される。波状口縁の頂部は綱状に造られて装飾効果を出している。器厚６～７mmの比較的薄手で、色調は赤褐色・褐色・暗褐色、胎土にわずかに砂・長石を含み、焼成は普通かやや悪い程度であるが裏はよく磨かれる。

この種のモチーフを持つ土器は、これまで飛騨地方の後期土器資料中に特徴的に知られていたが[註1]、器形を伺えるほぼ完形資料は初めてであり、また本遺跡のピット群にも全く同様の資料が２個体以上存在することから、飛騨の後期初頭の指標となる土器として改めて認識する必要があろう。

註１　紅村・増子他『東海先史文化の諸段階』資料編２ほか

挿図61－2　第１号土壙15～18、１号炉19、２号炉の遺物14

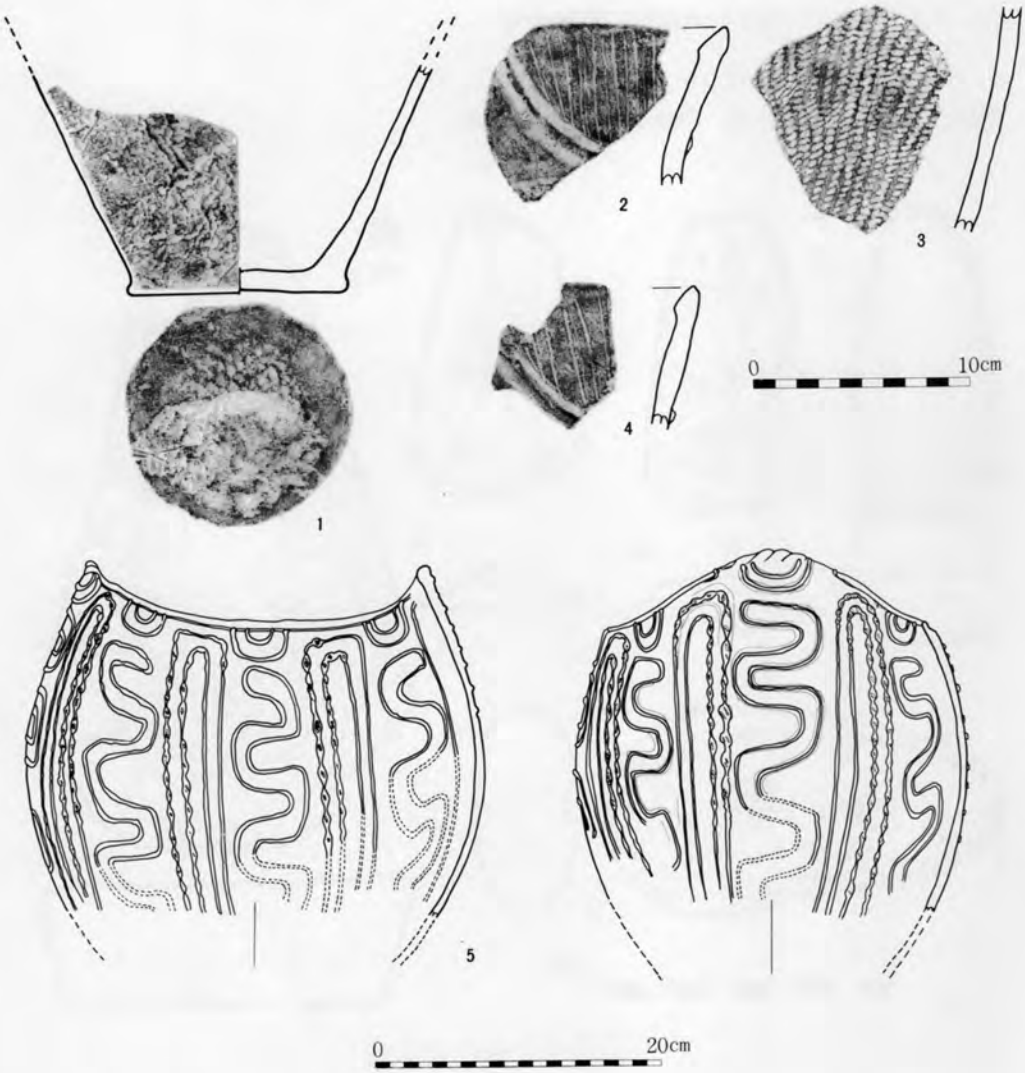


石器（挿61－２）

（第１号炉）　砥石(19)及び少量のフレーク類が検出されている。砥石は砂岩製で自然の板状礫を利用し、一面のみに砥石面がある置砥石である。

（第２号炉）　磨製石斧(14)が炉の裏込め石として使用されていたが、刃部を少々破損したのみの充分使用に耐えるものであり、何か別の意味があるのかも知れない。

挿図62　第１号炉、２号炉の遺物



4．SBI 周辺のピット群　（挿図63、図版107）

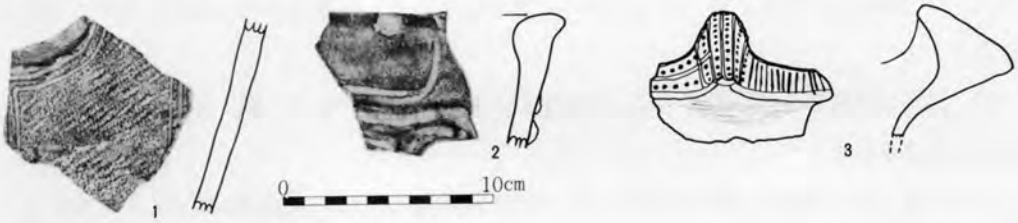
土器

第1号土壙（ＳＫ１）以外のピット内部からの出土遺物には、良好なものは乏しかった。

P_{32}の２点（１、２）は曽利系の土器であり、中期のピットである。

P_{26}の土器口縁部(３)は、後期初頭の飛騨的な土器である。

挿図63　SBI周辺のピット群の遺物



5．第2号住居址　SB2　（挿図64－１、２、３、４　図版108～116、164～167）

本住居址の土器群は４個の埋甕と床面上の復元土器３、そして多数の覆土中の土器群で構成される。

埋甕（挿64－１）

（ＳＸ１）縄文のみの深鉢土器で口縁部及び底部を欠損する。口縁は内傾し、最大幅が上部にある。口縁の破損部はこまめに打ち欠いた様な感じである。８は甕内中層出土の別個体土器、９は甕内上層出土の土器である。

（ＳＸ２）残存部が下部４分の１で底部を欠失する。縄文を地文にもち、隆帯と沈線による懸垂文がみられる。

（ＳＸ３）胴部がくびれ口が開くキャリパー形の深鉢で、縄文を地文として沈線による孤線・懸垂文が描かれる。口縁部と底部を欠失するが遺存度は高い。

（ＳＸ４）胴部のくびれがゆるやかなキャリパー形深鉢で、やはり縄文を地文とし、沈線による直線と波状の懸垂文がみられる。口縁部と底部を欠失するが、土器の内部中央付近に本土器の上部破片９点が水平に敷かれており、埋め戻し時の所以と考えられる。[註1]

以上４種の埋甕のうちＳＸ２・３・４は曽利Ⅲ式期と考えられ、最後のＳＸ１は床面直上の土器群に編入されるものであろう。

床面上の土器（挿64－２）

６は４つの波状口縁をもつ深鉢土器で、縦位の施文が口縁下にくまなく施されるが、頸部に指で引いた様な沈線による流水状の文様を伴う。口縁内部にも沈線による渦巻文がみられる。

7はキャリパー形口縁が角張って作られ、口唇には5ヶ所の小突起がつく。口縁部文様帯は5ヶ所の渦巻文で区切られ、内部は縄文で埋められる。胴部以下も全て縦位の縄文であるが、胴部上方に6と同様の指ナデによる流水風の沈線文帯が巡っている。

これらの土器は広義の加曽利EⅢ式の範鋳でとらえられるが(取組式)、胴部の文様は北陸系の要素を取り入れた、飛騨的なモチーフであると考えたい。[註2]

覆土中の土器（挿64－1、2）

5は底部を欠くが、ゆるい波状口縁の深鉢土器で口縁に2条の隆起帯にはさまれて刺突列が巡り、以下は縦位の縄文に指による楕円の文様が描かれる。床面直上の土器群と同類とみなされよう。

10、11、12は隆帯上に貝殻腹縁による刺突がみられる波状口縁の土器、13は葉脈文で、串田新式に対比される。

その他覆土中の土器片は約200片あるが、その7割が縄文のみ、あるいは縄文に懸垂文の加わる破片であり、その他沈線による綾杉文の破片も含めてほとんどが曽利Ⅲ式でとらえられるものである。なお、底部は13点みられ、網代圧痕をもつ。

石器（挿64－3、4）

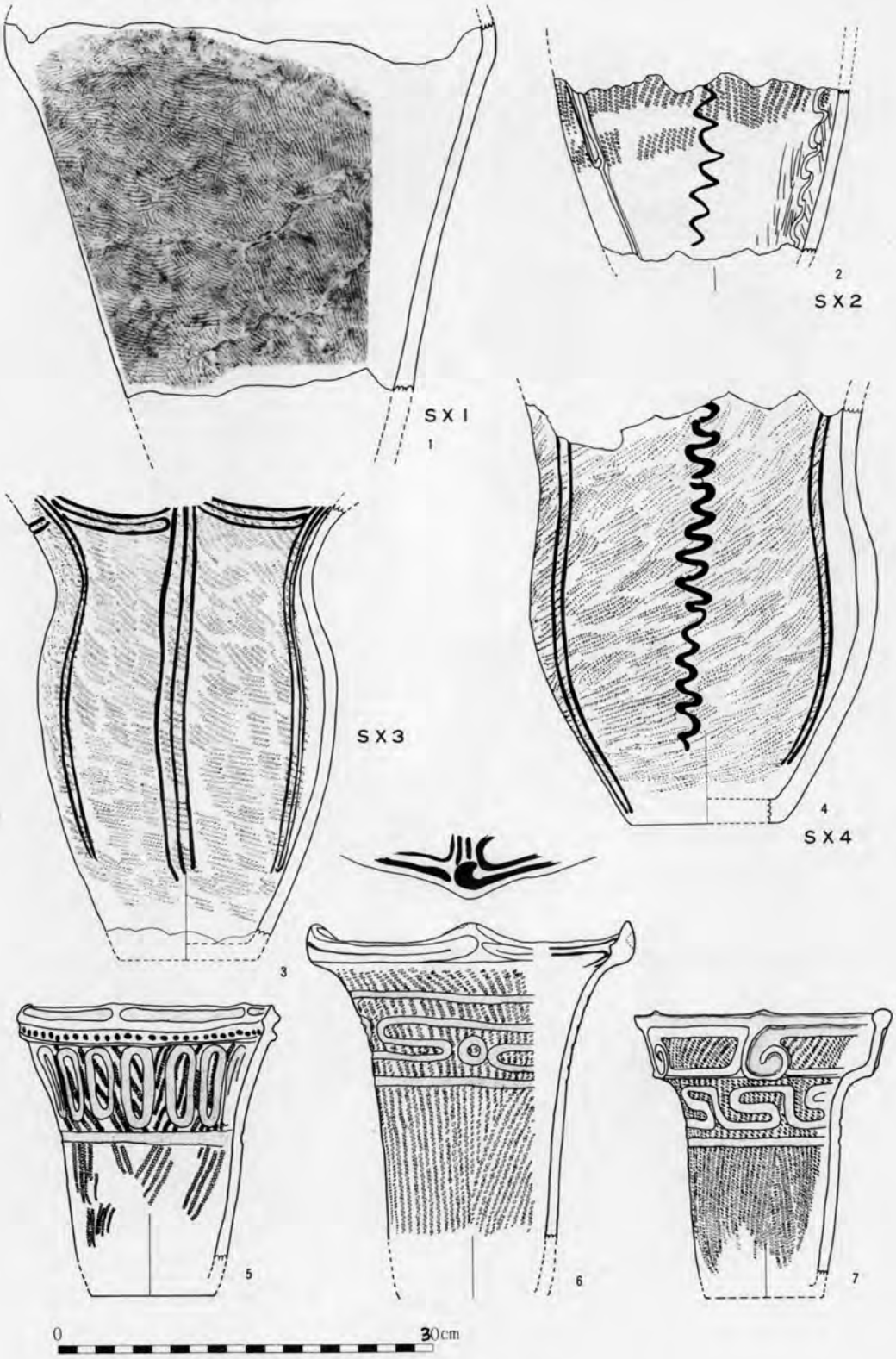
特徴的な遺物として石棒（挿図64－3の38）と削器類がある。石棒は有頭の大形品で全体の約4分の1が遺存する。全面を敲打の後、軽い研磨を加えているが風化の度合が強く、火熱を受けた形跡がある。住居址南側の入口に近い部分に横転していたが、その下に発見されたＳＸ２とは無関係のようである。

削器類については、横刃の粗製のものがみられ(挿図64－4の30、32)、また下呂石製の31も抉りのつく特異な形態である。中期末に飛騨では玄武岩などで作られた粗製の削器が増える傾向があり、信州との強い関係を示すものと考えられる。この点は床面上に黒曜石のチップが多くみられたことでも伺うことが出来る。

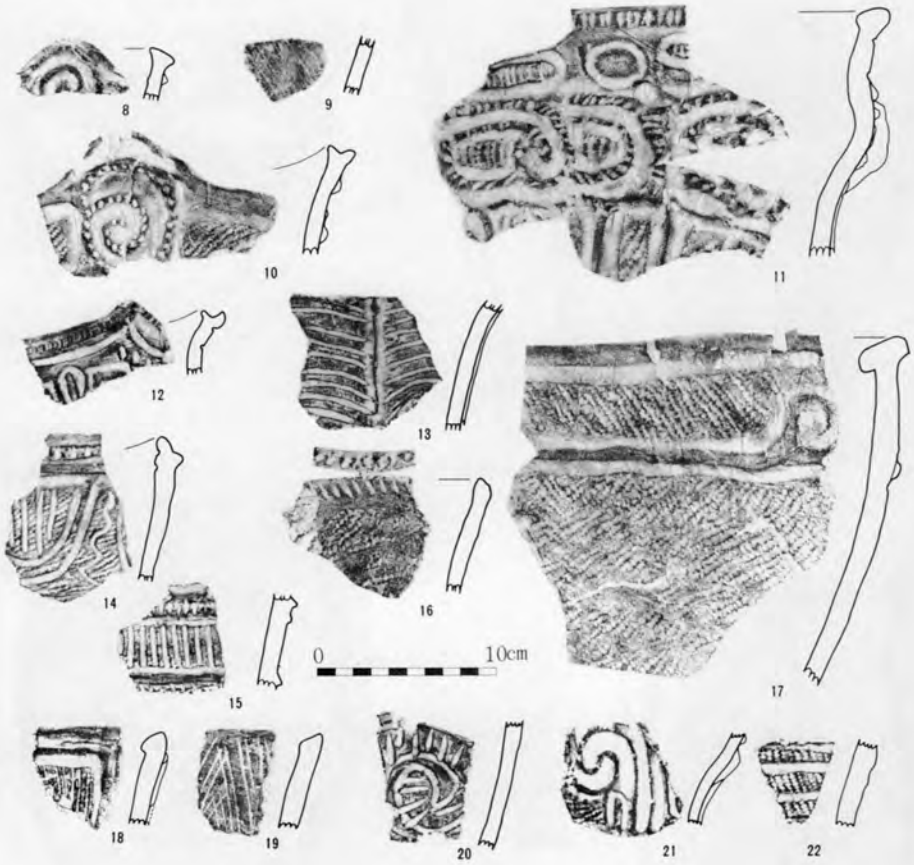
注1　長野県殿村遺跡　ＳＢ22 埋甕Ａに同様の例がみられる。

注2　朝日村森ノ下遺跡にも同様のモチーフの土器群がある。 石原哲彌主任の御教示による。

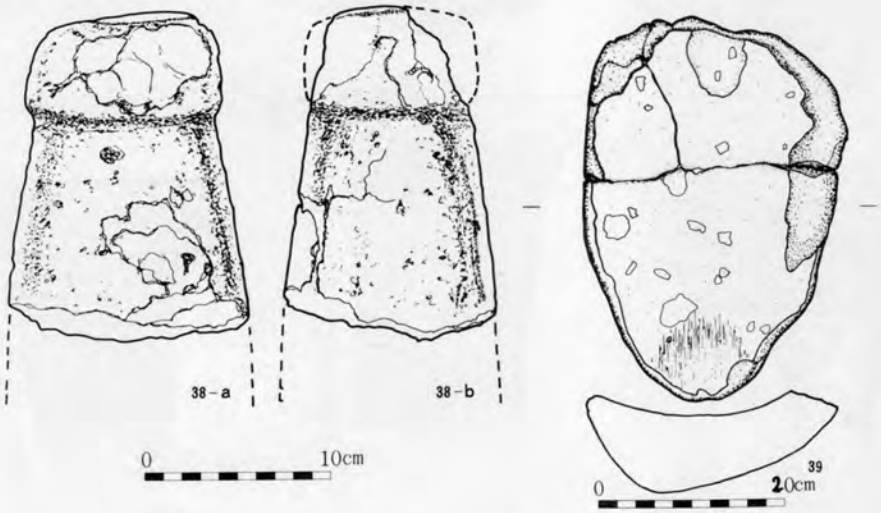
挿図64－1　第２号住居址の遺物



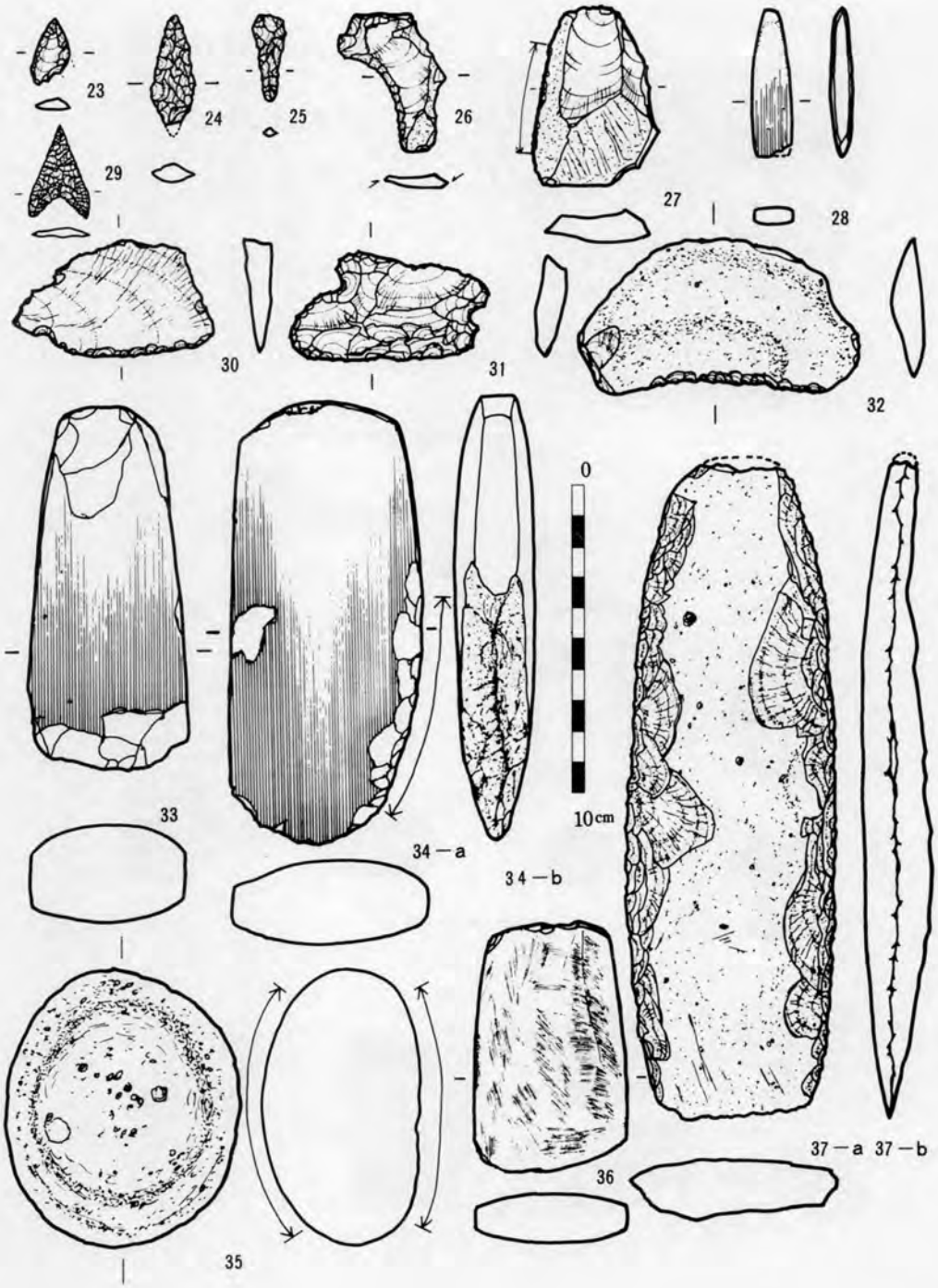
挿図64－2　第２号住居址の遺物



挿図64－3　第２号住居址の遺物



挿図64－4　第２号住居址の遺物



挿図65－1　第３号住居址の遺物

6．第３号住居址　SB3

（挿図65－１、２図版117～120、168）

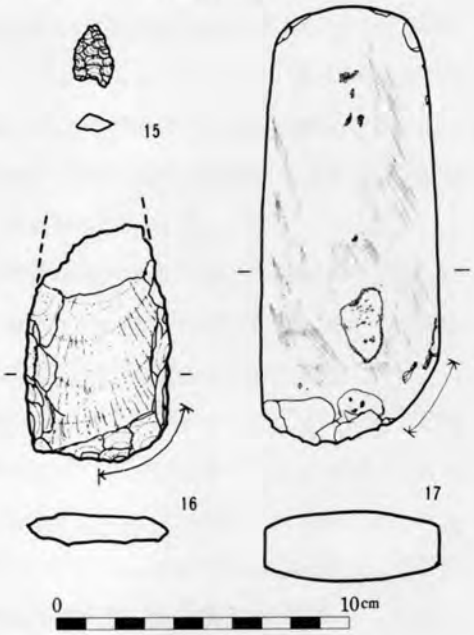
ＳＢ３の土器群は２個の埋甕と34片の床面土器、約150片の覆土中の土器片で構成される。

埋甕

（ＳＸ１）隆線による大柄の渦巻文が描かれる大形の甕で、底部と口縁部を欠く。無文の口縁下に５つに区画された文様帯があり、それぞれ隆線の渦巻と沈線文をもつが１ヶ所だけ交互刺突文となっている。胴部は隆線による奔放な渦巻が一杯に描かれ、部分的に懸垂の帯が下がる。隆帯間は太い沈線で埋められ、底部近くでは無文となる。胎土・焼成とも比較的良いが施文にぎこちなさが残る点は搬入品ではない事を示すものであろう。曽利Ⅲ期の新しい部分に位置するものである。５、６は甕内下層出土の縄文及び無文土器片である。

（ＳＸ２）縄文のみの深鉢で口縁部と底部を欠く。胴部に最大幅をもち、裏面にはヘラ調整痕が残る。ＳＸ１に先行する埋甕であるが、時間差はさほどないと思われる。

挿図65－2　第３号住居址の遺物



床面上の土器

３は、大きな把手のつくキャリパー口縁の土器で、一種の釣手土器とも考えられる。文様は口縁部にのみ太い沈線で描かれ、渦巻が主要なモチーフである。明褐色を呈する焼成の良い土器で、曽利Ⅲ式の土器組成に含まれるものである。

８は無文底部である。

覆土中の土器

約150片の土器のうち縄文施文のものが６割を占める。他の多くは沈線による綾杉文で曽利Ⅲ式に含まれるが、７のみ北陸系の土器であろう。

土偶

覆土中より、土偶（４）が１点検出されている。胴部のみで、頭部・手足を欠くが、手をやや上方に広げた形をとるタイプで、立たないと思われる。あごの下と乳房を隆帯で表現する他は、沈線で直線・渦巻が描かれ、頭部は中空である。沈線内にわずかに赤彩痕が残る。出土状態では特に意図的な点はみられなかった。

石器

石器の出土量は少なく、刃部を再加工した磨製石斧(17)1、打製石斧2、石鏃2、フレーク7点があるにすぎない。

7．第4号住居址　SB4　（挿図66－1、2、3、4、5　図版121～128、169～171）

埋甕をはじめ出土遺物量が他を圧倒して多い住居址である。5個の埋甕はいずれも曽利Ⅲ式の新しい部分としてとらえられ、短い時間内に頻繁に建て替えが行われた事を示すものであろうが、全てを同一種の埋甕とみるのは早計かも知れない。

床面上の土器及び覆土中の土器には曽利Ⅲ式、取組式、串田新式等のヴァリエーションがみられ、これらを類別して記述することにする。

埋甕（挿66－1）

（ＳＸ1）底部の遺存する深鉢土器下半部である。底部を残す埋甕は寺東遺跡の全埋甕14個中3個で、本住居址に2個みられる。3本単位の懸垂文で6つに区分された間を細い綾杉文が埋めている。底部は網代痕が残る。

（ＳＸ2）縄文のみの大型深鉢土器で、口縁部と底部を欠失する。器壁は厚く内面はよく磨かれている。ＳＸ5を切り込む形で埋められた最終の埋甕である。

（ＳＸ3）口縁部と底部を欠失するが、さらにＳＸ2によって5分の1程度を削り取られている。無文の口縁部下に点列と一本の隆帯をもち、5ヵ所に配された隆帯渦巻文から直線・曲線の懸垂文が底部まで垂下する。他は全面に中太の綾杉沈線が施文される。

6は甕内Ⅰ層出土の綾杉沈線文の別個体土器、7も同様である。8は中層に横位で出土した別個体の土器である。

（ＳＸ4）上半部を欠き、底部に穿孔のある縄文施文の深鉢土器である。縄文は粗く、擦痕を伴う。1条の懸垂する隆帯が2ヶ所にみられる。底部は網代底である。

11は同一個体土器の口縁部で、甕内上層より出土した。

（ＳＸ5）口縁部と底部を欠く深鉢土器で、刻目の入る隆帯が2本、入らない隆帯が3本垂下する。上部には渦巻の付けられた痕跡がある。隆帯間は中太の綾杉沈線で埋められる。

覆土中の土器（挿66－2）

床面出土を含めた覆土中の土器は、完形1を含め計1500点に達する。このうち縄文施文の620点、底部82点を除く有文土器を以下の様に分類した。

（1類）隆起線文、沈線文の土器を一括して本類とした。全出土量の7割近くを占めている。9、10はレンガの様に赤く厚い土器で、搬入品であろう。

17の様な綾杉沈線文が主体で、曽利Ⅲ式の新しい部分に対比出来る。ただ13の1点のみ曽利Ⅱ式の貼付文土器で混入とみられる。

（2 類）口縁部文様帯に方形、楕円形の区画文をもつキャリパー形深鉢土器の一群である。

23は床面直上のほぼ完形土器で、口縁部は4つに区切られて各区画内は縄文が施文される。渦巻文も4ヶ所に配される。胴部は全面縄文施文で、沈線によって大きく9つに区画されている。16も同様の区画文を持つが、渦巻を欠いている。地文は撚糸文で、浅い沈線文が加わる。

これらは中濃から伊那に分布する取組式（広義の加曽利EⅢ式）に比定されるものであり、量的には1割強を占める。

（3類）隆起帯による渦巻文や曲線文の描かれる波状口縁の土器で、隆帯状には多く刺突文が加わる北陸系の要素の強い土器群である。

18は地文に粗い縄文を施し、口縁文様帯は渦巻文と半月形の区画文である。

20は山形に突起する波状口縁を持つ。いずれも隆帯上に種々の刺突が入る。

これらは串田新式の要素がみられるが、他方その影響下で飛躍的に育くまれた要素の多い点もみのがせないであろう。

（4類）わずかであるが縄文の地文に細い沈線で曲線文の描かれる土器が1個体あり、関西系の船元Ⅲ式に対比される。直線的な胴部をもつ深鉢土器である。

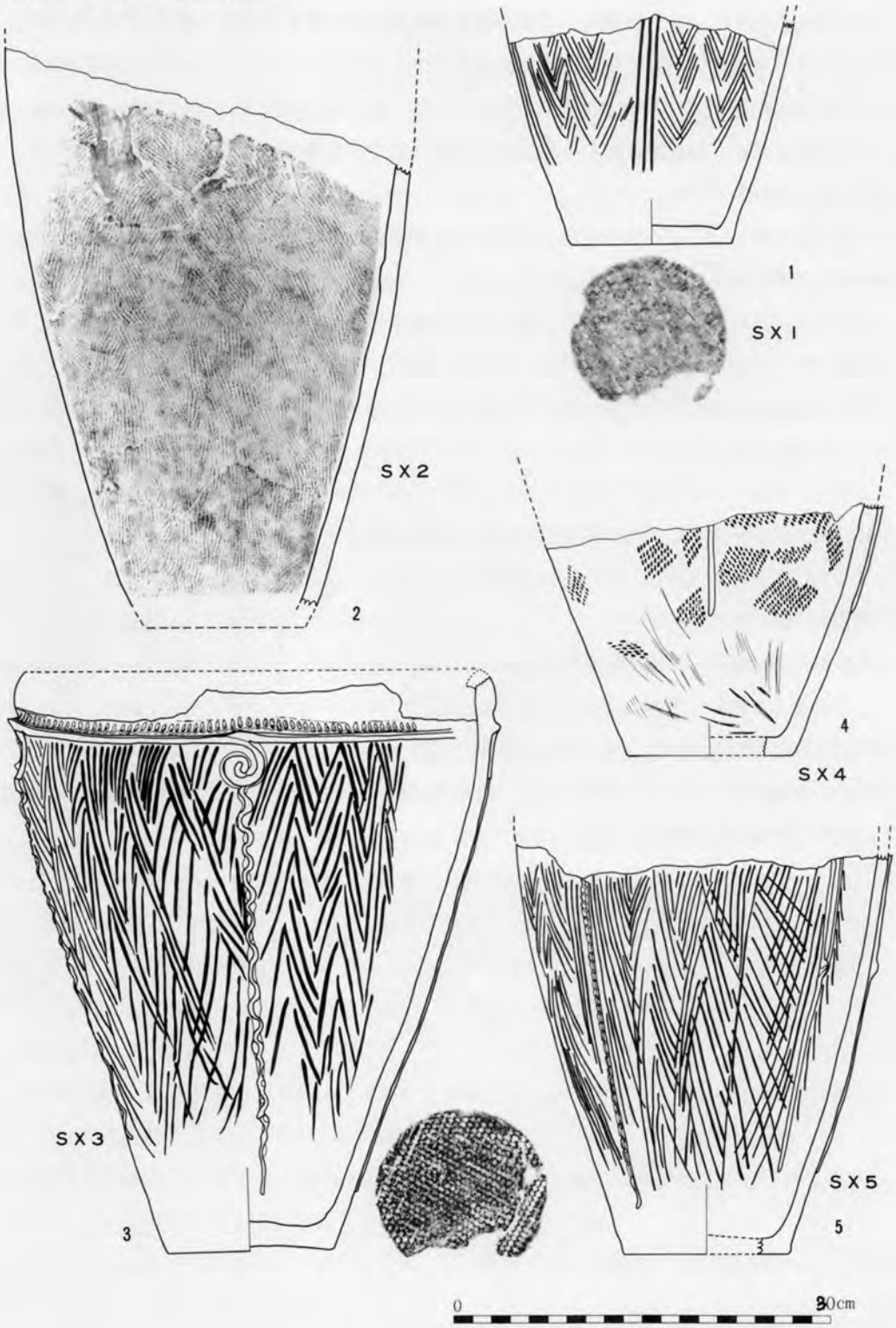
その他19は小形の丸底壺、22は底部網代痕である。

石器（挿66－3～5）

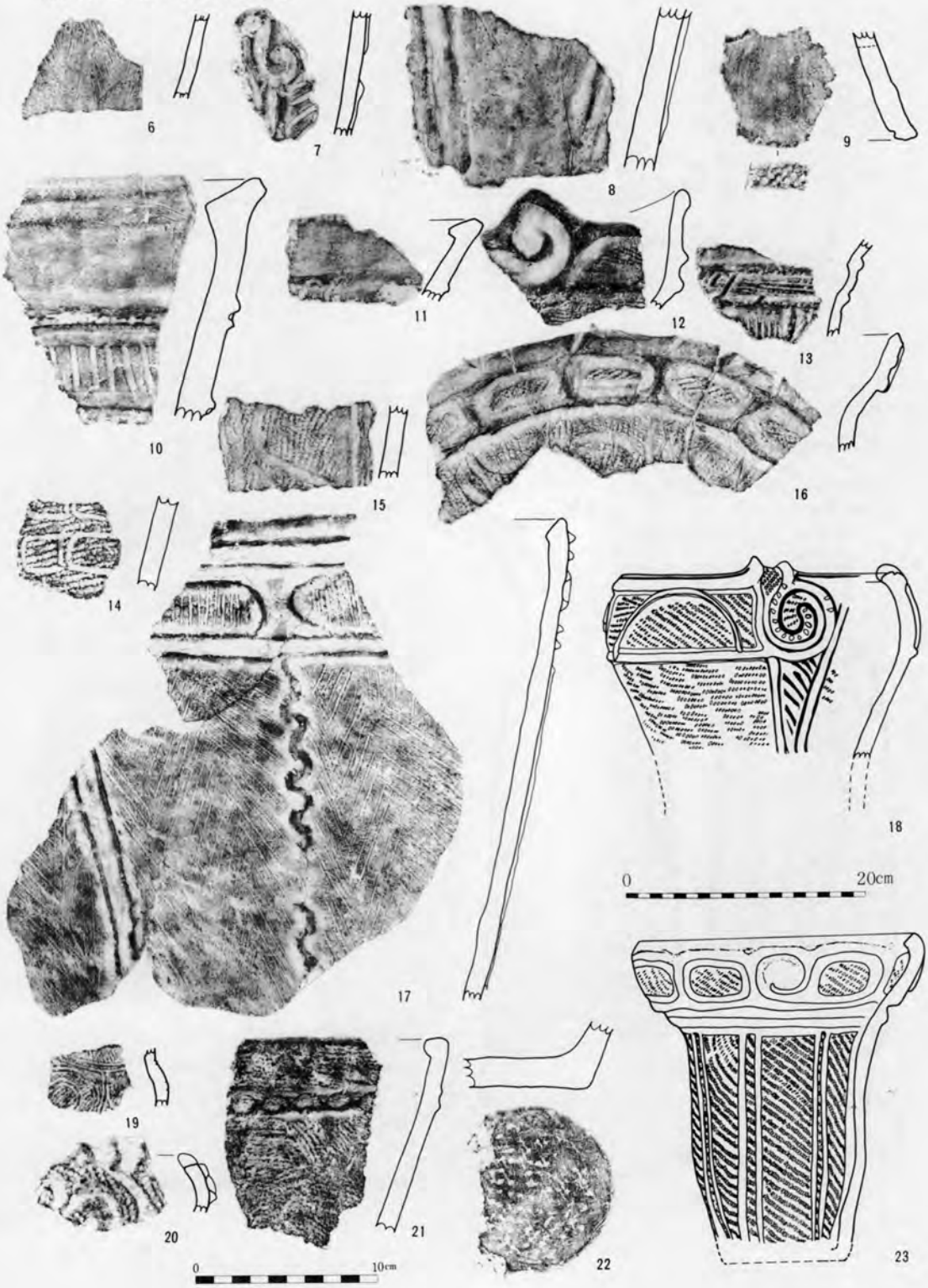
土器が大量に検出されたと同様に石器類もその数を多くみた。ただし石斧、スリ石類に偏重し、石鏃などが皆無であった点が注意を引く。磨製石斧12本のうち刃部を完全に備えるものは小形の1点(27)のみであり、他は殆んど折損、もしくは潰れて槌状になったものであった。使用済みの磨製石斧をまとめて廃棄するような儀礼が存在したのかも知れない。

24は黒曜石製の抉入掻器である。

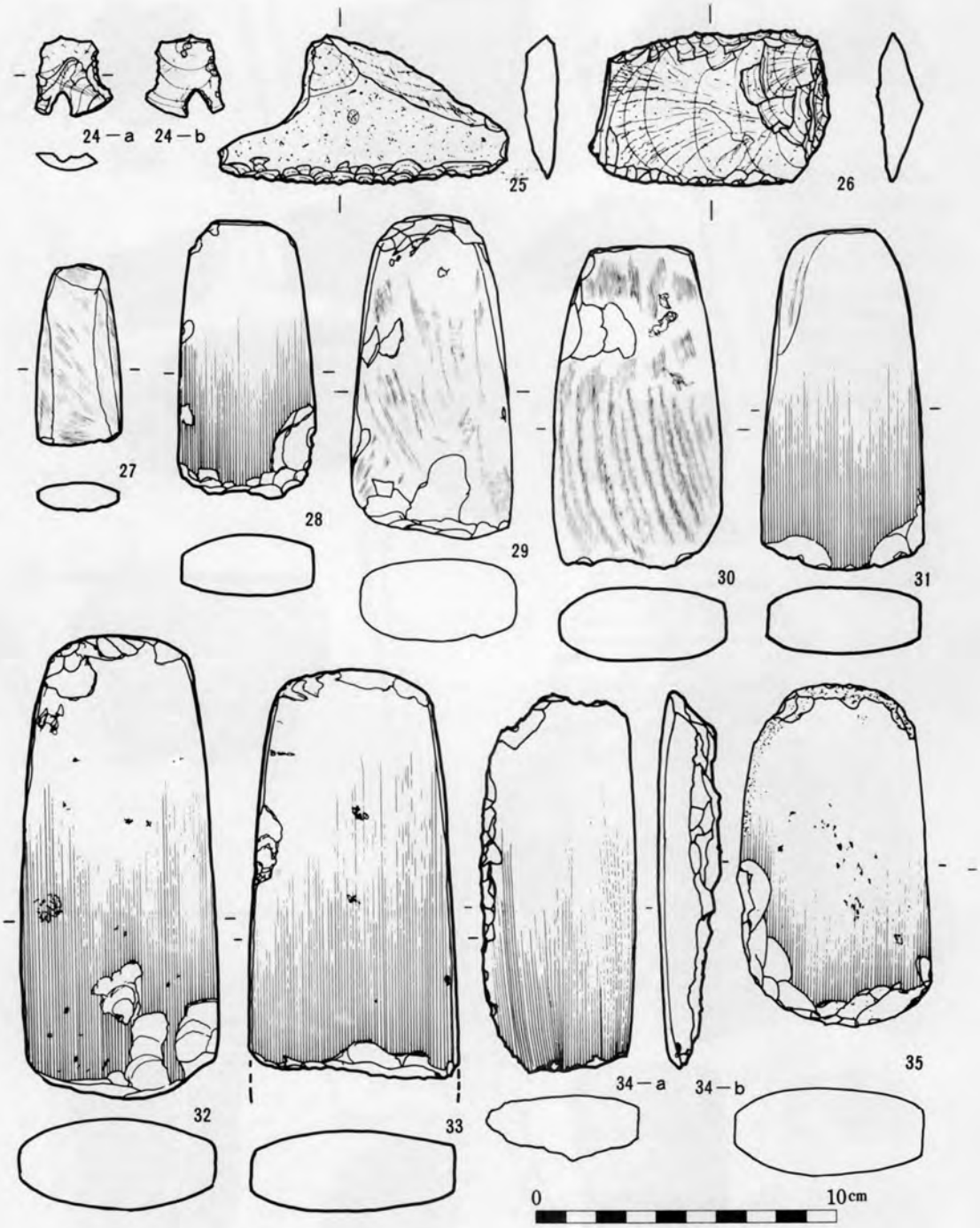
挿図66－1　第４号住居址の遺物



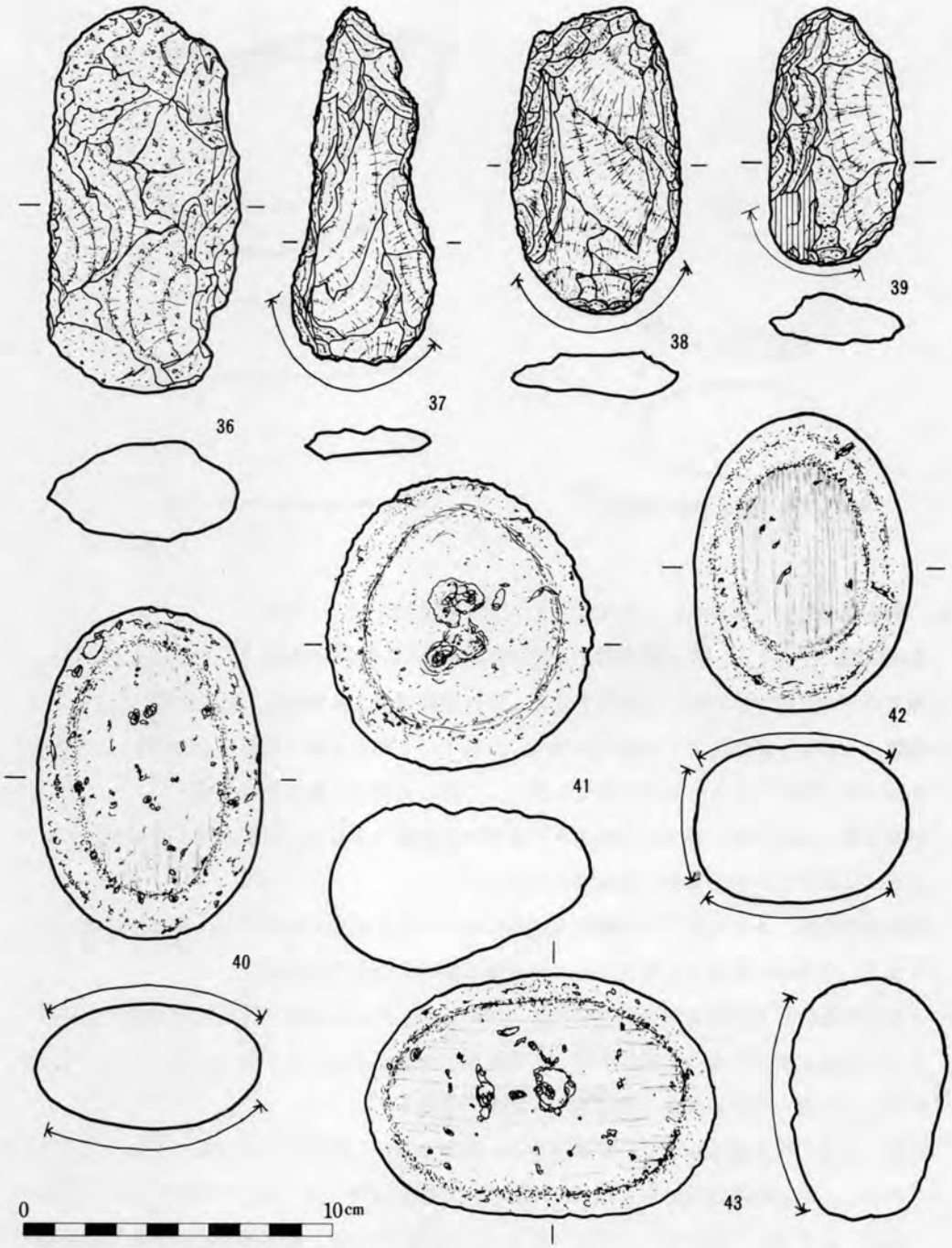
挿図66－2　第４号住居址の遺物



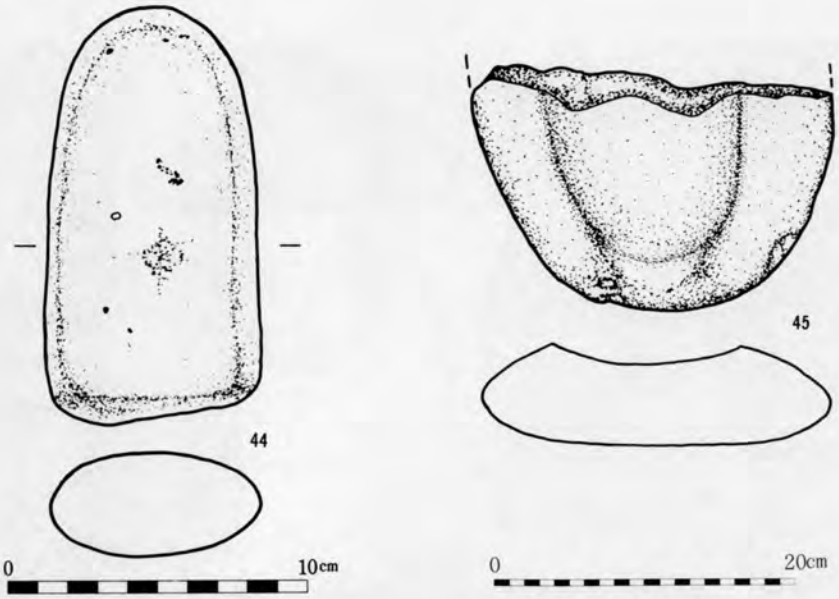
挿図66－3　第４号住居址の遺物



挿図66－4　第4号住居址の遺物



挿図66－5　第4号住居址の遺物



8. 第5号住居址　SB5　（挿図67－1、2　図版129～131、172）

埋甕1個，床面上の小形完形土器1，覆土中の土器片約110片が検出された全ての土器である。縄文のみの土器片は28片，底部は1片で，他は隆起線による渦巻文，懸垂文等がみられる。

埋甕　SX1は底部を欠く大形の深鉢で，口縁下に1条のリボン状突帯を持つ他は，縄文が全面に浅く施文されるが無文の部分も多い。口唇は内部で三角に肥厚する。

小形土器　全面に粗い縄文のみ施文される極めて粗製の土器で，器壁も厚く重量感がある。表面には鉄分が付着するが，被火熱の形跡もある。

覆土中の土器　4は外反する口縁部文様帯に刻目の入る渦巻文が配され，頸部は屈曲して張り出す。全面的に撚糸文が施文され，口縁部はゆるやかな波状を描く。

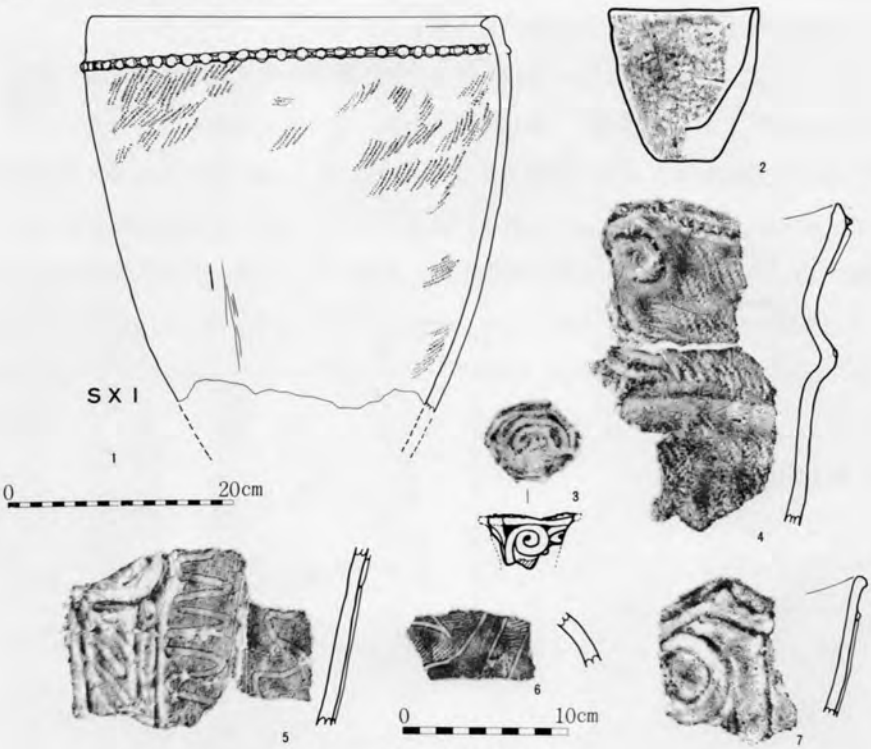
5は隆帯による懸垂文間を縦位の沈線で埋めるが，さらに波状の沈線が加えられている。

その他隆起線文をもつ土器群を含めて曽利Ⅲ式でまとめられる一群である。なお3は把手部分，6は混入の後期土器（擦消縄文・彩朱）である。

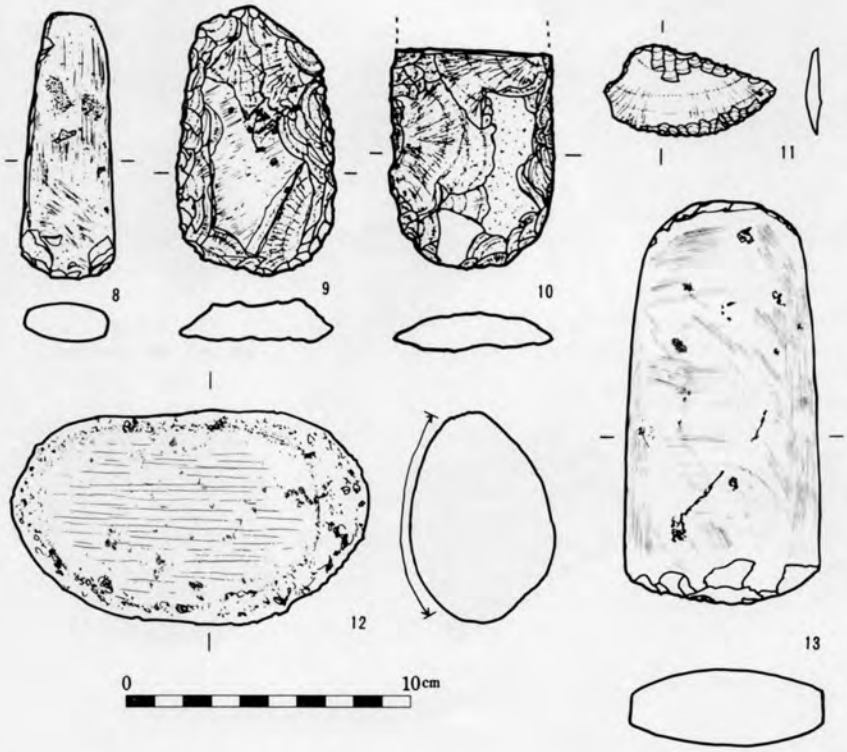
石器　石器の出土量は少なく，磨製石斧2，打製石斧2，削器1，スリ石1点が主たるものである。石囲炉の北西角に立てられた緑色の大形磨製石斧（13）は，刃部が打製石斧の様になっているが潰れてはいない。炉に石棒を立てた例[註1]があるが，磨製石斧にマジカルな性格が存在するのかどうかは今後の研究に待たねばならない。

註1　岐阜県大野郡久々野町　堂ノ上遺跡

挿図67－1　第５号住居址の遺物



挿図67－2　第５号住居址の遺物



9. 第6号住居址　ＳＢ６　（挿図68－１、２　図版132～133、173）

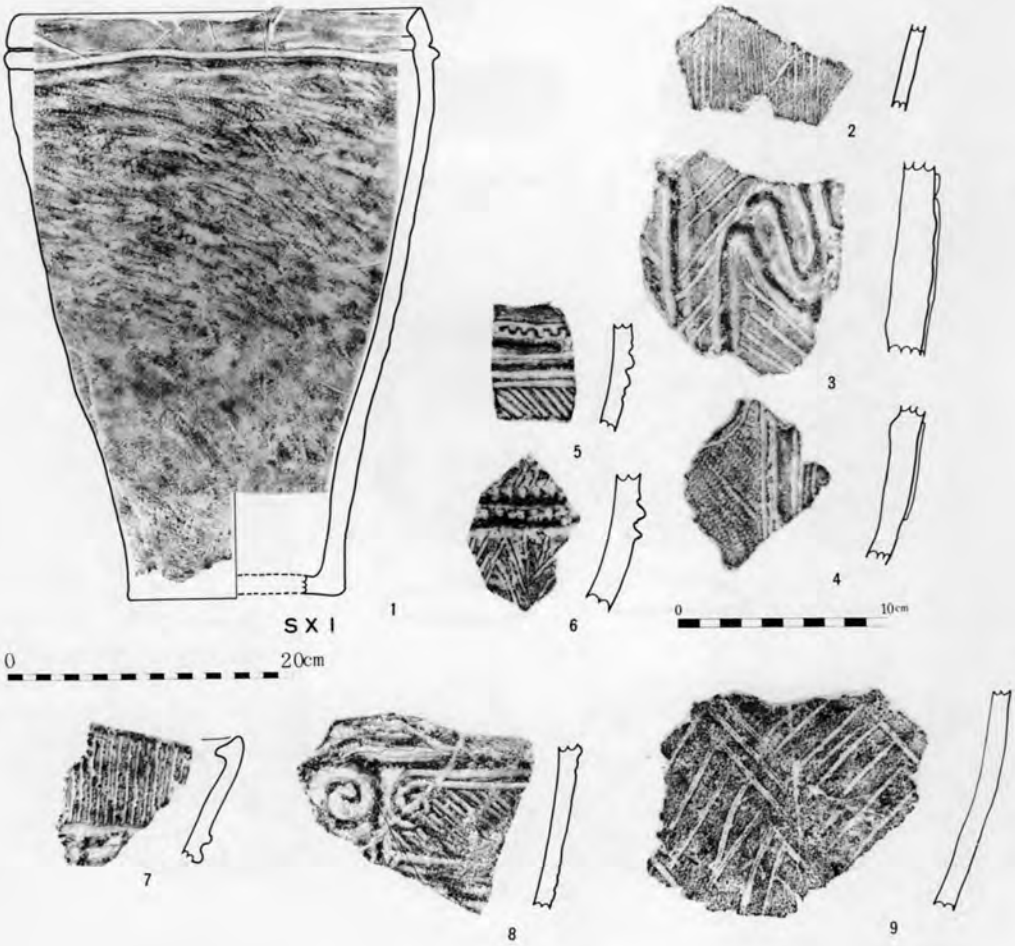
埋甕１個，覆土中の土器片約80片と遺物の量は極めて少ない。

埋甕　ＳＸ１は無文の口縁下に１条の沈線が巡るだけの簡素な縄文施文深鉢土器で底部と胴部の５分の１を欠失する。底部に網代痕が残り，全体に厚くススで覆われている。

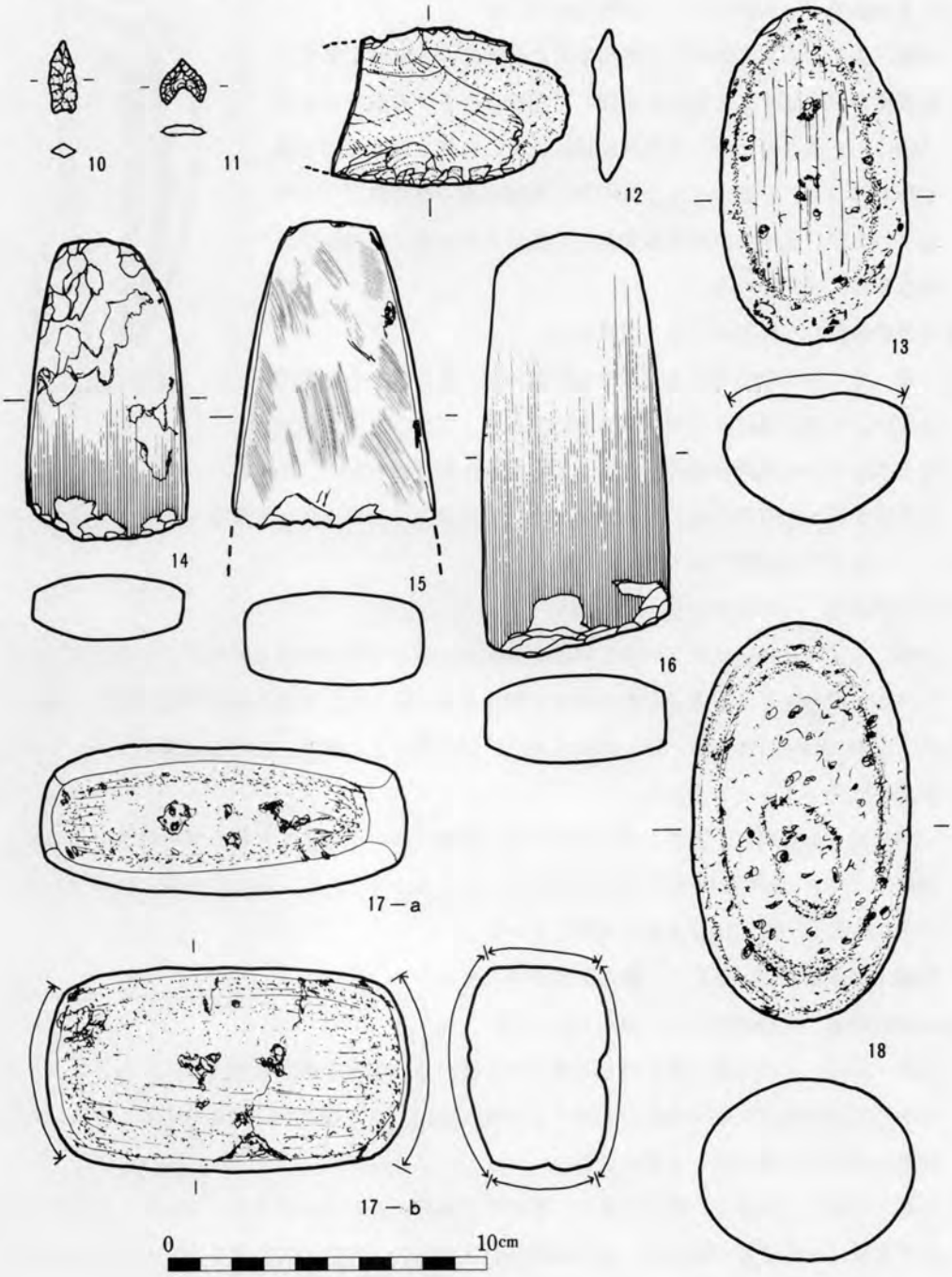
覆土中の土器　６割が無文，３割が隆帯を伴う綾杉沈線文，１割が縄文である。ほぼ曽利Ⅴ式段階でとらえられるものである。２は薄手の撚糸文土器で，混入の後期土器であろう。

石器　石器の量は決して多くはないが，磨製石斧，打製石斧、石鏃，石庖丁形石器などが出土している。磨製石斧はいずれも刃部を欠く。埋甕内の磨石（17・18）は流紋岩製の長円形(断面円形)のものと凝灰岩製の長円形(断面楕円形)の２個体があり，後者には使用痕が残る。

挿図68－1　第６号住居址の遺物

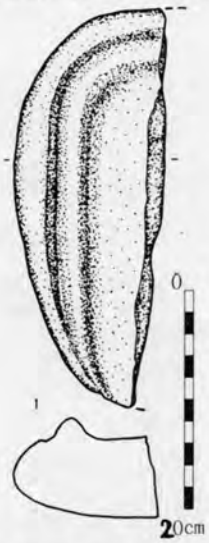


挿図68－2　第６号住居址の遺物



10. 集石遺構

挿図69－1　SC3の遺物



ＳＣ３の遺物　（挿図69－１　図版134、174）

石器　２号炉のすぐ南隣りに検出された石皿を伴う配石であり，別個体の石皿破片２を含む６個の石で構成される。石組そのものは特に形を成さないが，石皿は縦位に立てられて，何かを囲む様な形であった。石皿の１つは長円形の有縁石皿で縦に真二つに割れているが，なかなかの優品である。他の１つは流し口の部分，約３分の１破片である。

ＳＣ６の遺物　（挿図69－２　図版134）

土器　ＳＣ６の覆土中に含まれていたもので，集石内からの出土はない。４は口縁部と口唇に縄文が施文され，口縁下に２条の刻目入細隆帯と刺突列が横位に定る。５も口縁に縄文帯があり，その下は４条の沈線である。６は沈線のみ，２は無文で口唇は角ばりゆるやかな波状となる。１・２は条痕文粗製土器である。

ＳＣ７の遺物　（挿図69－２　図版134）

土器　ｆ10，ｇ10にかけての幅広い集石遺構で，覆土中や石の間より多くの土器片が出土しているが器形を伺える様なものや接合資料は皆無であった。７は口縁が内屈し縦位の隆帯が付く土器，10・11は隆帯，15・16は沈線文，12は縄文と沈線文，13・14は縄文，８・９は条線文の施文される土器である。

宮田式・加曽利ＢＩ式などがみうけられ，隣接のP_{45}（ＳＫ２）と極めて類似する土器組成を持っている。後期前半期の集石遺構とみなしてよかろう。17・18は円板状土製品である。いずれもＲＬの縄文施文土器を使用している。

石器　磨製石斧２，台石１，磨石１点がみられる。

ＳＣ８の遺物　（挿図69－３　図版134、175）

土器　石冠・石棒を伴う第８号集石遺構からは11点の土器小破片が出土している。21は７本の平行沈線の施される口縁部の内傾する土器(注口)，他は無文及び底部の破片である。晩期前葉の北陸系土器に近いと思われる。

石器　石冠１，石棒１，磨石１等が，またすぐ西隣に石冠１が検出されている。石棒23は緑色片岩製で一応完形であるが，加工は敲打のみで粗い。頭部は特に造り出されていないが，少しそりをみせる。全長21.1cm，最大幅4.1cmで断面は楕円形である。平石の下に横位で出土した。

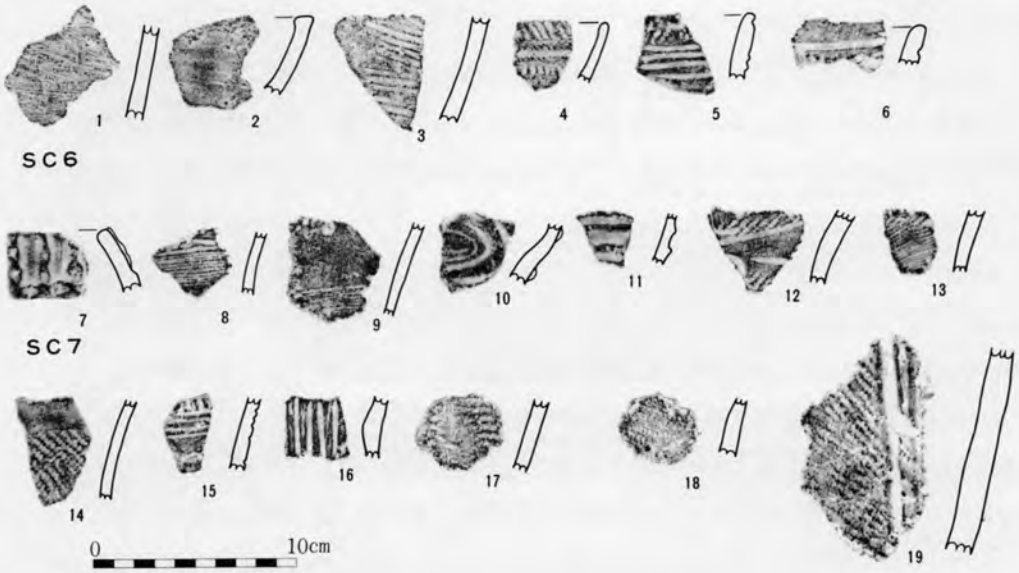
石冠（20）は石棒の東50cmの同レベルで検出された。[註1]石冠集成によるⅡｂ型石冠に属し，

飛驒地方では比較的少ない形式である。全面を粗く研磨し底面は平担で，磨耗度や使用痕等，特に変化はみられない。頭部は一応刃状になっているが鈍い。安山岩製で火熱を受けた様な痕跡はなかった。もう一点の石冠（22）は石棒の西方2.8m，本遺構の外で検出された。大きい方の破片は同一レベルであるが，他は上層から出土した。3つに割れた中央の部分を少し欠失するが全形は伺える。タイプはⅡb型石冠の長大化したいわゆる魚形石製品形石冠(Ⅵ型，鰹節形石冠）で，広義の石冠として扱われているものである。全体は粗く研磨され，ザラザラしているが，底面は平担で溝状にわずかに凹み，比較的滑らかである。火熱を受けた痕跡があり，破損もその為であろう。このタイプで底面に溝状の凹みがあるのは飛驒では初見である。

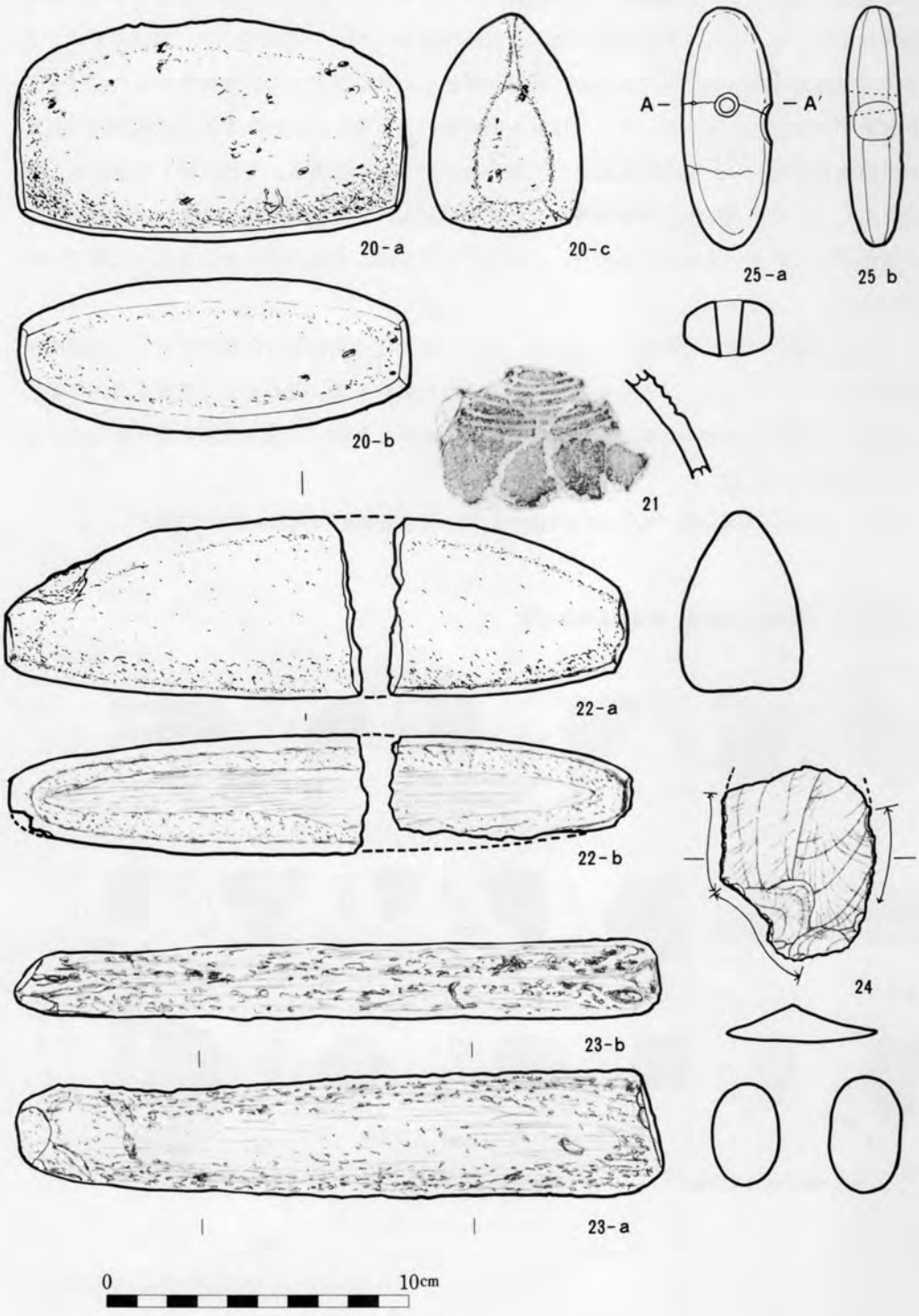
この他，板状の流紋岩角礫が3点あり，最大のものは火熱を受けた面を下にして石棒の上に覆いかぶさっていた。3点とも一面に研磨された面をもち，砥石として使用された可能性がある。本遺構を石冠・石棒を伴う祭祀の遺構とみるよりは，石冠・石棒の製作址とみる方がより妥当かも知れない。

註1　吉朝則富　昭和62年『飛驒の考古学遺物集成Ⅱ』高山市埋蔵文化財調査報告書12号

挿図69－2　集石遺構の遺物、硬玉製大珠包含層



挿図69－3　集石遺構(SC8)20～24、硬玉大珠包含層25



11. 硬玉製大珠包含層　（挿図69－２、３　図版134、178、179）

ｇ９グリッドの硬玉製大珠に伴って出土した土器（19）は１点のみであるが，縄文地に縦位の沈線の入る深鉢土器胴部破片で，曽利Ⅲ期頃に対比出来る。飛騨地方における硬玉製大珠の分布は『飛騨の考古学遺物集成Ⅱ』[註1]によってまとめられており，14点が確認されている。それによると中期前葉～中葉の北陸系土器との関連が指摘されているが，本格的な発掘調査時の出土例はこれまでに無く，本例の如く信州系中期後葉土器との存在が確かであるならば，その下限に近い資料となろう。なお，長野県茅野市の中原遺跡に曽利Ⅱ～Ⅳ期の土壙から硬玉製大珠の出土した例があり[註2]，参考となる。

大珠（25）は長さ7.9cmで飛騨で出土しているものの中では大形の部類に入る。長円の鰹節形で側面には磨製石斧の様な面取りがあり，片面にのみ１cmの軽い抉りが入る。孔は中央やや上に最大８mm，最小５mmの一方向穿孔である。色調は乳白色地に淡緑色の斑点が入り，滑らかに仕上げられている。密度は3.27を測り硬玉としても良質のものといえる。抉りの意図は不明であるが意識的になされている事は確かである。

註１　吉朝則富　昭和62年　高山市埋蔵文化財調査報告書12号

註２『茅野市史』上巻　昭和61年

12. ピット45　P45　（挿図70－１、２、３　図版135～137、176）

ｆ10・11グリッドにかけて検出された第２号土壙（ＳＫ２）は，円形のP_{45}，不定形のP_{86}及びP_{87}の集合であり，切り合い関係ではP_{86}が古い形となっている。遺物はP_{86}に磨消縄文深鉢の底部，P_{87}に無文及び縄文のみの破片５があるほかは，ほとんどP_{45}から出土している。

P_{45}の土器群は総計432点で，皿状の浅いピット内の特に北部に密集して検出された。接合資料もいくつかあるが，器形の全容を伺えるものはない。これらの土器群は寺東遺跡の後期前半の様相を示す一括資料として大きな意義を持っていると考えられ，以下に少し詳細にその内容を述べたいと考える。

１類土器　縄文に沈線文，刺突文の加えられるものを一括したがいくつかの種類がある。

ａ．少し外反する平口縁の鉢形土器で，2.5cmの頸部無文帯をはさんで3.5cm幅の帯状にＲＬの縄文が施され，下段の縄文帯の上部に１列の三角に近い刺突が巡る。刺突の向きが一定であるとすれば，さらに下段に縄文帯と刺突列がくり返されることになる。口唇部には縄文が施文され，裏面上端には刺突列が１列巡る。１個体分10点があり，黄褐色，厚さ７mmの胎土・焼成普通の土器である。（１～３，ほか６点）　６・７は同一のモチーフであるが刺突を欠き，色調も灰色である。２点。厚みも一定せず５～11mmである。

ｂ．内傾する平口縁の土器で，口縁部の無文帯の下に弧線が描かれ内部にＬＲの縄文が充塡される。黄褐色，厚さ７mm。５点。（８、９）

2類土器　縄文に沈線・刺突・隆帯の加わるもので，1個体4点がある。口縁は内屈し，口縁帯に円形の貼付隆帯と三角に近い刺突列（3列）が加えられ，上下は縄文である。くびれた頸部以下は無文となっている。明褐色，厚さ8㎜，やや軟質である。(10～12)

3類土器　a．縄文地に刻目の入る隆帯のつくものである。13は縦位の縄文地に横位の刻目入隆帯のある土器で，胴部破片である。褐色，厚さ5㎜，堅い焼成で1点のみ。(13)

b．縄文地に断面三角の隆帯がつくもので，二本並列するものや直交するものなど4点がある。赤褐色，暗褐色，厚さ6～7㎜。(14～17)

c．口縁が内屈し，無文の口縁帯に山形の貼付隆帯のつくもので，下部はＬＲの縄文となる。明褐色，厚さ6㎜で3点。(18～20)

4類土器　a．無文地に隆帯のつくものであるが，性格は様々である。計5点。(21～24)

21は内屈する口縁部に厚みのある隆帯を貼付したもので，仕上がりのよい土器である。暗褐色，厚さ8㎜で1点。22もくの字に内屈する土器の口縁に細い貼付隆帯と縦位の沈線及び刻目がつけられる。灰白色6㎜，軟質の土器である。1点。

23は内屈する口縁部に縦位の刻目隆帯と三叉文モチーフの沈線が入るもので，口唇は角ばる。暗褐色，厚さ6㎜，焼成普通である。24は平口縁の口唇の角張る土器で，二本の平行する三角隆帯の間は斜めの刺突が入る。焼成は良く褐色，厚さ5㎜，1点である。

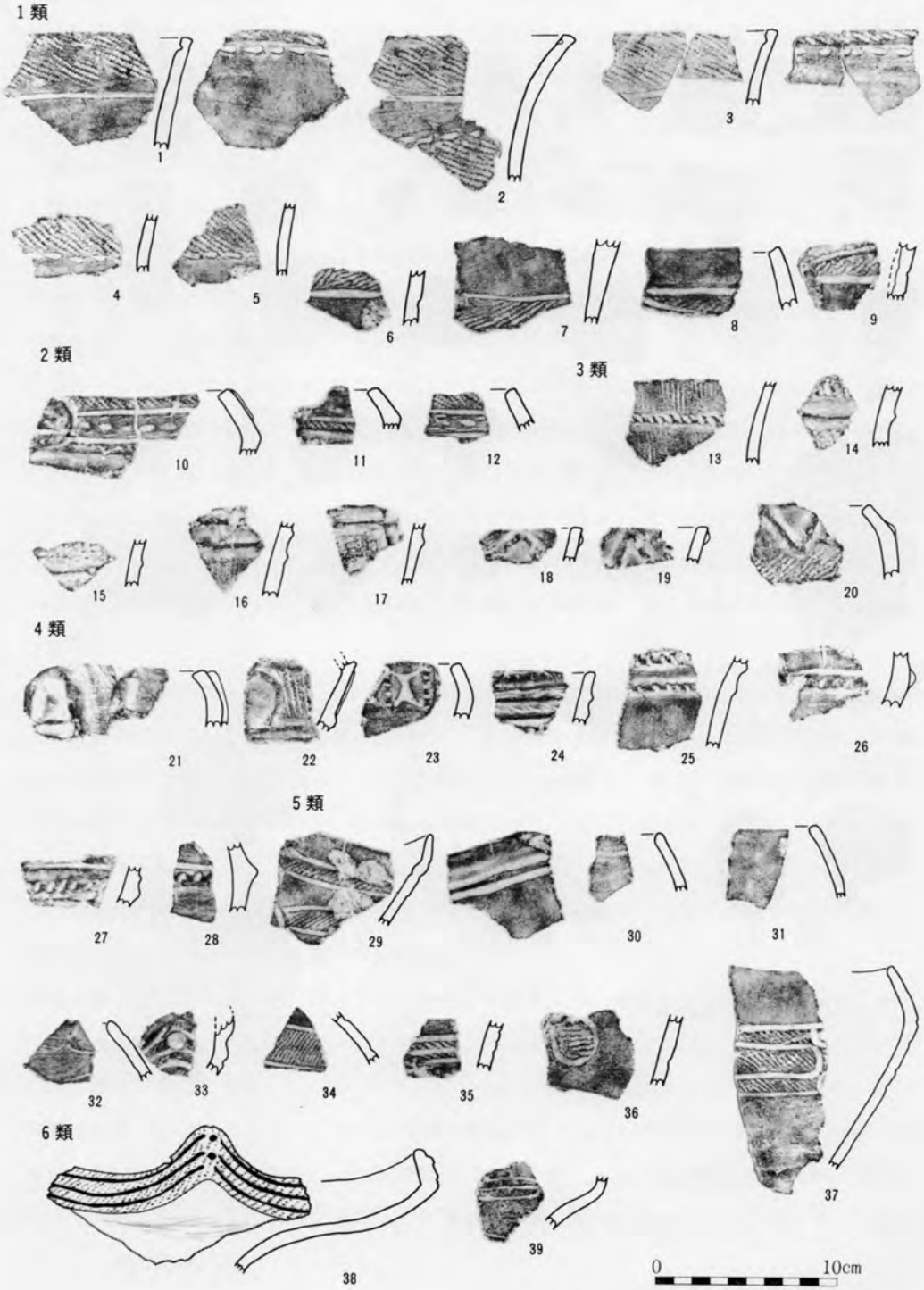
b．無文地に刻目隆帯のつくもので6点ある。25は胴部に横位に2条の隆帯が貼付される暗灰色の土器で，厚さ7㎜。26・27・28は頸部の屈曲する部分に隆帯が走る茶褐色の土器で，厚さ6～10㎜。(25～28)

5類土器　磨消縄文の施される一群である。(29～37)14点あるが，個体数は7以上あると思われる。37はくの字口縁の深鉢土器で，口縁部無文帯の下に4㎝幅の磨消縄文帯がある。表裏はよく磨かれるが，胎土はあまり良くなく，白色の長石粒を含む。褐色で厚さ5㎜。

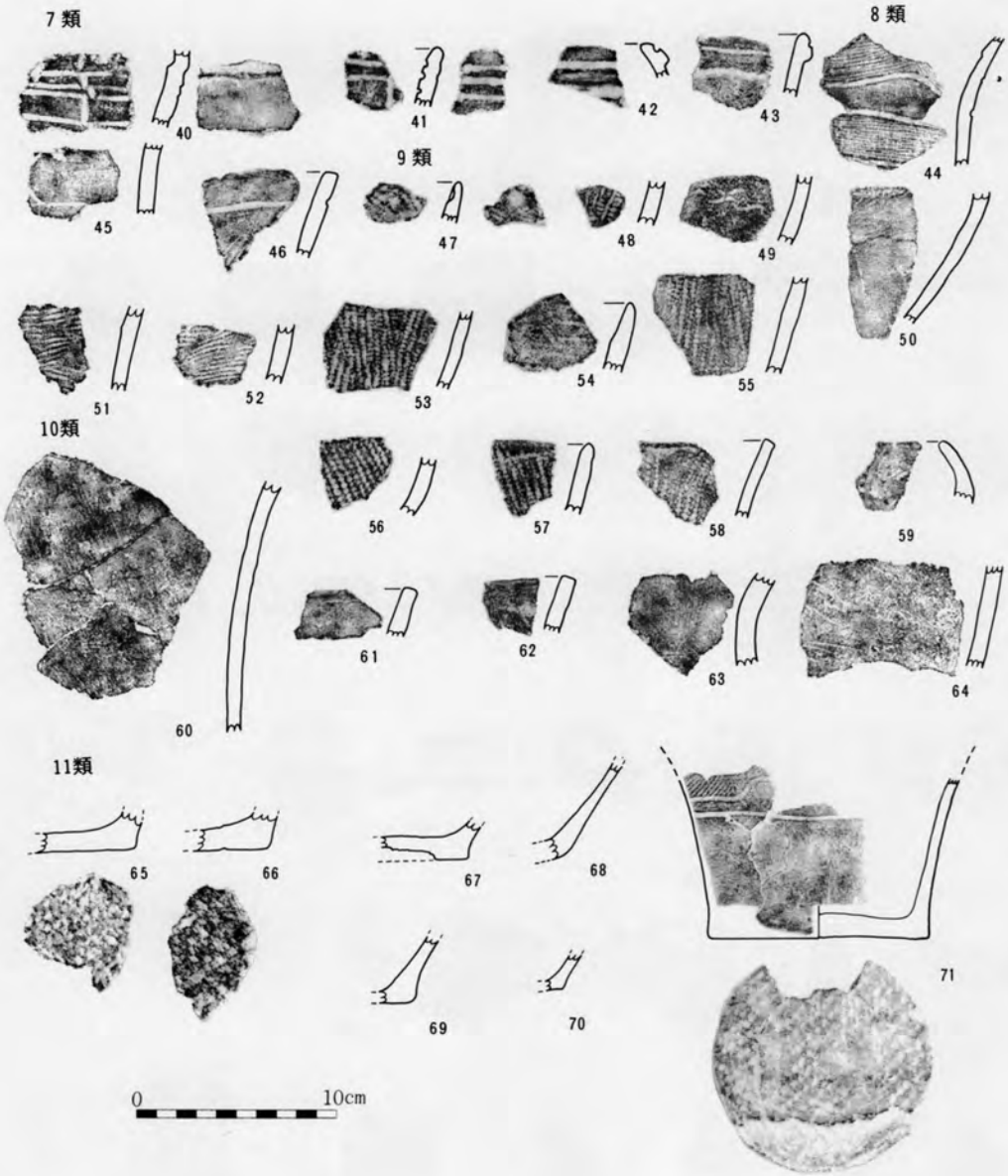
29は波状口縁の浅鉢で，曲線的な磨消縄文と土器内面に2条の沈線を伴う。表裏とも磨かれ胎土も良い。暗褐色。厚さ4～5㎜。32は内傾する口縁部破片で，曲線的な擦消縄文を持つ。注口土器であろう。明褐色，厚さ6㎜，焼成普通。33は円形の浅い刺突が加わる，胎土の粗悪な土器で，口縁部に近いと思われる。明褐色，厚さ7㎜。34はわん曲が強く，胎土・焼成も良い。厚さ4㎜。35は表面黒色である。厚さ7㎜。36は円形に区画された内部に縄文が充填される土器で，むしろ1類に近い。胴部の破片であり，茶褐色，厚さ7㎜。やや胎土の粗い土器である。

6類土器　(38・39)口縁が屈折する大きな波状の浅鉢土器で，口縁部にのみ文様帯がある。文様はＬＲのやや細かい縄文地に3本の沈線（幅2㎜）が加えられただけのもので，波頂部に2個の小さな刺突がつく。色調は明褐色で胎土は精製されているが軟質である。厚さ7㎜。

挿図70－1　ピット45の遺物



挿図70－2　ピット45の遺物



39は同様の器形をもつと思われるが，頸部に斜めの沈線を伴い，厚さ4㎜の粗質の土器である。

7類土器　沈線文の施されるものを一括した。計14点ある(40～43，45・46)。40は横位の沈線文が不定幅で引かれ，これに直交して短い沈線が加えられる。内面にも1条の幅広い沈線がみられる。暗灰色，厚さ7㎜，焼成普通。41は，表面は同様のモチーフであるが，裏面の沈線は3本で太く深い。焼成の悪い粗製の土器である。42・43は肥厚する口縁部に1条の沈線が入る。46は赤褐色の鉢形土器で，口縁部に近いと思われる。厚さ6㎜。

8類土器　外反する波状口縁の深鉢で（44・50)，波状に沿って条線文が施文され，無文帯をはさんで頸部以下は水平に引かれる。内面には1条の沈線がみられる。胴部は無文で急速にすぼまる。雲母を含む，暗灰色の精製土器で厚さ6㎜，1個体5点がある。

9類土器　縄文のみが施文されるものを一括した。総計103点で，ＲＬ59点・ＬＲ41点，羽状・附加条・結節縄文1点がその内容である。ＲＬを縦位に施文した例も少なくない。平口縁で直立する深鉢器形のものがほとんどであり，色調は明褐色・褐色・暗褐色と様々であるが，1・2・5・6類の縄文とは明らかに異なる事は識別できる。ただ，3類に属するものはいくつかあると考えられる。厚さ4㎜から7㎜まで様々である。(47～49，51～58)

47は表裏に縄文の施される波状口縁土器で，波状部の内面に円形の刺突が加わる。附加条の1点（48）は赤褐色厚さ7㎜，結節のみられる49は明褐色，厚さ5㎜である。他に51～58がある。

10類土器　無文土器を一括した(59～64)。計242点あり総数の56％を占める。頸部のくびれる深鉢器形のものが最も多く，表裏は磨かれて，6㎜以上の厚手である。色調は灰褐色・黄褐色・赤褐色で胎土・焼成とも良い。口唇（61・62）は角張る。裏面に擦痕のみられるもの(64)は胎土がやや粗く，砂を含む。60は赤褐色の焼成の良い土器でやや外反するが口縁部破片（59）は内屈している。

これらの無文土器は5類土器の無文帯とは識別が可能であり，区別しているが，4類・7類に含まれるものがかなりあるとみられる。

11類土器　土器底部のみを11類とした。点数は14点あるが，個体数は9個とみられる。網代圧痕の残る大形のもの（65・66・67）と，無文の小形のもの（68・70）とが半々あるが前者は特に胎土が粗悪である。

P86の土器　71はP_{86}から出土した鉢形土器の底部付近である。底部がわずかに張り出し、直線的に胴部へ移行する。胴部には太目の沈線で区切られたＬＲの磨消縄文がみられ，下部は無文である。色調はあざやかな赤褐色で表裏とも丁寧に磨かれる。器壁は4㎜と薄いが砂を含んでいる。底部は網代圧痕が残る。

P_{45}にはこの同一個体の破片は全くみられなかったが，極めて近い時期の所産であろう。

P45土器群のまとめ

P_{45}から出土した土器群を一応11類に分けて述べてきたが，本分類に妥当でない部分があるとすれば筆者の非力の致す所である。さて，P_{45}の土器群はほぼ後期前半でまとめられるものであり，その組成が注目される。

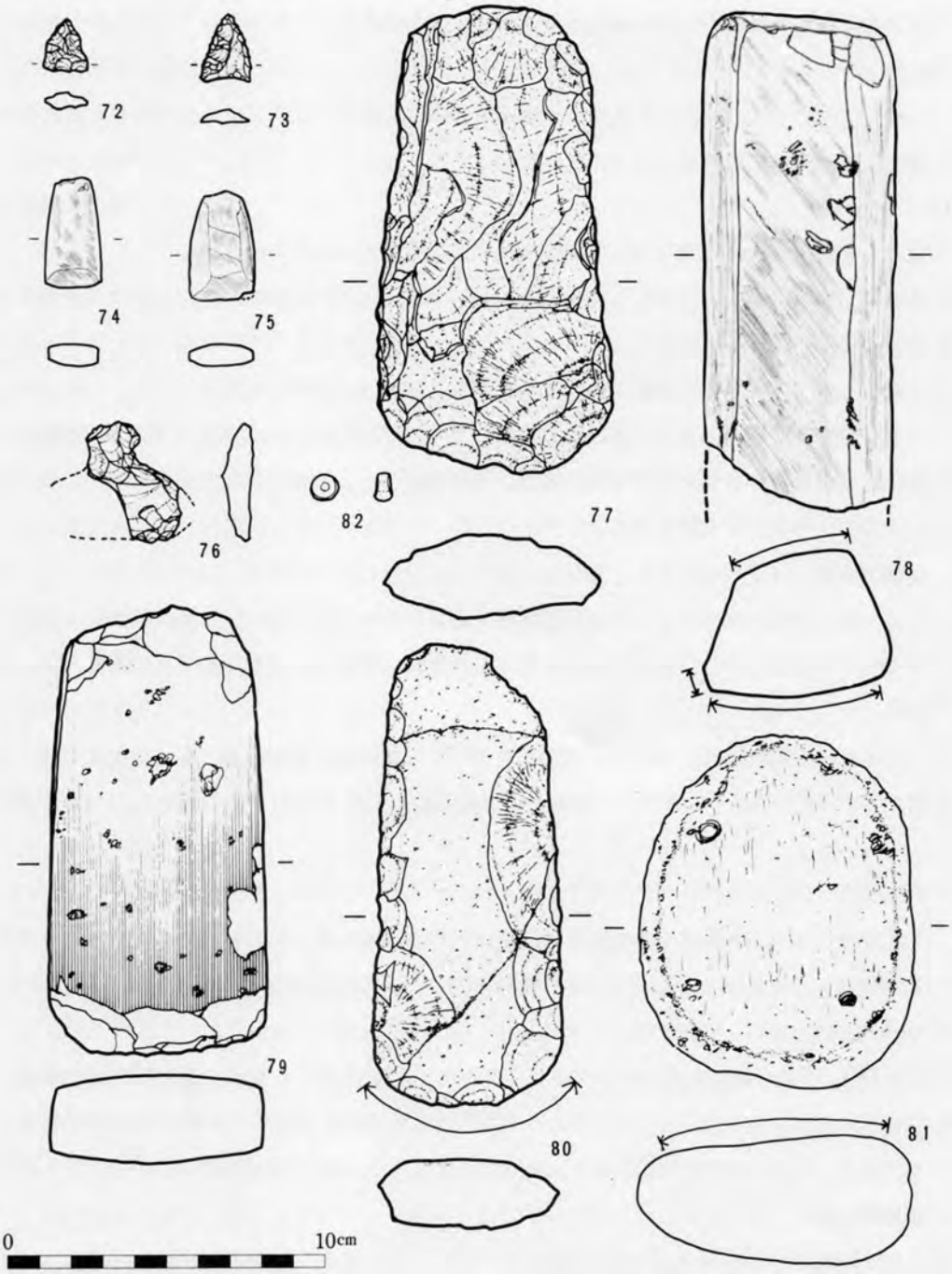
2類の三角刺突文は気屋式に近い要素であり，1類aとも共通する。3類aの刻目隆帯の土器は宮田1類，3類bは宮田2類と同類であり，後者は寺東第1号炉に良好な資料をみることができる。4類aは室屋KII群4類に類例をみ，5・7・8類は加曽利BI式土器に比定されうる。

その他元住吉山I式などの形式が認められるが，より詳細な検討・分折は後日の研究にゆだね，本稿では資料の提示と一部特徴的な部分の指摘にとどめておきたい。

石器　P_{45}からは石鏃，石匙，磨製石斧，打製石斧，砥石，磨石，剥片類が出土しており，ひととおりの住居址の組成である。特に剥片，削片の多い点は生活臭さえ感じられる。磨製石斧（79）は上下両端が著しく潰れており，また正面中央に軽い敲打の抉りがある。凹石に転用したのかあるいは廃棄時の宗教的儀式としての意味があるのか，興味深い点である。

砥石（78）としたのは凝灰岩製の棒状のもので，3面が磨滅している。20cm以上の長さを持つと思われ，石柱の様な別の用途があったのかも知れない。

挿図70－3　ピット45(SK2)72、73、76～81、第3号土壙(SK3)の遺物74、75



13. 第3号土壙　ＳＫ３　（挿図70－３　図版177）

石器　石器はいずれも長さ3.5cm程度の極小品で，美麗に仕上げられている。74は淡緑色，75は灰褐色の蛇紋岩製で，後者には黒いウルシ状の皮膜が残る。刃部はいずれも鋭利で使用の痕跡はない。

ウス玉（82）は淡緑色の軟玉製で径８㎜。２㎜の直線的な孔があけられている。これらの遺物は墓壙に伴う副葬品としての性格が強いと思われる。

14. ピット群

東ピット群・SB4東ピット群　（挿図71－１　図版142～145）

早期の土器　P_{85}（ＳＢ４東）より晩期の土器とともに1片のみ早期末茅山上層式の含繊維貝殻条痕文土器が出土している。（１）

中期の土器　P_{19}（ＳＢ４東），P_{165}より曽利Ⅲ式の渦巻文を持つ土器が出ている。（２、３）P_{192}の巻貝頂部刺突を持つ波状口縁の土器（５）は北陸系であろう。P_{56}（ＳＢ４東）の小形深鉢土器（４）は口縁部の隆帯に半月形の区画内に竹管刺突文と，胴部に綾杉沈線文を持つ中期終末の土器で，神明式に比定される。

後期の土器　（P_{183}）６はＳＢ１及び第２号炉で検出されたと同種の，貼付隆帯をもつわん形に近い波状口縁土器で，２本１組の細隆帯で曲線や方形区画を描く。色調は茶褐色で胎土はやや良く，裏面が少し磨かれて光沢を有する。飛騨地方特有の後期初頭形式である。（宮田Ⅱ類）

同一ピット内からは，渦巻文と刺突文を持つ７・８の同一個体土器，三角刺突文を持つ気屋式比定土器（９），小さな木ノ葉底を持つ縄文施文土器（10），その口縁部（11）などが出土している。

（P_{144-b}）

無文地に細い貼付隆帯を持ち，その交点には刺突が加わる。口縁部は波状で内屈し，刻目状の沈線と小突起がつけられている。宮田Ⅰ類に近いものであろう。（12・13）

（その他後期初頭の土器）

14はP_{173}出土の堀之内式土器で，刻目の入る突帯と擬似縄文の加わる波状口縁土器である。15もこの期の口縁部把手である（P_{146}）。P_{181}の16は刻目突帯を持ち，口縁部の内屈する深鉢土器である。P_{182}の18は縄文地にボタン貼付文を持ち，19は縄文地に沈線が蛇行する。

晩期の土器

P_{39}の20は三叉文・入組文を持つ擦消縄文土器，P_{69}の21は三叉状の陰刻で工字文風になした彩朱鉢形土器で，北陸系晩期初頭の土器である。P_{181}の22は擬似縄文と沈線が組み合わされる。晩期中葉のものとしてはP_{85}（ＳＢ４東）出土の23の様な沈線と刺突の組み合わされるも

の（大洞C_1，中屋II式対比），P_{95}の粗製土器(24)P_{59}の中屋式対比土器(27)がある。

晩期後葉段階は、P_{37}の押引沈線文土器（28）が下野式に対比される。灰白色の堅い焼成で口唇に刻目が入り胴部は縄文となる深鉢土器である。P_{40}の口唇に刻目をもつ灰色のスレートの様な薄手の縄文土器（25）もこの時期のものであろう。P_{38}の26は表裏ともよく磨かれる精製土器で口縁が直上し，胴部に刻目文と凹線文が施文される。

西ピット群（挿図72　図版141）

後期の土器

P_{22}の1はくの字に内屈する波状口縁土器で細い貼付隆帯と，貝殻頂部刺突の加わるS字状の隆帯を持つ。P_{86}出土の2は堀之内に比定される磨消縄文土器である。後期中葉は，P_{85}に加曽利BII併行の沈線内刺突文を持つ注口土器片がある(5)。　その他，4はP_{73}出土の小形丸底土器，7はくの字形の口縁部にのみ孤状沈線文の施される無文深鉢土器（P_{17}）である。後者は赤褐色の堅い焼成で時期は不明であるが，後期終末に位置づけられる可能性が強い。

P_{97}は斧状石冠の出土しているピットであるが，伴出土器は無文が多く，わずかに2点の有文土器は細い隆帯に刻目が加わるもので，後期に属する可能性が強い。

石器　（挿図71－2　図版180）

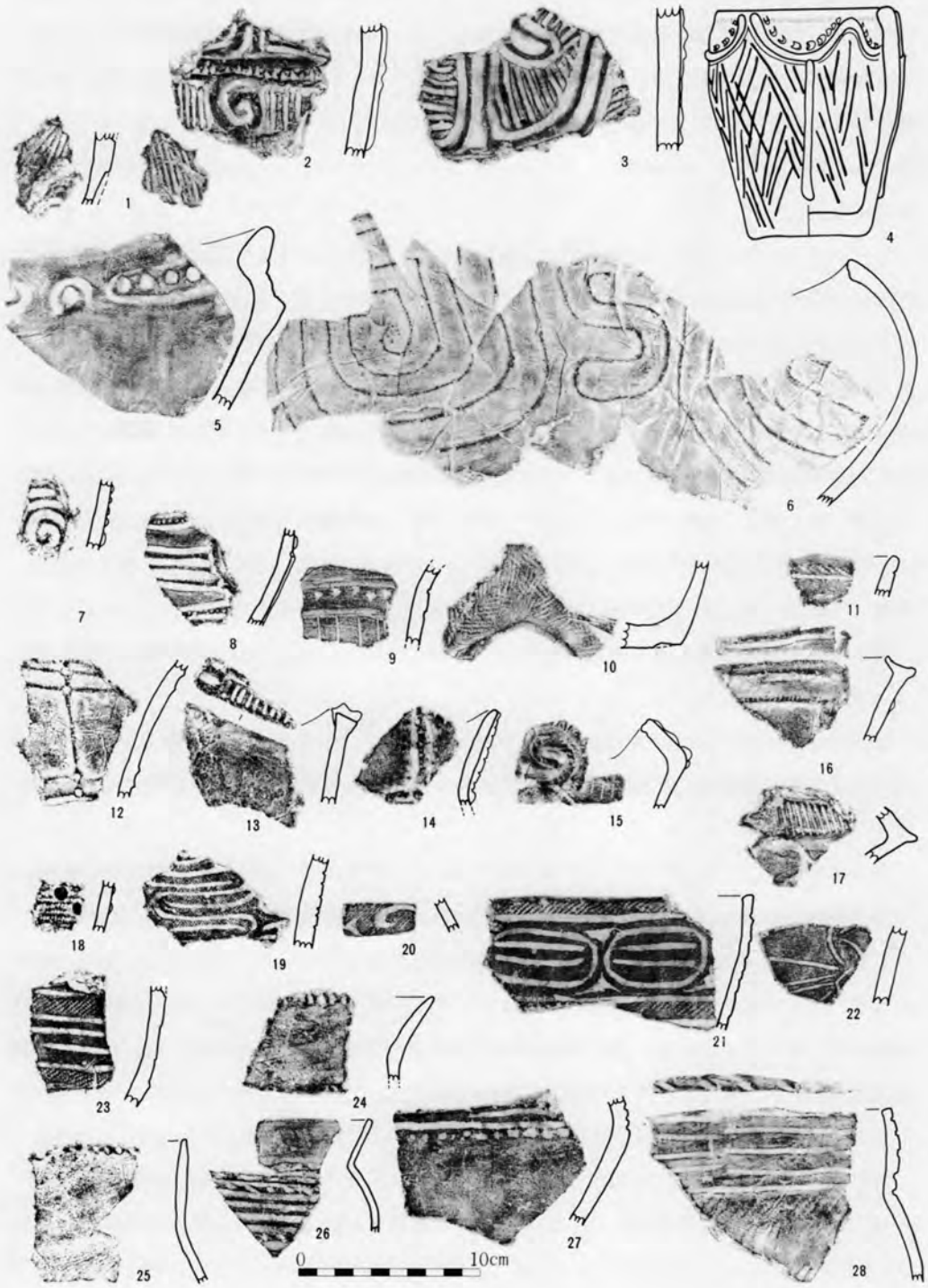
ピット群からは土器とともに石器も多く出土している。それらのうち特徴的なもののみについて解説を行う。

磨製石斧は，東P_{212}（29），同$_{229}$（30），西P_{42}（31）の様な小形・中形の美麗なものについてはSK3の様な副葬的な性格を考える必要があり，ピットを墓壙とみなす根拠の1つともなろう。

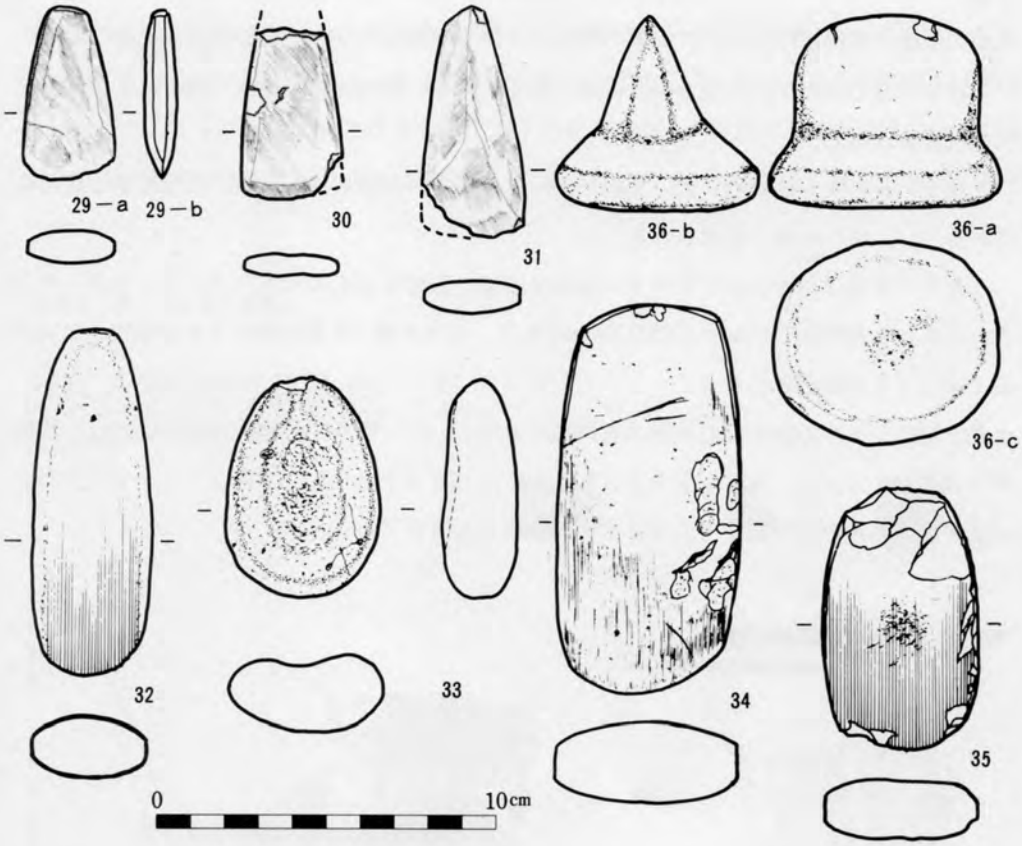
SB4東P_{30}出土の石皿（33）は長径4cmのミニチュア製品で，凝灰岩の自然円礫を利用し1面の中央に4×2cmの浅い凹みを作出している。使用の結果とは思われるが，石皿を模した石製品であろう。P_{182}出土の石棒（？）破片は直径15cmの円柱状の大形品で，中期に見られる屋外祭祀用の大形石棒の可能性があるが，加工が粗く，断定は出来ない。P_{201}にも小形石棒の破片が出土している。西P群P_{55}からは黒曜石の原石4点が一括出土した。平均重量20gで剥離痕はなく自然のズリを採集したものであろう。ピットは貯蔵穴と思われ後期頃の縄文土器片が出土している。

西P群P_{97}の石冠（36）は全体がよく研磨された斧状石冠（II－A型）で，刃部は鋭利に作られ，底面はやや凸で滑沢があり，ごくわずかに敲打痕が残る。石質は凝灰質流紋岩，重量240gである。

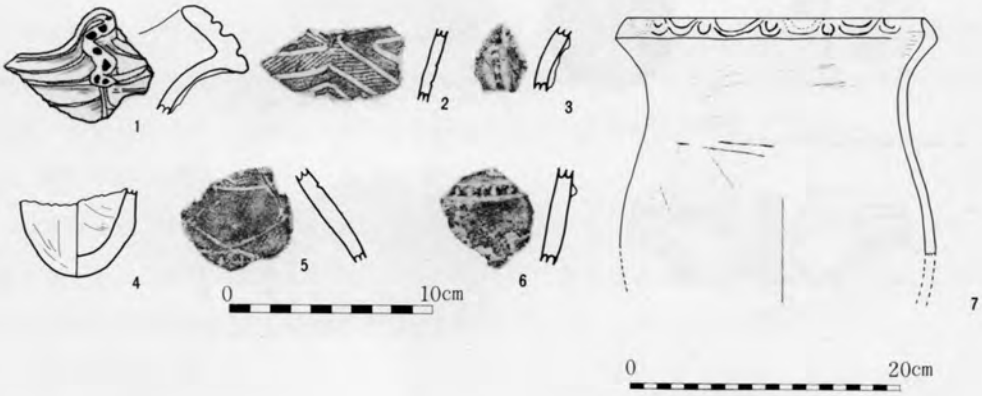
挿図71－1　東ピット群　SB4東ピット群の遺物



挿図71－2　東ピット群　SB4東ピット群、西ピット群の遺物



挿図72　西ピット群の遺物



15. その他の埋甕施設・その周辺　（挿図73　図版139、140）

土器　Ｃ８グリッドにおいて検出された土器群は，恐らく住居址に関連するものであろうが，床面や炉址の検出には至らず，１個の埋甕およびその周辺の遺物に関してのみ記述したい。

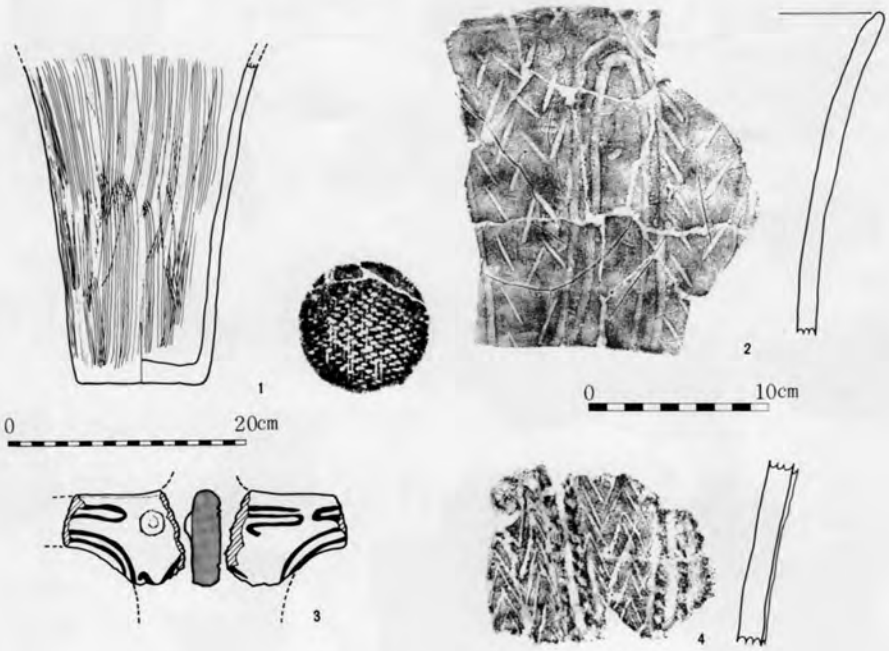
１は口縁部のみわずかに失われる深鉢土器で，細かい櫛状沈線が全体に施される。底部には網代圧痕が残る。

２は平口縁の大形深鉢で，太い沈線によって八の字の文様が描かれる。４は２本１組の隆帯が垂下し，綾杉沈線が充填される。

これらの土器はいずれも中期終末の曽利Ⅴ段階に位置するものであろう。すぐ南から検出されたＳＢ２の床面とのレベル差は53cmもあり，曽利Ⅲ期とⅤ期の間に大きな環境の変化が起こったことが推定される。

土偶　同一レベルで出土した土偶の右肩部である。（３）。板状で，腕を水平に延ばし，沈線が表裏に加えられる。乳房が小さく付加される。ＳＢ３で出土した土偶と，モチーフが似ているが，こちらの方が薄手である。胎土・焼成とも良好である。

挿図73　その他の埋甕施設の遺物

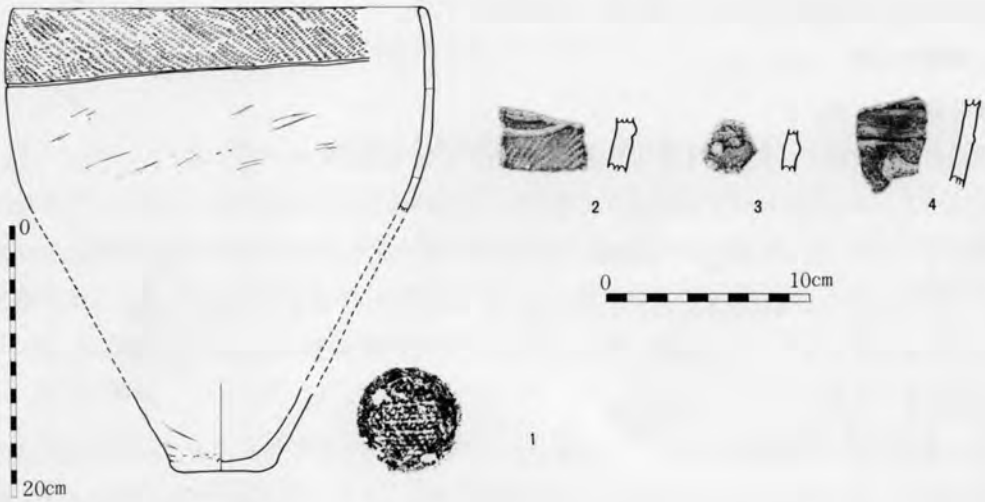


16. 第1号墓址 （挿図74　図版138）

土器　第1号墓址からは約60片の土器小片とフレーク10点が検出されている。土器は8割が縄文のみ，他は細隆線・沈線の施文されるもので時期は後期と思われる。

また，1号墓址のすぐ近隣りより1個体分の土器が出土している。1は大形の甕形土器で口縁部にのみ4～7cm幅の縄文帯をもち，以下は無文である。底部で強くすぼまり，網代圧痕を残す。器壁は薄手であるが焼成はよく，表面に厚くススが付着する。後期最終末の土器と推定される。

挿図74　第1号墓址の遺物



第2節　寺東遺跡遺構外の土器（挿図75～81）

遺構外からも多数の土器が出土しているが、多くは層位的な裏付けをもたない攪乱層出土遺物であり、従って微細な分析はあまり意味をなさないと考える。ここでは大きく4群の時期と土偶・土製品に分け、特徴的な個体を類別して簡単な説明を行なうにとどめたい。

1．縄文早期の土器

わずか2点であるが含繊維貝殻条痕文土器がある。1、2は灰色を呈し、厚さ7～9㎜、繊維を多く含み表裏に貝殻による横位・斜位の条痕が走る。P_{85}に同一個体破片が出土しており、茅山上層式に対比されるものである。

2．縄文中期の土器

曽利系の土器　（3～14）

3のみ曽利Ⅱ式の波状口縁土器で、4はⅢ式古段階の区画文土器である。5は把手付壺、そ

の他綾杉沈線文など曽利Ⅲ式でまとめられる一群である。

唐草文系の土器　(15～18)

唐草文に類する文様の施されるもので量的には少ない。大部分が埋甕に用いられたのであろうか。北陸的な要素も強い。

串田新式系の土器　(19～28)

串田式に類似するものを一括した。多くは隆帯上に刺突を持ち、U字状の波状口縁をなす土器である。

その他(29～55)

刺突文、沈線文、撚糸文、縄文、把手などを一括したが、1～3類に属するものも含まれる。44は縄の端部を押圧している。48は台付小形土器である。

3．後期の土器　(56～98)

後期前半の土器

後期前半の土器としてはまず第2号炉でみられた微隆起線の波状口縁土器がある(56)。器形も同様であるが文様の構成や製作法は本例の方がより洗練されている。同じく飛驒的な後期初頭土器として57～62はP_{45}における類別に含まれるものである。63～77の磨消縄文土器は加曽利BⅠ～Ⅱ式あるいは西北出式などでとらえられる一群であり、後葉へと続いている。78、79は北陸の気屋式比定資料で、三角陰刻文がみられる。81は関西系(一乗寺K)かと思われる。

後期終末の土器

縄文地に沈線文や凹線文の施される土器など、この時期のものと思われる。85・91は押引沈線文、89・90は口唇にも縄文が施される粗製の鉢形土器である。95は安行Ⅱ式に比定される縄文地に沈線文と刺突文のみられる土器である。

4．晩期の土器　(99～126)

晩期前半の土器

三叉文や沈線文のみられるもので、北陸系の晩期前半土器に対比される。99は平行沈線、100は弧線文に刺突が加わる。101、103は三叉文、104は裏面に三叉文が入る。105～107は口唇上に縄文と隆帯文の施される赤彩浅鉢土器である。

晩期中葉の土器

109は入組文の赤彩土器(注口か)、108、110にも赤彩がみられる。大洞B－CからC1段階のものであろう。111、112は中屋式比定の沈刻による三叉文等がみられる。114、115は赤彩の磨研土器、116～123は沈線文、刺突文がみられる。

125はゆるやかな波状口縁下に刺突列と工字文風の沈線文がみられ、その下に環状の突起を数ヶ所付ける沈線文の帯がある、椀形の土器である。飛驒的な晩期中葉の土器であろう。124は注

口土器である。

晩期後半の土器

遺物は少ないが129は大洞A～A′段階のものと思われる。黒灰色の磨研土器で瘤状の凸起がつく注口土器であろう。無文土器として挿図80は表面に粗い擦痕と輪積の痕跡を顕著に残す赤褐色の土器で、ススが付着する。東海の稲荷山式に対比出来よう。

5．底部　(131～139)

底部には無文、網代圧痕、木ノ葉圧痕の3種類がみられる。133、134は1本潜り、135～138は2本潜りの網代底、139は笹様の木ノ葉圧痕の残るものである。

6．注口土器　(140～144)

注口部のみの破片が5点ある。140には付け根の部分に刺突文が加わる。直交する孔の存在するものが2例あり(141、142)、その意図はよくわからない。

7．土偶　(145～149)

首から胸にかけての部分(1)、腰部(2)、胴部の1側縁(3)、腕部(4)、脚部(5)の計5点が出土している。145は厚さ1.5cmの板状で首の部分に横位の貫通孔があり、表裏に沈線による文様が入る。胎土は長石を含み灰褐色である。146は尻の部分が突出し、底部に沈線による孤線が描かれる。明褐色を呈する。148は厚さ2.5cm、赤褐色で胎土には砂を多く含んで粗質である。破壊面には粘土塊の状態が観察される。147は分胴形の腕の部分、149は同じく脚の部分と思われる。

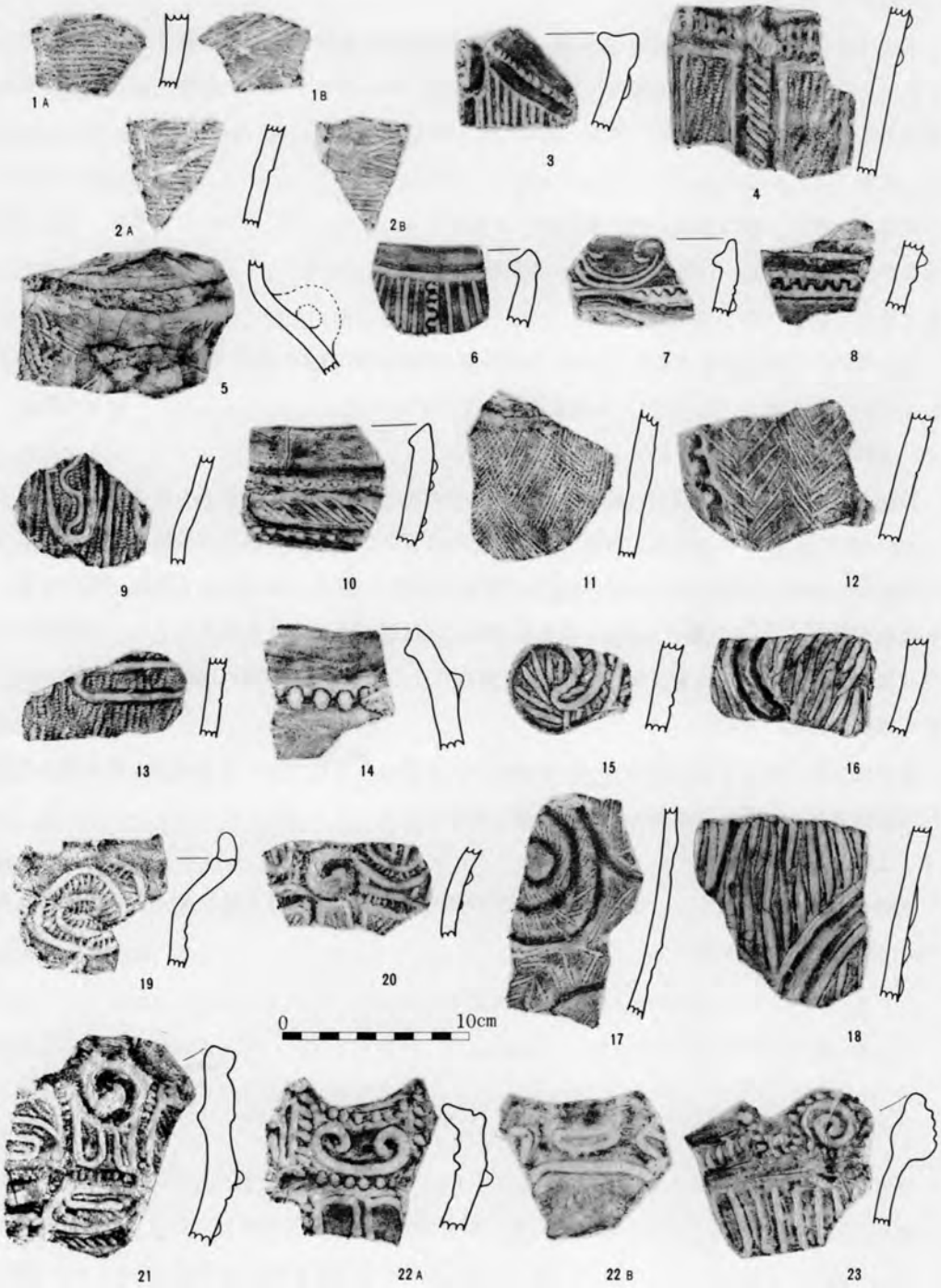
8．板状土製品　(150)

表裏に文様のある厚さ1.2cmの板状の土製品で、土偶かも知れない。充塡縄文と隆起帯、及び孔で構成される。褐色で焼成・胎土は普通である。

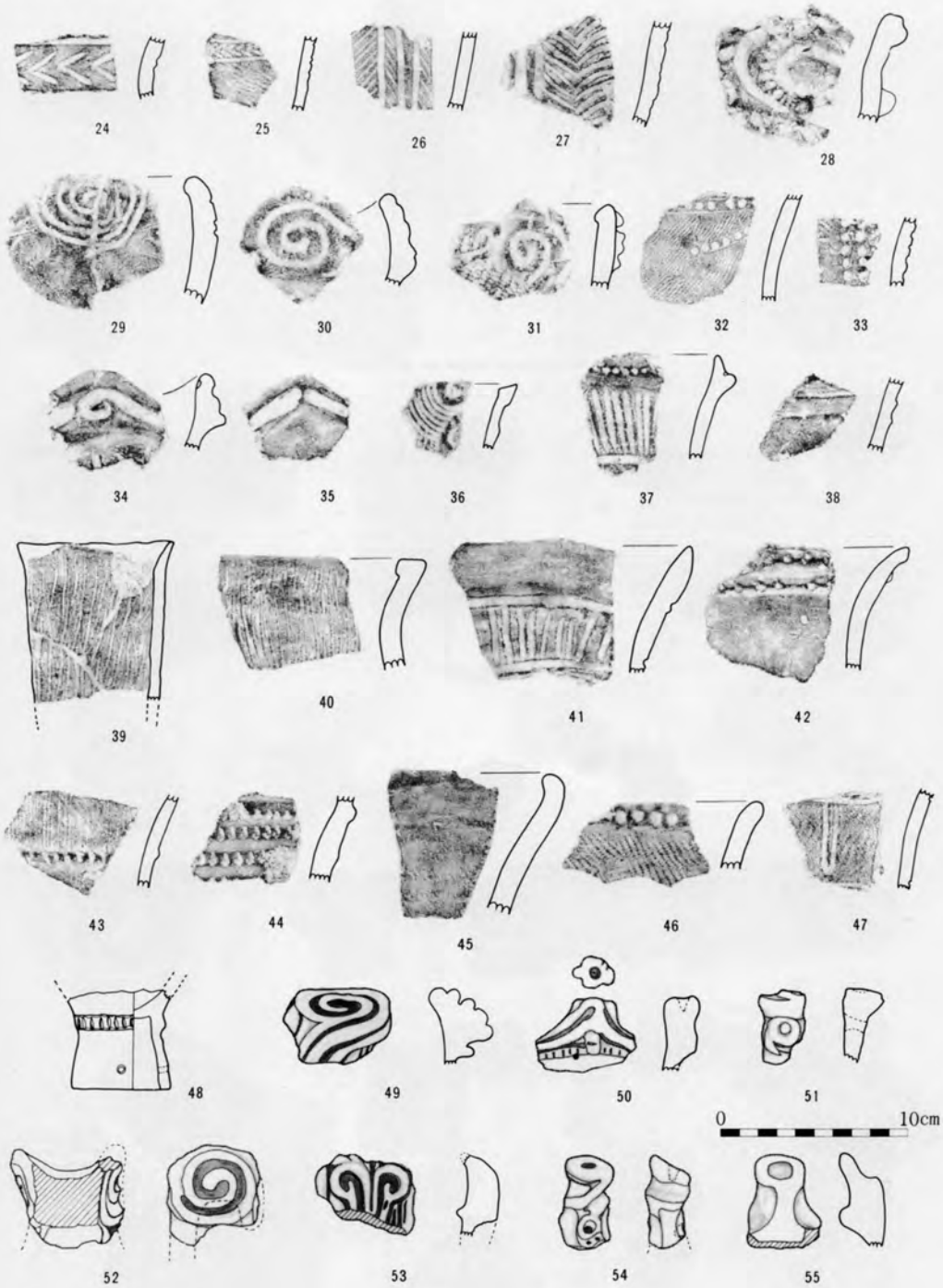
9．土錘　(151)

土錘の半個体が1点ある。長径2.5cmの楕円形で推定長8cm、孔は先端が細く、中央部では角張っている。赤褐色を呈する。

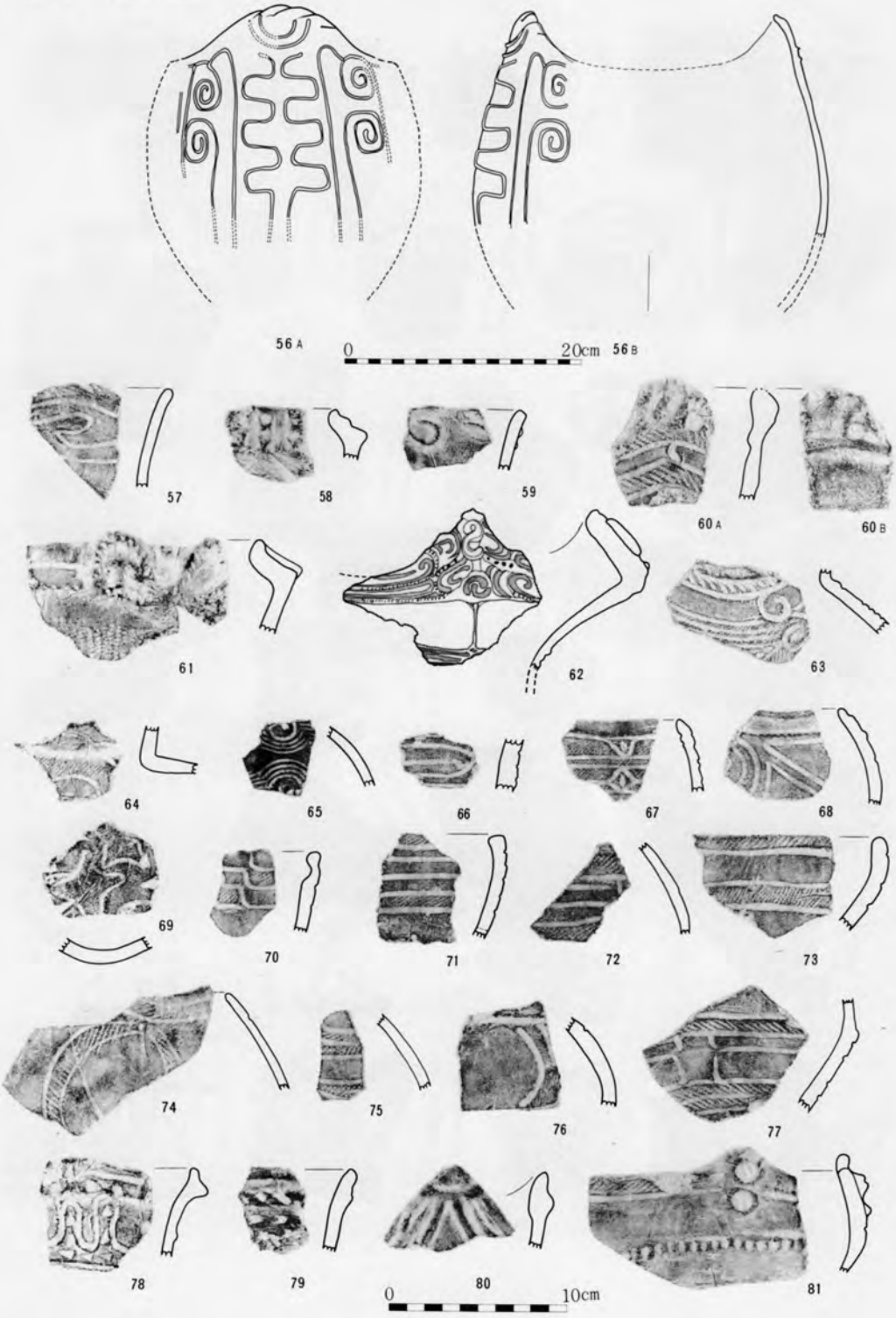
挿図75　遺構外の土器 1



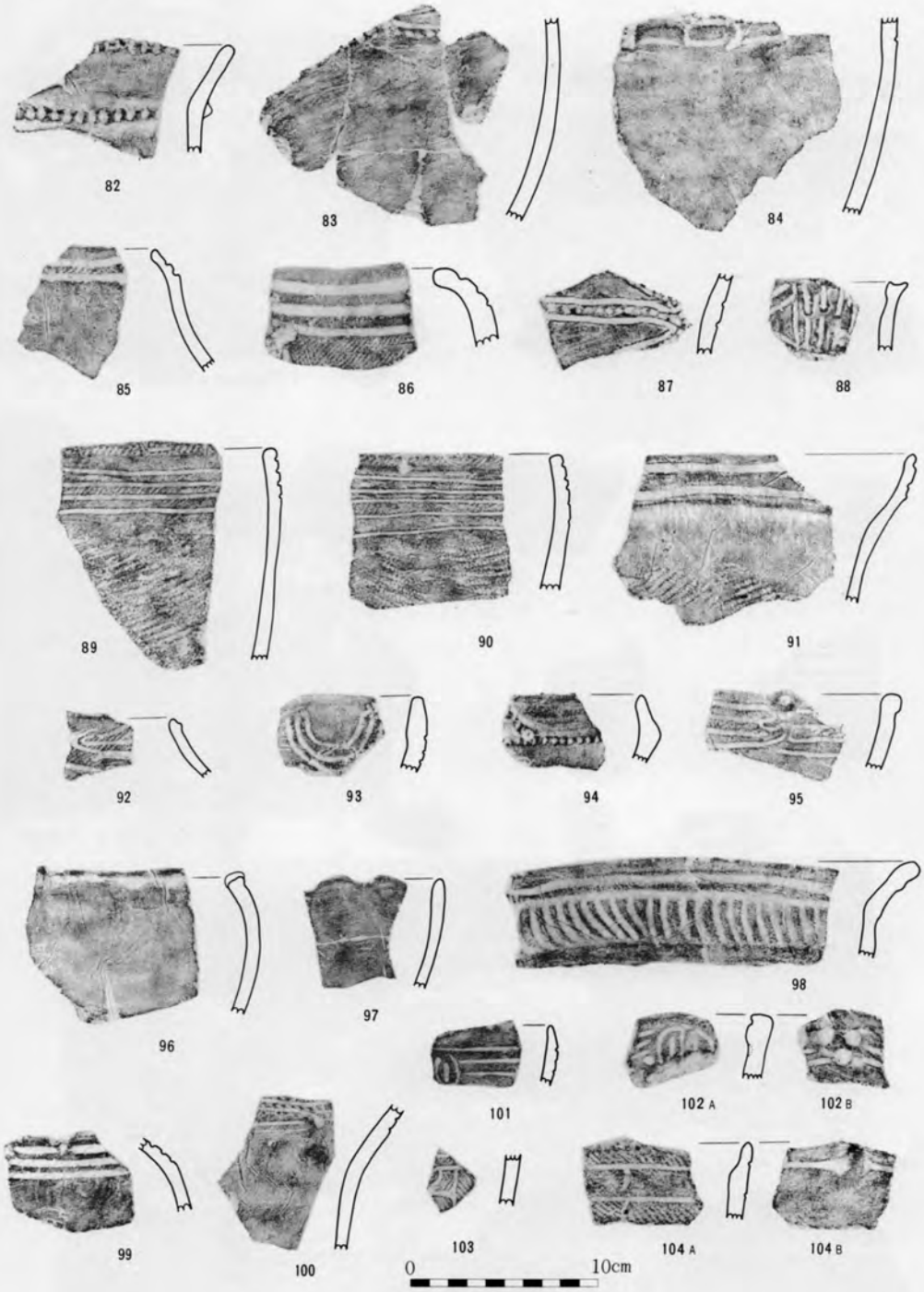
挿図76　遺構外の土器 2



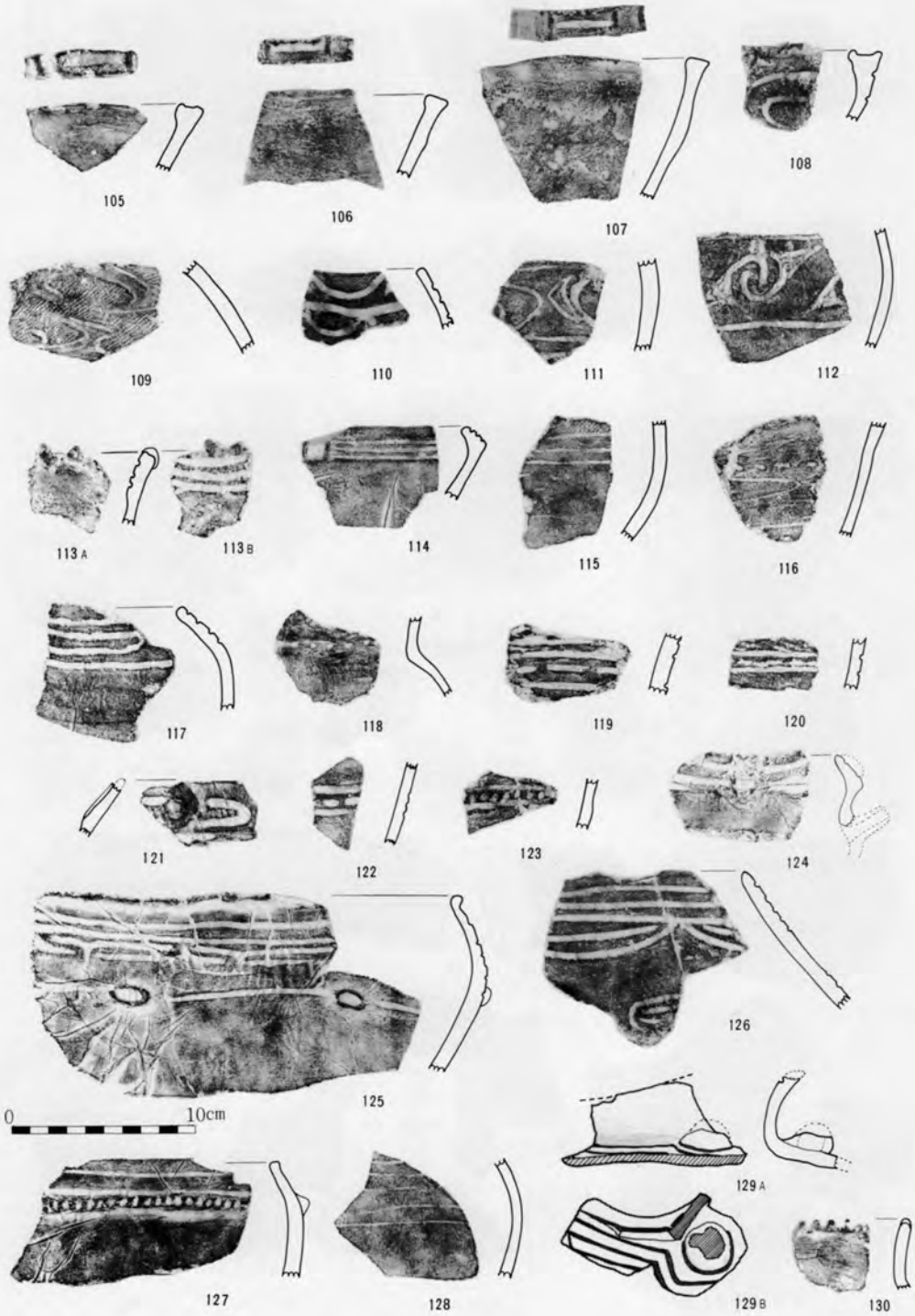
挿図77　遺構外の土器 3



挿図78　遺構外の土器 4



挿図79　遺構外の土器 5



図版97　作業状況　（吉朝則富氏）

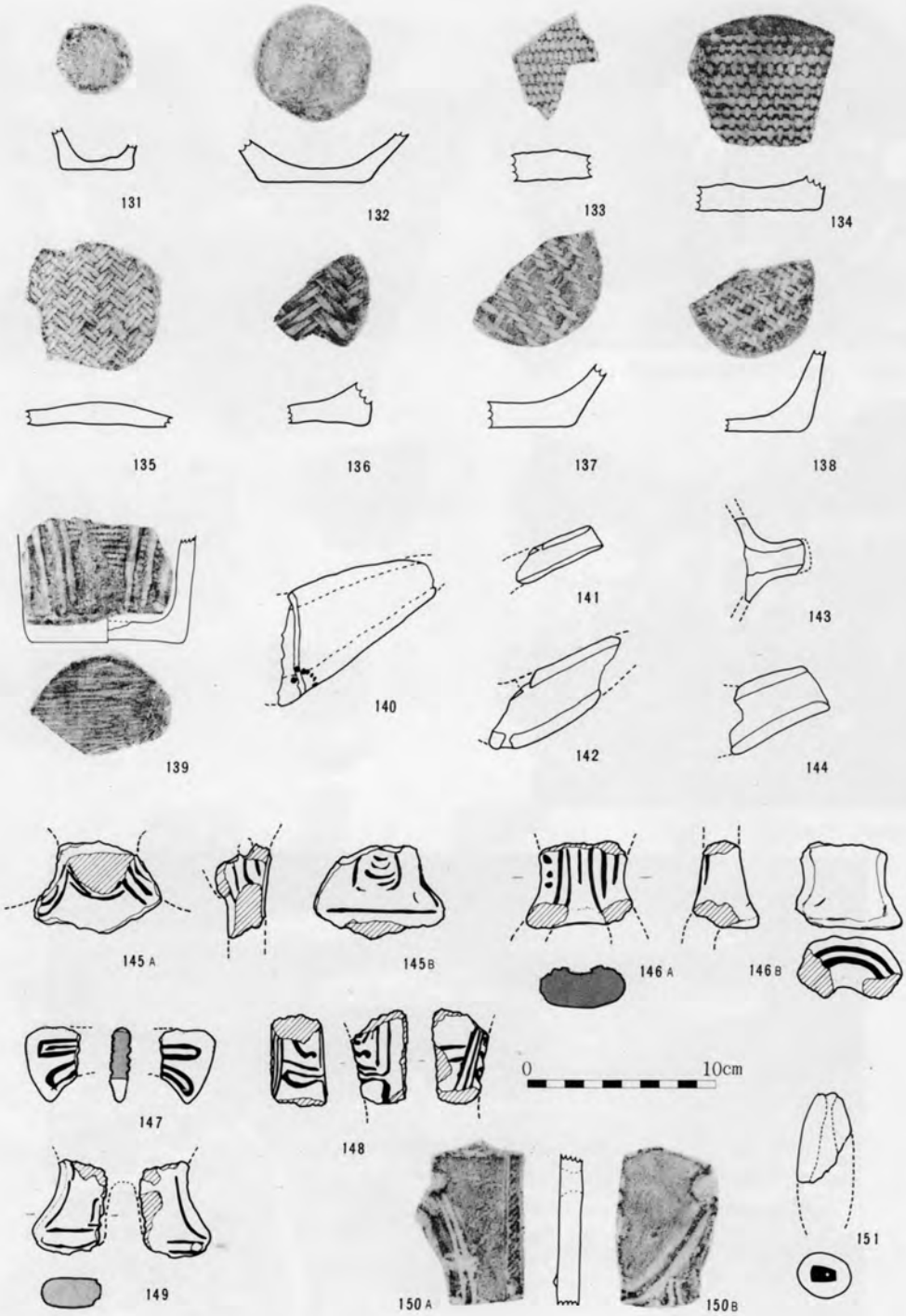
挿図80　遺構外の土器 6

0　10cm

図版98　作業状況

図版99　作業状況

挿図81　遺構外の土器 7



第3節　寺東遺跡 土器群のまとめ

寺東遺跡はごく少量の早期土器を含む他は、縄文中期後半から後期・晩期にかけての遺跡であり、特に住居址は中期後半期のものが多く検出された。しかし後期・晩期の住居址が存在した事も確かであり、耕作による破壊もあるとはいえ、改めて黒色土中の生活面を把握する事の困難さを示したと言えよう。

寺東遺跡の中期は曽利式II段階に始まり、曽利III式にピークをみる。第2号から第6号の住居址では、それぞれ1個から5個の埋甕を伴って曽利式各期の土器を出土している。この中で特に第4号住居址は多量の住居址覆土中遺物を含みその内容が注目される。主体は曽利III式であり、これに東海の取組式と北陸の串田新式、さらに微量の関西の船元式を共伴している点はこの時期の飛騨のあり方を特徴的に示している。第2号住居址ではさらに、取組式の器形に北陸的な流水風のモチーフが加わった土器が出現し、いっそう飛騨的なものへと変化している。

埋甕については、短い時間内にひんぱんに建て替えのあった事を示すのであろうが、内部が空洞であった状態を示す埋甕もいくつかみられ、なお検討を要する部分である。埋甕に用いられている唐草文系の甕形土器は第3号住居址にみられる他は、あまり多くない様であるが、曽利III式の新しい段階での所産と考えられる。

後期初頭は第1号住居址関連遺構から出土した舟状の器形をもつ細隆線文土器に特徴的なものをみる。増子氏による宮田II類土器であり、室屋でも確認されて飛騨全域に分布している事が知られる[注]。寺東遺跡ではP_{45}、及びP_{183}でも良好な資料が得られ、P_{45}での細分類にのっとって今後、寺東K3類土器と呼称したい。P_{45}はこの後期前半のある時期の断面を示す土器群を包含しており、その組成が注目されるが、気屋式に類似するものや加曽利BI式など種々の要素の内に関西系の要素も伺え、尚後の検討に期待を寄せるものである。

後期の後半はよくわからない部分が多いが、寺津下層式に類似するものなどがみられるようである。

晩期は北陸との密接な関連のもとに、何段階かの形式がみられ、良い資料となった。飛騨の晩期土器の編年はまだ端緒についたばかりであり、早急には結論の出せない点が多い。近年発掘された飛騨地方の諸遺跡との比較、また北陸地方との緊密な情報交換のもとで進めていく必要があろう。その中にあって、飛騨的な晩期土器の実体が確実に抽出されつつある事を記して本稿を終了したいと思う。

注　下小鳥ダム関係、埋蔵文化財調査報告書　河合村教育委員会　昭47

第４節　寺東遺跡遺構外の石器

本遺跡から出土した石器類は総数8630点で、第36表（169頁）では 狩猟具、農・工具、調理具、宗教的道具、その他に分類してその数値を示した。住居址、土壙、ピット群等ほぼ時代を把握出来る分に関しては、既に各遺構内の遺物の項で述べておいたが、それ以外の覆土層より出土した石器群に関して、本節で触れてみたいと考える。ただし総計数値に関しては遺構内出土分を含めた場合もある。

時代的には、第２号～65住居址内においてはほぼ縄文時代中期に限定出来る要素があるが、その他は中期から晩期に至る時期が混在しており時代を特定出来ない石器が多いと思われる。石質の鑑定には高山考古学研究会の岩田修氏の力に依るところが大きい。また石器の分類基準は『阿曽田遺跡発掘調査報告書』[註1]に多く準拠しており、「見解の差異を超えた計測方式の統一」を極力はかったものと理解していただきたい。

注１　岐阜県中津川市教育委員会　1985

１．石鏃　（挿図82）

総数371点で、形態分類は底辺の形状による４分類を基本とし、これに短身と長身（底辺の1.5倍以上）及び有肩の３区分を加えた。早期特有の形態を有するものは僅か１点で、他はいずれも中～晩期の範囲でとらえられるが有肩のものは晩期に比較的多く、特に有肩有茎鏃（飛行機鏃）は東海地方の後期の特徴的な遺物とみなされよう。形態別、石質別比率は円グラフで示した。凹基鏃が50％を占めるが、有茎鏃の割合が三角鏃を陵駕している点も、晩期に属するものが多い事を示している。石質別では下呂石72％、チャート14％、黒曜石12％、他２％で、飛騨地方の石鏃比率の一般的なあり方である。[註2]

註２　糠塚遺跡発掘調査報告書・1982・Ｐ84、向畑遺跡の遺物・1983・Ｐ61

表５　石鏃形態別円グラフ

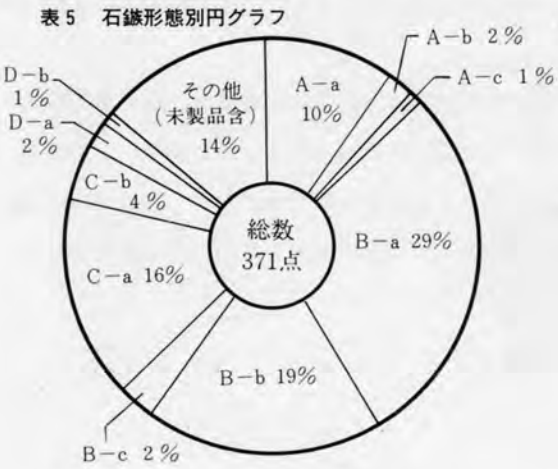


表６　石鏃石質別円グラフ

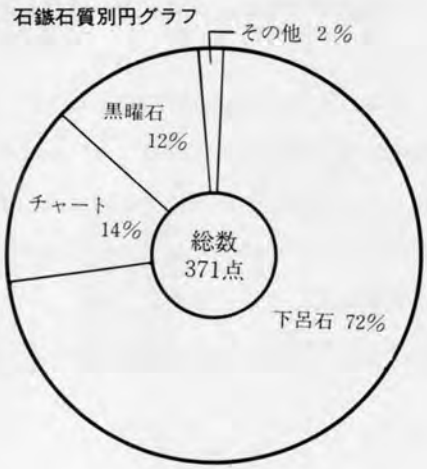
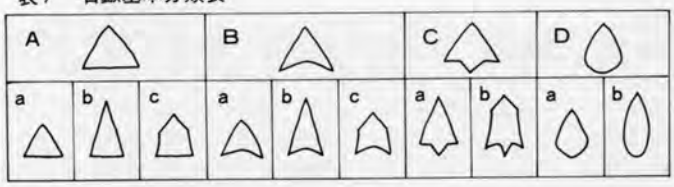


表7　石鏃基本分類表



（狩　猟　具）

表8　石鏃一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
551	B-a	SB1	完形	下呂石	1.8	1.6	0.5	1.1	60-2・15	
3673-93	B-a	SB1	完形	黒曜石	1.2	1.0	0.2	0.3	60-2・13	
3671-196	B-b	SB1	先端・片脚部欠	チャート	1.8	(1.3)	0.4	(0.7)	60-2・14	
3674-199	B-b	SB1	先端部欠	下呂石	(1.5)	0.7	0.2	(0.2)	60-2・16	
240-2	C-a	SB1	茎部欠	チャート	(2.5)	1.0	0.5	(1.2)	60-2・19	
426	C-a	SB1	茎部欠	下呂石	(1.9)	1.5	0.3	(0.6)	60-2・17	
1258-22	C-a	SB1	先端部欠	チャート	(1.9)	1.5	0.4	(1.0)	60-2・18	
154-265	その他	SB1	完形	チャート	1.9	1.6	0.6	1.6		
416-3	未製品	SB1	完形	下呂石	3.3	2.3	0.6	3.9		
2397	B-a	SK1	完形	下呂石	1.2	0.9	0.3	0.3	61-2・17	
4085-35	B-b	SB2	完形	チャート	2.3	1.4	0.3	1.0		
4089-1	B-b	SB2	片脚部欠	下呂石	2.2	(1.2)	0.4	(0.8)	64-4・23	
4382	B-b	SB2	完形	黒曜石	3.0	2.0	0.2	0.9	64-4・29	
4089-2	C-a	SB2	完形	下呂石	3.5	1.4	0.6	2.4	64-4・24	
4084-50	B-b	SB3	完形	下呂石	2.0	1.3	0.6	1.3	65-2・9	
4084-35	未製品	SB3	完形	下呂石	2.5	2.2	0.8	4.5		
4043-1	B-a	SB6	完形	黒曜石	1.3	1.4	0.3	0.4	68-2・11	
4043-2	B-b	SB6	完形	下呂石	2.1	0.8	0.4	0.6	68-2・10	
3631-8	D-a	SC6	先端部欠	下呂石	(2.6)	1.7	0.7	(2.6)		
3841-4	A-b	東P93	完形	下呂石	4.7	1.7	0.5	2.6		
3950-142	A-b	東P144	完形	下呂石	2.8	1.7	0.6	2.5		
3988-12	C-a	東P229-E	完形	下呂石	3.9	1.2	0.6	2.4		
3963-43	その他	東P181	先端部のみ	チャート	(1.9)	(1.2)	0.4	(0.6)		
3967	その他	東P189	下側下部欠	下呂石	(2.6)	2.2	0.7	(3.0)		
3519-7	A-a	SK2	完形	下呂石	1.6	1.4	0.5	0.8	70-3・72	
3519-8	B-a	SK2	完形	下呂石	2.1	1.5	0.4	1.1	70-3・73	
3586	B-a	西P24	完形	下呂石	1.8	1.5	0.4	0.5		
3629-14	B-a	西P17-2	完形	下呂石	1.6	1.4	0.3	0.5		
4044-17	B-a	西P27	両脚部欠	下呂石	(1.7)	(1.1)	0.3	(0.5)		
3563-8	B-b	西P78	片脚部欠	下呂石	2.9	(1.6)	0.5	(1.3)		
3563-9	B-b	西P78	片脚部欠	下呂石	2.1	(1.2)	0.4	(0.7)		
3570-1	B-b	西P41	片脚部欠	下呂石	1.6	(1.0)	0.3	(0.4)		
3605-3	B-b	西P22-4	完形	下呂石	2.0	1.3	0.4	0.8		
3617-1	B-b	西P24	片脚部欠	下呂石	3.1	(1.3)	0.3	(1.0)		
3577	C-a	西P50	完形	黒曜石	2.4	1.0	0.5	0.8		
3581-15	D-a	西P55	完形	下呂石	2.3	1.6	0.5	1.6		
1722	A-a	グリッド別a1	完形	下呂石	2.7	2.2	0.8	4.3		
3639-2	A-a	a1	完形	黒曜石	1.4	1.2	0.4	0.5		
1723	B-a	a1	完形	下呂石	1.3	1.0	0.4	0.3		
1724	B-a	a1	完形	下呂石	1.9	1.6	0.3	0.7		
1732	B-a	a1	完形	下呂石	1.1	1.1	0.3	0.3		
2137-3	B-a	a1	片脚部欠	チャート	1.6	1.5	0.3	(0.5)		
2138-1	B-a	a1	完形	チャート	1.9	1.5	0.5	1.0	82−18	

（石鏃）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
2138-2	B-a	a 1	完形	下呂石	1.7	1.5	0.3	0.6		
2142-1	B-a	a 1	完形	チャート	1.7	1.4	0.3	0.6	82－17	
2142-2	B-a	a 1	片脚部欠	下呂石	1.8	(1.3)	0.4	(0.9)		
4328	B-a	a 1	片脚部欠	下呂石	1.7	(1.4)	0.3	(0.8)		
1720	B-b	a 1	完形	下呂石	2.2	1.5	0.5	1.3		
2141	B-b	a 1	完形	下呂石	1.7	1.1	0.3	0.4		
1725	B-c	a 1	完形	黒曜石	1.9	1.2	0.4	0.7		
1727	C-a	a 1	完形	下呂石	2.2	1.1	0.4	1.2		
2134	C-a	a 1	茎部欠	下呂石	(2.5)	1.1	0.3	(0.9)		
2137-2	C-a	a 1	完形	チャート	2.8	1.1	0.6	1.8	82－55	
2137-4	C-a	a 1	完形	下呂石	2.3	1.2	0.5	1.1		
2139	C-a	a 1	完形	下呂石	2.2	1.2	0.5	0.8	82－57	
2140	C-a	a 1	完形	下呂石	2.6	1.2	0.5	1.2		
2544-1	C-a	a 1	先端部欠	チャート	(1.5)	1.3	0.5	(0.8)		
4335	C-a	a 1	先端、茎部欠	下呂石	(2.3)	1.5	1.7	(2.3)		
1716-1	C-b	a 1	茎部欠	下呂石	(1.8)	1.4	0.4	(0.8)	82－65	
1717	C-b	a 1	完形	下呂石	2.3	1.5	0.5	1.3	82－63	
1728-2	C-b	a 1	先端少欠	下呂石	2.2	1.5	0.5	(1.1)		
4349	その他	a 1	完形	下呂石	3.3	2.1	0.6	4.0	82－71	未製品
4355	その他	a 1	下部欠	下呂石	(1.8)	1.5	0.7	(1.7)		
4357	その他	a 1	下部のみ	下呂石	(1.2)	(2.1)	0.5	(1.6)		
4362	その他	a 1	上部欠	黒曜石	(1.3)	1.4	0.4	(0.6)		
3642-1	A-a	a 2	完形	下呂石	2.3	1.4	0.5	1.5		
4315	A-a	a 2	完形	下呂石	2.6	1.8	0.7	2.3		
4318	A-a	a 2	左端部欠	下呂石	2.0	(1.8)	0.5	(1.6)		
3642-2	A-b	a 2	完形	下呂石	2.1	1.3	0.2	0.6		
1742	B-a	a 2	完形	下呂石	2.6	2.0	0.6	2.3		
2107-1	B-a	a 2	完形	チャート	1.6	1.3	0.3	0.6	82－14	
2110-1	B-a	a 2	完形	下呂石	1.5	1.3	0.3	0.5		
3640-3	B-a	a 2	完形	チャート	1.4	0.9	0.2	0.3	82－13	
4330	B-a	a 2	片脚部欠	黒曜石	(1.4)	(1.2)	0.3	(0.3)		
1735-1	B-b	a 2	完形	チャート	2.7	1.6	0.4	1.4	82－35	
1735-2	B-b	a 2	完形	下呂石	1.6	0.9	0.3	0.4		
1740	B-b	a 2	完形	黒曜石	2.2	1.4	0.4	1.1		
2534	B-b	a 2	先端部欠	下呂石	(2.3)	1.7	0.5	(1.6)		
2536	B-b	a 2	上部欠	下呂石	(1.0)	1.0	0.2	(0.2)		
2537-1	B-b	a 2	片脚部欠	下呂石	1.4	(0.9)	0.3	(0.3)		
3641	B-b	a 2	片脚部欠	下呂石	2.3	(1.4)	0.5	(0.8)		
858	C-a	a 2	胴部のみ	チャート	(1.5)	(1.4)	0.4	(0.8)		
1736-2	C-a	a 2	完形	下呂石	3.2	1.3	0.5	1.6	82－51	
1738	C-a	a 2	茎部欠	下呂石	(2.2)	1.2	0.5	(1.1)		
2104	C-a	a 2	完形	チャート	2.2	1.3	0.4	0.9		
2105	C-a	a 2	完形	下呂石	3.8	2.0	1.0	5.8		
2110-4	C-a	a 2	完形	黒曜石	2.1	1.3	0.7	1.3	82－58	
3640-1	C-a	a 2	茎部欠	下呂石	(2.1)	1.2	0.6	(1.3)		
4334	C-a	a 2	完形	下呂石	2.2	1.1	0.5	1.3		
4336	C-a	a 2	先端、茎部欠	下呂石	(1.8)	1.4	0.4	(1.0)		
4338	C-a	a 2	上部欠	下呂石	(2.4)	1.2	0.5	(1.3)		
1736-1	C-b	a 2	完形	下呂石	3.4	1.5	0.6	2.0	82－62	
1739-2	C-b	a 2	完形	下呂石	1.8	1.0	0.4	0.6		

（石鏃）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
2107-2	C-b	a 2	完形	下呂石	2.7	1.5	0.5	1.6		
4316	その他	a 2	完形	黒曜石	1.9	1.8	0.6	2.0		
4341	その他	a 2	完形	下呂石	2.8	2.4	0.9	5.0		未製品
4342	その他	a 2	完形	下呂石	2.9	2.1	0.9	4.1		未製品
4344	その他	a 2	上部、右端欠	下呂石	(2.4)	(1.7)	0.5	(2.0)		
4345	その他	a 2	完形	下呂石	2.4	1.8	0.6	2.4		
4346	その他	a 2	完形	下呂石	1.8	2.4	0.7	2.6		未製品
4360	その他	a 2	下部欠	チャート	(1.5)	1.1	0.5	(0.8)		
1828	B-a	b 1	完形	下呂石	1.3	1.1	0.3	0.4		
2132	B-a	b 1	先端少欠	下呂石	1.9	1.6	0.5	(1.2)		
4322	B-a	b 1	先端部欠	下呂石	(1.5)	1.4	0.4	(0.9)		
4327	B-a	b 1	上部欠	下呂石	(1.4)	1.5	0.3	(0.6)		
1760-1	B-b	b 1	完形	下呂石	3.4	1.7	0.4	1.6	82－29	
1760-2	B-b	b 1	完形	下呂石	2.0	1.2	0.4	0.7		
1829-1	B-b	b 1	完形	下呂石	2.6	1.8	0.4	1.3		
109-1	C-a	b 1	先端部欠	下呂石	(2.6)	1.1	0.5	(1.3)		
109-2	C-b	b 1	先端部欠	下呂石	(1.7)	1.7	0.5	(1.2)		
75	A-a	b 2	完形	下呂石	1.1	1.0	0.1	0.1	82－1	
906-9	A-a	b 2	完形	チャート	2.1	1.5	0.5	1.5		
1772-3	A-a	b 2	先端部欠	下呂石	(1.9)	1.5	0.6	(1.5)		
1773-1	A-a	b 2	先端部欠	下呂石	(1.6)	1.5	0.4	(0.9)		
75-2	B-a	b 2	完形	黒曜石	2.0	1.6	0.4	1.0		
1770-1	C-a	b 2	完形	下呂石	2.7	1.9	0.6	2.9		
1771	C-a	b 2	完形	チャート	3.6	1.2	0.6	2.3	82－49	
1772-2	C-a	b 2	先端部欠	チャート	(2.2)	1.3	0.4	(1.0)		
1773-2	C-a	b 2	茎部欠	下呂石	(2.0)	1.5	0.5	(1.2)		
1774-2	C-a	b 2	完形	下呂石	3.0	1.7	0.5	1.4		
2529-2	B-a	b 3	完形	下呂石	1.2	0.9	0.3	0.2		
2891	B-c	b 4	完形	下呂石	2.9	1.8	0.4	1.4	82－43	
841	C-a	b 4	完形	下呂石	2.0	1.3	0.4	0.7		
4347	その他	b 4	右端部欠	下呂石	(2.5)	1.0	0.6	(1.2)		
842	B-a	b 5	片脚部欠	下呂石	1.5	(1.3)	0.3	(0.4)		
2885	B-a	b 5	完形	下呂石	1.8	1.4	0.5	1.0		
2886	B-b	b 5	片脚部欠	下呂石	1.9	(1.1)	0.3	(0.5)		
2887	B-b	b 5	片脚部欠	下呂石	2.2	(1.1)	0.3	(0.5)		
2802	A-a	b 6	完形	下呂石	1.6	1.2	0.5	0.8	82－2	
4319	A-a	b 6	完形	下呂石	2.0	1.4	0.5	1.0		
2803	B-b	b 6	先端部欠	下呂石	(2.3)	1.8	0.5	(2.1)		
3264	B-b	b 6	完形	下呂石	1.9	1.0	0.6	0.9		
2800	C-a	b 6	茎部欠	チャート	(2.1)	1.3	0.4	(1.0)		
3266-1	C-a	b 6	完形	下呂石	1.9	1.2	0.4	0.7		
1225	B-a	b 7	下部のみ	黒曜石	(1.2)	1.8	0.4	(1.0)		
3265	B-a	b 7	先端部欠	下呂石	(1.1)	1.1	0.2	(0.3)		
3263	C-a	b 7	完形	チャート	3.2	1.4	0.5	2.5	82－54	
4352	その他	b 7	完形	下呂石	2.4	1.3	0.4	1.5		
564	B-a	b 10	完形	黒曜石	2.1	1.8	0.6	1.6		
889	C-a	b 10	完形	下呂石	2.1	1.6	0.6	1.2		
888	C-b	b 10	完形	チャート	2.5	1.8	0.5	1.7	82－64	
1833-8	その他	b 11	右下部欠	黒曜石	(2.8)	(1.9)	(0.4)	(1.4)		
1975-2	B-b	b 12	左端欠	下呂石	3.7	(1.5)	0.4	(1.6)	82－30	

（石鏃）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1972-2	B-c	b12	完形	下呂石	2.4	1.5	0.4	1.1	82－47	
2665-5	その他	b12	頭部のみ	チャート	(1.9)	(1.3)	(0.5)	(1.0)		
126-1	A-c	C1	完形	黒曜石	2.6	1.2	0.4	1.2	82－9	
126-2	B-a	C1	片脚部欠	下呂石	1.7	(1.3)	0.4	(0.6)		
126-3	B-a	C1	片脚部欠	下呂石	1.1	1.0	0.3	(0.3)		
1000	B-a	C1	両脚部欠	下呂石	(1.4)	(1.4)	0.2	(0.3)		
126-4	B-b	C1	片脚少欠	下呂石	2.7	1.7	0.7	(2.8)		
126-5	B-b	C1	完形	下呂石	2.8	1.6	0.4	1.4		
126-7	C-b	C1	茎部欠	下呂石	(1.7)	1.2	0.3	(0.6)		
4314	A-a	C2	上部欠	下呂石	(1.8)	2.2	0.4	(1.6)		
4317	A-a	C2	左端部欠	下呂石	1.5	(2.4)	0.5	(1.3)		
2087	B-a	C2	頭部欠	下呂石	(1.2)	1.1	0.2	(0.3)		
2065-1	B-b	C2	完形	下呂石	30	1.5	0.8	2.6		
2926	B-b	C2	片脚部欠	チャート	2.4	(1.2)	0.4	(1.1)		
861	C-a	C2	完形	黒曜石	2.4	1.5	0.6	1.3	82－56	
4063	B-a	C3	先端部欠	下呂石	(2.1)	1.5	0.4	(0.8)		
844-1	B-a	C4	頭部欠	下呂石	(1.8)	2.0	0.4	(1.5)		
2506	B-b	C4	片脚部欠	下呂石	2.2	(1.2)	0.3	(0.5)		
844-2	C-a	C4	完形	下呂石	3.6	2.2	0.6	4.4		
64	その他	C4	左端部欠	下呂石	2.1	(1.6)	0.5	(1.7)		
2514-1	A-a	C5	完形	下呂石	2.0	1.4	0.5	1.3		
2514-2	B-a	C5	完形	下呂石	1.7	1.5	0.4	0.9		
2518	B-a	C5	片脚部欠	下呂石	1.8	(1.4)	0.3	(0.6)		
4323	B-a	C5	先端部欠	下呂石	(1.7)	1.6	0.3	(0.7)		
2448	B-b	C5	片脚部少欠	下呂石	2.1	(1.4)	0.3	(0.5)		
2438	C-a	C5	完形	下呂石	2.6	1.4	0.5	1.7		
2517	C-a	C5	先端部少欠	下呂石	(4.1)	1.2	0.5	(1.8)	82－48	
4358	その他	C5	頭部のみ	下呂石	(1.6)	(1.2)	(0.3)	(0.4)		
19	A-c	C6	完形	下呂石	2.7	1.3	0.4	0.9	82－10	
2805	B-a	C6	完形	下呂石	1.6	1.1	0.3	0.4		
1232	その他	C6	下部欠	下呂石	(1.9)	(1.7)	0.4	(0.8)		
1230-1	B-b	C7	上部片脚部欠	チャート	(1.8)	1.5	0.6	(0.4)		
3239	B-b	C7	完形	下呂石	2.1	1.1	0.4	0.6		
4339	C-b	C7	先端、茎部欠	下呂石	(1.7)	1.3	0.4	(1.0)		
1230-2	その他	C7	先端、下部欠	下呂石	(2.6)	1.4	0.4	(1.6)		
1230-3	その他	C7	頭部のみ	黒曜石	(1.3)	(1.3)	(0.5)	(0.6)		
4354	その他	C7	下部欠	下呂石	(2.1)	1.4	0.6	(1.6)		
3043	B-a	C8	完形	チャート	2.0	1.3	0.3	0.9		
32	C-a	C8	先端部欠	下呂石	(2.4)	1.4	0.6	(1.4)		
4351	その他	C8	下部欠	黒曜石	(2.2)	(1.8)	0.4	(1.3)		
1839-5	A-a	C11	完形	下呂石	1.8	1.6	0.3	0.8		
3012	C-a	C12	茎部少欠	下呂石	(2.9)	1.7	0.4	(1.3)	82－52	
4037-19	D-b	C12	先端部欠	下呂石	(2.6)	1.2	0.4	(1.0)	82－70	
95-1	B-a	C13	完形	チャート	1.5	1.1	0.3	0.4	82－11	
95-2	B-a	C13	完形	下呂石	1.6	1.6	0.4	0.9		
95-3	B-a	C13	完形	下呂石	2.1	2.2	0.6	1.9	82－24	
1958	B-a	C13	頭部、片脚部欠	下呂石	(1.7)	(1.6)	0.4	(0.8)		
2481	B-a	d3	完形	下呂石	1.3	1.3	0.4	0.5		
2908	B-a	d3	両端部欠	下呂石	(1.3)	(1.0)	0.3	(0.4)		
2483	B-b	d3	完形	下呂石	1.8	1.4	0.4	0.7		

（石鏃）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
2907-1	B-b	d 3	完形	下呂石	2.4	1.8	0.6	1.9		
2906-2	B-c	d 3	完形	下呂石	1.0	0.9	0.3	0.2		
2480	C-a	d 3	茎部少欠	黒曜石	(2.4)	1.2	0.4	(1.0)		
4361	その他	d 3	一部欠	下呂石	1.9	1.9	0.5	(1.5)		
2473	B-a	d 4	頭部欠	黒曜石	(1.2)	1.4	0.3	(0.5)		
2458	C-b	d 4	完形	下呂石	3.4	1.3	0.4	1.5	82−61	
2435	B-b	d 5	完形	黒曜石	2.4	1.4	0.3	1.1	82−42	
2866	B-b	d 5	完形	下呂石	2.1	1.2	0.3	0.7		
2867	B-b	d 5	完形	チャート	1.7	0.9	0.2	0.2	82−41	
2433	C-a	d 5	完形	下呂石	3.4	1.9	0.7	3.3		
3272	B-b	d 6	先端・片脚部欠	黒曜石	1.9	(1.3)	0.3	(0.7)		
1222	C-b	d 6	上部欠	チャート	(1.9)	1.3	0.3	(1.1)		
4353	その他	d 6	上部・下部欠	下呂石	(2.0)	(1.6)	0.5	(1.2)		
713	B-a	d 8	頭部欠	チャート	(1.8)	1.6	0.7	(2.1)		
4337	C-a	d 8	先端部欠	下呂石	(1.9)	1.5	0.6	(1.3)		
936-4	B-a	d 10	完形	下呂石	1.7	1.6	0.3	0.6		
949	B-a	d 10	完形	黒曜石	2.0	1.7	0.3	0.6	82−21	
12-1	B-a	d 11	片脚部欠	チャート	2.2	1.5	0.5	(1.0)	82−22	
12-2	C-a	d 11	完形	下呂石	2.2	1.5	0.4	0.9		
4036	B-b	d 13	完形	下呂石	3.4	2.0	0.5	2.1	82−33	
2610-4	D-a	d 13	完形	黒曜石	3.3	2.3	0.5	3.2	82−66	
4348	その他	d 13	完形	下呂石	2.1	1.5	0.7	1.8		（先端丸い）
1692	C-a	e 3	完形	下呂石	2.6	1.3	0.5	1.7		
3005	C-a	e 3	ほぼ完形	下呂石	2.5	1.2	0.4	1.0		
3882	その他	e 3	右側部欠	下呂石	(2.4)	(0.8)	0.7	(0.8)		
1272	その他	e 3	一部欠	下呂石	(2.5)	1.6	0.5	(2.0)		
853	B-a	e 4	片脚部欠	下呂石	1.7	(1.4)	0.3	(0.6)		
4359	その他	e 4	上部・下部欠	下呂石	(1.5)	1.2	0.5	(1.0)		
3884	A-a	e 5	完形	下呂石	3.2	2.2	0.7	3.8	82− 7	
8	A-a	e 5	完形	下呂石	2.8	1.9	0.7	3.5	82− 6	
4071	B-a	e 6	両脚部欠	黒曜石	1.7	(1.3)	0.2	(0.3)		
722	B-b	e 6	片脚部欠	黒曜石	2.1	(1.0)	0.4	(0.7)		
3311-3	B-b	e 6	上部欠	下呂石	(2.3)	1.9	0.5	(2.0)		
4383	C-a	e 7	上部欠	下呂石	(1.9)	1.4	0.5	(1.0)		
764	B-a	e 8	片脚部欠	下呂石	1.4	(1.1)	0.2	(0.2)		
1235	B-a	e 8	片脚少欠	チャート	1.6	1.2	0.3	(0.5)		
4029-2	B-a	e 8	完形	下呂石	1.4	1.6	0.3	0.3	82−15	
89	B-a	e 9	片脚少欠	チャート	(1.2)	(1.6)	0.3	(0.6)	82−26	特殊形
1003	B-a	e 9	片脚部欠	チャート	(1.9)	(1.3)	0.3	(0.5)		
3036	B-b	e 9	完形	下呂石	1.7	1.3	0.3	0.5		
1457-2	C-a	e 9	完形	チャート	3.3	1.5	0.3	1.6	82−50	
2153	C-a	e 9	完形	玉髄	3.0	1.5	0.4	1.4	82−53	
146	B-a	e 10	片脚部欠	下呂石	1.7	(1.8)	0.2	(0.5)	82−20	
2170	B-b	e 10	先端・片脚部欠	下呂石	(1.7)	(1.3)	0.5	(0.7)		
2258-1	A-a	e 11	完形	玉髄	1.9	1.2	0.4	0.8		
1945-3	A-a	e 12	先端部欠	下呂石	(1.8)	1.2	0.3	(0.7)		
4320	A-a	e 13	左端部欠	黒曜石	1.4	(1.3)	0.5	(0.7)		
105	A-b	e 13	先端部欠	下呂石	(2.5)	1.6	0.5	(1.8)		
4325	B-a	e 13	片脚部欠	下呂石	1.9	(1.4)	0.6	(1.0)		
3014-1	B-b	e 13	片脚部欠	黒曜石	3.4	(1.3)	0.4	(1.2)	82−31	

（石鏃）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3014-2	その他	e 13	頭部のみ	黒曜石	(1.2)	(1.0)	0.3	(0.3)		
3881-9	その他	f 5	左端部欠	下呂石	(3.1)	(2.6)	1.0	(6.9)		未製品
3881-10	その他	f 5	先端部欠	下呂石	(3.1)	2.7	1.0	(5.5)		未製品
1658-1	B-a	f 6	片脚部欠	下呂石	1.4	(1.1)	0.3	(0.3)		
4324	B-a	f 6	下部のみ	下呂石	(1.3)	1.2	0.5	(1.0)		
4331	B-a	f 6	片脚部欠	黒曜石	(1.4)	(1.0)	0.3	(0.3)		特殊形
1660	B-c	f 6	完形	下呂石	2.1	1.2	0.4	0.8	82－44	
1658-2	その他	f 6	先端部のみ	下呂石	(1.5)	(0.8)	(0.3)	(0.3)		
3873	A-c	f 8	完形	黒曜石	2.2	1.3	0.5	1.4		
3874	C-a	f 8	先端・茎部欠	黒曜石	(2.4)	1.3	0.4	(1.5)		
147	B-b	f 9	完形	下呂石	3.3	1.8	0.6	2.8	82－32	
124-1	B-a	f 10	片脚部のみ	黒曜石	(1.7)	(1.4)	0.3	(0.7)		
2227	B-a	f 10	完形	下呂石	1.9	1.5	0.3	0.5	82－16	
3415	B-a	f 10	片脚部欠	チャート	(2.2)	(1.7)	0.4	(1.4)		
2229	B-b	f 10	片脚部欠	下呂石	2.5	(1.3)	0.3	(0.6)		
3172	B-b	f 10	片脚部欠	黒曜石	1.9	(1.1)	0.3	(0.4)		
3379	B-b	f 10	完形	下呂石	2.3	1.6	0.4	0.8	82－37	
124-2	B-c	f 10	完形	下呂石	2.4	1.5	0.3	0.8	82－45	
4313	A-a	f 11	完形	下呂石	2.9	1.8	0.5	1.6		
2333	B-a	f 11	完形	下呂石	1.3	1.3	0.2	0.3		
3388	B-a	f 11	完形	下呂石	1.4	1.4	0.3	0.4		
3391-2	B-a	f 11	片脚部欠	黒曜石	1.5	(1.4)	0.3	(0.5)		
3451	B-a	f 11	片脚部欠	下呂石	2.1	(1.3)	0.4	(0.9)		
3452	B-a	f 11	両脚部少欠	下呂石	1.8	(1.5)	0.5	(0.9)		
986	B-b	f 11	完形	チャート	2.5	1.6	0.4	0.3	82－36	
1176-3	B-b	f 11	完形	下呂石	2.4	1.4	0.3	0.7	82－38	
2768	B-b	f 11	完形	下呂石	1.9	1.1	0.4	0.7		
3391-1	B-b	f 11	完形	下呂石	2.7	1.6	0.5	1.4		
1942	A-a	f 12	左側一部欠	下呂石	1.8	(1.4)	0.5	(0.9)		
72-1	B-a	f 12	片脚部欠	下呂石	1.9	(1.3)	0.3	(0.6)		
4321	B-a	f 12	完形	下呂石	1.9	1.4	0.3	0.7	82－25	
4332	B-a	f 12	片脚部欠	黒曜石	(1.2)	(1.5)	0.5	(0.8)	82－27	特殊形
72-2	B-c	f 12	片脚部欠	下呂石	(1.8)	(1.4)	0.4	(1.0)	82－46	
3015	B-a	f 13	完形	下呂石	1.9	1.5	0.5	1.0		
1685	B-a	g 4	完形	下呂石	1.8	1.6	0.5	1.0		
4356	その他	g 4	下部欠	下呂石	(1.8)	1.8	0.6	(1.8)		
1266	その他	g 5	頭部のみ	下呂石	(1.9)	(1.7)	(0.6)	(1.2)		
4343	その他	g 6	先端部欠	下呂石	(2.7)	2.0	0.7	(3.2)		未製品
1253-1	B-a	g 7	先端部欠	下呂石	(1.6)	1.1	0.3	(0.4)		
51	B-a	g 7	完形	下呂石	1.7	1.4	0.4	1.0		
2983	B-b	g 7	頭部欠	下呂石	(1.9)	1.7	0.4	(1.0)		
1253-2	C-a	g 7	上部・茎部欠	下呂石	(2.9)	1.1	0.7	(2.6)		
4350	その他	g 7	½片側欠	チャート	(2.7)	(1.3)	0.5	(1.6)		
4326	B-a	g 8	片脚部欠	下呂石	2.4	(1.3)	0.4	(0.8)		
3850	B-b	g 8	完形	下呂石	3.2	2.0	0.7	3.4	82－34	
160-1	A-a	g 9	完形	下呂石	1.9	1.5	0.3	0.7	82－3	
994-4	B-a	g 9	片脚部欠	チャート	2.0	(1.1)	0.4	(0.6)		
1491-2	B-a	g 9	完形	チャート	1.8	1.8	0.4	0.8	82－19	
160-2	B-b	g 9	片脚部少欠	下呂石	2.5	0.9	0.4	(0.6)		
160-3	B-b	g 9	完形	下呂石	2.5	1.6	0.5	1.8		

（石鏃）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
160-4	B-b	g 9	両脚部欠	下呂石	(2.4)	(1.0)	0.4	(0.7)	82－39	
3875	B-b	g 9	片脚部欠	下呂石	3.1	(2.1)	0.3	(1.6)		
1338	B-a	g10	完形	チャート	2.1	1.5	0.5	0.9		
987	その他	g10	完形	下呂石	2.4	2.2	0.8	4.1		
1239	その他	g10	先端部欠	下呂石	(1.6)	1.4	0.4	(0.8)		
162	A-a	g11	完形	水晶	1.5	1.5	0.5	1.1		
3380	A-a	g11	完形	下呂石	1.8	1.4	0.4	0.9		
460-24	B-a	g11	片脚部少欠	チャート	1.6	(1.4)	0.2	(0.5)		
2788-2	B-a	g11	片脚部欠	下呂石	1.9	(1.2)	0.3	(0.5)		
3382	B-b	g11	完形	下呂石	2.0	1.0	0.3	0.4	82－40	
3398	B-a	g11	完形	玉髄	1.6	1.1	0.4	0.7		
460-28	その他	g11	右端部欠	下呂石	2.7	(1.1)	0.5	(1.3)		
115-1	B-a	g12	完形	下呂石	1.9	1.6	0.3	0.7		
115-2	B-b	g12	両脚部欠	下呂石	(1.7)	(1.0)	0.3	(0.5)		
115-3	C-b	g12	茎部少欠	下呂石	(2.0)	1.1	0.5	(1.0)		
56	B-b	h 5	片脚部欠	下呂石	1.9	(1.1)	0.4	(0.6)		
54	A-a	h 7	左端少欠	チャート	2.4	(1.6)	0.4	(1.1)	82－5	
4329	B-a	h 7	両脚部欠	黒曜石	(1.5)	(1.8)	0.3	(0.5)		
2969	B-a	h 8	片脚部欠	チャート	2.0	(1.7)	0.4	(1.0)		
4024	B-a	h 8	完形	下呂石	2.4	1.5	0.5	1.4	82－23	
3310	B-b	h 8	完形	下呂石	4.0	1.4	0.5	2.1	82－28	
1248	その他	h 8	下部欠	下呂石	(3.1)	1.5	0.5	(2.0)		
161	B-c	h 9	完形	黒曜石	2.0	1.6	0.6	1.3		
4340	D-a	i 5	完形	下呂石	2.0	1.6	0.6	2.0	82－67	
1264	その他	i 5	上部・下部欠	下呂石	(1.6)	(1.3)	0.4	(0.7)		
57	C-b	i 6	完形	下呂石	2.5	1.3	0.5	1.1		
1250	B-b	i 7	片脚部欠	下呂石	2.3	(1.4)	0.4	(1.1)		
43	D-b	i 7	完形	下呂石	2.5	1.3	0.3	1.0	82－69	
0-5	A-a	表採	完形	下呂石	2.2	1.5	0.5	1.1		
4179	A-a	表採	先端部欠	下呂石	(1.8)	1.6	0.6	(0.4)		
4184	A-a	表採	左端部欠	下呂石	2.6	(2.0)	0.8	(3.5)		
4185	A-a	表採	完形	黒曜石	2.1	1.5	0.5	1.1	82－4	
4224	A-a	表採	先端部欠	下呂石	(2.4)	2.0	0.7	(3.1)		
4225	A-a	表採	両端部欠	下呂石	(1.8)	(1.2)	0.3	(0.6)		
4226	A-a	表採	先端部欠	下呂石	(1.7)	1.6	0.3	(1.0)		
4227	A-a	表採	先端部欠	下呂石	(1.7)	1.8	0.6	(1.6)		
4228	A-a	表採	完形	下呂石	1.4	1.4	0.3	0.4		
4229	A-a	表採	左端部欠	下呂石	1.7	(1.4)	0.3	(0.8)		
4230	A-a	表採	左端部欠	黒曜石	1.8	(1.4)	0.6	(1.1)		
0-83	A-b	表採	完形	下呂石	2.9	1.9	0.5	2.3	82－8	
0-6	B-a	表採	片脚部欠	下呂石	1.7	(1.2)	0.3	(0.5)		
0-147	B-a	表採	完形	下呂石	1.6	1.5	0.3	0.5		
4178	B-a	表採	完形	チャート	1.5	1.0	0.2	0.4		
4180	B-a	表採	両端部欠	下呂石	(1.6)	(1.1)	0.3	(0.5)		
4181	B-a	表採	完形	下呂石	1.5	0.8	0.2	0.2	82－12	
4182	B-a	表採	両端部欠	下呂石	(1.6)	(1.1)	0.2	(0.3)		
4183	B-a	表採	片脚部欠	下呂石	(1.3)	(1.2)	0.3	(0.5)		
4184	B-a	表採	上部・片脚部欠	下呂石	(1.8)	(1.3)	0.5	(1.0)		
4196	B-a	表採	完形	下呂石	2.0	1.5	0.6	1.5		
4209	B-a	表採	先端部欠	下呂石	(1.7)	1.3	0.4	(0.8)		

（石鏃）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
4212	B-a	表採	片脚部欠	下呂石	2.4	(1.4)	0.4	1.1		
4213	B-a	表採	片脚部欠	チャート	2.0	(1.3)	0.4	(1.0)		
4214	B-a	表採	両脚部欠	下呂石	(1.3)	(1.1)	0.3	(0.3)		
0-98	B-b	表採	片脚部欠	下呂石	1.9	(0.9)	0.4	(0.5)		
4210	B-b	表採	先脚部欠	下呂石	(2.5)	1.6	0.7	(2.8)		
4211	B-b	表採	片脚部欠	下呂石	3.3	(1.3)	0.4	(1.5)		
4215	B-b	表採	½片側部欠	下呂石	(2.5)	(0.9)	0.3	(0.6)		
0-131	B-c	表採	片脚部欠	下呂石	1.5	(1.1)	0.3	(0.5)		
581	C-a	表採	完形	下呂石	2.6	1.3	0.6	1.7		
4177	C-a	表採	茎部少欠	黒曜石	(2.2)	1.4	0.5	(1.3)	82－59	
4186	C-a	表採	茎部欠	黒曜石	1.4	1.6	0.3	0.7		
4187	C-a	表採	先端部欠	下呂石	(2.2)	1.2	0.4	(1.0)		
4216	C-a	表採	完形	下呂石	2.2	1.8	0.6	1.5		
4217	C-a	表採	先端・茎部欠	下呂石	(3.4)	1.5	0.7	(3.5)		
4219	C-a	表採	三端欠	チャート	(1.7)	(1.5)	0.4	(1.1)		
4220	C-a	表採	頭部・茎部欠	下呂石	(2.2)	1.3	0.5	(1.2)		
4221	C-a	表採	頭部欠	下呂石	(1.9)	1.3	0.5	(1.0)		
4188	C-b	表採	完形	チャート	3.5	1.5	0.5	2.1	82－60	
4218	C-b	表採	頭部・茎部欠	下呂石	(1.8)	1.5	0.5	(1.3)		
4222	D-a	表採	完形	凝灰質頁岩	2.2	1.7	0.8	2.5		
4223	D-a	表採	完形	下呂石	2.2	1.6	0.5	1.8	82－68	
4231	その他	表採	先端部のみ	下呂石	(1.9)	(1.8)	(0.6)	(1.3)		
4232	その他	表採	下部欠	黒曜石	(1.6)	(1.2)	0.3	(0.5)		
4233	その他	表採	先端部のみ	チャート	(1.5)	(1.0)	0.5	(0.6)		
4234	その他	表採	一部欠	玉髄	(1.2)	1.6	0.4	(0.9)		
4235	その他	表採	先端部のみ	黒曜石	(1.4)	(1.0)	0.4	(0.5)		
4236	その他	表採	先端部のみ	黒曜石	(1.6)	(1.0)	0.4	(0.5)		
4237	その他	表採	頭部のみ	下呂石	(1.1)	(1.0)	0.3	(0.3)		

2．尖頭石器　（挿図83－1～5）

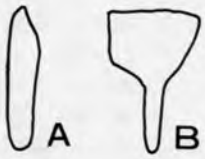
先端の尖った両面・半両面加工の石器を尖頭石器としたが、石槍先とは特定できない。ただ調整の丁寧なシンメトリカルなものは槍先かも知れない。12点あり、下呂石製が多い。

表9　尖頭石器一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
418-1		SB1	完形	下呂石	5.4	2.9	1.3	16	60-2-23	
4011-30		西P52	完形	下呂石	5.6	2.4	1.0	12		
2111		a 2	一部欠	下呂石	3.4	1.8	1.1	(5.0)	83－3	
1777		b 2	先端少欠	下呂石	(5.8)	1.9	1.0	(9.0)	83－5	
844		c 4	完形	下呂石	4.2	2.7	1.3	12.5	83－4	
2507		c 4	完形	チャート	3.3	2.0	0.7	4.8	83－2	
4286		f 9	完形	チャート	2.8	2.2	0.8	5.0		
709		h 8	完形	下呂石	3.0	1.9	0.9	5.0		
4239		表採	完形	下呂石	3.0	1.5	0.9	4.1		
4240		表採	完形	下呂石	2.5	1.9	0.7	3.3		
4241		表採	完形	下呂石	2.9	1.9	1.1	5.5	83－1	
4242		表採	完形	下呂石	2.3	1.9	0.7	3.0		

3．石錐　（挿図83－6～35）

棒状錐をA、つまみ付のものをBタイプとした。Bタイプはさらに、錐部の長いB－1タイプ、錐部とつまみ部のほぼ等しいB－2タイプ、錐部とつまみ部の区別が明瞭でないB－3タイプに分けられる。総数136点でA：Bはほぼ同数である。BタイプではB－1タイプが多い。錐部に顕著な磨滅痕を残すものは僅かに5点で、石錐による穿孔対象はあまり堅くない様である。石質別では下呂石60％、チャート32％、黒曜石4％、その他4％で比率的には石鏃の場合と似かよるが、チャートがやや多いのは、硬度にも関係があると思われる。



（農具、工具）

表10　石錐一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	キリ部長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
4089-3	A	SB2上層	完形	チャート	2.8	—	1.1	0.6	1.4	64-4・25	
3988-13	A	東P229-E	完形	頁岩	4.8	—	1.2	0.9	5.4		
3988-14	B	東P229-E	完形	チャート	3.8	1.90	2.1	1.0	7.3		
3510-1	A	SB4東P60	一部欠	下呂石	2.9	—	0.9	0.6	(1.4)		
1732	A	グリット別a1	完形	下呂石	2.2	—	0.9	0.6	1.4		
4366	A	a1	両端部欠	下呂石	(2.0)	—	1.0	0.5	(1.2)		
4369	A	a1	一端欠	チャート	(1.8)	—	1.1	0.5	(0.9)		
1728-1	B-1	a1	つまみ部欠	チャート	(1.7)	1.02	1.3	0.4	(0.7)		
1732	B-3	a1	完形	下呂石	3.7	0.56	2.1	1.0	6.3		
2142	B-3	a1	完形	下呂石	4.0	1.06	2.3	1.0	6.3		
2543	B-1	a1	先端部少欠	玉髄	(2.1)	(0.78)	0.9	0.5	(0.8)		
4376	B-3	a1	完形	下呂石	2.5	0.82	1.5	0.6	1.4		
4378	B-3	a1	完形	下呂石	3.3	1.43	1.6	0.7	3.1		
4379	B-1	a1	完形	下呂石	2.7	1.07	1.4	0.4	1.2		
1733	A	a2	完形	下呂石	3.2	—	1.2	0.6	2.1		
1744-1	A	a2	完形	チャート	2.5	—	1.2	0.6	2.0		
1744-2	A	a2	完形	下呂石	3.3	—	1.0	0.7	2.3		
2110-2	A	a2	一端欠	下呂石	(0.5)	—	0.9	0.5	(0.7)		
4364	A	a2	完形	下呂石	2.9	—	0.9	0.5	1.7		
4365	A	a2	⅔	下呂石	(2.5)	—	0.8	0.5	(1.1)		
4367	A	a2	一端欠	チャート	(1.3)	—	0.8	0.3	(0.3)		
4368	A	a2	一端欠	チャート	(1.7)	—	0.8	0.4	(0.4)		
4370	A	a2	完形	下呂石	2.2	—	1.0	0.4	0.7		
1739-1	B-1	a2	先端部欠	チャート	(2.9)	(0.78)	1.3	0.7	(2.2)		
1744-3	B-3	a2	完形	下呂石	2.8	(0.57)	1.1	0.6	1.8		
2110-3	B-3	a2	完形	チャート	2.8	1.62	1.4	0.6	2.0	83－31	
2111	B-1	a2	錐部欠	チャート	(2.2)	(0.4)	1.3	0.6	(1.9)		
2112	B-3	a2	完形	チャート	3.1	1.10	2.0	0.7	3.1		
4374	B-1	a2	錐部欠	チャート	(2.2)	(0.87)	2.0	0.8	(2.6)		
4375	B-1	a2	錐部欠	下呂石	(2.1)	(0.73)	1.3	0.6	(1.8)		
4381	B-1	a2	完形	黒曜石	2.1	0.94	1.4	0.4	0.7	83－16	
2431	A	a4	完形	下呂石	2.2	—	1.0	0.6	1.1		
1830	A	b1	完形	下呂石	3.3	—	1.0	0.7	2.6		磨滅痕有
2095	A	b2	完形	玉髄	3.7	—	0.9	0.5	1.4	83－13	
4371	A	b2	完形	下呂石	2.1	—	0.6	0.5	0.7		
856	B-1	b2	完形	チャート	3.1	0.81	2.1	0.8	3.5	83－23	

（石錐）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	キリ部長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3645	B-1	b 2	完形	チャート	2.9	0.88	1.4	0.7	2.6	83－17	
2429	B-3	b 3	完形	下呂石	2.4	1.52	1.3	0.6	1.4		
2537-3	B-2	b 3	完形	下呂石	1.5	0.31	2.1	0.6	1.6		
85	A	b 4	完形	下呂石	2.8	—	0.9	0.8	1.8		磨滅痕有
2521	A	b 4	ほぼ完形	チャート	1.6	—	0.7	0.4	0.5		
2523	A	b 4	一端欠	下呂石	(1.9)	—	0.7	0.6	(0.5)		
1270	B-1	b 4	錐部欠	下呂石	(2.8)	(0.58)	1.8	0.7	(2.9)		
4380	B-1	b 4	完形	下呂石	2.0	1.03	1.3	0.4	1.0		
842-1	A	b 5	¾	下呂石	(3.3)	—	0.9	0.5	(1.7)		
842-2	A	b 5	両端欠	チャート	(2.1)	—	0.6	0.4	(0.6)		
2799	A	b 6	完形	下呂石	4.1	—	1.1	1.0	4.5		
955-1	A	b 11	一端欠	下呂石	(2.8)	—	0.8	0.6	1.4		
955-2	A	b 11	完形	下呂石	3.6	—	1.4	0.9	3.6	83－11	
1833-12	B-2	b 11	完形	チャート	2.6	0.51	1.8	0.9	3.1		
1972-1	A	b 12	完形	下呂石	2.6	—	1.0	0.6	1.6		
3015	B-1	b 13	完形	下呂石	2.3	0.83	1.8	0.5	1.7		
126	A	c 1	ほぼ完形	チャート	1.6	—	0.8	0.4	0.5	83－6	
1791	B-1	c 2	完形	チャート	2.3	1.07	2.1	0.8	2.5	83－21	
2913-3	B-1	c 2	先端部欠	チャート	(2.8)	(0.61)	2.0	1.2	(6.5)		
4063	A	c 3	完形	黒曜石	3.1	—	1.0	0.6	1.8		
120	B-3	c 3	完形	チャート	3.9	0.70	1.6	0.8	4.8	83－35	
121	A	c 4	完形	下呂石	4.2	—	0.9	0.6	2.5	83－14	
844	B-3	c 4	完形	下呂石	3.7	1.25	1.6	1.0	5.6		
62	A	c 5	一端欠	下呂石	(2.2)	—	1.0	0.7	(1.3)		
4372	A	c 5	一端欠	黒曜石	(1.8)	—	1.0	0.5	(0.9)		
843	B-2	c 5	完形	下呂石	2.7	0.71	1.7	0.6	2.4		
2519	B-2	c 5	完形	下呂石	6.4	0.62	3.7	1.1	20.2	83－30	
2883	B-3	c 5	錐部欠	下呂石	(3.4)	(0.90)	1.8	0.7	(3.2)		
2810	A	c 6	完形	チャート	2.7	—	1.1	0.7	1.8		
2811	A	c 6	一端欠	チャート	(2.1)	—	1.1	0.8	(1.6)		
3268-1	B-3	c 6	完形	下呂石	3.3	1.37	1.9	1.0	5.2	83－33	
1230	A	c 7	完形	下呂石	3.3	—	1.0	0.6	1.9		
2634-4	A	c 12	一端欠	チャート	(1.9)	—	0.8	0.6	(1.0)		
3012	B-3	c 12	完形	下呂石	3.3	1.34	1.5	1.0	4.7		
4037-13	B-1	c 12	完形	下呂石	3.9	2.40	1.5	0.9	4.6	83－24	
4373	A	d 3	完形	下呂石	1.9	—	1.0	0.7	1.4		
847	A	d 5	両端欠	チャート	(1.9)	—	0.7	0.5	(0.7)		
2434	B-3	d 5	完形	下呂石	3.6	1.62	1.6	0.9	3.7	83－32	
29	B-1	d 6	両端欠	下呂石	(2.6)	(1.57)	1.3	0.7	(2.2)		
4377	B-2	d 6	完形	下呂石	2.1	0.60	1.7	0.6	1.7		
12	A	d 11	完形	チャート	7.2	—	1.0	0.7	2.1		
3010-1	A	d 12	完形	チャート	3.1	—	1.0	0.6	1.8		
3010-2	B-2	d 12	完形	下呂石	3.1	0.61	1.5	0.6	2.7		
1950	B-2	d 13	完形	下呂石	4.5	0.83	3.5	1.0	10.5	83－29	磨滅痕有
3005	B-2	e 3	錐部欠	下呂石	(3.6)	(0.60)	2.3	0.9	(9.7)		
1233	A	e 6	一端欠	黒曜石	(2.1)	—	1.0	0.6	(1.4)		
1227	B-3	e 8	完形	下呂石	2.4	0.46	1.4	0.5	1.5		
1003	B-2	e 9	完形	下呂石	3.1	0.70	3.0	0.9	6.4		
107	A	e 12	完形	チャート	3.0	—	0.9	0.5	1.6		
4039-13	A	e 12	完形	チャート	3.1	—	1.2	0.6	2.4		

（石錐）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	キリ部長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3014	B-1	e 13	錐部欠	下呂石	(2.0)	(1.24)	2.3	0.7	(2.0)		
58	B-1	f 4	先端部欠	チャート	(2.4)	(1.08)	1.8	0.6	(1.6)	83－20	
852	B-2	f 4	完形	下呂石	4.7	0.37	3.5	0.9	12.0	83－26	磨滅痕有
24	B-1	f 7	先端部欠	下呂石	(2.9)	(1.44)	2.4	0.8	(3.5)	83－22	
737-3	B-1	f 8	完形	チャート	4.5	1.66	1.6	0.9	4.9	83－25	
1095-1	A	f 9	完形	チャート	2.8	—	0.9	0.6	1.8	83－9	
124-1	A	f 10	一端部欠	下呂石	3.6	—	1.4	0.9	(4.4)		
124-2	A	f 10	完形	下呂石	3.1	—	1.0	0.5	1.6	83－10	
140	A	f 10	完形	下呂石	1.9	—	0.7	0.3	0.4	83－7	
1238	B-1	f 10	完形	チャート	3.2	2.56	1.7	0.7	3.4		
2258-2	B-1	f 10	先端部欠	チャート	(1.6)	(0.45)	1.3	0.6	(1.0)		
92	A	g 9	完形	下呂石	3.7	—	1.2	0.8	3.6		
160	A	g 9	完形	下呂石	3.8	—	1.0	0.7	2.9	83－15	
3876	B-1	g 9	完形	頁岩	4.0	1.97	1.6	0.5	2.9	83－19	
460-19	A	g 11	完形	チャート	2.7	—	1.1	0.3	1.0		
2327-1	A	g 11	完形	チャート	2.3	—	0.4	0.5	0.3		
990	B-1	g 11	完形	下呂石	2.0	1.35	1.3	0.4	1.0		
2327-2	B-2	g 11	完形	黒曜石	4.5	0.69	1.5	0.8	3.5	83－27	
720	B-3	h 7	完形	下呂石	2.3	0.80	1.5	0.6	1.7		
4363	A	h 8	完形	チャート	2.6	—	1.2	0.7	2.3		
161	B-2	h 9	完形	下呂石	4.1	0.41	2.6	1.0	8.4		
993-36	B-1	h 9	完形	下呂石	3.3	1.58	1.6	0.7	2.2	83－18	断面三角
721	A	i 7	完形	下呂石	3.8	—	1.3	0.9	4.1	83－12	
0-24	A	表採	完形	下呂石	2.0	—	0.8	0.3	0.5		
0-130	A	表採	完形	チャート	2.7	—	1.0	0.6	1.4		
116-1	A	表採	完形	下呂石	2.8	—	1.3	0.7	2.3		
4190	A	表採	完形	下呂石	2.5	—	0.9	0.7	1.4		
4243	A	表採	完形	下呂石	3.2	—	1.1	0.6	2.4		
4245	A	表採	ほぼ完形	下呂石	3.2	—	1.5	0.8	3.9		
4246	A	表採	完形	下呂石	3.3	—	1.3	0.7	2.9		
4247	A	表採	先端部少欠	下呂石	(2.8)	—	1.1	1.1	(4.1)		
4248	A	表採	完形	チャート	2.9	—	0.9	0.6	1.9		
4249	A	表採	完形	チャート	2.2	—	1.3	0.7	1.9		
4250	A	表採	先端部少欠	玉髄	2.1	—	0.7	0.4	0.6		
4251	A	表採	完形	下呂石	2.3	—	1.1	0.6	1.3		
4252	A	表採	⅔	チャート	(2.2)	—	1.0	0.6	(1.3)		
4254	A	表採	両端部欠	下呂石	(3.0)	—	0.9	0.5	(1.6)		
4256	A	表採	一端欠	チャート	(2.8)	—	1.0	0.5	(1.9)		
4257	A	表採	完形	下呂石	2.4	—	0.8	0.5	1.1	83－8	先端磨滅
116-2	B-1	表採	完形	下呂石	2.4	0.98	1.2	0.5	1.3		
4189	B-3	表採	完形	下呂石	3.1	0.68	1.5	0.8	3.4		
4244	B-3	表採	完形	下呂石	3.0	1.04	1.5	0.8	3.6		
4253	B-3	表採	完形	下呂石	2.6	0.75	1.3	0.7	2.5		
4255	B-3	表採	4／5	下呂石	3.1	0.54	1.8	1.1	5.6		
4259	B-3	表採	完形	下呂石	3.7	1.20	2.1	0.7	4.5	83－34	
4260	B-2	表採	完形	下呂石	3.6	1.20	2.2	0.7	4.0	83－28	
4261	B-3	表採	完形	下呂石	3.2	0.56	1.8	0.9	4.8		
4262	B-1	表採	錐部欠	下呂石	(3.6)	0.61	2.9	0.8	(7.1)		
4263	B-1	表採	錐部少欠	チャート	(3.5)	(1.30)	1.8	0.7	(3.7)		
4264	B-2	表採	¾	チャート	(2.7)	(0.47)	1.6	0.8	(3.7)		

4．磨製石斧　（挿図84、85）

総数121点の内訳は定角式110点、乳棒状４点で、定角式ではさらに小形（６cm以下）30点、大形76点、ノミ形４点に区別される。石質は蛇紋岩が圧倒的に多く凝灰岩・砂岩が少量加わる。刃部が潰れたものが多いが、再加工して刃部が偏弯するものもあり、また石槌として利用したと思われるものもかなりある。頭部が潰れているものなど、クサビとして使用された痕跡であろう。小形のもので片刃気味となるものは着柄が異なり、手斧（ちょうな）であった可能性が強い。より小形で美麗なものは副葬品的な性格を有していたらしく、ピット群より玉類と共に出土している。穿孔途上のもの（挿図84－５）などはまさにその類型であろう。破損した磨製石斧の中央に凹み石状の敲打痕の残る資料がいくつかみられるが（挿図85－12）、凹石に転用したものか、何か別の意図があったものかはわからない。

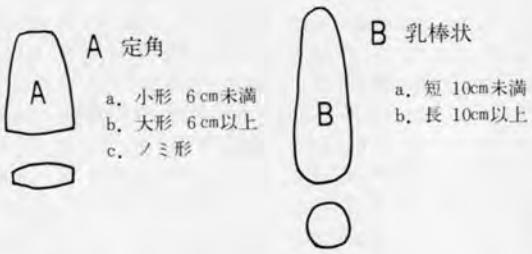


表11　磨製石斧一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
4046-1	A-b	SB1周辺P110	下半部欠½	凝灰岩	(8.8)	(5.5)	2.6	(120)	60-2・25	表面風化
557	A-a	SB1	頭部のみ	蛇紋岩	(3.9)	(2.8)	1.1	(16)	60-2・24	
265-1	A-b	SB1	刃部欠	蛇紋岩	8.9	4.7	2.2	(120)	60-2・26	刃部一部欠失鋭利
288	A-b	SB1	完形	凝灰岩	7.3	3.4	1.6	65	60-2・28	両刃
539	A-b	SB1	完形	蛇紋岩	7.0	4.0	1.3	60	60-2・27	刃部わずかに使用のつぶれ
4159	A-b	SB1・2号炉	刃部欠	凝灰岩	10.3	4.8	2.4	190	61-2・14	頭部敲打
3557	A-b	SK1上層	完形	凝灰岩	9.5	5.2	2.0	150	61-2・15	裏面は節理で剥落後再加工
4124-32	A-a	SB2下層	刃部欠	粘板岩	4.8	1.3	0.7	(7)	64-4・28	頭部にも刃あり
3303	A-b	SB2上層	完形	蛇紋岩	7.9	5.0	1.7	130	64-4・36	頭部敲打
3764	A-b	SB2上層	完形	砂岩	11.8	5.2	3.2	330	64-4・33	頭部刃部使用による潰れ
4121-1	A-b	SB2床面	完形	蛇紋岩	14.4	6.4	2.7	460	64-4・34	右下側縁敲打（再加工か）
3782-2	不明	SB2P12	破片	砂岩	(3.9)	(2.8)	(1.2)	(8.1)		
3887	A-b	SB3	完形刃の一部欠	蛇紋岩	14.9	6.2	2.4	(440)	65-2・11	刃部再加工偏弯
3684	A-a	SB4下層	完形	粘板岩	5.9	2.9	1.0	27	66-3・27	刃部わずかに潰れ
3713	A-b	SB4下層	側面下部欠	蛇紋岩	(5.9)	(3.1)	(1.6)	(40)		
3728	A-b	SB4下層	完形	蛇紋岩	10.6	5.7	2.5	250	66-3・30	刃部使用による破損
3733	A-b	SB4下層	完形	蛇紋岩	9.2	4.5	2.0	150	66-3・28	刃部使用による破損

（磨製石斧）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3736	A-b	ＳＢ４下層	完形	蛇紋岩	13.5	7.0	2.7	460	66-3・33	刃部破損、鉄分付着
3738	A-b	ＳＢ４下層	完形	凝灰岩	15.3	6.6	3.1	550	66-3・32	刃部使用による磨耗
3750	A-b	ＳＢ４下層	刃部欠	蛇紋岩	(9.2)	5.8	2.4	(220)		粗加工面残る
3919	A-b	ＳＢ４下層	完形	蛇紋岩	11.2	6.2	2.8	370	66-3・35	頭部刃部使用による潰れ、槌として使用か
4112	A-b	ＳＢ４下層	完形	蛇紋岩	10.8	5.3	2.7	300	66-3・29	頭部刃部使用による潰れ
4113	A-b	ＳＢ４下層	完形	蛇紋岩	11.1	5.3	2.2	250	66-3・31	刃部使用による破損
4114	A-b	ＳＢ４下層	完形	蛇紋岩	12.4	4.9	2.0	175	66-3・34	破損した磨製石斧を再加工して打製石斧に転用か
4117-1	その他	ＳＢ４	完形	蛇紋岩	12.3	6.1	3.5	315	66-4・36	未製品、自然円礫使用
4018-1	A-b	ＳＢ５	完形	凝灰岩	9.2	3.2	1.4	64	67-2・8	刃部使用による破損
4163	A-b	ＳＢ５ 石組炉の角	完形	蛇紋岩	14.1	6.8	2.7	480	67-2・13	刃部使用による破損、頭部わずかに敲打痕
4043-3	A-b	ＳＢ６	完形	蛇紋岩	13.1	5.9	2.7	420	68-2・16	刃部使用による損傷
4043-4	A-b	ＳＢ６	下半部欠損	蛇紋岩	(9.4)	(6.2)	2.8	(270)	68-2・15	
4043-7	A-b	ＳＢ６	完形	蛇紋岩	9.2	4.9	2.1	165	68-2・14	刃部使用による破損、粗加工面残る
3979-1	A-a	東Ｐ212	完形	蛇紋岩	5.0	2.8	1.0	22	71-2・29	
3496	A-b	東Ｐ47	下部欠	蛇紋岩	(8.4)	(5.8)	2.7	(240)		
3893-4	A-b	東Ｐ137	完形	蛇紋岩	7.6	4.5	1.8	115	71-2・35	刃部使用による潰れ、胴部中央両面に敲打
3964-1	A-b	東Ｐ182	胴部のみ	砂岩	(5.3)	(5.5)	3.4	(150)		
3989-23	A-b	東Ｐ229	刃部のみ	蛇紋岩	(2.7)	3.6	1.1	(15)		
3989-24	A-b	東Ｐ229	完形	蛇紋岩	6.8	3.0	1.1	31	71-2・31	刃部打痕
3914-5	その他	東Ｐ182	一部	蛇紋岩	(4.7)	(4.3)	(0.6)	(16)		破片
3519-5	A-b	ＳＫ２	完形	蛇紋岩	13.9	6.7	2.8	470	70-3・79	頭部・刃部使用による潰れ正面に２ケ所打痕
3486-1	A-b	ＳＢ４東Ｐ30	完形	凝灰質砂岩	10.1	3.7	2.0	110	71-2・32	
3568-1	A-b	西Ｐ43	胴部のみ	凝灰岩	(10.0)	(6.9)	3.4	(300)		
3569-2	A-b	西Ｐ38	完形	凝灰岩	11.5	5.4	2.4	270	71-2・34	刃部偏弯
3571-1	A-b	西Ｐ42	頭部欠	蛇紋岩	(5.1)	2.9	0.9	(21)	71-2・30	
3613-11	A-b	西Ｐ29-1	上½欠	蛇紋岩	(3.9)	(3.4)	1.1	(23)		
3621	A-b	西Ｐ10	下半部のみ	凝灰岩	(6.9)	5.1	2.5	(150)		
3566-1	その他	西Ｐ49	完形	蛇紋岩	14.5	8.3	3.0	530		未製品
3019	A-a	西Ｐ不整形ピット(ＳＫ3)	完形	蛇紋岩	3.5	1.8	7.1	7.6	70-3・74	淡緑色定角小型
4034	A-a	西ＰＳＫ３	完形	蛇紋岩	3.4	2.1	7.1	8.5	70-3・75	裏面に黒色被膜残る（ウルシ？）
1721	A-a	ａ１	完形	蛇紋岩	4.0	1.6	0.8	7.8	84－２	白色風化

（磨製石斧）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1719	A-b	a 1	上半分欠損	凝灰岩	(6.0)	4.2	1.9	(76)	85－9	刃部使用痕
1735	A-b	a 2	頭部・下部欠損	蛇紋岩	(5.0)	3.3	1.9	(58)		
2600-1	A-c	a 2	上半分欠	蛇紋岩	(2.8)	2.1	0.8	(8.0)		
2600-2	B-b	a 2	頭部のみ	粘板岩	(4.7)	4.0	(3.6)	(90)		
4199	A-b	b 1	部分	結晶片岩	(8.2)	(5.3)	2.7	(135)		
109	B-a	b 1	頭部欠損	砂岩	(8.4)	4.3	3.0	(190)	84－22	刃部以外敲打乳棒状(短)
2103	A-b	b 2	刃物のみ	蛇紋岩	(4.7)	6.5	3.2	(95)		
2890	A-a	b 4	完形	蛇紋岩	3.6	2.3	0.8	10	84－1	
85	A-b	b 4	完形	蛇紋岩	8.8	4.7	2.0	130	85－2	頭部潰れ
118	A-b	b 4	上半分欠損	蛇紋岩	(5.6)	4.1	2.1	(66)		
2802	A-a	b 6	頭部欠損	蛇紋岩	(4.7)	3.4	1.2	(29)	84－14	わずかに片刃
88	A-a	b 7	頭部のみ残る	蛇紋岩	(2.2)	(2.3)	0.8	(6.0)		
86	A-c	b 8	完形	粘板岩	4.1	1.7	0.8	8.3	84－20	石剣破片を再利用か
104	A-a	b 12	完形	蛇紋岩	5.5	3.3	1.1	31	84－6	頭部打痕、刃部使用による損傷
126-1	A-b	c 1	頭部欠損 刃部欠損	蛇紋岩	(10.8)	7.0	3.3	(360)		
126-2	A-b	c 1	上半部欠損	蛇紋岩	(6.4)	4.3	2.1	(96)		
861	A-a	c 2	頭部欠	蛇紋岩	(3.2)	2.3	0.7	(9.0)		
125-1	A-b	c 2	上半部欠損、刃部欠損	凝灰岩砂岩	(7.9)	6.2	2.8	(220)		
125-2	A-b	c 2	完形	蛇紋岩	8.0	3.6	1.8	73		刃部使用痕 破損部再加工
125-3	B-a	c 2	完形	泥岩	9.2	4.2	2.8	180	84－21	側縁敲打、刃部使用による損傷
1812	A-a	c 3	完形	蛇紋岩	4.9	3.1	1.0	23	84－9	片刃
28	A-a	c 7	頭部のみ残る	蛇紋岩	(2.1)	(2.3)	1.1	(6.0)		
1643	A-a	c 7	完形	蛇紋岩	4.4	2.8	0.8	15	84－4	頭部打痕、刃部使用による損傷
32	A-a	c 8	頭部欠損	蛇紋岩	(4.6)	3.1	1.4	(33)	84－13	
1412	A-b	c 9	完形	凝灰質砂岩	11.2	5.7	2.5	230	85－4	刃部使用による潰れ、わずかに片刃
893	A-b	c 10	完形	砂岩	9.2	4.7	2.2	(140)	85－3	頭部・刃部使用による潰れ、胴部表裏に凹石状の抉り一対
103	A-a	c 11	完形	蛇紋岩	5.2	3.2	1.0	28	84－11	頭部潰れ
959	A-b	c 11	完形	蛇紋岩	11.1	5.4	2.4	270	85－11	表面風化
2625	A-a	c 12	完形	蛇紋岩	5.1	3.2	1.0	22	84－7	やや片刃、刃部使用損傷・鉄分付着
1971	A-c	c 12	完形	蛇紋岩	6.4	2.0	1.0	21	84－19	やや片刃
1958	A-b	c 13	刃部のみ	蛇紋岩	(3.2)	(4.3)	(1.0)	(22)		
4049	A-a	d 3	完形	蛇紋岩	4.8	3.1	1.0	24	84－8	刃こぼれ、頭部打痕
3523	A-b	d 3	頭部欠損	蛇紋岩	(7.5)	4.3	2.5	(140)	85－6	やや片刃、刃部使用痕
3883-1	A-b	d 3	ほぼ完形	砂岩	11.6	6.0	3.0	350		
3883-2	A-b	d 3	頭部欠	蛇紋岩	(5.4)	4.0	1.1	(40)		

（磨製石斧）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
2468	A-b	d 4	完形	蛇紋岩	5.2	2.9	1.9	39		未製品
4059-1	A-a	d 5	頭部欠	蛇紋岩	(4.3)	2.9	0.9	(17)		
44	A-a	d 7	完形	蛇紋岩	4.6	3.2	1.0	24	84－10	刃部損傷
1436	A-b	d 9	完形	蛇紋岩	11.4	6.7	2.6	420		頭部打痕、刃部打痕
940	A-a	d 10	完形	蛇紋岩	5.9	3.3	1.3	42	84－17	刃部損傷
932	A-b	d 10	完形	凝灰岩	6.7	3.5	2.0	67	85－8	頭部打痕、右側縁は敲打
1905	A-b	d 10	下半部欠	角閃質安山岩	(9.9)	6.8	3.4	(380)		
39	A-b	e 7	完形	蛇紋岩	9.7	3.8	2.3	130	85－1	刃部鋭利、頭部打痕
358	A-b	e 10	上半部欠損	砂岩	(8.9)	6.8	3.1	(270)		刃部使用痕有
1841	A-b	e 11	一部のみ	凝灰岩	(1.8)	5.9	(1.5)	(16)		
1	A-b	e 13	先端の刃部のみ残る	蛇紋岩	(2.8)	(6.3)	2.1	(46)		
1661	A-a	f 6	上半部欠損	蛇紋岩	(4.1)	3.8	1.4	(37)	84－15	刃部磨耗
2991	A-a	f 8	刃部損傷	蛇紋岩	(4.6)	2.7	0.9	(20)	84－3	やや片刃
1484-3	A-a	f 9	下半部欠損	蛇紋岩	(3.1)	1.3	0.7	(4.0)		
205	A-b	f 9	側面の一部のみ残る	蛇紋岩	(7.4)	(3.7)	2.1	(56)		
76	A-b	f 10	上部欠損	蛇紋岩	(8.7)	4.9	2.3	(160)		刃部使用痕有
1128	A-b	f 10	完形	蛇紋岩	11.9	6.3	2.3	315	85－12	頭部、刃部使用による潰れ 胴部表裏に凹石状の抉り2対
1133	A-b	f 10	胴部のみ	蛇紋岩	(8.0)	7.2	3.4	(330)		
3445	A-a	f 11	胴部のみ	蛇紋岩	(1.5)	(1.4)	(0.7)	(1.0)		
1943	A-b	f 13	頭上半分欠	蛇紋岩	(7.6)	4.9	2.4	(150)	85－7	頭部折損後敲打刃部偏弯
813	A-b	g 7	完形	蛇紋岩	7.6	4.2	1.9	94	85－5	刃部潰れ
719	B-b	g 7	右半部欠	結晶片岩	(9.2)	(2.2)	3.5	(110)		
66	A-a	g 9	刃部少し欠損	蛇紋岩	4.9	(2.4)	0.8	(15.9)	84－5	定角小型穿孔途上
2695-1	A-a	g 9	完形	蛇紋岩	6.6	3.4	1.3	42	84－18	やや片刃、刃部使用による損傷
1056-2	A-b	g 9	完形	蛇紋岩	7.4	4.1	1.8	74		片面研磨、片面打製
4198	その他	g 10	一部のみ	凝灰岩	(3.7)	(2.7)	(0.7)	(6.0)		分類不可能
1165-2	A-b	g 11	上半部欠	輝緑凝灰岩	(7.1)	5.7	2.5	(200)	85－10	
2315	A-b	g 11	完形	蛇紋岩	10.4	4.7	2.1	200		刃部使用による潰れ
1680	A-a	h 5	上半部欠損	蛇紋岩	(5.3)	3.4	1.7	(48)	84－16	片面局部磨製
56	A-b	h 5	完形	凝灰岩	7.0	3.4	2.3	88		頭部打痕、刃部使用痕有
720	A-c	h 7	刃部欠	蛇紋岩	(5.4)	1.5	0.8	(12)		
4024	A-b	h 8	完形	蛇紋岩	7.6	3.9	2.2	105		
993-29	A-a	h 9	上半部欠損	蛇紋岩	(2.5)	1.8	0.6	(3.5)		
814	A-a	i 7	完形	蛇紋岩	5.6	3.2	1.0	23	84－12	やや片刃
0	A-b	表採	完形	砂岩	12.4	5.8	2.7	310		頭部打痕、刃部使用痕有
4207	A-b	表採	胴部のみ	蛇紋岩	(4.5)	(4.3)	1.2	(32)		
4208	A-b	表採	胴部のみ	蛇紋岩	(7.1)	4.0	1.7	(69)		
0-49	その他	表採	一部	蛇紋岩	(3.8)	(3.4)	(1.1)	(18)		分類不可能

5．打製石斧　（挿図86）

総数227点で短冊形が190点と82%を占め、撥形が37点、分銅形は２点である。石質は凝灰岩製が61%、緑色片岩が20%、砂岩12%、その他７%となっている。欠損率は48%で完形品にも磨滅痕のあるものが多い。

短冊形　撥形　分銅型

表12　打製石斧一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
251-1	短冊形	ＳＢ１	下半部欠	安山岩	(8.7)	6.0	4.3	(290)		
395	短冊形	ＳＢ１	⅔先端部欠	凝灰岩	(10.2)	7.4	2.2	(200)		
525	短冊形	ＳＢ１	先端部欠	砂岩	(8.4)	4.9	1.8	(110)		
913-1	短冊形	ＳＢ１	完形	凝灰岩	10.7	4.6	1.3	88	60-2・32	
3673-72	短冊形	ＳＢ１	完形	緑色片岩	9.2	4.9	0.8	40	60-2・31	節理面で剥落
3675-2	短冊形	ＳＢ１	下半部欠	凝灰岩	(6.6)	4.9	1.9	(80)	60-2・29	
552-2	撥形	ＳＢ１	完形	緑色片岩	8.7	5.2	1.5	80		
1835-25	撥形	ＳＢ１	完形	凝灰岩	8.5	5.5	1.2	48		
3676-57	撥形	ＳＢ１	½	緑色片岩	(8.6)	4.3	1.5	(54)	60-2・30	先端磨滅
3558-2	撥形	ＳＢ１ＳＫ１（深部）	完形	緑色片岩	9.0	5.6	1.4	66	61-2・16	裏面一枚の剥離面
3784-6	短冊形	ＳＢ２上層	½頭部のみ	凝灰岩	(8.8)	6.1	3.2	(250)		
3933	短冊形	ＳＢ２下層	完形	凝灰岩	21.2	6.8	2.1	405	64-4・37	表皮残る、刃部極めて鋭利（使用痕なし）
4124-31	短冊形	ＳＢ２下層	1／5先端欠	粘板岩	(7.0)	4.0	1.2	(41)		
4085-2	短冊形	ＳＢ３上層	破片	凝灰岩	(6.7)	(3.7)	(1.1)	(30)		
4085-3	短冊形	ＳＢ３上層	完形	緑色片岩	(8.0)	4.9	1.2	69	65-2・10	刃部わずかに磨耗
3724	短冊形	ＳＢ４下層	胴部のみ	凝灰岩	(6.5)	4.4	2.2	(72)		
3732	短冊形	ＳＢ４下層	上半部のみ残	緑色片岩	(6.9)	4.3	2.3	(79)		
4111	短冊形	ＳＢ４下層	完形	凝灰岩	8.2	4.3	1.6	73	66-4・39	刃部磨滅
4383	短冊形	ＳＢ４	先端部欠	凝灰岩	(10.4)	4.7	1.2	(61)		
4384	短冊形	ＳＢ４	破片	緑色片岩	(8.6)	4.3	1.1	(48)		
4386	短冊形	ＳＢ４位置有	完形	凝灰岩	9.7	5.4	1.6	110	66-4・38	裏面自然面残る刃部磨滅
4387	短冊形	ＳＢ４位置有	頭部のみ	凝灰岩	(4.9)	4.2	1.6	(43)		
4388	短冊形	ＳＢ４位置有	上半部残る	凝灰岩	(7.4)	5.3	1.4	(62)		
4117-2	撥形	ＳＢ４	頭部欠	緑色片岩	(11.4)	4.6	1.2	(65)	66-4・37	刃部やや磨滅
4117-3	その他	ＳＢ４	先端部のみ	凝灰岩	(9.3)	4.9	2.0	(84)		未製品
4150-1	短冊形	ＳＢ５	上半部欠	凝灰岩	(7.6)	5.7	1.7	(95)	67-2・10	
4151-1	短冊形	ＳＢ５	完形	角閃石凝灰岩	9.3	5.5	1.7	91	67-2・9	被火熱？裏面に少し自然面
4394	短冊形	ＳＢ６	下半部欠	緑色片岩	(5.0)	4.1	0.9	(23)		
3838	短冊形	東Ｐ117	完形	砂岩	11.5	4.1	1.5	93		
3840-13	短冊形	東Ｐ82	上部欠	砂岩	(9.1)	5.9	2.6	(180)		
3900-4	短冊形	東Ｐ125	完形	凝灰岩	11.8	5.0	1.5	140		
3950-1	短冊形	東Ｐ144	完形	凝灰岩	13.3	5.6	2.8	260		
3950-139	短冊形	東Ｐ144	下半部欠	凝灰岩	(7.2)	4.8	1.9	(75)		

（打製石斧）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3952-9	短冊形	東P162	刃部欠	凝灰岩	(10.1)	5.2	1.9	(100)		
3959-1	短冊形	東P173	胴部のみ	砂岩	(8.1)	6.1	(3.2)	(170)		
3970-9	短冊形	東P192	下部欠	凝灰岩	(10.5)	7.0	3.2	(360)		
3974-12	短冊形	東P201	上部欠	凝灰岩	(10.1)	7.1	1.6	(140)		
3985-2	短冊形	東P227	完形	緑色片岩	9.3	3.8	1.2	62		
3986-5	短冊形	東P229	完形	凝灰岩	12.2	6.2	1.6	150		
3989-1	短冊形	東P229	完形	凝灰岩	10.0	5.7	1.9	140		
3989-31	短冊形	東P229	一部	緑色片岩	(3.4)	3.9	0.6	(10)		
3991-57	短冊形	東P231	上半分欠	凝灰岩	(7.2)	6.1	2.0	(75)		
3985-4	撥形	東P227	上部欠	凝灰岩	(9.5)	6.9	1.8	(140)		
3991-58	撥形	東P231	完形	角閃石凝灰岩	(10.8)	6.7	2.1	(170)		
3993-13	不明	東P146	一部	緑色片岩	(6.2)	(3.3)	(0.6)	(15)		
3444	短冊形	P45	完形	凝灰岩	10.1	5.2	1.7	120		
3519-1	短冊形	P45	下部⅓欠	凝灰岩	(10.2)	6.9	2.9	(265)		
3519-2	短冊形	P45	完形	凝灰岩	7.5	5.6	2.1	80		
3519-3	短冊形	P45	完形	砂岩	14.4	6.0	2.2	250	70-3・80	一面に自然面 刃部磨耗
3519-4	短冊形	P45	完形	凝灰岩	10.1	5.2	1.5	(87)		刃部欠
3913	短冊形	P45	完形	凝灰岩	14.6	7.4	2.8	410	70-3・77	わずかに自然面
3480-2	短冊形	SB4東P19	完形	凝灰岩	9.5	4.2	1.9	110		
3481-1	短冊形	SB4東P23	⅓刃部のみ	角閃石凝灰岩	(5.8)	(5.9)	2.5	(100)		
3485-2	短冊形	SB4東P28	上半部のみ	流紋岩	(8.8)	6.2	2.2	(160)		
3516-1	短冊形	SB4東P76	完形	凝灰岩	9.7	4.9	2.3	110		
3914	短冊形	SB4東P86	½	角閃石凝灰岩	(6.1)	5.6	1.6	(78)		
3605-20	短冊形	西P22-2	完形	凝灰岩	11.4	5.1	1.9	150		
3605-35	短冊形	西P22-5	上半分のみ	凝灰岩	(6.9)	4.7	1.1	(43)		
3589-1	短冊形	西P60	刃部欠	凝灰岩	(12.3)	6.2	3.1	(270)		
4011-32	短冊形	西P110	下部欠	凝灰岩	(11.0)	5.7	2.4	(170)		
4013-1	短冊形	西P81	上部欠	凝灰岩	(11.6)	5.9	2.9	(230)		
4045-3	短冊形	西P109-A	完形	緑色片岩	12.5	5.9	1.4	100		
3589-2	その他	西P60	一部	砂岩	(10.1)	6.7	1.5	(150)		未製品
1726	短冊形	グリット別a1	頭部のみ残	凝灰岩	(6.6)	5.4	3.2	(140)		
2133	短冊形	a1	下部剝離	緑色片岩	(8.9)	4.4	2.0	(90)		
858	短冊形	a2	胴部	凝灰岩	(5.9)	4.3	1.7	(53)		
1743	短冊形	a2	完形	砂岩	12.9	6.9	3.5	355		
2106-1	短冊形	a2	完形	凝灰岩	9.5	5.8	1.8	95		
2109	短冊形	a2	完形	砂岩	13.6	5.5	3.1	290		
2111-1	短冊形	a2	完形	凝灰岩	10.9	5.9	2.9	240		
1734	撥形	a2	完形	角閃石凝灰岩	10.8	6.6	3.9	270		
1737	撥形	a2	完形	凝灰岩	11	6.2	3.3	240	86－9	
2111-2	撥形	a2	完形	凝灰岩	11.5	6.1	3.0	260		
2541	撥形	a2	完形	凝灰岩	7.3	5.1	1.8	65		
1759	短冊形	b1	完形	砂岩	13.2	6.5	2.9	280		
2943	短冊形	b1	上半部欠損	流紋岩	(9.7)	7.7	3.4	(350)		
1777	短冊形	b2	頭部欠	流紋岩	(6.7)	4.7	1.9	(74)		
2929-1	短冊形	b2	⅓下部のみ残る	凝灰岩	(5.2)	5.2	2.0	(70)		
2564	撥形	a2	完形	凝灰岩	12.2	7.1	3.0	345		
841-1	短冊形	b4	一部	緑色片岩	(2.7)	(3.0)	(0.6)	(9.0)		
841-2	短冊形	b4	胴部	粘板岩	(5.2)	3.3	0.6	(15)		

（打製石斧）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
841-3	短冊形	b 4	頭部のみ	凝灰岩	(5.8)	5.1	1.5	(64)		
841-4	短冊形	b 4	完形	凝灰岩	12.3	5.1	1.8	150		
2521	短冊形	b 4	頭部のみ	凝灰岩	(3.7)	4.0	1.3	(20)		
842-1	短冊形	b 5	完形	凝灰岩	12.1	5.3	2.5	200	86－6	
842-2	短冊形	b 5	刃部欠	緑色片岩	(4.8)	2.9	0.8	(16)		
2804	短冊形	b 6	胴部のみ残る	緑色片岩	(5.7)	4.0	1.3	(39)		
4195	短冊形	b 7	頭部欠	凝灰岩	(8.3)	6.4	2.3	(170)		
2426-6	短冊形	b 8	完形	凝灰岩	12.4	4.7	1.0	67		
800-1	撥形	b 8	完形	緑色片岩	9.7	4.3	1.4	61		
4194	短冊形	b 10	完形	緑色片岩	4.7	3.4	1.2	28		
685-1	短冊形	b 11	完形	角閃石凝灰岩	11.6	5.7	2.8	210	86－5	
689	短冊形	b 11	上半分欠	頁岩	(6.4)	6.2	1.7	(82)		
706	短冊形	b 11	完形	緑色片岩	10.9	4.8	1.8	120		
954	短冊形	b 11	上半部欠	凝灰岩	(6.1)	4.9	1.3	(47)		
133	短冊形	b 12	完形	凝灰岩	11.9	6.0	2.8	240		
3013	短冊形	b 12	完形	凝灰岩	10.9	6.6	3.3	210		凹石に転用か
1779-2	短冊形	c 1	完形	緑色片岩	9.8	3.9	1.4	55		
126-1	撥形	c 1	完形	砂岩	12.4	5.9	2.7	230		
126-2	撥形	c 1	完形	凝灰岩	9.4	4.9	1.1	47		
125-1	短冊形	c 2	完形	緑色片岩	8.2	4.3	1.3	60		
125-2	短冊形	c 2	下半部欠	凝灰岩	(5.6)	3.9	1.3	(32)		
1816-1	短冊形	c 2	刃部欠	凝灰岩	(6.8)	4.5	1.6	(61)		
1816-2	短冊形	c 2	刃部欠	緑色片岩	(7.4)	4.6	1.4	(47)		
125-3	撥形	c 2	完形	凝灰岩	10.5	5.7	2.2	150	86－8	
125-4	撥形	c 2	完形	緑色片岩	7.4	6.4	1.3	63		
1821-3	短冊形	c 3	上半部欠 下半部のみ	緑色片岩	(7.6)	7.4	1.4	(110)		
844	分銅形	c 4	完形	砂岩	8.6	6.3	2.4	150	86－12	
843-1	短冊形	c 5	完形	角閃石凝灰岩	7.8	3.5	1.2	45		
843-3	短冊形	c 5	頭部のみ	凝灰岩	(4.1)	3.5	1.6	(25)		
843-2	撥形	c 5	完形	凝灰岩	8.5	5.6	1.5	95	86－1	
28	短冊形	c 7	完形	砂岩	9.5	5.2	1.4	95		
3045	短冊形	c 7	胴部のみ	緑色片岩	(5.3)	3.7	1.0	(27)		
3248	短冊形	c 7	完形	緑色片岩	11.5	3.4	1.3	59		
1609	短冊形	c 8	完形	凝灰岩	8.1	4.5	2.1	76		
3197	短冊形	c 8	完形	凝灰岩	10.6	5.6	1.8	140		
154	短冊形	c 10	上半部欠	凝灰岩	(6.1)	5.1	1.9	(75)		
1410	短冊形	c 10	完形	砂岩	13.1	6.2	2.6	250		
103-1	短冊形	c 11	下半部欠	凝灰岩	(5.3)	4.4	1.6	(47)		
103-2	短冊形	c 11	完形	緑色片岩	10.2	5.4	2.1	140		
4037-6	短冊形	c 12	完形	凝灰岩	(10.5)	5.3	1.8	135		
2663	短冊形	c 13	胴部のみ	凝灰岩	(6.5)	4.3	2.3	(75)		
3883	短冊形	d 3	完形	流紋岩	12.0	6.4	3.3	320		
2908	撥形	d 3	完形	緑色片岩	9.5	4.4	1.2	65	86－11	
847	短冊形	d 5	完形	緑色片岩	5.1	2.8	1.0	16		
2431	短冊形	d 5	頭部のみ	凝灰岩	(4.7)	4.9	1.3	(32)		
2457	短冊形	d 5	上部欠	凝灰岩	(8.7)	5.1	2.0	(105)		
2825	短冊形	d 6	胴部のみ	凝灰岩	(7.4)	6.7	2.1	(105)		
1599-3	撥形	d 8	完形	緑色片岩	7.5	5.1	1.2	49		
1873	短冊形	d 9	下部欠	砂岩	(14.4)	7.0	3.8	(590)		

（打製石斧）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3040-2	短冊形	d 9	完形	凝灰岩	7.8	4.5	1.7	72		
3087	短冊形	d 9	上半部欠	凝灰岩	(7.5)	5.8	1.9	(110)		
3040-1	撥形	d 9	完形	角閃石凝灰岩	9.7	5.9	1.8	91		
114-1	短冊形	d 10	完形	凝灰岩	12.9	5.1	2.7	190		
114-1	短冊形	d 10	完形	凝灰岩	8.2	5.3	2.5	130		
925	短冊形	d 10	完形	角閃石凝灰岩	13.9	7.4	4.3	530		
934-1	短冊形	d 10	上半部欠	砂岩	(7.6)	5.4	2.8	(140)		
946-1	短冊形	d 10	完形	凝灰岩	11.4	5.5	1.6	83		
1383-1	短冊形	d 10	完形	砂岩	11.2	5.1	2.0	110	86－4	
1384	短冊形	d 10	完形	凝灰岩	11.3	4.8	2.0	105		
12	短冊形	d 11	完形	凝灰岩	9.2	5.0	1.7	110		
675	短冊形	d 11	完形	凝灰岩	9.0	4.4	1.6	88		
11	短冊形	d 12	完形	凝灰岩	8.5	5.4	1.5	75		
99	短冊形	d 12	完形	凝灰岩	8.5	5.6	2.1	150		
1954-1	短冊形	d 13	完形	凝灰岩	11.1	6.7	3.0	320		
2609	短冊形	d 13	下半部欠	結晶片岩	(7.4)	5.6	1.6	(95)		
1954-2	撥形	d 13	頭部欠	砂岩	(7.1)	5.7	1.4	(67)		
1690	撥形	e 4	下半部欠	凝灰岩	(7.7)	4.8	1.6	(70)		
3884	撥形	e 5	完形	凝灰岩	11.9	4.2	1.5	100		
3877	短冊形	e 8	下半部欠	凝灰岩	(8.3)	4.6	2.1	(84)		
5	撥形	e 8	完形	角閃石凝灰岩	8.2	5.4	2.0	110		
1456-2	短冊形	e 9	完形	緑色片岩	11.3	4.6	2.4	140		
142	短冊形	e 10	完形	凝灰岩	8.8	4.9	1.3	71		
3037	短冊形	e 10	頭部欠	砂岩	(7.7)	6.0	2.5	(130)		
3115	短冊形	e 10	頭部、下半部欠	角閃石凝灰岩	(9.9)	7.5	3.0	(310)		
100-1	短冊形	e 11	下半部欠	緑色片岩	(6.9)	4.3	1.3	(52)		
100-2	短冊形	e 11	下部欠	凝灰岩	(7.0)	4.4	1.0	(44)		
647-2	短冊形	e 11	完形	蛇紋岩	4.2	6.6	1.4	50		磨製石斧の未製品か？
648-3	短冊形	e 11	完形	緑色片岩	6.4	5.1	1.5	70		
2267	短冊形	e 11	上半部欠	緑色片岩	(8.2)	6.6	2.0	(160)		
3038	短冊形	e 11	刃部のみ	流紋岩	(4.5)	5.4	1.2	(34)		
3140	短冊形	e 11	頭部、下半部欠	凝灰岩	(9.6)	5.1	1.5	(82)		
4039-10	短冊形	e 12	先端部欠	凝灰岩	(7.0)	4.8	1.4	(60)		
1	短冊形	e 13	完形	凝灰岩	8.3	5.2	1.5	79		
718	短冊形	f 7	刃部のみ	角閃石凝灰岩	(5.0)	4.9	1.4	(39)		
1529	短冊形	f 8	胴部のみ	凝灰岩	(3.5)	4.3	1.0	(24)		
2690	短冊形	f 9	上半部欠	砂岩	(10.6)	7.4	3.8	(320)		
76-1	短冊形	f 10	完形	緑色片岩	9.7	5.0	1.6	94		
337-1	短冊形	f 10	頭部欠	凝灰岩	(7.0)	4.8	1.2	(54)		
2231-1	短冊形	f 10	上半部欠	砂岩	(5.1)	4.7	1.3	(35)		
3352-3	短冊形	f 10	下半部欠	緑色片岩	(4.6)	4.0	0.8	(21)		
3441	短冊形	f 10	完形	凝灰岩	12.0	4.9	2.7	200	86－7	
76-2	撥形	f 10	完形	凝灰岩	8.7	5.2	1.3	80		
484-5	短冊形	f 11	上半部欠	凝灰岩	(7.3)	6.6	3.0	(180)		
484-6	短冊形	f 11	完形	凝灰岩	7.1	3.9	1.4	51		
499-32	短冊形	f 11	上半部欠	凝灰岩	(4.8)	4.1	1.2	(30)		
1002	短冊形	f 11	刃部のみ	凝灰岩	(3.9)	4.5	1.9	(43)		
1192-2	短冊形	f 11	胴部わずかに残る	凝灰岩	(5.5)	5.4	1.5	(55)		
3163	短冊形	f 11	完形	凝灰岩	11.9	5.9	2.4	230		

（打製石斧）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3453	短冊形	f 11	刃部欠	凝灰岩	(9.6)	5.8	2.8	(210)		
4132	短冊形	f 11	完形	凝灰岩	9.1	4.8	2.0	105		
59	短冊形	f 13	完形	緑色片岩	10.2	5.3	2.1	150		
3015	撥形	f 13	完形	緑色片岩	9.4	5.5	2.1	160		
65	短冊形	g 4	完形	凝灰岩	10.4	3.7	1.6	65	86－3	
4021	短冊形	g 5	頭部欠	流紋岩	(9.0)	5.5	1.8	(110)		
719	短冊形	g 7	完形	流紋岩	9.8	5.3	2.0	150		
1253	短冊形	g 7	完形	凝灰岩	8.6	5.9	2.1	120		未製品？
2985	撥形	g 7	頭部欠	凝灰岩	(9.0)	6.8	2.0	(100)		
710	短冊形	g 8	頭部欠	凝灰岩	(8.1)	4.6	1.9	(110)		
1508	短冊形	g 8	完形	凝灰岩	10.7	5.7	1.7	120		
66	短冊形	g 9	完形	緑色片岩	7.9	3.6	1.4	51		
68	短冊形	g 9	下半部欠	砂岩	(9.8)	6.8	4.1	(340)		
2365-1	短冊形	g 9	完形	砂岩	10.0	7.7	1.7	170		
3373-1	短冊形	g 10	完形	凝灰岩	8.4	4.2	1.8	72		
4090-1	短冊形	g 10	上部欠	凝灰岩	(8.7)	5.3	3.0	(170)		
324	撥形	g 10	完形	緑色片岩	8.4	4.9	1.5	76		
4090-2	撥形	g 10	完形	緑色片岩	7.9	6.0	1.4	86		
443-1	短冊形	g 11	完形	緑色片岩	9.4	3.9	1.5	69		
460-1	短冊形	g 11	完形	緑色片岩	7.3	3.7	1.0	40		
460-2	短冊形	g 11	上半部欠	凝灰岩	(4.1)	4.7	0.7	(18)		
997-2	短冊形	g 11	完形	凝灰岩	7.0	4.8	0.9	40		
1163	短冊形	g 11	頭部、下部欠	凝灰岩	(9.6)	5.1	2.0	(150)		
1174-4	短冊形	g 11	上半部欠	凝灰岩	(5.2)	6.4	1.6	(73)		
2320-1	短冊形	g 11	上半部欠	砂岩	(6.8)	4.8	1.1	(54)		
3387-2	短冊形	g 11	完形	凝灰岩	19.3	7.5	3.6	560		
3387-4	短冊形	g 11	下半部欠	砂岩	(6.5)	4.6	1.3	(35)		
3402-1	短冊形	g 11	下半部欠	緑色片岩	(7.1)	4.0	1.0	(26)		
3407	短冊形	g 11	完形	凝灰岩	10.0	5.1	2.4	170		
709	短冊形	h 8	刃部欠	砂岩	(10.4)	5.4	2.3	(140)		
3866	短冊形	h 8	上半部欠	凝灰岩	(8.8)	8.5	3.3	(360)		
4024	短冊形	h 8	胴部のみ	凝灰岩	(10.8)	7.7	3.4	(360)		
1504	撥形	h 8	頭部欠	砂岩	(11.6)	9.5	5.0	(560)		
161	短冊形	h 9	上半部欠	凝灰岩	(7.3)	5.6	1.6	(88)		
3449-1	短冊形	h 9	完形	砂岩	9.3	4.6	1.6	94	86－2	
3449-2	短冊形	h 9	頭部欠	凝灰岩	(7.8)	4.8	1.9	(95)		
156	撥形	h 9	完形	流紋岩	11.3	7.6	2.9	270	86－10	
1251	短冊形	i 6	完形	流紋岩	9.6	5.1	1.7	88		
52	短冊形	i 7	完形	緑色片岩	7.9	4.2	1.5	74		
2951	短冊形	i 7	上部欠	凝灰岩	(8.5)	5.2	1.9	(100)		
815	撥形	i 7	完形	凝灰岩	11.8	7.6	2.3	260		
0-1	短冊形	表採	完形	凝灰岩	10.8	3.9	2.0	110		
0-46	短冊形	表採	完形	凝灰質頁岩	12.5	5.9	2.6	200		
0-132	短冊形	表採	完形	砂岩	10.1	5.1	1.9	110		
4171	短冊形	表採	上半部欠	凝灰岩	(6.0)	6.0	1.8	(94)		
4172	短冊形	表採	上半部欠	凝灰岩	(5.1)	6.3	1.9	(82)		
4401	短冊形	表採	完形	凝灰岩	8.5	4.8	1.9	91		
4403	短冊形	表採	完形	凝灰岩	13.0	5.3	2.6	230		
4402	撥形	表採	完形	凝灰岩	8.3	4.9	1.8	72		
4404	撥形	表採	完形	凝灰岩	8.1	5.1	1.5	67		

6．庖丁形石器　（挿図87－1～4）

凝灰岩系の石材を使用した粗製の横刃型削器を庖丁形石器とした。確実なものが14点で、破片などを細かく検討すれば数量は増えるものと思われる。刃部は直線的よりやや外弯するものが多い。恐らく収穫具としての機能を果たしていたものであろう事から磨製石庖丁の前身形態とみなす考え方[註1]も首肯出来る。時期的には中期末の6号住居址出土のものがある。

註1　『曽利』 富士見町教育委員会　1978

表13　石庖丁一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
4043-5		SB6	⅓欠	凝灰岩	(7.2)	4.8	1.1	(45)	68-2・12	
3989-25		東P229	完形	凝灰岩	9.1	7.3	1.2	82		
3449		グリット別b-9	完形	凝灰岩	9.8	5.6	0.8	50	87－3	
1393		c-10	⅓欠損	凝灰岩	(8.5)	8.1	1.1	(85)		
2908		d-3	⅔	角閃石凝灰岩	(5.4)	4.2	1.1	(22)		
4067		d-3	4／5	凝灰岩	(8.9)	6.1	0.7	(45)		
853		e-4	ほぼ完形	凝灰岩	5.7	4.5	0.6	22		
1255		f6	完形	緑色片岩	6.4	5.4	1.3	48		
3425		f10	完形	玄武岩	8.2	4.8	1.1	52	87－4	縦長剝片使用
3321		f11	5／6	凝灰岩	(6.3)	4.7	0.7	(24)	87－1	
4200		表採	完形	凝灰岩	6.1	4.2	0.7	21		
4201		表採	一部欠	凝灰岩	(7.5)	3.1	0.8	(20)	87－2	
4202		表採	完形	砂岩	7.4	5.4	1.5	47		
0-45		表採	刃一部欠	凝灰岩	(8.9)	5.0	1.6	(80)		未製品

7．砥石　（挿図87－5～7）

17点が出土している。砂岩製が多く、凝灰岩も4点ある。平置する大形のものと手持ちの小形のものがあり、後者には側縁にも使用面が残る。

表14　砥石一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3670-2		SB1	破片	砂岩	(4.5)	(3.1)	(1.1)	(17)		
417-1		SB1	両端欠	凝灰岩	(17)	11.8	5.0	(1280)		
4074		SB1 1号炉	一部欠	砂岩	(19.5)	12.5	4.5	(1190)	61-2・19	表面のみ使用 板状礫
4002-2		東P55	一部	流紋岩	(8.0)	(5.8)	3.9	(240)		
4030		東P85	胴部のみ（⅓残る）	砂岩	(14.9)	10.7	7.4	(1850)		
3978-4		東P210	完形	凝灰岩	9.0	4.8	1.1	61		板状礫
3519-9		SK2	先端欠	凝灰岩	(15.4)	6.1	5.0	(680)	70-3・78	3面磨滅
3581-5		西P55	一部（¼残る）	砂岩	(13.1)	(4.9)	(3.4)	(260)		
126		グリット別 c-1	一部	砂岩	(7.9)	6.4	1.3	(82)	87－6	正面のみ使用面、置砥石？
2946		c-1	½	砂岩	(7.2)	6.6	1.5	(91)		
2909		c-3	½	砂岩	(4.8)	4.3	0.6	(15)	87－5	手持砥石正面及び側面に使用面

（砥石）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
15		d-10	一部	砂岩	(11.9)	(7.1)	2.7	(410)		
1910		d-11	½	砂岩	(9.3)	6.9	2.7	(290)		
195		g-9	完形	砂岩	93	4.3	1.4	74	87－7	各側面にも使用面
115		g-12	一部	砂岩	(14)	(7.5)	4.3	(570)		
3652		表土一括	一部欠	凝灰岩	(25.0)	21.7	7.2	(5600)		
4173		表採	一部	砂岩	(7.0)	6.5	3.4	(230)		各側面にも使用面

8．台石

平担な自然石の一面に磨滅痕・敲打痕の残るもので4点ある。工作用の台石として使用されたものであろう。

表15　台石一覧表　（単位cm、kg、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さkg	挿図番号	備考
3770	平丸	SB2	完形	安山岩	22.5	22.0	8.0	5.0		
97	長四角石	グリット別 b10	一部欠損	流紋岩	(25.7)	15.5	5.0	(3.1)		上部に磨痕有
3468	平	f10	¼ 一部	砂岩	(28.4)	21.5	11.7	(9.0)		中央に凹み有
182	平丸石	g9	½	流紋岩	(18.8)	13.8	5.0	(1.4)		

9．石錘　（挿図88－1～10）

礫石錘が4点、切目石錘が8点の計12点で前者の平均重量は66.5g、後者は25.6gである。用途の相違であろう。石質別では礫石錘が流紋岩の自然円礫を使用するものが多く、後者では頁岩製が大部分を占める。

石錘計測部位説明図

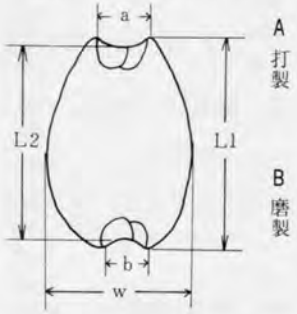


表16　石錘一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さL_1	長さL_2	巾	切目巾a	切目巾b	厚さ	重さ	挿図番号	備考
928-2	打製	SB1	完形	流紋岩	4.0	3.7	3.7	2.28	1.7	1.7	28.4	60-2・22	
4389	打製	SB4	完形	流紋岩	5.8	5.6	5.0	1.71	—	3.4	115.8		
3896-21	磨製	東P139	完形	頁岩	5.9	5.7	2.8	0.32	0.28	1.3	33.6	88－9	自然礫
575	磨製	グリット別 b8	完形	砂岩	5.6	4.9	3.4	0.3	0.3	1.6	47.2	88－7	自然礫を加工
3669-26	磨製	b11	完形	凝灰岩	4.4	4.2	3.0	—	0.4	1.9	34.2	88－8	自然礫
103	打製	c11	完形	流紋岩	5.3	5.1	3.8	0.71	—	2.4	55.4	88－10	打欠部は上部のみ
25	磨製	f5	½	頁岩	(3.1)	—	1.7	0.23	—	1.0	(5.9)	88－3	自然礫
1253	磨製	g7	完形	流紋岩	4.2	4.0	2.3	0.6	0.3	1.6	17.3	88－6	自然礫
2783-1	磨製	g11	完形	頁岩	4.2	4.0	2.0	0.23	0.21	1.1	14.1	88－4	自然礫に一部加工
4197	磨製	g11	¼	頁岩	(1.7)	—	(2.7)	0.35	—	0.9	(4.7)	88－2	少し加工
2375	磨製	h9	完形	頁岩	2.5	2.3	1.9	0.16	0.15	1.2	7.4	88－1	自然礫
0-50	磨製	表採	⅓	粘板岩	(4.5)	—	(2.4)	—	—	1.4	(16.5)	88－5	自然礫

10．掻器　（挿図88－11）

スクレイパーのうち、削器とは使用方向が異なるものが３点ある。図示した11は下呂石製の先刃形掻器である。

表17　掻器一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
4392		ＳＢ４	完形	黒曜石	2.6	2.5	0.5	2.3	66-3・24	抉入掻器
3560-10		西Ｐ81	完形	黒曜石	2.5	1.8	0.7	2.9		
3248		ｸﾞﾘｯﾄ別Ｃ７	完形	下呂石	5.5	3.6	1.5	19.4	88－11	先刃形掻器

11．削器　（挿図88－12～28）

削器84点の分類は模式図にのっとって記号で示した。１～10に刃部の位置、ａ・ｂ・ｃに縦長剥片、横長剥片、その他の剥片の使用を区分した。黒曜石製の微細な円形スクレパーの一群はやや特徴的で、機能を検討する必要があろう。石質的には下呂石が56％、チャート20％、黒曜石７％、その他頁岩、玉髄等が17％ある。

削器刃部位置模式図

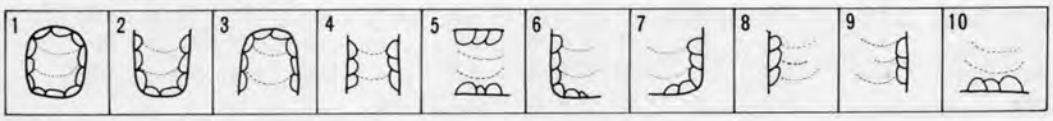


表18　削器一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3672-97	1-c	ＳＢ１	完形	下呂石	3.8	2.8	0.9	8.5		
3767-1	10-b	ＳＢ２	完形	凝灰岩	9.1	4.8	1.3	57	64-4・32	円礫の表皮を使用、裏面１枚の剥離面
3791-3	2-b	ＳＢ２	完形	凝灰岩	6.4	3.5	1.0	20	64-4・31	抉入付、両面加工
3934	10-b	ＳＢ２	一部欠	玄武岩	6.5	(3.7)	0.9	(18)	64-4・30	両刃
4123-16	2-a	ＳＢ２	完形	チャート	4.9	2.6	0.7	7.0	64-4・26	錯向剥離
4390	10-c	ＳＢ４	一部欠	凝灰岩	9.5	(4.7)	1.3	(51)	66-3・25	両刃
4391	4-a	ＳＢ４	完形	凝灰質頁岩	7.9	5.0	1.8	70	66-3・26	直線刃削器、裏面に自然面
3931	5-b	ＳＢ５	完形	下呂石	5.9	3.0	0.5	8.0	67-2・11	両刃
3817-1	10-b	東Ｐ27	完形	下呂石	6.4	4.0	1.3	30		
3874-10	5-c	東Ｐ124	両端欠	下呂石	(5.2)	3.0	1.1	(18)		
3964-12	5-c	東Ｐ182	完形	チャート	4.7	2.9	0.9	12		
3629-11	10-b	ＳＢ４ 東Ｐ17-2	完形	玄武岩	7.9	4.3	1.5	52		
3562-7	1-c	西Ｐ80	完形	チャート	2.4	1.7	0.5	2.1		
3581-24	1-c	西Ｐ55	完形	チャート	2.9	2.6	0.8	6.7		
3585-13	10-c	西Ｐ59	完形	下呂石	6.3	4.2	1.7	44		
3610-3	2-c	西Ｐ90	完形	下呂石	3.4	3.3	1.1	11		
857	9-a	ｸﾞﾘｯﾄ別 ａ１	一部欠	緑色片岩	(4.4)	3.1	0.9	(10)		
1732	1-c	ａ１	完形	下呂石	5.1	2.6	1.2	13		
4061	10-c	ａ１	一部欠	チャート	(4.6)	3.4	1.3	(20)	88－21	両刃

（削　器）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
2112	2-c	a 2	完形	チャート	3.7	2.4	1.1	9.0		
2549	2-c	a 2	½	下呂石	(2.0)	1.9	0.6	(2.3)		
2431	10-c	a 4	完形	下呂石	3.2	1.7	0.5	2.5		
1761	10-c	b 1	完形	下呂石	4.7	3.0	1.2	10		
1777	2-c	b 2	完形	下呂石	3.5	2.3	0.9	6.0		
4290	2-c	b 2	一部のみ	下呂石	(1.9)	(2.4)	0.9	(2.0)		
2532	2-a	b 3	完形	下呂石	5.5	3.0	0.9	11.5	88－12	打面自然面
118	6-c	b 4	完形	下呂石	7.0	3.2	1.4	30.5		
53	2-c	b 5	½	下呂石	(3.9)	3.7	1.3	(19.4)		
134	1-c	b 6	完形	下呂石	3.2	2.4	0.8	4.8		
1231	2-c	b 6	一部のみ	チャート	(1.8)	2.0	0.8	(2.5)		
1225-1	1-c	b 7	完形	下呂石	3.3	2.5	0.8	6.1		ルバロワ状剥片
1225-2	1-c	b 7	完形	下呂石	3.2	2.3	0.9	6.0		
1229	10-c	b 8	完形	下呂石	3.1	1.2	0.8	2.7		
4289	1-c	b 8	完形	下呂石	3.3	2.0	0.7	0.5		
3301	1-c	b 9	完形	頁岩	2.7	2.3	1.0	6.0		
1833-13	2-c	b 11	完形	黒曜石	2.0	1.8	0.7	2.2	88－20	自然打面
1977	2-c	b 12	完形	下呂石	3.5	3.1	1.1	9.0		
2598	1-c	c 1	完形	下呂石	3.5	2.1	0.9	5.9	88－28	石鏃未製品か？
4063	6-a	c 3	完形	下呂石	7.1	4.8	1.3	33	88－18	両刃
3267	9-a	c 6	完形	下呂石	6.6	3.4	1.5	32.4	88－17	直線刃
2855	1-c	c 7	完形	下呂石	4.2	2.9	1.0	10		
4285	6-b	c 7	完形	下呂石	4.2	2.2	0.7	5.0	88－26	
775-1	6-c	c 8	½	凝灰岩	7.0	(3.5)	0.8	(22.1)		外弯刃
4292	1-c	c 9	完形	黒曜石	1.6	1.4	0.5	1.0	88－19	打面剥取
2634-1	2-c	c 12	完形	黒曜石	1.8	1.5	0.5	1.5		
847	2-c	d 5	完形	下呂石	4.4	3.6	1.8	2.2		
3220	10-b	d 8	完形	下呂石	8.1	3.9	1.4	35.7	88－24	外弯刃
3287	10-c	d 9	完形	安山岩	7.1	6.2	0.8	41		円礫剥片
114	1-c	d 10	完形	下呂石	2.5	2.1	0.6	3.0		
2026	4-a	d 10	完形	玉髄	4.4	1.9	0.6	5.0	88－13	打面剥取
2602	1-c	d 13	完形	下呂石	3.3	2.9	0.7	7.0		
3879	6-c	e 8	完形	黒曜石	3.6	1.6	0.8	4.0	88－23	両面加工
1242-20	9-a	e 9	一部	下呂石	4.2	(2.0)	1.0	(5.6)		直線刃
4293	1-c	e 9	完形	黒曜石	1.6	1.4	0.4	0.8		
2284	4-a	e 11	完形	チャート	4.7	3.6	0.6	10.0	88－15	直線刃
2286	2-a	e 11	完形	下呂石	6.7	5.0	1.7	50.2		
711	5-b	f 8	完形	下呂石	5.5	3.0	1.0	14		
147	10-c	f 9	½	下呂石	4.2	(2.3)	0.5	(4.9)		
1241	1-c	f 9	完形	黒曜石	2.4	1.7	0.6	2.2		
3328	2-a	f 9	完形	玄武岩	8.3	5.9	1.3	50		
3453	7-c	f 11	完形	下呂石	5.4	3.7	1.6	29		
4283	6-c	g 5	完形	チャート	1.9	1.2	0.5	1.2		
51	6-b	g 7	完形	下呂石	5.8	4.6	1.0	19.8		内弯刃
4287	3-a	g 7	一部欠	下呂石	(3.4)	2.6	0.8	(8.0)		
3309	1-c	g 8	完形	チャート	2.3	2.4	0.7	4.0		
990	10-c	g 11	完形	チャート	6.7	6.0	1.7	62		
2324-5	1-c	g 11	完形	下呂石	3.6	2.7	1.1	7.2	88－22	円形削器
2327	2-c	g 11	完形	緑色片岩	3.6	1.5	0.7	4.3		

（削　器）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
2796	2-a	g11	完形	玄武岩	6.5	3.6	0.9	20		
1248	1-c	h8	完形	下呂石	2.6	2.7	0.9	6.0		
4024	10-c	h8	完形	チャート	4.1	3.6	0.7	10	88－14	片刃
4291	2-c	h8	完形	チャート	2.6	2.1	0.5	3.0		
993-25	8-a	h9	完形	下呂石	5.9	2.8	1.1	11.0	88－16	直線刃
3449-1	7-c	h9	完形	チャート	4.1	3.8	1.2	20		
3449-2	10-c	h9	完形	下呂石	5.9	4.7	1.5	35	88－26	両面加工
4284	10-c	h9	一部	チャート	(1.8)	(1.5)	0.6	(1.7)		
4288	2-c	i5	完形	下呂石	2.8	2.3	0.8	5.0		
4191	1-a	表採	完形	下呂石	4.5	2.7	1.1	12.7		
4193	2-c	表採	¾	チャート	(1.5)	1.6	0.5	(0.9)		
4203	6-a	表採	完形	下呂石	5.7	3.7	0.9	13		
4204	10-c	表採	一部欠	下呂石	(3.0)	2.6	0.8	(7.0)		
4205	10-b	表採	完形	下呂石	4.7	3.4	0.9	13		抉入付
4206	2-a	表採	完形	チャート	3.5	2.5	0.4	4.0	88－27	打面剥取
4274	2-c	表採	一部欠	下呂石	(3.1)	1.7	0.6	(3.5)		

12．ピエスエスキーユ　（挿図89－1～12）

クサビ形石器とされる一群で、方形状に作られた削器の形状をなすものも含む。典型的なもの（1～3，10）は、一辺ないし対応する2辺に縦の剥離面をもち、力の加わった方向を示している。恐らく何かを割るためのクサビとして使用されたものであろう。計51点を数え、需要度が高かった事がわかる。石質的には圧倒的に下呂石が多く、素材にも選択性が強いようである。

表19　ピエスエスキーユ一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
4296		グリット別a1	完形	下呂石	2.2	1.8	0.7	2.9		
4297		a1	完形	下呂石	1.8	1.8	0.7	2.5	89－1	端部に剥離痕
4299		a2	完形	下呂石	2.1	1.9	0.8	3.6		
4301		b1	完形	下呂石	1.6	1.5	0.5	1.1		
2103		b2	完形	下呂石	2.0	1.7	0.6	2.3	89－6	
4298		b2	完形	下呂石	2.3	2.1	0.7	4.1		
4302		b4	完形	下呂石	2.4	2.2	1.0	5.1		
4304		b6	完形	下呂石	2.5	2.1	0.7	3.9		
1816-1		c2	完形	下呂石	3.3	3.2	1.5	14.0	89－11	
1816-2		c2	完形	凝灰質頁岩	4.1	3.8	1.3	23.0	89－12	
4303		c6	完形	下呂石	2.3	1.8	0.7	2.4		
4305		c7	完形	下呂石	2.5	1.9	0.8	4.3	89－3	端部に剥離痕
2664		c13	完形	下呂石	1.9	1.8	0.5	1.8		
4306		d6	完形	下呂石	2.1	2.2	0.7	3.5	89－7	
3002		e4	完形	下呂石	2.2	1.8	0.5	2.2		
1003		e9	完形	黒曜石	2.2	2.0	0.8	3.4		
3038		e11	完形	下呂石	2.0	1.8	0.6	2.5		
3881		f5	完形	下呂石	1.5	1.4	0.5	1.3		
718		f7	完形	下呂石	2.6	2.3	0.9	5.1		
4307		f7	完形	下呂石	1.8	1.8	0.8	2.7		

（ビエスエスキーユ）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
4309		f 7	完形	黒曜石	2.0	2.0	0.9	3.3		
3323		f 10	完形	下呂石	4.1	3.0	1.3	10.0		
3336		f 10	完形	下呂石	4.6	4.0	1.3	19.0	89－10	端部に剥離痕
3337		f 10	完形	下呂石	3.0	2.9	1.2	10.4		
991		f 11	完形	チャート	2.5	2.2	1.3	7.0		
998-5		f 11	完形	下呂石	2.6	1.6	0.6	3.0	89－8	端部に剥離痕
4300		f 11	完形	チャート	2.0	1.9	0.8	3.2		端部に剥離痕
4311		g 5	完形	下呂石	2.5	2.1	0.8	3.7		
4310		g 8	完形	下呂石	2.5	2.1	0.6	3.0		
4312		g 8	完形	下呂石	2.4	2.6	1.0	5.5		
3335		g 9	完形	凝灰岩	3.4	3.0	1.3	11.0	89－9	
4308		g 10	完形	チャート	1.9	1.8	0.8	3.5		
4022		i 5	完形	下呂石	3.2	2.5	0.9	5.6		
0-29		表採	完形	黒曜石	1.3	1.2	0.3	0.6	89－4	
4265		表採	完形	下呂石	2.9	2.0	0.6	3.6		
4266		表採	完形	チャート	2.9	2.5	0.7	5.1		
4267		表採	完形	下呂石	3.0	1.9	0.8	4.4		
4268		表採	完形	下呂石	2.3	2.2	0.7	4.0		
4269		表採	完形	下呂石	2.3	1.8	0.7	2.7		
4270		表採	完形	下呂石	2.4	2.0	0.6	3.0		
4271		表採	完形	下呂石	2.3	2.1	0.6	2.8		
4272		表採	完形	下呂石	2.4	1.9	0.8	3.7		
4273		表採	完形	下呂石	1.7	2.0	0.6	2.4		
4275		表採	完形	下呂石	1.9	2.0	0.8	3.2	89－2	端部に剥離痕
4276		表採	完形	下呂石	2.0	1.9	1.0	3.1		
4277		表採	完形	下呂石	2.5	2.3	0.7	3.3		
4278		表採	完形	下呂石	2.0	1.6	0.5	1.5		
4279		表採	完形	下呂石	2.0	1.5	0.6	1.7		
4280		表採	完形	下呂石	2.0	1.8	0.7	2.3		端部に剥離痕
4282		表採	完形	下呂石	2.6	2.1	0.6	2.7		
4405		表採	完形	下呂石	1.6	1.3	0.4	1.0	89－5	

13．U．f（ユーズド・フレーク）

剥片に使用の痕跡をとどめる個体をユーズド・フレークとして一括した。形態は一定していないが剥片の利用度は高かったとみえて、156点が確認されている。鋭い縁辺に細かいチッピングが残るものが多く、切る、削るといった作業に使われたものであろう。

14．剥片、削片

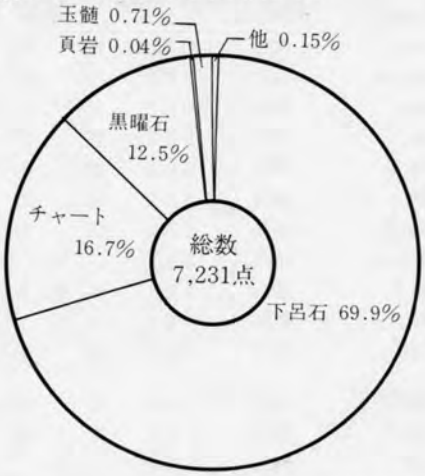
剥片の総数は1033点、削片は6042点を数え、両者を含めた石質別統計では、下呂石が69.9％を占める。チャートがこれに次いで16.7％、黒曜石12.5％、その他0.9％となっている。湯ヶ峯を中心とした下呂石の分布圏についての研究は、石原哲彌氏によってなされておりその利用度がパーセンテージで示されている[註1]。どの時代でも下呂石の優位は変わらないが、時代別のより細かい変化を探る試みもなされており[註2]、今後一層、時期の明瞭な単純遺跡や住居址内遺物を検

討する必要があろう。

註1　石原哲彌「飛騨下呂石を原材とした石器の研究」
『飛騨史学第2巻』1981ほか

註2　石原哲彌・岩田修「湯ヶ峯デイサイトと石器」
『飛騨の大地をさぐる』1988

表20　剥片及削片石質分類円グラフ



15．石匙　（挿図89－13～17）

総数10点で、縦形5点、横形4点、不明1点である。石質は下呂石が6点、チャート、頁岩が各2点ある。

（調　理　具）

表21　石匙一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
550-4	縦型	SB1	完形	下呂石	3.4	2.0	0.8	5.5	60-2・21	
3988-3	縦型	東P229-E	完形	チャート	6.9	3.1	1.2	19.0		
3519-6	横型	SK2	1／3残る	下呂石	4.0	(2.7)	1.0	(7.2)	70-3・76	
4057	横型	グリット別a2	完形	下呂石	3.5	4.7	0.7	8.0	89－17	自然面残る、刃部自然縁
4294	縦型	b1	完形	下呂石	3.3	1.9	0.6	3.0		
3446	縦型	b9	先端欠	頁岩	(4.2)	1.6	0.8	(5.0)	89－14	両面加工
843	縦型	c5	完形	チャート	4.1	2.3	0.6	5.0	89－15	剥片使用、刃部はほとんど加工せず
144	横型	c9	右側⅓欠	頁岩	2.1	(2.4)	0.3	(1.6)	89－13	薄い剥片使用片刃
3377	横型	g10	¼欠	下呂石	3.2	(3.1)	0.7	(6.0)	89－16	両面加工
4238	不明	表採	頭部のみ	下呂石	(1.9)	(1.3)	0.4	(0.7)		

16．磨石　（挿図92－1～5）

69点は凹み石と区別される個体の数である。使用面が光沢を帯びるほどすれているもの(3)、六面を面取りしているもの（4・5）、など様々である。石質は流紋岩が71%で凝灰岩、砂岩がこれに次ぐ。

表22　磨石石質別一覧表

石質	個	%
流紋岩	49	71
凝灰岩	11	16
砂岩	7	10
その他（軽石1、頁岩1）	2	3
計	69	100

表23　磨石一覧表　　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
2416-1	楕円	SB1周辺P30	完形	凝灰岩	11.6	9.0	6.1	910	60-3・35	
3674-18	丸	SB1	完形	流紋岩	6.1	5.5	2.0	75		
423-1	楕円	SB1	完形	凝灰岩	7.6	4.8	4.2	190		
550-1	楕円	SB1	完形	流紋岩	14.3	9.4	5.7	1040		
1421-2	楕円	SB1	完形	流紋岩	8.2	6.6	2.2	145		
3675-1	楕円	SB1	完形	流紋岩	9.1	6.6	5.2	370	60-3・33	
3676-55	楕円	SB1	完形	流紋岩	10.2	7.6	3.2	325		
3676-56	楕円	SB1	½	凝灰岩	10.0	(6.7)	2.5	(245)		
233-2	長円	SB1	一部欠	流紋岩	8.9	(5.1)	3.7	(170)		
284-1	長円	SB1	½	流紋岩	(9.8)	6.9	3.5	(265)	60-3・34	
3784-2	楕円	SB2	完形	流紋岩	9.0	7.8	5.1	480	64-4・35	裏面わずかに敲打の凹み
3851-2	楕円	SB4	完形	流紋岩	9.6	6.8	5.0	500	66-4・42	
4107-1	楕円	SB4	完形	流紋岩	13.5	8.9	4.8	760		
4109	楕円	SB4	¼	砂岩	(8.4)	(6.8)	(5.9)	(360)		
4105-1	楕円	SB4	¼	砂岩	(12.1)	(7.2)	6.0	(460)		
4385	楕円	SB4	完形	凝灰岩	10.8	7.3	4.0	490	66-4・40	両面使用痕（被火熱か）
4393	楕円	SB4	完形	流紋岩	7.7	6.0	3.8	240		
4148-4	長円	SB4	完形	砂岩	13.8	7.1	3.6	580	66-5・44	自然円礫使用顕著な使用痕なし
3995	不整円	SB4	完形	流紋岩	9.1	7.7	4.3	340		
4152-2	楕円	SB5	完形	流紋岩	12.6	7.0	5.2	580	67-2・10	被火熱
4130	楕円	SB6	完形	凝灰岩	10.4	5.8	3.9	265	68-2・13	埋甕内（一面のみ）
4131	長円	SB6	完形	流紋岩	12.3	6.8	5.6	700	68-2・18	埋甕内、全体軽い研磨で滑らか
3631-17	長円	SC6	½	流紋岩	(13.4)	7.7	6.1	(1020)		
3535	楕円	SC8	完形	流紋岩	9.3	7.9	3.9	360		
3993-11	丸	東P146	完形	流紋岩	6.8	5.5	2.4	120		
3498-1	楕円	東P50	完形	流紋岩	8.1	5.1	2.5	150		
3908-50	楕円	東P146	完形	凝灰岩	10.0	7.0	6.5	740		
3908-51	長円	東P146	完形	流紋岩	14.8	7.0	3.2	430		
3519-12	丸	SK2	½	流紋岩	(7.3)	10.2	5.6	(520)	70-3・78	
3519-13	丸	SK2	完形	流紋岩	7.3	6.2	4.0	225		
3519-10	楕円	SK2	完形	流紋岩	9.3	7.5	2.8	230		
3519-11	楕円	SK2	完形	流紋岩	11.1	8.7	4.1	580	70-3・81	
3519-14	楕円	SK2	⅓	流紋岩	11.6	(7.2)	4.7	(430)		
3582-1	楕円	西P72	完形	流紋岩	11.7	7.8	5.1	690		
2112	楕円	グリット別a2	完形	流紋岩	7.8	6.6	3.0	200		
126	長円	c1	完形	凝灰岩	14.1	6.3	4.6	600		上、下に打痕有
125	楕円	c2	完形	砂岩	14.0	9.3	5.6	1070	92－3	下部に打痕有
2085	楕円	c2	完形	流紋岩	9.9	5.6	3.0	230	92－2	
67	楕円	c4	完形	角閃石凝灰岩	15.0	9.0	5.3	1200	92－4	4面に磨部有
4056	楕円	c5	完形	流紋岩	6.2	3.8	3.3	98		
3045	丸	c7	¼	凝灰岩	(7.7)	(4.6)	(4.6)	(140)		
3207-8	円	c8	完形	流紋岩	8.7	7.9	2.6	250		
3256-1	円	c8	⅓残る	凝灰岩	(7.2)	(3.6)	4.7	(140)		

（磨　石）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
869-1	楕円	c 9	完形	流紋岩	9.3	7.6	2.9	250		
1980	楕円	c 10	完形	軽石	7.2	4.6	2.3	60		
103	楕円	c 11	½残る	流紋岩	(7.7)	8.0	3.2	(290)		
1962	楕円	c 12	完形	流紋岩	6.8	5.6	2.4	110		
846-1	楕円	d 4	完形	凝灰質砂岩	7.3	5.5	3.3	180	92－1	
846-2	楕円	d 4	完形	流紋岩	10.1	8.5	2.9	350		
3044	楕円	d 8	完形	流紋岩	8.5	6.8	2.9	220		
1860-2	円	d 9	完形	流紋岩	5.0	4.2	3.4	84		
1869	円	d 9	完形	流紋岩	4.6	4.3	3.9	80		
3082-2	楕円	d 9	½残る	流紋岩	(6.3)	6.0	3.5	(160)		
3040	長円	d 9	完形	流紋岩	8.6	3.5	3.4	140		
2911	楕円	e 3	完形	砂岩	16.5	11.2	6.4	1900		両面側面に磨部有り
3054	丸	e 11	完形	流紋岩	4.1	3.4	2.4	43		
33	長円	e 11	½残る	流紋岩	7.6	5.5	2.1	110		
1131	円	f 10	完形	流紋岩	6.3	5.7	3.1	140		
3323-1	楕円	f 10	完形	流紋岩	7.0	4.1	3.2	115		
3323-2	楕円	f 10	完形	流紋岩	9.1	7.1	3.2	260		
486-4	円	f 11	完形	流紋岩	3.5	3.4	1.5	24		
491	楕円	f 11	½残る	流紋岩	(4.8)	5.6	2.6	(97)		
3414	楕円	g 8	完形	流紋岩	7.8	5.7	1.6	96		
2363-3	楕円	g 9	完形	頁岩	6.6	4.5	1.2	54		
3396-3	円	g 11	完形	流紋岩	5.7	4.8	3.2	110		
3396-1	楕円	g 11	完形	流紋岩	8.2	6.3	3.2	210		
4024	長円	h 8	完形	流紋岩	10.1	4.3	3.4	230		
4174	楕円	表採	完形	流紋岩	7.0	5.7	4.8	230		
4175	その他（長方形）	表採	完形	砂岩	14.8	6.7	5.3	1070	92－5	山田氏寄贈、4面に磨部有、上下に打痕有

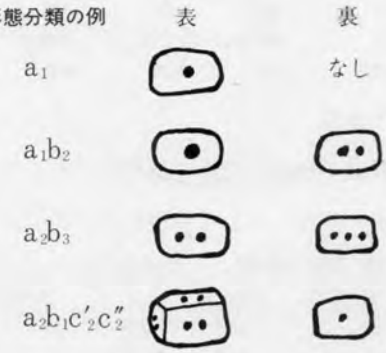
17．凹石　（挿図92－6～13）

磨石と兼用されるものを含めて29点がある。凹みの数は正面をａ、裏面をｂ、側面をc′、c″、小口面をd′、d″として一覧表で示したが、表裏に凹みを備えるものが17点と最も多い。四面に計８ヶ所の凹みのつくものもある。石質は流紋岩75％、凝灰岩11％、安山岩11％、他となっている。

表24　凹石石質別一覧表

石質	個	％
流紋岩	22	75
凝灰岩	3	11
安山岩	3	11
花崗班岩	1	3
計	29	100

・スリ石兼用　２個



第25表　凹石一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	くぼみ数	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備　考
1982-1	円	A_1B_1	ＳＫ１	完　形	凝灰岩	8.8	7.3	4.8	470		
3558-1	長円	A_2	ＳＫ１	完　形	流紋岩	12.6	6.8	3.4	350	61-2・18	側面に打痕有り、表のみ２カ所
4105-2	円	A_2	ＳＢ４	完　形	流紋岩	9.4	8.6	5.5	500	66-4・41	
3917	楕円	A_2B_2	ＳＢ４	完　形	流紋岩	11.2	7.7	4.8	580	66-4・43	
4043-6	長方形	$A_1B_1C'_1C''_1$	ＳＢ６	完　形	凝灰岩	11.4	6.3	4.4	590	68-2・17	スリ石兼用、全面磨耗
4050	円	A_2B_1	東Ｐ245	完　形	流紋岩	9.5	8.5	6.6	600		下部打痕有
3808-1	楕円	A_2	東Ｐ10	完　形	流紋岩	11.7	7.8	5.1	710		側面に打痕有
3821-1	楕円	A_1B_1	東Ｐ38	完　形	流紋岩	10.4	7.4	4.5	510		
3964-53	楕円	A_1	東Ｐ182	完　形	流紋岩	10.7	7.2	2.8	300		
3605-34	楕円	A_1	西Ｐ22-５	一　部	凝灰岩	(10.9)	(9.6)	(1.8)	(220)		
4045-1	楕円	A_2B_1	西Ｐ109-Ａ	完　形	流紋岩	9.1	6.7	4.3	380		
125-2	円	A_1B_1	グリット別ｃ２	完　形	流紋岩	10.8	9.8	5.1	640		下部打痕
125-1	楕円	A_2B_1	ｃ２	完　形	流紋岩	11.0	6.2	3.1	320	92－６	両側面上下打痕
3223	楕円	$A_{\#}B_2$	ｄ８	完　形	安山岩	10.6	7.9	3.6	450	92－13	両側面に打痕
982	円	A_1B_1	ｄ９	完　形	安山岩	9.6	9.0	5.0	600	92－11	側面に打痕
1883-1	円	A_1	ｄ９	½	流紋岩	11.2	(6.9)	2.7	(270)		側面打痕
1917	楕円	A_2B_2	ｄ11	完　形	流紋岩	10.7	7.3	4.7	560	92－10	両側面打痕
3039	楕円	A_1	ｅ11	完　形	流紋岩	9.4	7.7	4.3	430		両側面下部打痕
2220-10	円	A_1	ｆ10	完　形	流紋岩	6.3	6.2	1.9	76		
3356	楕円	A_2B_2	ｆ10	完　形	流紋岩	11.2	9.3	6.2	870		下部打痕
4168	丸	A_1B_1	ｇ７	完　形	流紋岩	8.3	7.2	2.9	250		
2779	楕円	A_2B_1	ｇ11	完　形	流紋岩	11.0	9.0	5.5	760		
3401-1	楕円	A_2B_2	ｇ11	完　形	流紋岩	12.3	6.6	4.1	430	92－８	上下打痕有り
2972	楕円	A_2B_2	ｈ８	完　形	流紋岩	11.2	8.4	5.8	670		下部打痕有り
1556	楕円	A_2B_2	ｉ７	完　形	花崗斑岩	12.2	7.9	3.9	640	92－７	上下打痕有り
0-134	丸	A_1	表採	完　形	流紋岩	5.6	4.9	3.6	105		
0-1	楕円	A_1B_2	表採	完　形	流紋岩	14.3	6.6	4.4	530		
0-2	楕円	$A_1B_1C'_1C''_1$	表採	完　形	流紋岩	9.7	6.9	3.8	290	92－12	
4176	楕円	A_2B_2	表採	完　形	安山岩	11.2	8.1	4.3	540	92－９	

18．敲石

棒状の円礫の先端に敲打痕のみられるものであるが、いわゆる栃タタキ石タイプのものはなく、ハンマーとして使用された様である。計４点。

表26　敲石一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備　考
425	楕円	ＳＢ１	完　形	凝灰岩	7.2	5.7	4.9	215		
4055-1	半丸	東Ｐ121	完　形	砂　岩	7.1	6.8	4.7	310		
3581	半丸	西Ｐ55	完　形	流紋岩	13.8	10.9	7.4	1550		
1930	楕円	グリット別ｃ11	完　形	流紋岩	8.2	5.9	5.6	315		下部に打痕(使用痕)有り

19．石皿　（挿図92－14）

計８点あるが、完形品はミニチュアを含めて２点にすぎない。ＳＢ２出土の挿図64－３・39は３つに割れているが原形をとどめる大形品である。有縁のもの（挿図69－１・１）は集石遺構より直立して出土している。石質は流紋岩と凝灰岩が半々を占める。

表27　石皿一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3760	楕円	ＳＢ２	完形	凝灰岩	41.5	28.0	11.0	10.7	64-3・39	
3734	楕円	ＳＢ４	½	流紋岩	(15.5)	23.5	7.3	(3.0)	66-5・45	
3494-1	楕円	東Ｐ46-Ａ	一部	流紋岩	(18.0)	(14.5)	3.9	(0.9)		
3486-34	楕円	ＳＢ４東Ｐ	完形	凝灰岩	6.4	4.5	2.1	0.08	71-2・33	ミニチュア
3041	楕円	グリット別ｄ９	¼	流紋岩	(14.5)	(12.4)	5.3	(1.3)		
3055	角形	ｅ11	⅓	凝灰岩	(18.2)	(19.3)	7.0	(2.5)	92－14	側縁加工
3946-1	楕円	ＳＣ３	½	凝灰岩	37.0	(14.2)	10.5	(5.5)	69-1・1	隆帯有
3946-2	楕円	表土一括	1／5	流紋岩	(21.3)	(20.8)	9.8	(4.2)		

20．石核

158点の石核は、剥離面をもたない原石をも含んでいる。下呂石56%、チャート23%、黒曜石20%、他11%で、やや下呂石の比率が減少しているが、搬入される石材の形によるものかも知れない。即ち黒曜石の場合はほとんどが自然崩壊の角礫（ズリ）が使用され、チャートの場合は川原の円礫が多いが、下呂石は露頭より割り取った剥片　石核状の原材料であったためと思われる。他方、湯ヶ峯山麓の遺跡群の中には石器の第一次加工所の様相を呈する遺跡があり[註1]、半製品の状態で搬入された可能性も考えられる。

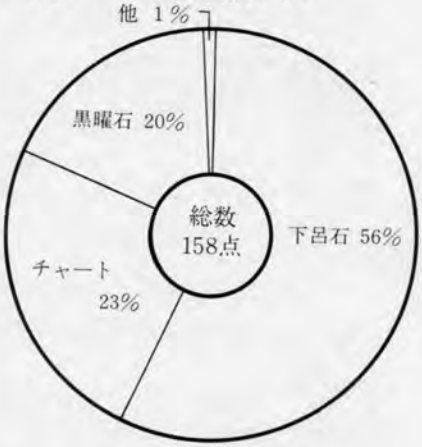
註１　例えば下呂町乗政の三ツ岩遺跡などその好例である。

表28　黒曜石石核・原石一覧表

★印は剥離面なし

遺物番号	出土区	重さ	遺物番号	出土区	重さ
★3773－14	ＳＢ２下層	28.5	1595	グリット別ｄ８	6.1
★3776－8	ＳＢ２Ｐ２	17.2	1269	ｅ４	6.1
★4395	ＳＢ４覆土	12.8	★3884	ｅ５	20.7
★3581－20	西Ｐ群Ｐ55	24.1	★1032－4	ｅ11	13.8
★3581－21	西Ｐ群Ｐ55	20.5	★3054－1	ｅ11	20.1
★3581－22	西Ｐ群Ｐ55	12.6	★3054－2	ｅ11	16.9
★3581－23	西Ｐ群Ｐ55	23.2	3881－6	ｆ５	11.9
2127	グリット別ｂ１	10.5	1489	ｆ９	22.0
★4399	ｂ１	20.9	2386－1	ｇ９	13.9
1780	ｃ１	48.8	122－1	ｇ11	12.3
71	ｃ３	24.9	122－2	ｇ11	8.0
855	ｃ３	12.4	460－29	ｇ11	10.0
★ 843	ｃ５	18.4	★2794－1	ｇ11	14.8
4400	ｃ８	8.3	★4396	包含層一括	28.0
3668－14	ｃ11	13.7	4 4397	包含層一括	18.3
2628	ｃ12	18.2	★4398	包含層一括	12.6

表29　石核石質別分類円グラフ



21．石棒　（挿図91－１～５）

ＳＣ８の出土品以外は全て破小片で計18点を数える。4・5は石棒頭部、1・3は先端部である。

２は断面円形をなすが、背に樋が走り、石刀になる可能性がある。粘板岩製が多く、また火熱を被った痕跡のあるものが２点みられる。

<宗教的（呪術的）道具>

表30　石棒一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
4127	有頭	SB2	頭部のみ	流紋岩	(16.5)	12.5	11	(2.5)kg	64-3・38	敲打のち軽い研磨、風化度強し(火熱？)
3534		SC8	完形	粘板岩	21.1	4.1	2.6	380	69-2・23	全面敲打、磨きなし(未製品か)灰緑色
3964-2	円柱状	東P182	一部	砂岩	(22.5)	(15.0)	13.5	(5.8)kg		
3974-11		東P201	一部	粘板岩	(4.7)	(3.1)	2.3	(48)		
858		グリット別a2	破片	粘板岩	(3.1)	1.9	(0.6)	(5.0)		
3646		b1	先端に近い一部	粘板岩	(4.5)	1.5	1.2	(14)	91－2	樋入り、線刻、石刀か？
841		b4	頭部破片	粘板岩	(4.0)	3.7	0.9	(14)	91－5	石棒頭、黒光り
809		b7	先端部	粘板岩	(5.8)	(1.7)	1.3	(17)	91－1	
1225		b7	一部	粘板岩	(8.1)	(2.1)	(1.8)	(28)		
1611		b8	頭部のみ	粘板岩	(3.4)	3.9	(1.8)	(36)	91－4	石棒頭
3447		b9	一部	粘板岩	(7.6)	3.7	2.0	(87)		
1974		b12	一部	砂岩	(3.8)	(4.1)	2.9	(52)		
4071-1		e6	破片	結晶片岩	(8.1)	2.5	1.1	(28)		線刻
4071-2		e6	破片	粘板岩	(5.3)	(1.6)	(0.7)	(7.0)		
1		e13	一部	緑色片岩	(4.7)	2.0	1.4	(25)		
3295		f9	破片	粘板岩	(5.3)	(0.8)	(0.7)	(3.0)		
3171		f10	端部	砂岩	(8.3)	3.8	3.1	(140)	91－3	全体磨き、被火熱
1494	円柱状	h8	頭部のみ	凝灰岩	(5.6)	6.3	5.7	(330)		

22．石剣　（挿図91－10～12）

3点あるが、12は片側の刃が明瞭ではなく石刀の可能性もある。10・11は中央部分の破片で、3点とも意識的に折られたものであろう。いずれも粘板岩製である。

表31　石剣一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1716-2		グリット別a1	一部	粘板岩	(6.8)	3.3	1.4	(43)	91－10	表面敲打残る
125-1		c2	胴部の一部	粘板岩	(8.7)	3.4	1.8	(78)	91－11	表面風化
125-2		c2	¼程度	粘板岩	(10.0)	4.2	1.4	(89)	91－12	節理面で表裏とも剝落、わずかに刃部(片側)

23．石刀　（挿図91－6～9）

9点で完形品はない。いずれも6～13cmの範囲、平均8cmの長さに折られている。67は背面が特に念入りに磨かれている。6は線刻内に彩朱痕が残るが折損面にもみられる事は、どういう事であろうか。

表32　石刀一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
4012		西P109	⅓～¼のみ	緑色片岩	(13.2)	3.8	2.3	(230)		
859		グリット別b1	中央部分	粘板岩	(9.2)	2.6	1.7	(65)	91－7	わずかに内返り
67		c4	一部	粘板岩	(7.4)	2.5	1.5	(49)	91－8	刃部鋭利
825	刻目有り	c5	一部	粘板岩	(5.8)	2.3	1.2	(26)	91－6	刻文入り彩朱残る(折断面にも)

（石刀）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
1959		d 12	一部	粘板岩	(9.5)	3.1	1.7	(80)		
1255		f 6	破片	粘板岩	(8.1)	1.8	(0.8)	(16)		線刻
76		f 10	一部	粘板岩	(6.2)	2.4	(1.9)	(35)		
73		g 5	一部	粘板岩	(6.1)	2.5	1.1	(18)		
1173		g 11	一部	粘板岩	(6.6)	2.4	1.9	(57)	91－9	

24．石冠　（挿図90－１～３）

挿図90－１はII－ｂ型石冠で断面は三角形をなす。流紋岩製で全体を敲打ののち軽く磨きを加えている。約２分の１を欠失するが、底面には敲打による僅かな凹みも観察され、また火熱を受けた痕跡がある。なお２・３はかっての開墾作業の際に発見されていた資料である。

表33　石冠一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3536	斧状石冠（II-B）	ＳＣ８	完形	安山岩	12.8	5.1	7.2	630	69-2・20	全面粗く研磨
3947(128-小)	魚形石製品型(VI)	ＳＣ８	中央部欠夫	砂岩	(19.8)	4.1	5.9	(460)	69-2・22	底部のみ溝状磨研、被火熱
3537	斧状石冠（II-A）	西Ｐ97	完形	(凝灰質)流紋岩	6.7	6.1	5.8	240	71-2・36	全体研磨、底面滑沢
125	山型石冠（III-B）	グリット別ｃ２	½	流紋岩	7.2	(4.3)	(5.6)	(135)	90－１	被火熱、底面に敲打痕、全体軽いみがき

25．玉類　（挿図90－４～７）

遺構外で出土した玉類は小玉２点（６・７）、臼玉２点（４・５）、未製品１点である。小玉の１点(7)は密度3.00の翡翠製で孔の位置が一般と異なっている。臼玉は良質の蛇紋岩製と滑石製とがある。

表34　玉類一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
3019	臼玉	ＳＫ３	完形	軟玉	0.82	0.8	0.6	0.5	70-3・82	淡緑色
4295	硬玉製大珠 蹟節型	硬玉製大珠包含層	完形	翡翠	7.9	2.9	1.8	79.87	69-2・25	密度3.27
2424	小玉	グリット別ｃ５	完形	不明	0.9	0.9	0.7	0.7	90－６	茶褐色
1953	小玉	ｄ13	完形	翡翠	1.5	1.2	1.0	2.58	90－７	密度3.00、淡緑色、灰色
1668	臼玉	ｅ５	完形	良質蛇紋岩	0.8	0.8	0.4	0.4	90－４	緑色
1984	臼玉	ｅ11	完形	滑石	0.7	0.7	0.5	0.3	90－５	黒色
4025-3	玉の未製品	ｇ８	ほぼ完形	粘板岩	1.6	1.2	0.2	0.7		穿孔痕

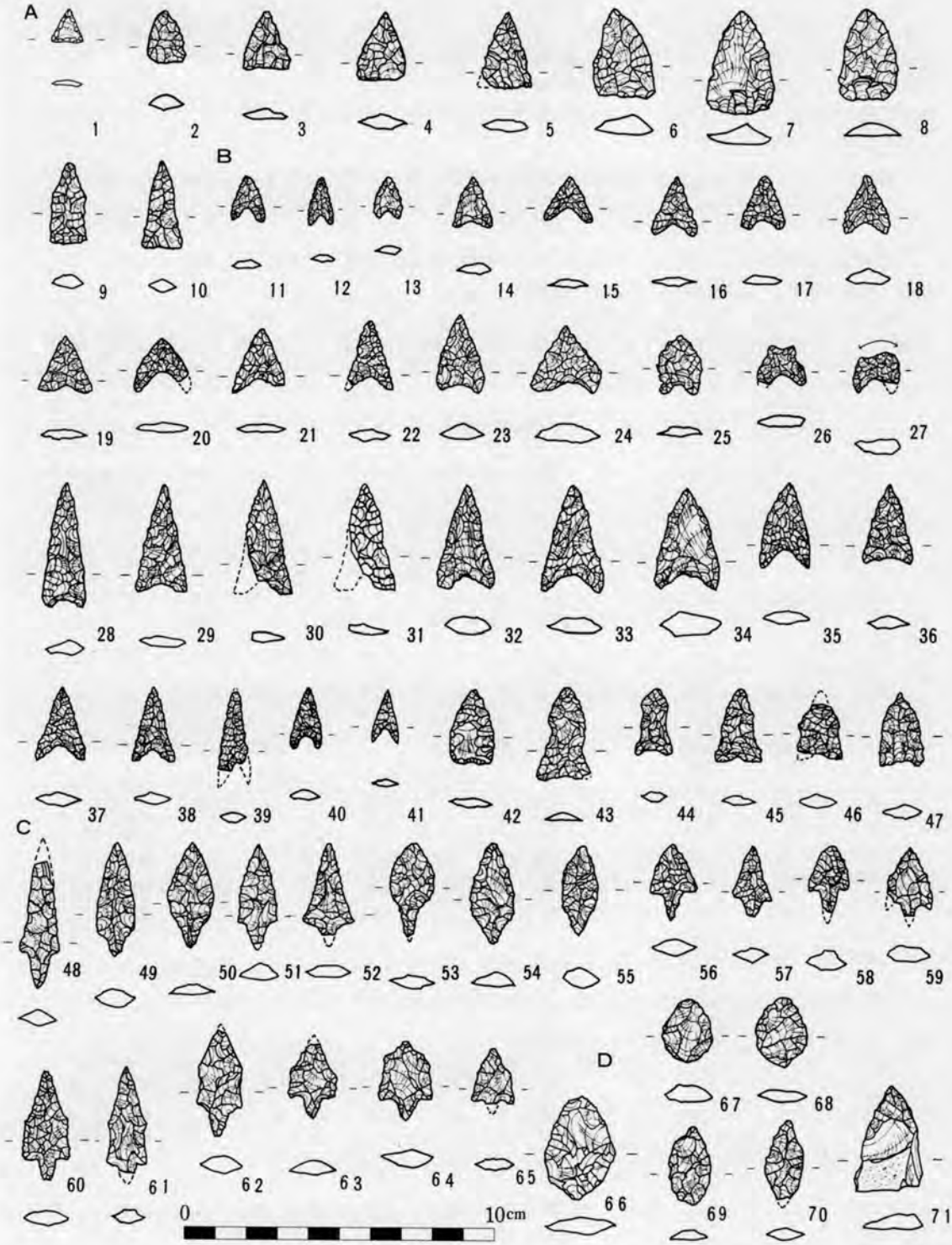
26．その他　（挿図90－８）

装飾品と思われる石製品が１点ある。粘板岩製で孔及び線刻が施されている。

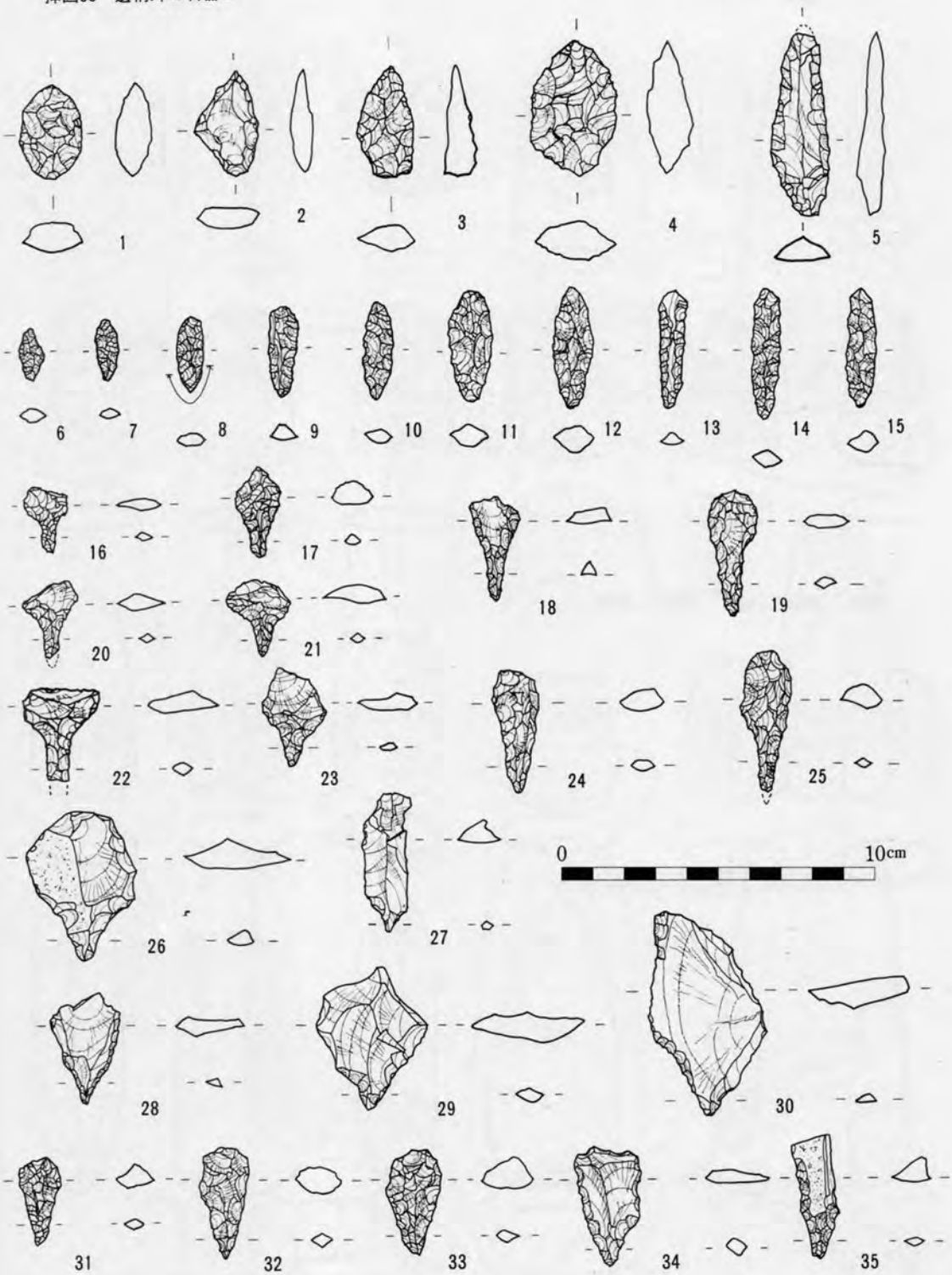
表35　その他一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
＜装飾品＞										
2143		グリット別ａ２	一部	粘板岩	(2.4)	(1.4)	0.5	(1.7)	90－８	線刻による紋様、彩朱痕
＜石製品＞										
4258		表採	完形	粘板岩	3.3	1.2	0.5	2.6		擦痕
＜原材料＞										
108		グリット別ｆ12	完形	水晶	(3.8)	1.1	1.0	5.9		先端使用か

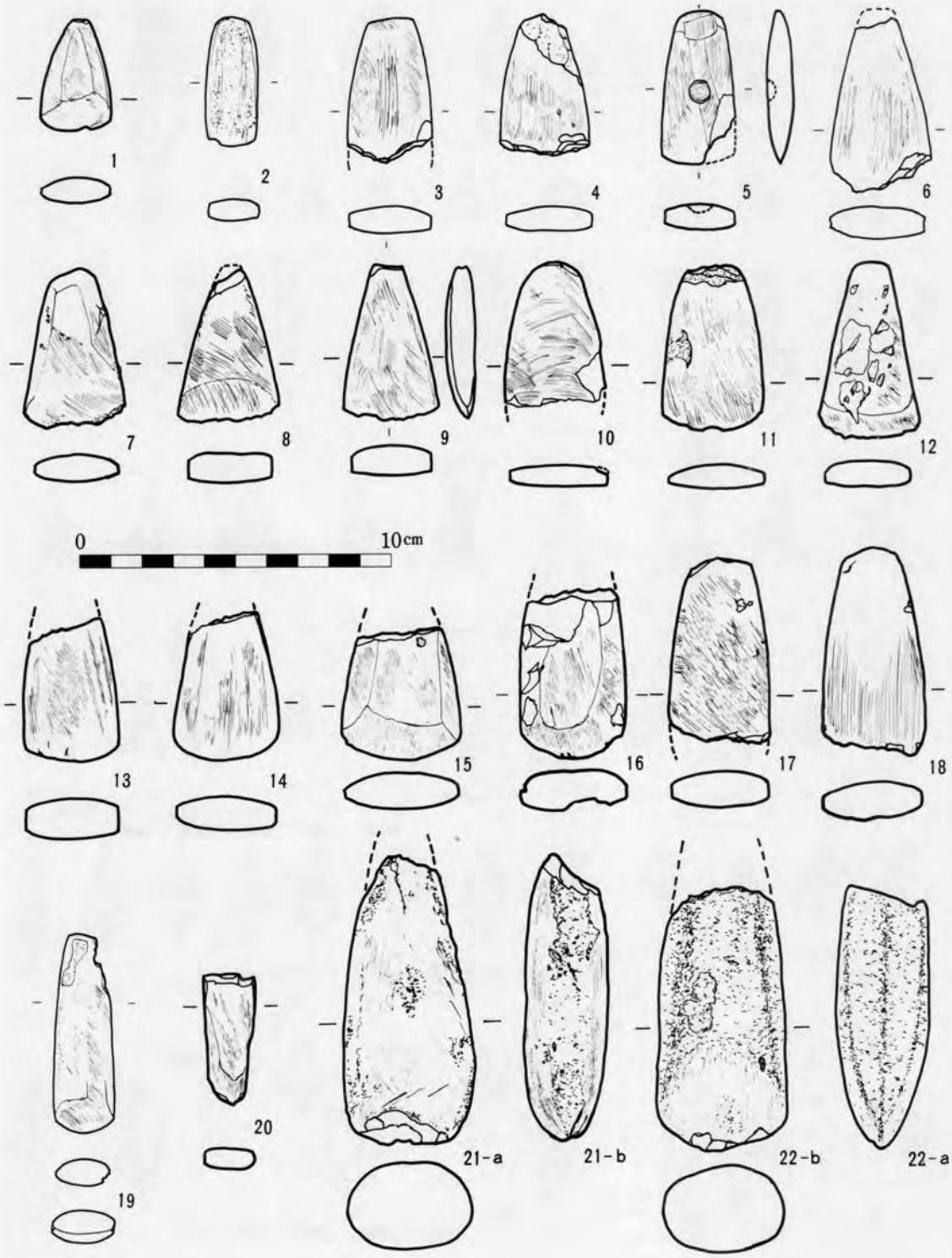
挿図82　遺構外の石器 1



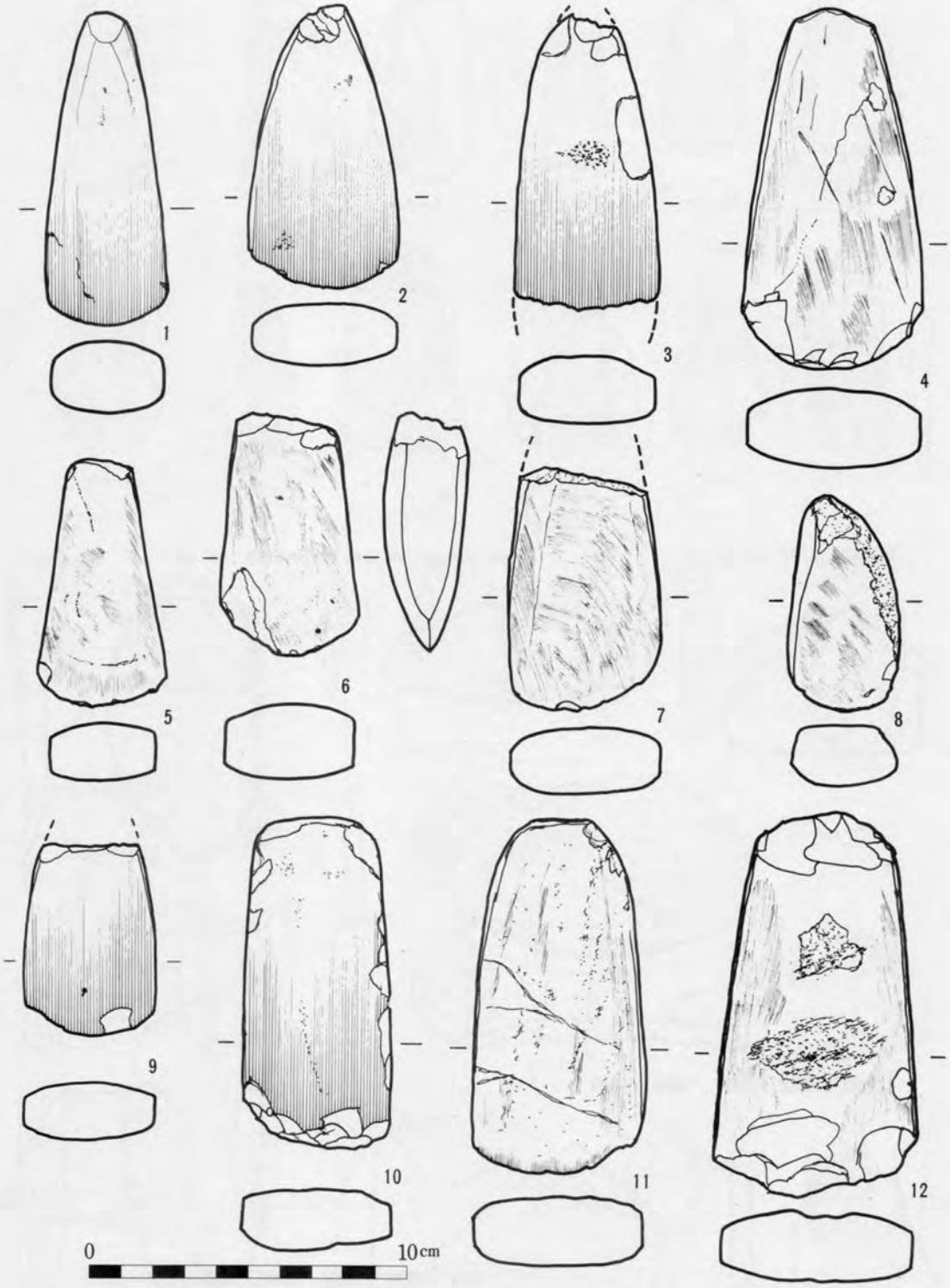
挿図83　遺構外の石器 2



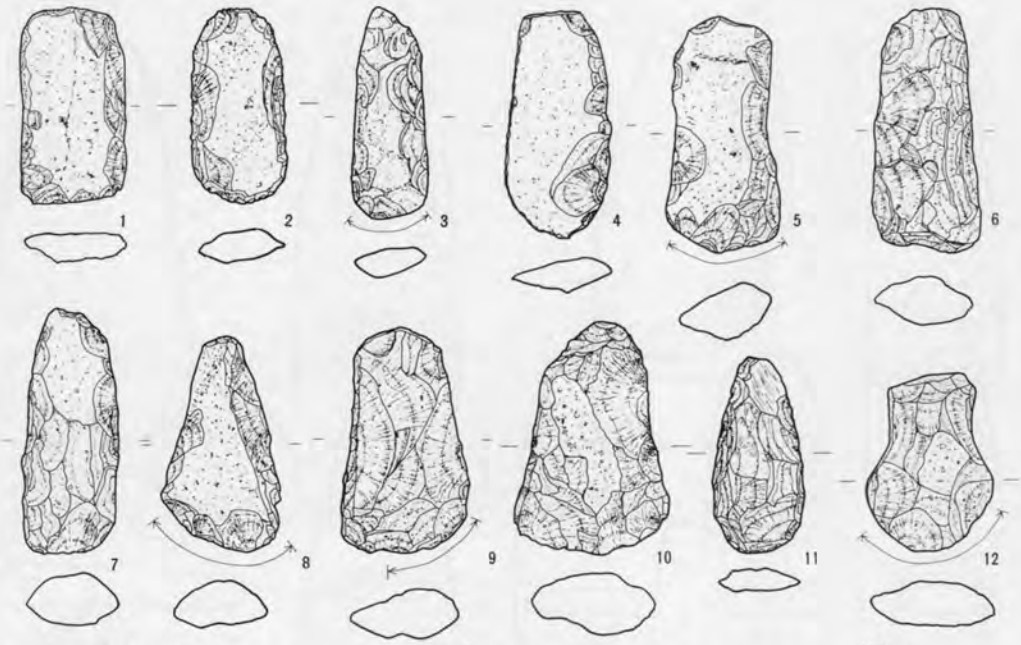
挿図84　遺構外の石器 3



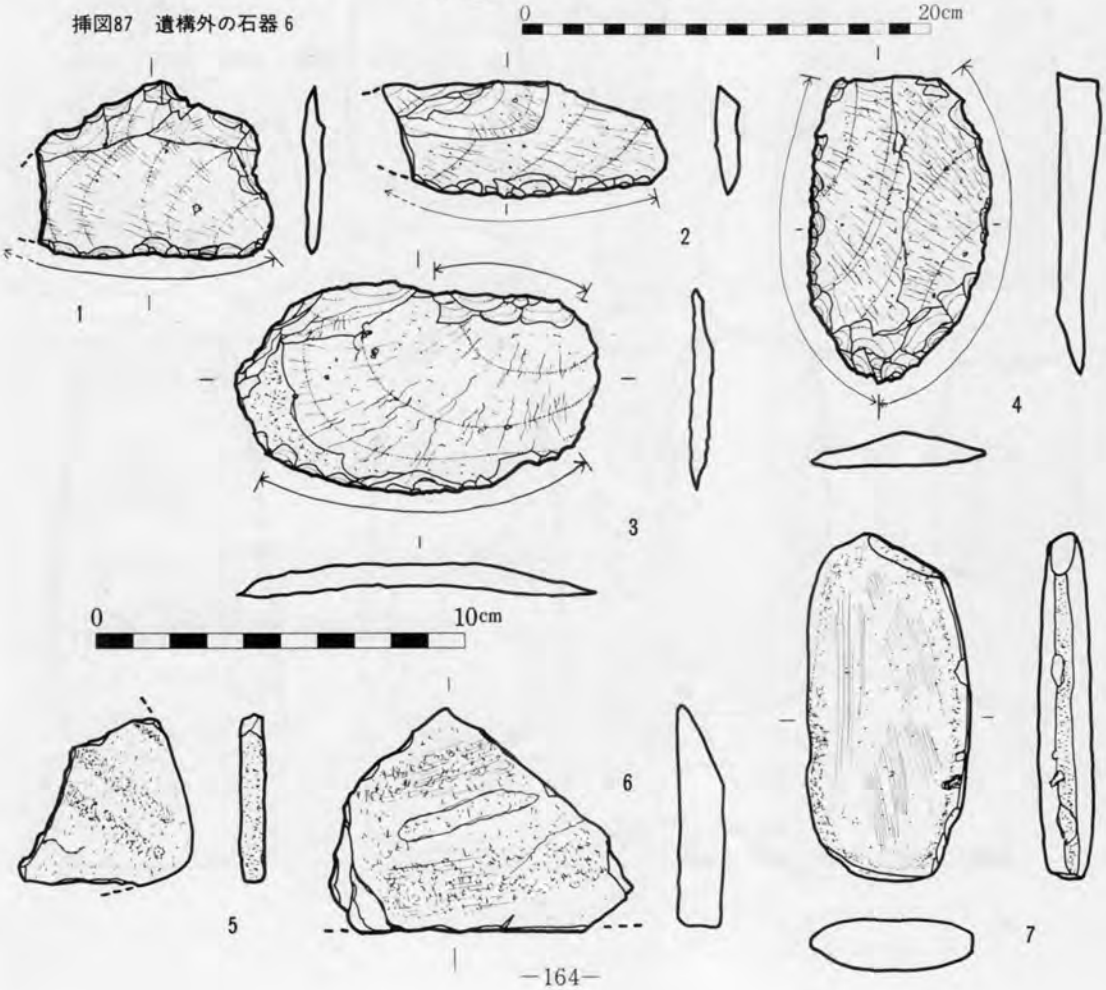
挿図85　遺構外の石器 4



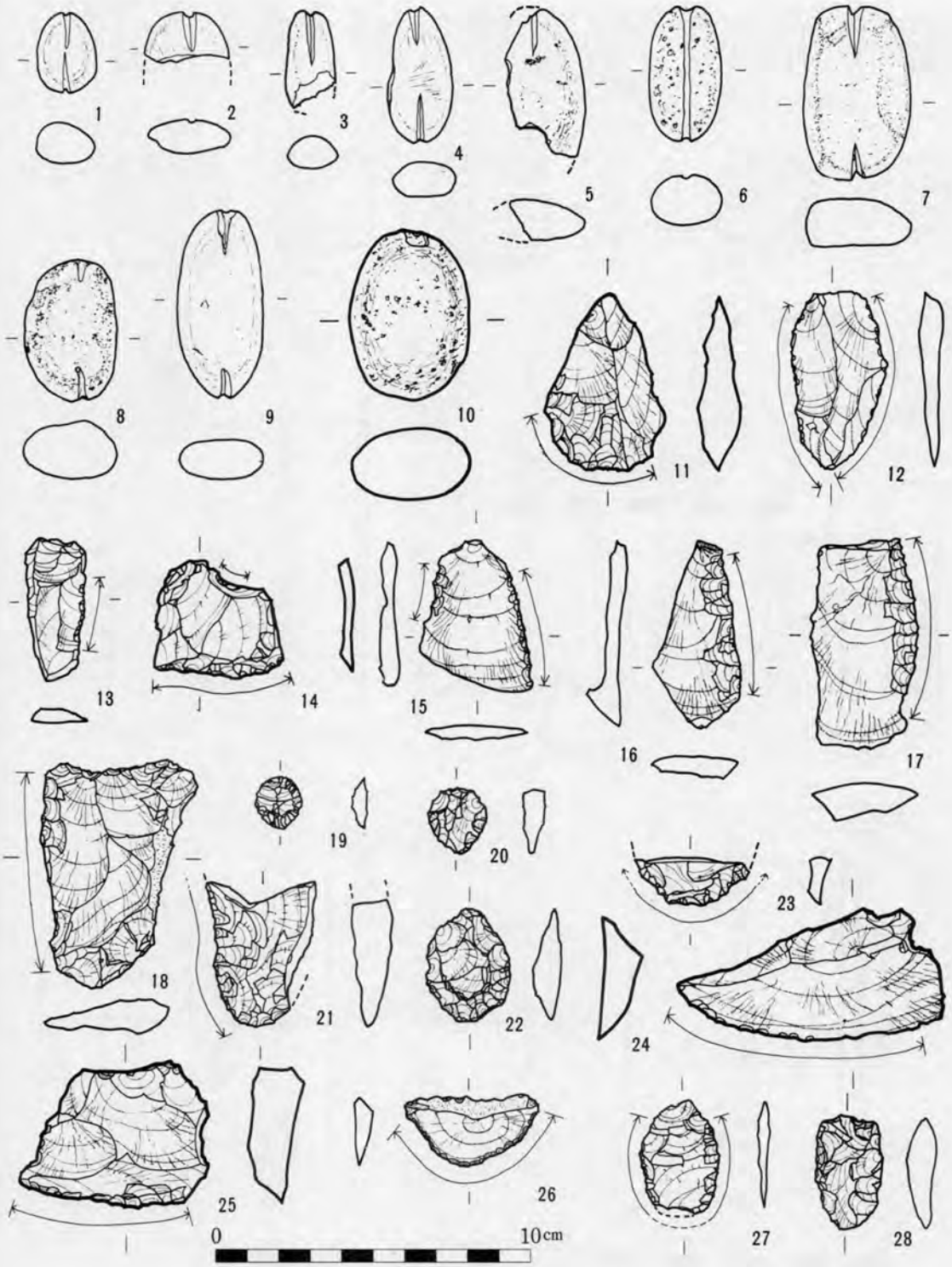
挿図86　遺構外の石器 5



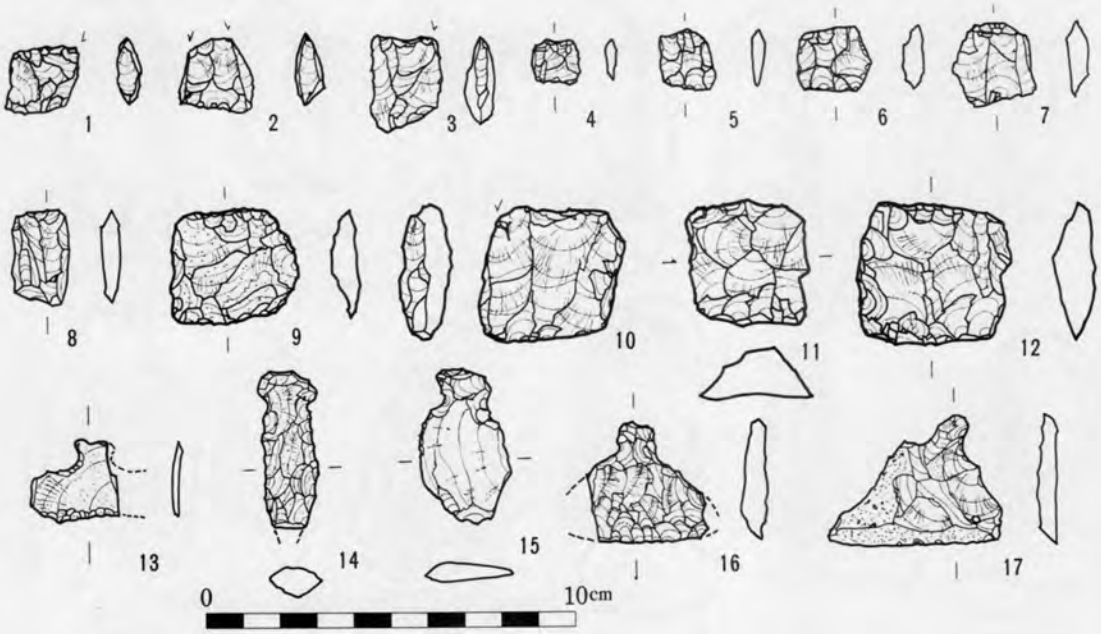
挿図87　遺構外の石器 6



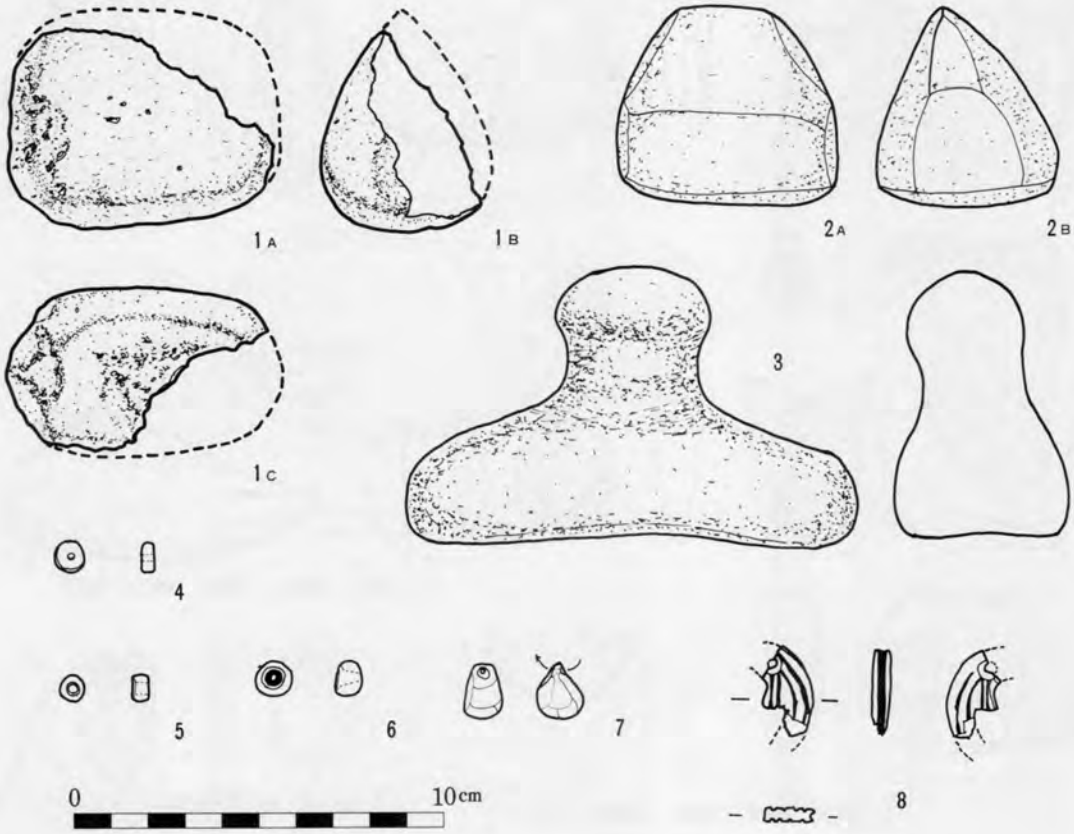
挿図88　遺構外の石器 7



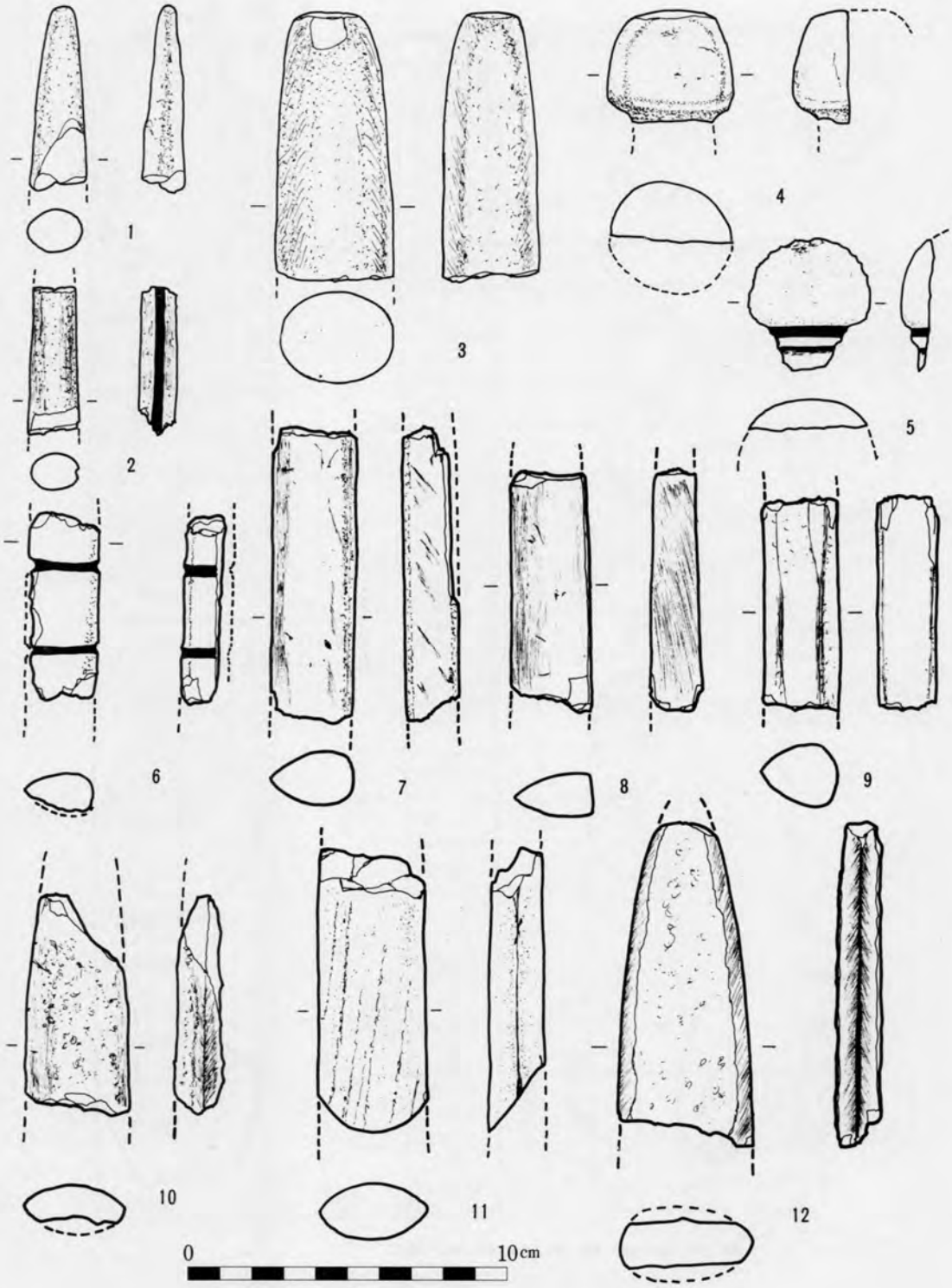
挿図89　遺構外の石器 8



挿図90　遺構外の石器 9



挿図91　遺構外の石器10



挿図92　遺構外の石器11

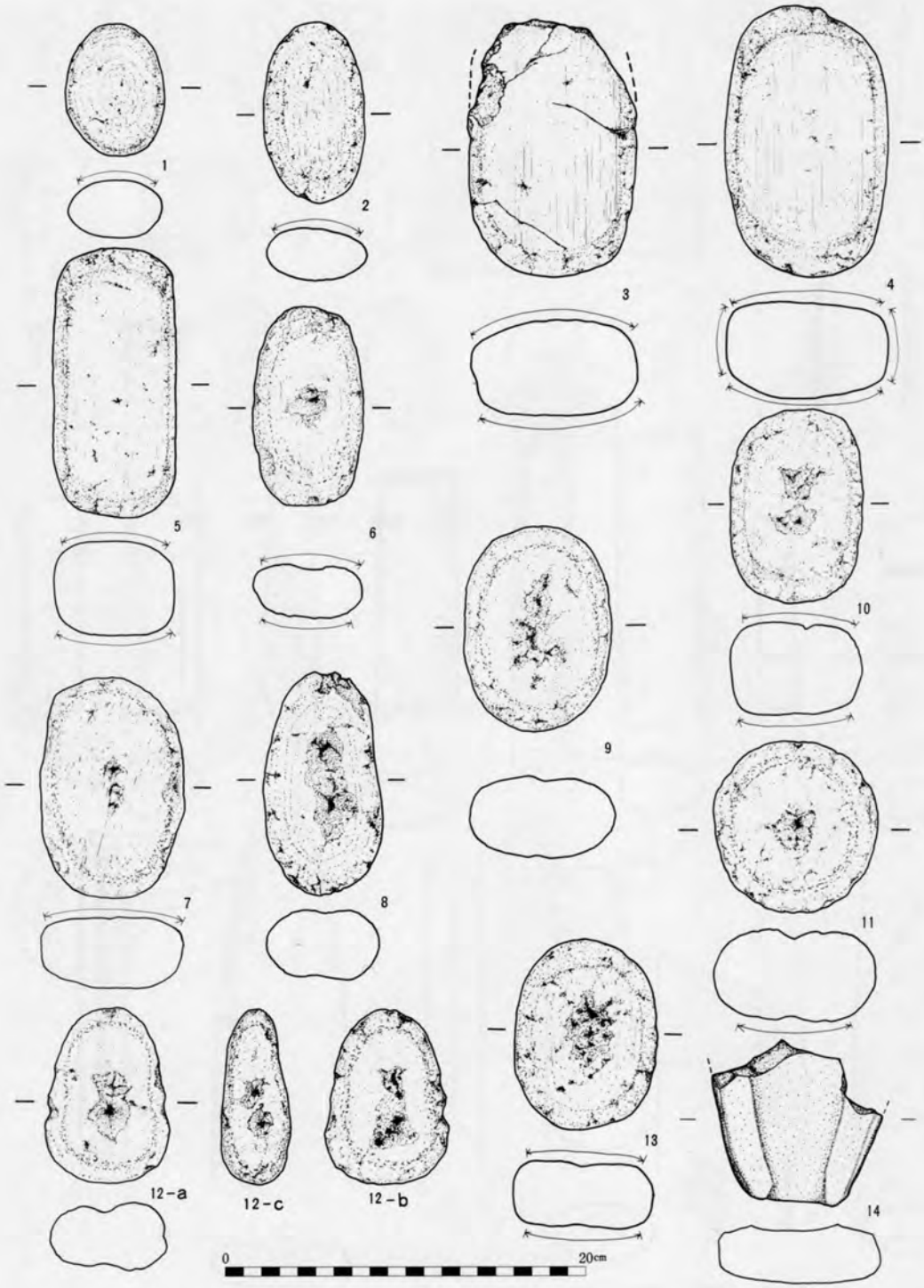


表36　寺東遺跡出土遺物集計表

1.　遺構別

分類 / 出土区	狩猟具						農具・工												
	石鏃					尖頭石器	石錐		磨製石斧			不明・未製品	打製石斧		石庖丁	砥石	台石	石錘	
	三角A	凹基B	有柄C	柳葉D	その他・未製品等		棒状錐A	ツマミ付錐B	小型6cm以下A－a	小型(乳棒状・ノミ形)	大型6cm以上A－b		短冊	その他				打製A	磨製B
SB1周辺のピット群											1								
集石群包含層		4	3		2	1			1		3		6	撥形3		2		1	
第1号炉																1			
第2号炉											1								
SK1 (b10グリッド)		1									1			撥形1					
SB2		3	1				1		1		3	不明1	3				1		
SB3		1			1						1		2						
SB4									1		10	未製品1	8	撥形1 他1				1	
SB5											2		2						
SB6		2									3		1		1				
SC6				1															
SC8 (石冠、石棒を伴う)																			
東側P群	2		1		2		1	1	1		5	破片1	14	撥形2 不明1	1	3			1
SK2 (f11グリッド)	1	1									1		6			1			
SB4の東P群							1				1		5						
西側P群		8	1	1		1					5	未製品1	6	未製品1		1			
SK3 (d4グリッド)									2										
硬玉製大珠包含層																			
遺構分小計	3	20	6	2	5		3	1	6		37	4	53	撥形7 他3				2	1
	(36)					(2)	(4)				(47)		(63)		(2)	(8)	(1)	(3)	

具						調理具					他		宗教的（呪術的）道具					
錘 磨製B	掻器	削器	ピエス・エスキーユ	u・f	剥片（フレーク）	石匙	磨石	凹石	敲石	石皿	削片（チップ）	石核	石棒	石剣	石刀	石冠	玉類	その他
					5		楕円1				9							
		1		4	45	1	楕円6、丸1 長円形2		1		124	1						石 6 石片3
					1			•			1							石 1
											2	2						
					3			2			6							丸石1 石 3
		4		1	6		楕円1			1	28	3	1					
					7						14							
	1	2		2	15		楕円6、長円形1、その他1	2		1	30	1						石2 他3
		1			1		楕円1				4							石3
					3		（ウメガメ内）円1、長円形1	1			4							石1
							長円形1											
				1	1		楕円1						1			2		
1		3		4	31	1	楕円2、長円形1、丸1	4	1	1	68	2	2					
					15	1	楕円3、丸2				69							
		1			17					ミニ 1	20	1						
	1	4		2	22		楕円1	2	1		87	5			1	1		
																	1	
																	1	
1							楕円22、丸4、円形1 長円形6、その他1											
)	(2)	(16)		(14)	(172)	(3)	(34)	(11)	(3)	(4)	(466)	(15)	(4)		(1)	(3)	(2)	(23)

2．グリッド別

出土区	分類	狩猟具						農具・工具													
		石鏃					尖頭石器	石錐		磨製石斧					打製石斧		石庖丁	砥石	台石	石錘		掻器
		三角A	凹基B	有柄C	柳葉D	その他・未製品等		棒状錐A	ツマミ付錐B	小型6cm以下	乳棒状	ノミ形	大型6cm以上	不明・破片	短冊	その他				打製A	磨製B	
グリッド別	a－1	2	12	11		4		3	7	1			1		2							
	2	4	12	13		7	1	9	8		A－c(ノミ形)1 B－b(乳棒長)1		1		5	撥形4						
	3																					
	4							1														
	b－1		7	2				1			B－a (乳棒短)1		1		2							
	2	4	1	5			1	2	2				1		2	撥形1						
	3		1						2													
	4		1	1		1		3	2	1			2		5							
	5		4					2							2							
	6	2	2	2				1		1					1							
	7		2	1		1				1					1							
	8										A－c (ノミ形)1				1	撥形1					1	
	9																1					
	10		1	2											1				1			
	11					1		2	1						4						1	
	12		2			1		1		1					2							
	13								1													
	c－1	1	5	1				1					2		1	撥形2		2				
	2	2	3	1					2	1	B－a (乳棒短)1		2		4	撥形2						
	3		1					1	1	1					1			1				
	4		2	1		1	2	1	1							分銅1						
	5	1	4	2		1		2	3						2	撥形1						
	6	1	1			1		2	1													
	7		2	1		3		1		2					3							1

具							調理具					他		宗教的（呪術的）道具					
石錘		掻器	削器	ピエス・エスキーユ	u・f	剥片（フレーク）	石匙	磨石	凹石	敲石	石皿	削片（チップ）	石核	石棒	石剣	石刀	石冠	玉類	その他
打製A	磨製B																		
			3	2	2	20						262	2		1				
			2	1	1	4	1	楕円1				521		1					装飾品1
					3	15							2						
			1		5	6							1						
			1	1	3	18	1					99	2	1		1			
			2	2	4	12						71	1						
			1																
			1	1	4	12						49	2	1					
			1		11	8						104	7						
			2	1	2	4						26							
			2			4						36		2					
	1		2			4						20		1					
			1			1	1					6		1					
						1						1							
	1		1			3						28	1						
			1		1	6						33		1					
			1		2	2		長円形1				10							
				2	4	20		楕円2	2			59	1		2		1		
			1			14						23	4						
						6		楕円1				30				1			
						31	1	楕円1				115	4			1		小玉1	
			1	1	1	5						27	1						
		1	2	1	2	13		丸 1				58	5						

2．グリッド別

出土区	分類	狩猟具						農具・工											
		石鏃					尖頭石器	石錐		磨製石斧					打製石斧		石庖丁	砥石	台・石
		三角A	凹基B	有柄C	柳葉D	その他・未製品等		棒状錐A	ツマミ付錐B	小型6cm以下	乳棒状	ノミ形	大型6cm以上	不明・破片	短冊	その他			
グリッド別	c－8		1	1		1				1					2				
	9												1						
	10												1		2		1		
	11	1								1			1		2				
	12			1	1			1	2	1	A－c（ノミ形）1				1				
	13		4										1		1				
	d－3		5	1		1		1		1			3		1	撥形1	2		
	4		1	1										1					
	5		3	1				1	1	1					3				
	6		1	1		1			2						1				
	7									1									
	8		1	1												撥形1			
	9												1		3	撥形1			
	10		2							1			2		7			1	
	11		1	1				1							2			1	
	12							1	1						2				
	13		1		1	1			1						2	撥形1			
	e－3			2		2			1										
	4		1			1										撥形1	1		
	5	2														撥形1			
	6		3					1											
	7			1									1						
	8		3						1						1	撥形1			
	9		3	2					1						1				

工具									調理具					他		宗教的（呪術的）道具					
砥石	台・石	石錘 打製A	石錘 磨製B	掻器	削器	ピエス・エスキーユ	u・f	剥片（フレーク）	石匙	磨石	凹石	敲石	石皿	削片（チップ）	石核	石棒	石剣	石刀	石冠	玉類	その他
					1		1	7		円形2				29	2						
					1				1	楕円1											
										楕円1											
		1					2	3		楕円1		1		3	1						
					1			10		楕円1				38							
						1	1	10						47							
							3	11						59	2						
										楕円2				7							
					1			15						41	1						
						1	2	6						30	3						
														6							
					1			3		楕円1	1			14							
					1		1			円形2、楕円1 長円形1	2		1	6	1						
1					2			4													
1								2			1			4							
							1	2						12				1			
					1		4	4						22	2					小玉1	
							1	5		楕円1				33							
						1	1	1						22	1						
							2	5						32	2					ウス玉 1	
							2	7						24		2					
								3						6							
					1			5						8							
					2	1		11						19							

2．グリッド別

出土区	分類	狩猟具						農具・工										
		石鏃					尖頭石器	石錐		磨製石斧					打製石斧		石庖丁	砥石	台石
		三角A	凹基B	有柄C	柳葉D	その他・未製品等		棒状錐A	ツマミ付錐B	小型6cm以下	乳棒状	ノミ形	大型6cm以上	不明・破片	短冊	その他			
グリッド別	e－10		2										1		3				
	11	1											1		7				
	12	1						2							1				
	13	2	2			1			1				1		1				
	f－4								2										
	5					2													
	6		4			1				1							1		
	7								1						1				
	8	1		1					1	1					1				
	9		1				1	1		1			1		1				
	10		7					3	2				3		5	撥形1	1		1
	11	1	9							1					8		1		
	12	1	4																
	13		1										1		1	撥形1			
	g－4		1			1									1				
	5					1									1				
	6					1													
	7		3	1		1				1	B－b（乳棒長）1				2	撥形1			
	8		2												2				
	9	1	6					2	1	2			1		3			1	
	10		1			2								1	2	撥形2			
	11	2	4			1		2	2				2		11				
	12		2	1														1	
	h－5		1							1			1						

工具									調理具					他		宗教的（呪術的）道具					
砥石	台石	石錘 打製A	石錘 磨製B	掻器	削器	ピエス・エスキーユ	u・f	剥片（フレーク）	石匙	磨石	凹石	敲石	石皿	削片（チップ）	石核	石棒	石剣	石刀	石冠	玉類	その他
							2	1						10	2						
					2	1		3		丸 1 長円形 1	1		1	17	2					ウス玉 1	
								2						5							
							2	9						26		1					
							1	6						40	2						
			1			1		5						26	3						
							2	3						15				1			
						3		6						32	1						
					1			3						25							
					3		1	5						8		1					
	1					3	1	23		円形 1 楕円 2	2			53	1	1		1			
					1	3		14		円形 1 楕円 1				39	2						
							2	5						25							原材料(水晶) 1
							2							41	1						
														14							
					1	1								5				1			
														13	1						
			1		2		4	4			1			53	1						
					1	2	1	11		楕円 1				27						玉 未製品 1	
1	1					1		5		楕円 1				4	1						
						1		14	1					41							
			2		4		3	21		円形 1 楕円 1	2			48	1			1			
1																					
								3						26	1						

2．グリッド別

分類 / 出土区		狩猟具 石鏃 三角A	凹基B	有柄C	柳葉D	その他・未製品等	尖頭石器	農具・工 石錐 棒状錐A	ツマミ付錐B	磨製石斧 小型6cm以下	乳棒状	ノミ形	大型6cm以上	不明・破片	打製石斧 短冊	その他	石庖丁	砥石	台石
グリッド別	h－6																		
	7	1	1						1		A－c（ノミ形）1								
	8		3			1	1	1					1		3	撥形1			
	9		1						2	1					3	撥形1			
	i－5				1	1													
	6			1											1				
	7		1		1			1		1					2	撥形1			
表採		12	18	11	2	7	4	16	11				3	1	7	撥形2	4	2	
グリッド別表採小計		43	167	71	6	48		67	65	26	8		37	3	137	撥形28 分銅1			
		(335)					(10)	(132)		(74)					(166)		(12)	(9)	(3)
総計		46	187	77	8	53		70	66	32	8		74	7	190	39			
		371					12	136		121					229		14	17	4

工具								調理具					他		宗教的（呪術的）道具					
台石	石錘 打製A	石錘 磨製B	掻器	削器	ピエス・エスキーユ	u・f	剥片（フレーク）	石匙	磨石	凹石	敲石	石皿	削片（チップ）	石核	石棒	石剣	石刀	石冠	玉類	その他
													1							
						1	13						62							
				3			18		長円形1	1			37	4	1					
		1		4		1	7						16							
				1	1		4						13							
						1	3						8							
							6			1			22							
	1			7 (粕製3)	18	52	344	1	楕円 1 長方形 1	4		2	2784	72						石製品 1
(3)	2	7 (9)	(1)	(68)	(51)	(142)	(861)	(7)	楕円21、円形7、長円形4 丸2、長方形1 (35)	(18)	(1)	(4)	(5576)	(143)	(14)	(3)	(8)	(1)	(5)	(3)
4	4	8 12	3	84	51	156	1033	10	楕円43、円形8、長円形10 丸6、長方形1、その他1 69	29	4	8	6042	158	18	3	9	4	7	26

第5節　西保木遺跡の土器

西保木遺跡から出土した土器は、集中散布地点で約6個体分の土器、その他の地点で散在している約350点の土器片が出土した。縄文中期のものが少量みられるが、大部分は晩期中葉に属するものである。以下に類別を行いたい。

1．中期の土器　（挿図93）

1はヘラの先端で交互に刺突を加えて波状効果を出している沈線文土器で、唐草文系土器の頸部文様帯によく見られるモチーフである。黄褐色で器厚12㎜、胎土・焼成とも良好である。2は隆帯による半円形の内部を沈線が埋める櫛形文風の土器である。黄褐色、器厚6㎜、雲母を含み焼成は普通である。

2．晩期の土器　（挿図93・94）

1類　（3～12）

沈線文の施される土器群で14点ある。3は口縁部に波状沈線と裏面にも2条のヘラ描沈線、4は波状口縁下に隆帯を伴う4条の細い波状沈線が加えられる。5は太い波状沈線の間に短い沈線が入る。8、9、10は平行沈線間に刺突がみられる。10は土器集中地点の唯一の有文土器である。12は口縁部内側に沈線文による工字文風の文様が描かれる精製土器である。

2類　（13、14）

隆起線のつけられる土器で10点。13は口縁部に帯状に隆帯が付加され刺突が入る。14は隆帯が直交する。

3類　（15～18）

磨消縄文の施される土器であるが、いずれも胎土はやや粗で焼成も決して良いとは言えない。15は平行沈線間にＬＲの縄文が交互につけられ、口唇は尖り気味の椀形土器である。16は刺突列も加わる注口土器と思われる。17は4～5条の細い沈線とＬＲの細かい縄文がみられる。18は半隆起帯上に縄文がつけられ、沈線による三叉入組文がみられる。3類は以上の4点である。

4類　（19～24）

縄文の施される土器群で、44点がみられる。19は方向を違えて2種類の縄文が重複する。20は結節がみられる。21、22は口唇が角ばり、口縁部は直上する。

5類　（25～28）

条痕文土器で、11点ある。25は26の口縁部破片で、口唇に刻み目が入るが斜めではない。27、28はそれぞれ横位・斜位に条痕が走る。

6類　（29～42）

無文土器を一括した。集中散布地点の5個体分は、口唇部に刻み目をもたない平縁の深鉢土

器で、うち1個体の口縁がやや開く形である。（29、30、31）他の2個体は口唇部に斜めの刻みが入る深鉢で、口縁が開き最大巾は胴部にある。（41、42）これらの土器はいずれも茶褐色を呈するが、29は胎土焼成ともあまり良好でなく、輪積み痕を残す。30は胎土が精製されて裏面はよく磨かれ滑沢を帯びている。41、42は胎土焼成とも普通であるが、やや砂を多く含んで軟かい感じである。この底部は網代底である。その他の無文土器は244点を数え前掲地点の同一個体の破片（35、36）の他、4種類の口縁がある。32は外反し、33は丸みを帯びる。34は瘤状の突起がつく。

7類（37～40）

底部をまとめた。土器集中地点に5点(5個体)、その地点に20点（約14個体）がある。網代底が8点、無文が6点で他は不明である。

以上の土器群はほぼ晩期中葉でまとめられる一群で、1～3類に北陸系中屋式に類似する要素を多くみる。6類の粗製深鉢もこの時期のものとみてさしつかえないであろう。

第6節　西保木遺跡の石器

西保木遺跡から出土した石器類は石鏃1、尖頭石器1、磨製石斧2、打製石斧37、削器2、彫器1、磨石4点、その他剥片類6点がその全てである。恐らく居住区域からやや離れた場所の様相を示していると考えられ、また打製石斧が多く散在している点が特徴的である。以下に個々の石器を略述したい。

石鏃（1）　（挿95－2）

チャート製で、三角形に少し底部の抉りが加わる型の凹基鏃である。早期の中葉段階にこうしたタイプを見る事が多い。

尖頭石器（挿95－2）

質の悪い赤色チャートを用いているが、押圧剥離で両面加工を行い、厚みのある身部を作出している。尖端は鋭く、底部は少し抉りをみるが重量からしても石鏃ではなくやはり槍先であろう。古い時代に属する可能性がある。

磨製石斧（挿95－6、7）

7は蛇紋岩製の美麗な細身の定角石斧で、刃部は突出し鋭利である。6は頭部を欠くが同様の形態をなす定角石斧で蛇紋岩製、鉄分が付着する。

打製石斧（挿96－1～10）

37点のうち短冊型18、撥形14、その他5である。完形品は15点で、頭部を欠損するものが多い。石質は凝灰岩が16、緑色片岩12、砂岩9である。

削器（挿95－３、４）チャート製の粗雑な削器が２点みられる。

彫器（挿95－５）

下呂石の大形剝片を用い、先端部に樋状の剝離を数回加えて彫器状の機能部を作出している。

スリ石（挿96－11、12）

４点はいずれも凹みをもたない中形のもので、凝灰岩と流紋岩が半々である。

第37表　西保木遺跡の石器一覧表　（単位cm、g、カッコ内は現存値）

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
<石　鏃>										
288	B－a	表土	先端部欠	チャート	(1.6)	1.8	0.3	(0.8)	95－1	
<尖頭石器>										
73		Ⅳ	完形	チャート	3.6	2.2	1.0	8.3	95－2	
<磨製石斧>										
4	A－b	Ⅳ	完形	蛇文岩	9.7	3.9	2.3	130	95－7	
21	A－b	Ⅲ	下半分のみ	蛇紋岩	(5.7)	3.8	2.3	(77)	95－6	
<打製石斧>										
30	短冊形	Ⅳ	完形	緑色片岩	7.7	4.3	2.0	70		
32	短冊形	Ⅳ	完形	角閃石凝灰岩	9.5	5.2	2.3	135	96－3	
147	短冊形	Ⅴ	完形	砂岩	8.9	4.9	2.2	125	96－2	
148	短冊形	Ⅴ	頭部欠	凝灰岩	(5.7)	3.4	0.8	(17)		
233	短冊形	Ⅳ'	頭部欠	凝灰岩	(12.0)	6.9	3.6	(390)	96－7	
270	短冊形	Ⅳ'	上半部欠	凝灰岩	(5.8)	6.6	2.1	(98)		
292	短冊形	Ⅴ	上半部欠	凝灰岩	(6.2)	5.3	2.1	(98)		
309	短冊形	Ⅴ	下部のみ	緑色片岩	(5.3)	4.7	1.6	(51)		
325	短冊形	Ⅴ	完形	凝灰岩	8.2	5.8	2.1	133		
326	短冊形	Ⅴ	完形	砂岩	10.3	4.9	1.6	116	96－4	
331	短冊形	Ⅴ	頭部欠	凝灰岩	(6.8)	5.2	2.2	(115)		
335	短冊形	Ⅴ	頭部欠	緑色片岩	(8.1)	5.0	1.3	(64)		
337	短冊形	Ⅴ	刃部欠	凝灰岩	(7.4)	5.2	1.4	(60)		
339	短冊形	Ⅴ	完形	緑色片岩	8.9	4.6	1.6	91	96－1	
341	短冊形	Ⅴ	頭部欠	凝灰岩	(7.1)	6.1	2.0	103		
345	短冊形	Ⅴ	刃部欠	緑色片岩	(7.6)	5.2	1.6	(64)		
349	短冊形	Ⅴ	頭部欠	緑色片岩	(7.2)	4.8	1.7	(72)		
352	短冊形	Ⅴ	完形	砂岩	16.1	7.4	3.7	573		
94	撥形	Ⅳ	完形	緑色片岩	10.9	5.6	1.9	120		
107	撥形	Ⅴ	頭部欠	砂岩	(10.3)	8.6	2.3	(220)	96－8	
120	撥形	Ⅳ	上半部欠	凝灰岩	(6.8)	8.9	1.5	(101)		
146	撥形	Ⅳ"	完形	凝灰岩	10.4	5.5	3.0	200		
218	撥形	表土	完形	凝灰岩	10.8	7.4	2.5	220		
223	撥形	Ⅳ'	下半部欠	緑色片岩	(6.0)	4.1	1.3	(30)		
261	撥形	Ⅴ	胴部のみ	凝灰岩	(6.0)	5.7	1.6	(59)		
317	撥形	Ⅴ	完形	凝灰岩	9.3	4.8	1.9	99	96－5	
328	撥形	Ⅴ	完形	砂岩	10.0	4.9	1.4	87	96－10	
340	撥形	Ⅴ	完形	凝灰岩	8.4	4.9	1.7	75	96－6	
347	撥形	Ⅴ	完形	砂岩	11.5	5.1	3.0	185	96－9	
358	撥形	Ⅴ	完形	凝灰岩	8.5	4.8	1.8	90		
360	撥形	Ⅴ	下部欠	砂岩	8.2	(5.5)	2.1	(95)		
361	撥形	Ⅴ	頭部欠	砂岩	(8.5)	7.2	2.3	149		

遺物番号	形態分類	出土区	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号	備考
111	その他	V	一部	緑色片岩	(3.7)	(4.7)	0.7	(15)		
115	その他	V	一部	緑色片岩	(3.9)	(4.6)	0.6	(15)		
206	その他	V	一部	緑色片岩	(4.6)	(2.4)	0.5	(6.0)		
348-1	その他	V	一部	緑色片岩	(2.8)	(3.3)	0.6	(6.5)		
348-2	その他	V	刃部のみ	砂岩	(3.9)	7.2	2.1	(69)		
<削器>										
1		表土	完形	チャート	4.5	3.6	1.6	23.5	95－4	
122		IV	完形	チャート	3.1	2.5	0.9	6.0	95－3	
<彫器>										
80		IV	完形	下呂石	7.7	4.7	2.0	55	95－5	
<磨石>										
11	円	IV	完形	流紋岩	6.6	6.3	3.0	130	96－12	
123	丸	IV	完形	凝灰岩	7.1	6.0	4.6	260	96－11	
321	楕円	V	完形	凝灰岩	7.6	5.4	2.4	120		
346	丸	V	完形	流紋岩	6.3	6.2	4.5	200		

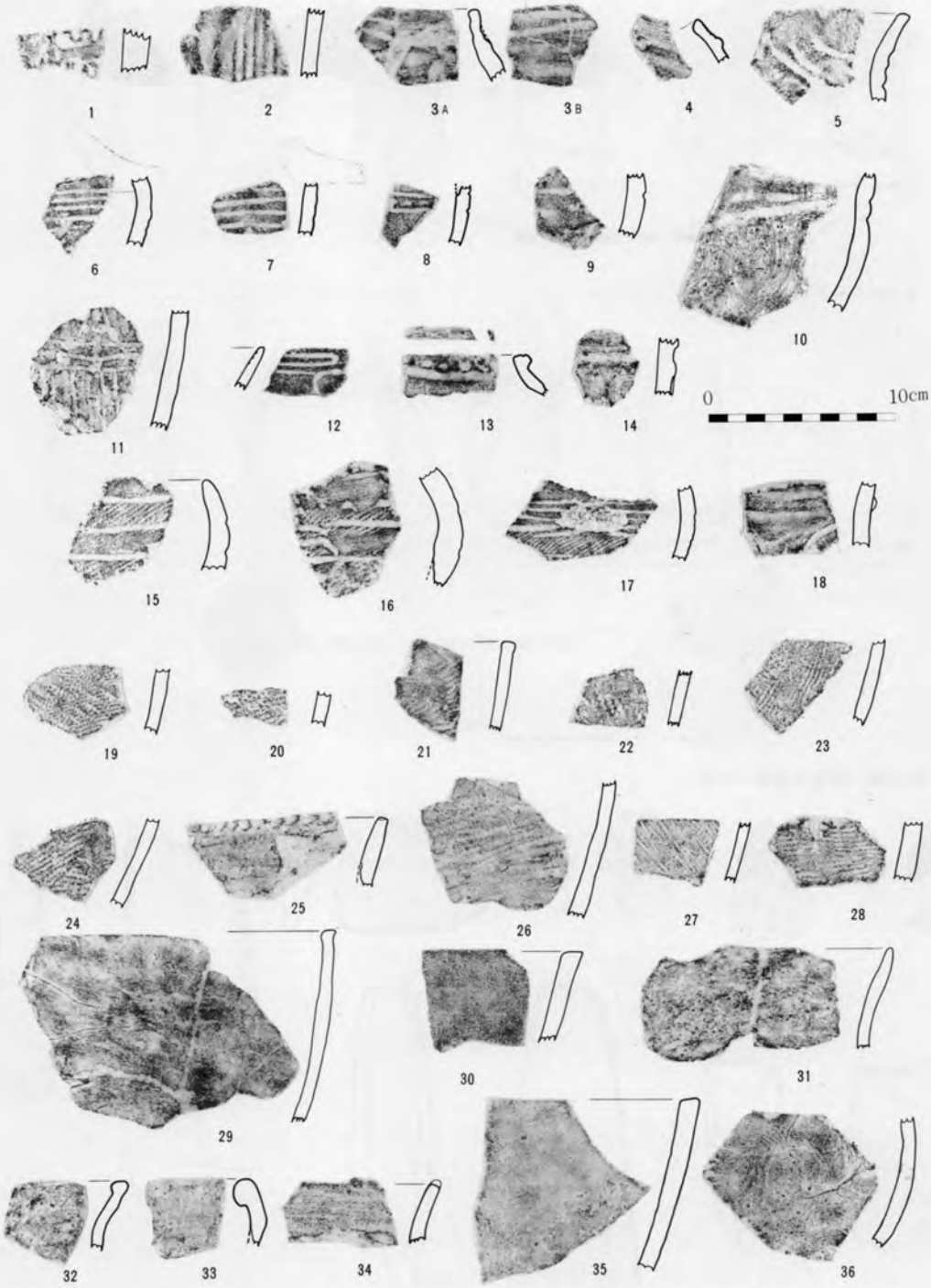
表38　西保木遺跡出土遺物集計表

分類 / 出土区	狩猟具						農具・工具												
	石鏃					尖頭石器	石錐		磨製石斧				打製石斧		石庖丁	砥石	台石	石錘	掻器
	三角A	凹基B	有柄C	柳葉D	その他・未製品等		棒状錐	ツマミ付錐	小形（6cm以下）	小型（乳棒状ノミ型）	大型（6cm以上）	不明・未製品	短冊形	その他				打製	磨製
表土		1												撥1					
III層											1								
IV層						1					1		2	撥2					
VI'層														撥1					
VII"層													2	撥1					
V層													14	撥9 その他5					
計		1				1					2		18	撥14 他5					

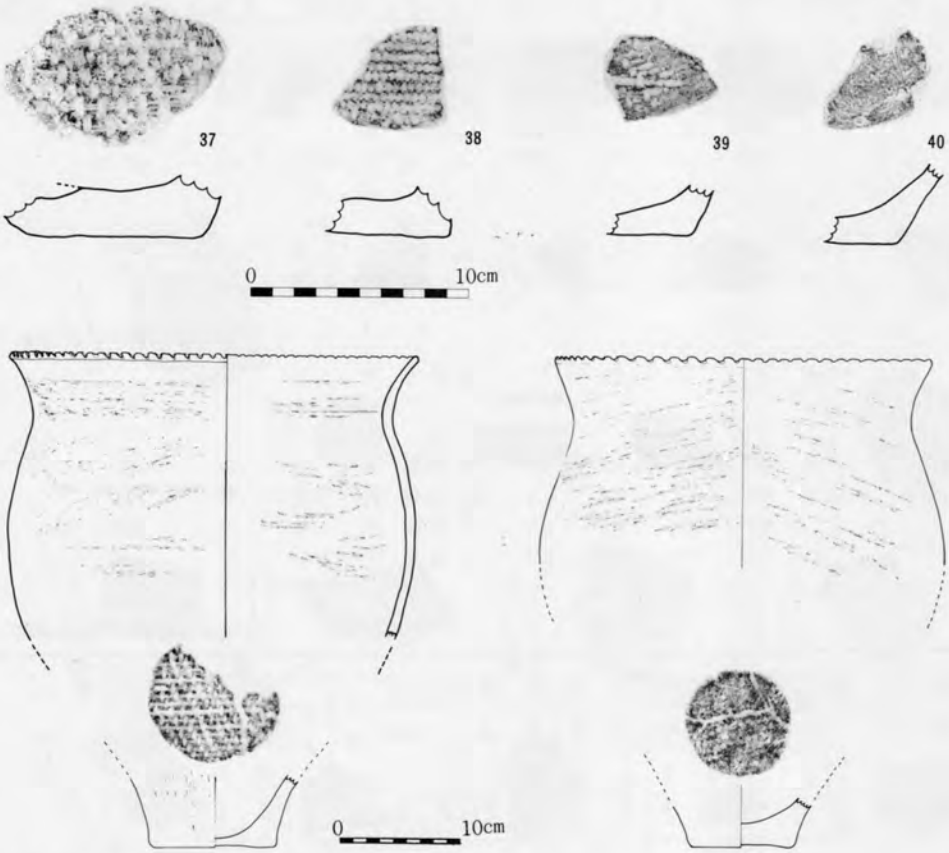
分類 / 出土区	農具・工具					調理具					他			宗教的（呪術的）道具					
	削器	彫器	ピエス・エスキーユ	u・f	剝片	石匙	磨石	凹石	敲石	石皿	削片	石核	その他	石棒	石剣	石刀	石冠	玉類	その他
表土	1			2	1														
III層																			
IV層	1			1			円1 丸1				1								
IV'層																			
IV"層																			
V層		1					丸1 楕円1				1								
計	2	1		3	1		円1 丸2 楕円1				2								

合計54点

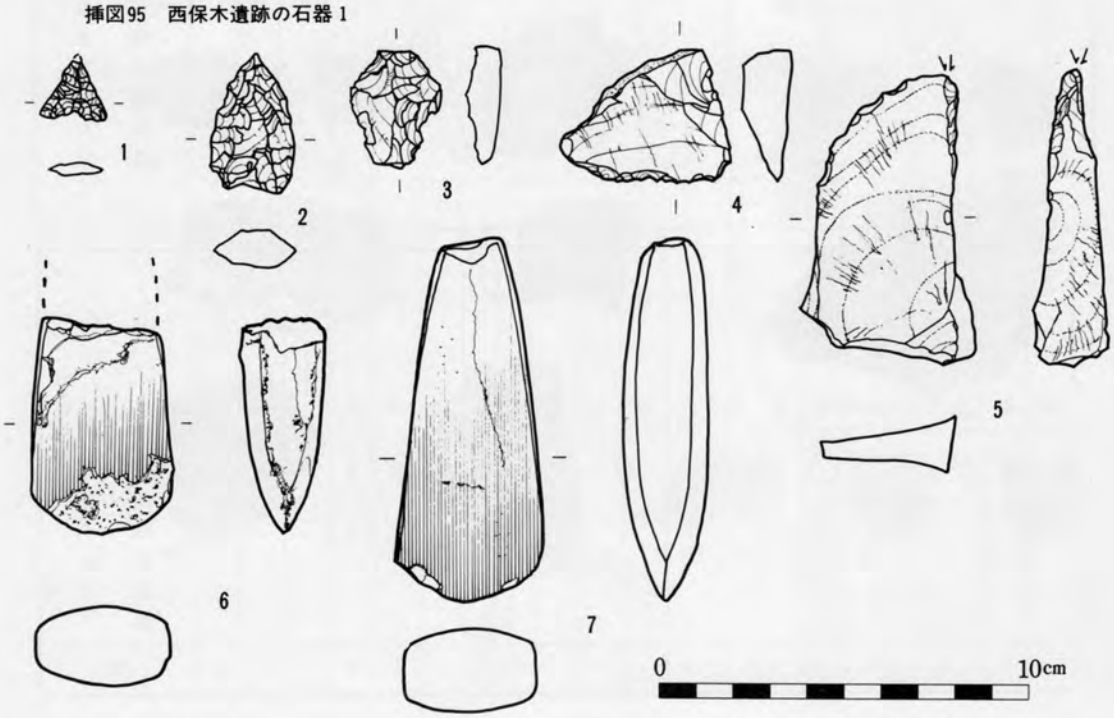
挿図93　西保木遺跡の土器 1



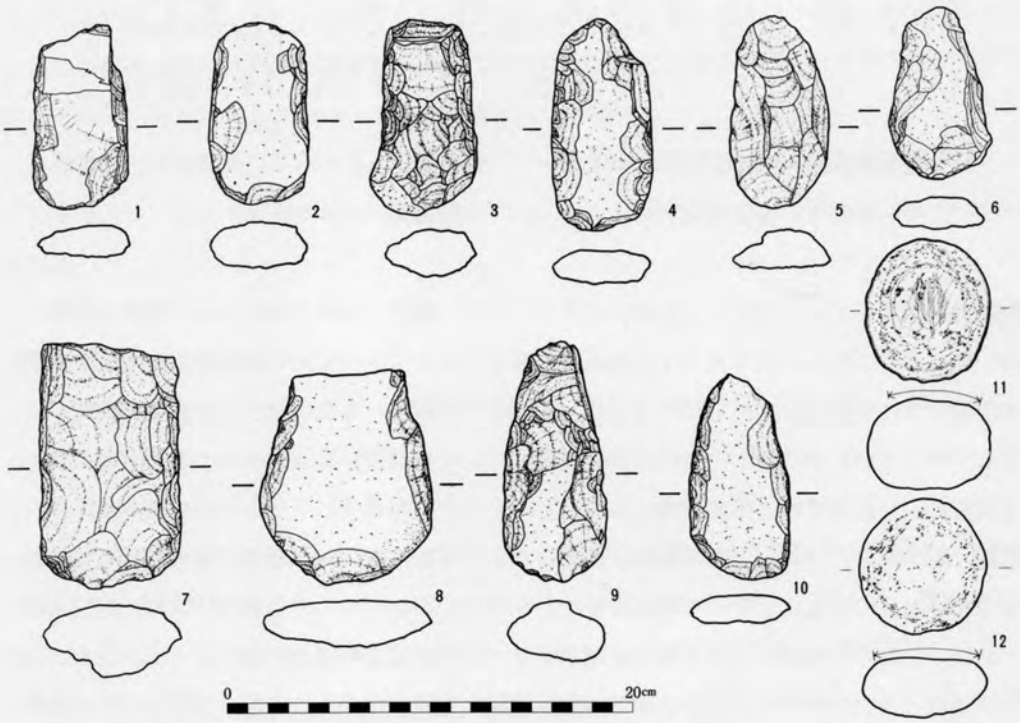
挿図94　西保木遺跡の土器 2



挿図95　西保木遺跡の石器 1



挿図96　西保木遺跡の石器 2



第７章　寺東遺跡遺構の埋設土器に残存する脂肪の分析

北海道測量図工社総合科学研究所　　福島道広，中野寛子，長田正宏
帯広畜産大学畜産環境学科　　中野益男

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質，糖類（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境条件の変化に対しては不安定で，圧力，水分などの物理的作用を受けて崩壊していくだけでなく，土の中に住んでいる微生物による生物的作用によっても分解していく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは，地下水位の高い低地遺跡，泥炭遺跡，貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近，生体成分の一部，とくに脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年と云う長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した。すべての動植物は体内に脂肪を持っており，これらを構成する脂肪酸およびステロールの組成は動植物の種によって異なる。この化学組成と考古学資料に遺存する脂肪の化学組成とを照合させることで，〝脂肪の持主〟を特定しようとするのが残存脂肪酸分析である。この「残存脂肪分析法」を用いて，寺東遺跡の埋設土器の性格を解明しようとした。

１．埋設土器試料

寺東遺跡の埋設土器は縄文時代中期から晩期と推定されている。その埋設土器見取図と残存脂肪分析試料採取地点を図１に示す。器高40cm，口径30cmである。試料として埋設土器内の上層部の土壌(No.１～５)，中層部の土壌(No.６～９)，下層部の土壌(No.10)，埋設土器直下の土壌(No.11)を採取した。対照土壌として住居址床面北側土壌(No.12)，住居址床面西側土壌(No.13)，住居址床面東側土壌(No.14)，住居址床面南側土壌(No.15)，東壁面表土(No.16)，東壁面覆土(No.17)を採取した。土器片４試料(No.18～21)は水道水で水洗後，自然乾燥。土器片は分析前にヒト手に接触している可能性があるので，試料の表面を有機溶媒で洗浄してから残存脂肪の抽出を行った。

２．残存脂肪の抽出

試料に３倍量のクロロホルム－メタノール（２：１）混液を加え，超音波浴槽中で30分間処理して残存脂肪を抽出した。

残存脂肪の抽出量を表１に示す。残存脂肪抽出量は土器片で0.0024～0.0159%，平均0.0079%，土壌試料で 0.002～0.0106%平均0.0012%であった。土器片および土壌からの残存脂肪抽出量は秋田県大湯環状列石周辺遺跡から出土した甕棺土器の平均０.036% と全国各地の遺跡土壌の平均0.02%と比較して低かったが，分析には十分量であった。

残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した。脂肪種は遊離脂肪酸が最も多く，次いでグリセロールと脂肪酸の結合したトリグリセリド，ステロールおよび炭化水素の順に検出された。

３．残存脂肪の脂肪酸組成

試料の残存脂肪に５%メタノール性塩酸を加え，125℃で2時間封管中でメタノール分解し，生成した脂肪酸メチルエステルを薄層クロマトグラフィーで分離・精製後，ガスクロマトグラフィーで分析した。[4]

試料の残存脂肪の脂肪酸組成を図２の１，２，３，４に示す。残存脂肪から13種類の脂肪酸を検出した。このうち，パルミチン酸（C16：0），パルミトレイン酸（C16：1），ステアリン酸（C18：0），オレイン酸（C18：1），リノール酸（C18：2），アラキジン酸（C20：0），エイコサモノエン酸（C20：1），ベヘン酸（C22：0），エルシン酸（C22：1），リグノセリン酸（C24：0），ネルボン酸（C24：1）など11種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー－質量分析で同定した。埋設土器内土壌の脂肪酸組成(図２の１，２）と埋設土器外土壌の脂肪酸組成(図２の３）を比較すると，土器内土壌では上層部土壌・中層部土壌・下層部土壌いずれの試料ともパルミチン酸，パルミトレイン酸が主成分で全脂肪の約80%近くを占めていた。パルミチン酸の占める割合が高い脂肪酸パターンを持った試料は高等動物の体脂肪が混入した可能性が高いと推測される。またパルミトレイン酸の分布割合が高い値を示した。この脂肪酸を持った動植物種はまれにしか存在しないことから，この脂肪酸は高等動物由来のステアリン酸，オレイン酸の分解物から来たものと推測される。高等動物，とくに臓器・脳・神経組織に特徴的にみられるリグノセリン酸は低い値でしか検出されなかった。これに対して対照土壌である試料No.12，No.16は植物由来のリノール酸が約18%，12%と比較的高い割合を占め，植物腐植土の脂肪酸組成を示した。他の試料の脂肪酸組成についても植物由来のリノール酸，リノレイン酸が分解しパルミチン酸，パルミトレイン酸の占める割合を増加させたと推測される。

埋設土器片に残存する脂肪酸組成（図２の４）は，試料No.18，No.19，No.20でステアリン酸，パルミチン酸が主成分で，全脂質の約90%近く占めていた。これは高等動物の体脂肪に特徴的な脂肪酸組成である。試料No.21からは炭素数22以上の高級飽和脂肪酸，とくに高等動物の血液，脳，神経組織，胎盤，臓器に特徴的なベヘン酸20%およびリグノセリン酸18%とを比較的高い

割合で検出した。土葬形態の墓壙では，一般に特徴的な脂肪としてベヘン酸とリグノセリン酸が多く検出されるところから，埋設土器内に動物遺体が存在していた可能性が高い。

4．残存脂肪のステロール組成

土器片および埋土に残存する脂肪からステロールをケイ酸薄層クロマトグラフィーにより分離・精製後，アセテート誘導体にしてからガスクロマトグラフィーにより分析した。

試料の残存ステロール組成を図３の１，２，３に示す。残存脂肪から７～11種類のステロールを検出した。このうち，コレステロール，エルゴステロール，カンペステロール，スチグマステロール，シトステロールなど７種類のステロールをガスクロマトグラフィー－質量分析で同定した。埋設土器内土壌では上層部土壌試料No.２，No.３，No.５を除いて，動物由来のコレステロールが約20～44％近くの含有量を占め，中層部，下層部で高い傾向を示した(図３の１)。逆に植物由来のシトステロールは上層部で約22～30％と高い割合で分布していた。埋設土器外対照土壌（図３の２）はいずれの試料もシトステロールが約20～53％と分布割合が高かった。埋設土器（図３の３）では，コレステロールが約45％以上と極めて高い割合で存在していた。一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロール比の指標値は0.6以上である。従って，表２に見られるように，埋設土器内中層部，下層部土壌試料No.6～No.11の1.100～2.744，土器片試料No.18～No.21の1.517～4.966の高いステロール比の分布は動物遺体の存在・付着を示唆する。これに対し，土器外土壌，とくに試料No.12，No.13，No.16は低い値を示し，植物腐植土壌を示していた。

5．脂肪酸組成からの数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成を重回帰分析にかけ，相関行列距離を基にした群平均法によるクラスター分析の結果を図４に示す。樹状構造図に見られるように，土壌試料いずれも類縁距離は0.13以下と互いに短い。この相関距離内で試料No.１，No.２，No.５，No.４，No.７，No.８，No.13，No.11，No.15はＡ群を，試料No.３，No.17，No.10，No.14，No.６，No.９はＢ群，試料No.12，No.16はＣ群を形成した。Ａ群，Ｂ群およびＣ群は比較的近い系統樹に属している。しかし，埋設土器では，動物体脂肪に特徴的に見られる中級飽和脂肪酸を多く持つ試料No.18，No.19，No.20がＤ群を，動物の臓器などに特徴的に見られるベヘン酸以上の高級飽和脂肪酸を多く持つ試料No.21がＥ群を形成した。

土器内土壌および住居址土壌試料と土器試料の類縁距離は0.45以上で遠い。このことから土器内土壌試料と住居址土壌試料は良く類似していて植物腐植由来脂肪酸とその酸化脂肪酸で構成されているが土器試料そのものに付着する脂肪はこれらと全く別種の動物脂肪であることが

判明した。

6．脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために，中級脂肪酸（炭素数16のパルミチン酸から炭素数18のステアリン酸，オレイン酸，リノール酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に，飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の比をY軸にとり，種特異性相関を求めた。この比例配分により，第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液，脳，神経組織，胎盤，臓器等に由来する脂肪が分布し，第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪・骨油に由来する脂肪が分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物，第3象限から第4象限に移る原点から離れた位置に海産動物が分布する。

土器内外土壌および土器片残存脂肪酸から求めた相関図を図5に示す。A群を形成する試料は第2象限から第3象限にかけて分布した。この位置は植物遺体の存在を示すものであるが，土器内土壌試料No.1，No.4，No.7，No.8，No.11では動物性のコレステロールが高い値を示した。一般に考古遺物は植物や動物などの遺体を包含する土壌から出土してくるので，これからしみ出した脂肪の影響を受けやすいため[(5)]，植物腐植由来の脂肪酸の混入による影響が極めて大きい。B群は第2象限のX軸付近に分布した。この分布位置はステロール組成から見ても，動物遺物と植物遺物の混合物である可能性が高く，試料No.6，No.9，No.10は植物腐植土の混入，試料No.14，No.17は動物遺体と植物性異種脂肪の混入が推測される。C群は第3象限のX軸付近に分布し，植物腐植土を示唆していた。埋設土器ではD群を形成する試料No.18，No.19，No.20は第2象限の原点から離れた位置に分布した。この位置は高等動物の体脂肪，骨油の存在・付着を示すものであり，美々4遺跡のヒト遺体の存在とよく一致していた。試料No.21は第1象限の原点から離れた位置にE群を形成した。この位置は動物臓器，とくに脳由来の脂肪が分布することから，この位置に動物遺体の中心が存在していたと推測される。

これらの成績と脂肪酸のクラスター分析およびステロール分析の結果を総合すると，埋設土器には動物遺体が存在していたと断定できた。従って，埋設土器は甕器であり，この土器内に遺体が埋葬されたと推定した。

7．総括

寺東遺跡から採取した埋設土器および土器内土壌11試料から動物脂肪とステロールを検出した。土器外土壌からは植物腐植を示す脂肪酸とステロールを検出した。その結果，埋設土器は甕棺であり，甕棺には高等動物に属する遺体が埋葬されていた可能性が極めて高いと認定された。甕棺には幼児埋葬用と，骨を集め埋葬した成人骨改葬（洗骨葬）用土器とがある。甕棺の

大きさ，土葬形態で検出されるリグノセリン酸含量が高いこと，多量の体脂肪の脂肪酸およびコレステロールが存在することから，出土甕棺は幼児埋葬用と認定される。動物種，とくにヒトの認定は脂肪酸とステロールの成績からだけでは判定するには困難を伴う。今後，免疫学的な手法による解析が望まれる。

参考文献

（1） 中野益男：「残存脂肪分析の現状」，「歴史公論」第10巻(6)，1984，pp124.

（2） 中野益男，中岡利泰：「配石遺構の土壌および甕棺土器に残存する脂肪の分析」，「大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(2)」，秋田県鹿角市教育委員会，1986，pp113.

（3） 中野益男，伊賀　啓，根岸　孝，安本教博，畑　宏明，矢吹俊男，佐原　真，田中　琢：「古代遺跡に残存する脂質の分析」，「脂質生化学研究」，第26巻，1984，pp40.

（4） M. Nakano and W. Fischer：「The Glycolipids of Lactobacillus casei DSM 20021」，「Hoppe-Seyler's Z. Pysiol. Chem.」358巻，1977，pp1439.

（5） 中野益男：「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」，『真脇遺跡－農村基盤総合整備事業能都東地区真脇工に係わる発掘調査報告書－』，能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団，1986，pp401.

（6） 中野益男，福島道広，中野寛子：「美々４遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」，『美沢川流域の遺跡群Ⅸ－新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－』，(財)北海道埋蔵文以財センター，1986，pp470.

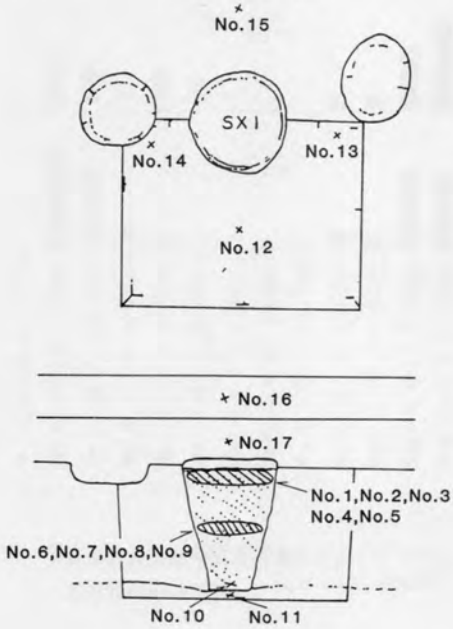
表39　寺東遺跡埋設土器および土壌の残存脂肪抽出量

No	採取地点	湿重量 (g)	全脂質(mg)	抽出率 (%)
1	土器内上部中央土壌	374.69	3.4	0.0009
2	土器内上部南端土壌	352.34	3.3	0.0009
3	土器内上部北端土壌	470.27	2.6	0.0006
4	土器内上部西端土壌	520.06	3.5	0.0007
5	土器内上部東端土壌	372.83	2.3	0.0006
6	土器内中央部北端土壌	504.84	2.3	0.0005
7	土器内中央部中央土壌	493.01	2.8	0.0006
8	土器内中央部南端土壌	512.88	3.7	0.0007
9	土器内中央部西端土壌	321.51	2.7	0.0008
10	土器内底部土壌	515.45	2.3	0.0004
11	埋設土器直下土壌	611.71	4.1	0.0007
12	住居址床面北土壌	507.31	1.0	0.0002
13	住居址床面西土壌	514.31	2.5	0.0005
14	住居址床面東土壌	519.79	2.7	0.0005
15	住居址床面南土壌	535.25	3.8	0.0007
16	表土	519.49	55.3	0.0106
17	覆土	519.32	2.6	0.0005
18	土器	72.57	5.4	0.0074
19	土器	114.62	6.9	0.0060
20	土器	459.14	73.1	0.0159
21	土器	995.45	24.3	0.0024

表40　寺東遺跡埋設土器および土壌に分布するコレステロールとシテステロールの割合

試料 (No.)	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール／シテステロール
1	20.68	22.77	0.9082
2	8.31	30.14	0.2757
3	14.48	22.43	0.6456
4	30.80	10.75	2.8651
5	8.43	27.10	0.3111
6	44.43	16.19	2.7443
7	38.97	28.09	1.3873
8	28.80	23.19	1.2419
9	33.05	22.31	1.4814
10	33.35	30.33	1.0996
11	30.36	14.77	2.0555
12	1.64	30.52	0.0537
13	14.41	52.85	0.2727
14	20.31	33.62	0.6041
15	14.71	17.95	0.8195
16	4.75	40.78	0.1165
17	15.31	24.34	0.6290
18	45.79	9.22	4.9664
19	53.69	17.27	3.1089
20	45.45	19.85	2.2897
21	43.89	28.94	1.5166

図1　寺東遺跡埋設土器配置図と土壌試料採取地点



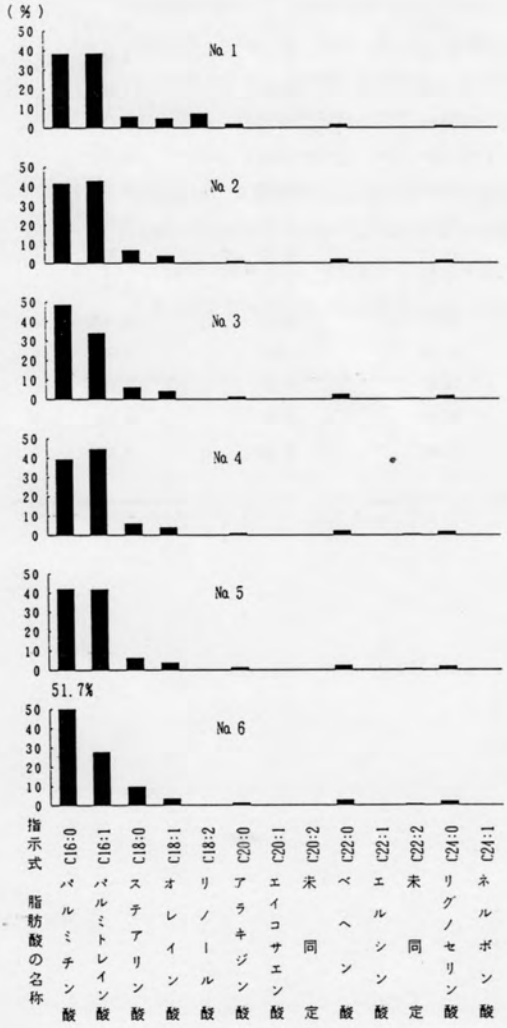


図2－1　出土埋設土器内土壌に残存する脂肪の脂肪酸組成

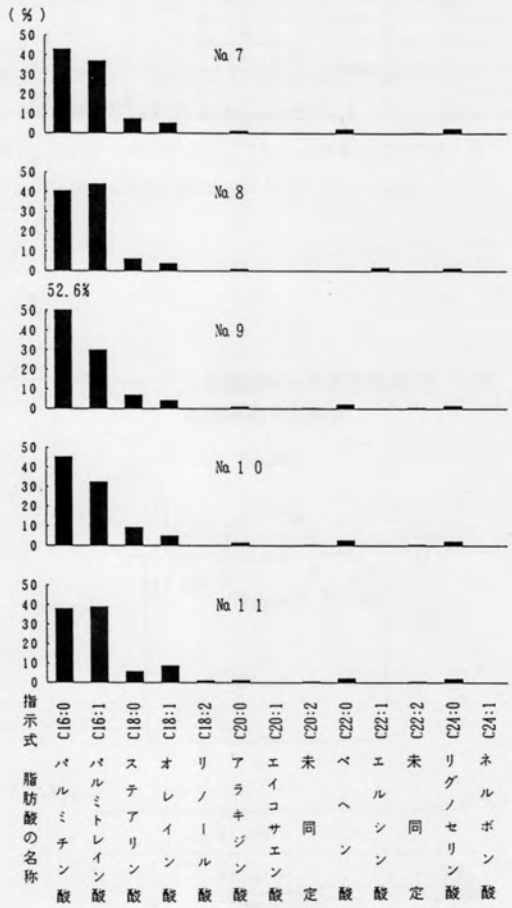


図2－2　出土埋設土器内土壌に残存する脂肪の脂肪酸組成

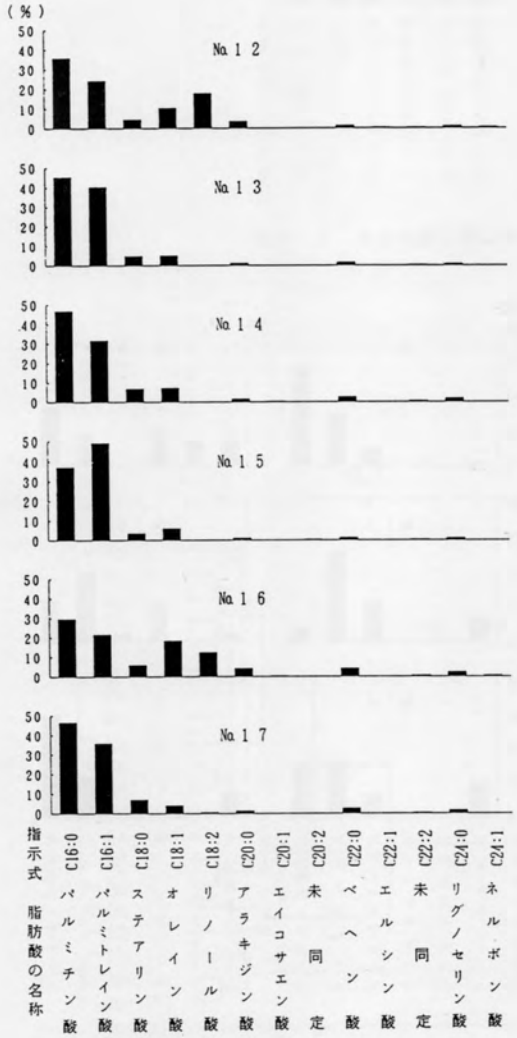


図２－３　出土埋設土器外土壌に残存する脂肪の脂肪酸組成

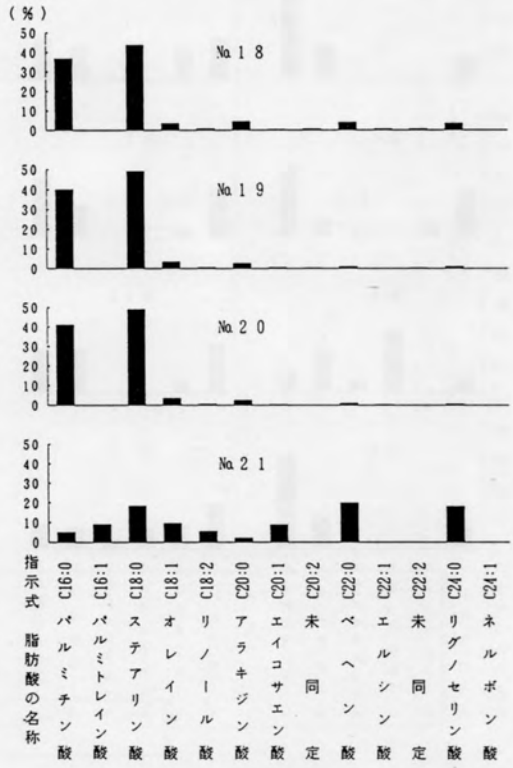


図２－４　出土埋設土器に残存する脂肪の脂肪酸組成

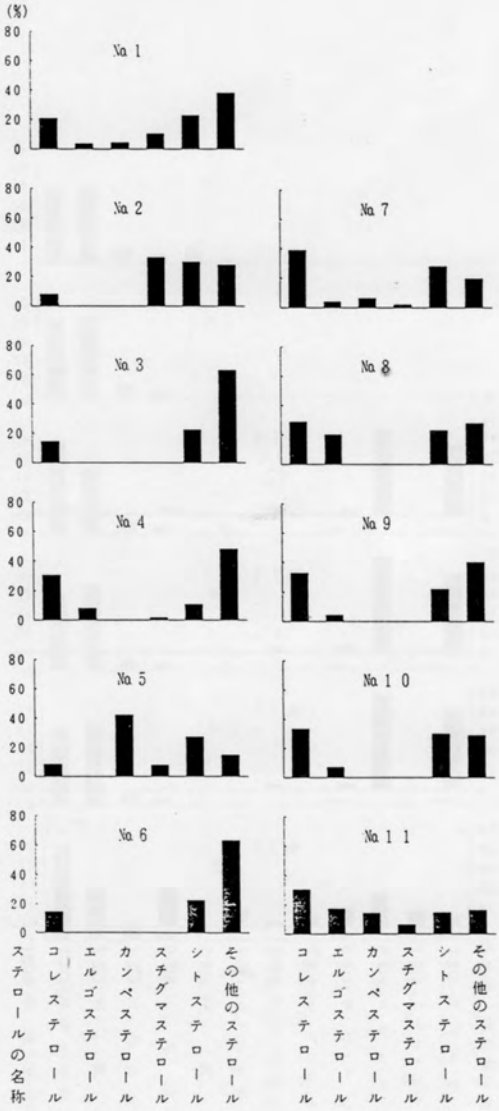


図3－1　出土埋設土器内土壌に残存する脂肪のステロール組成

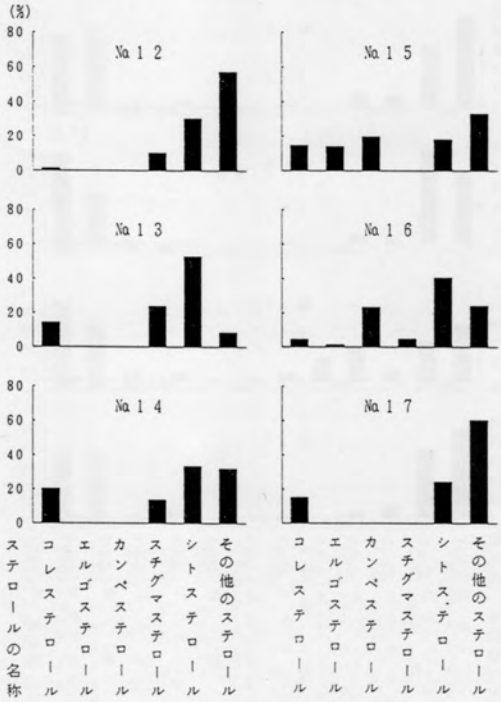


図3－2　出土埋設土器外土壌脂肪のステロール組成

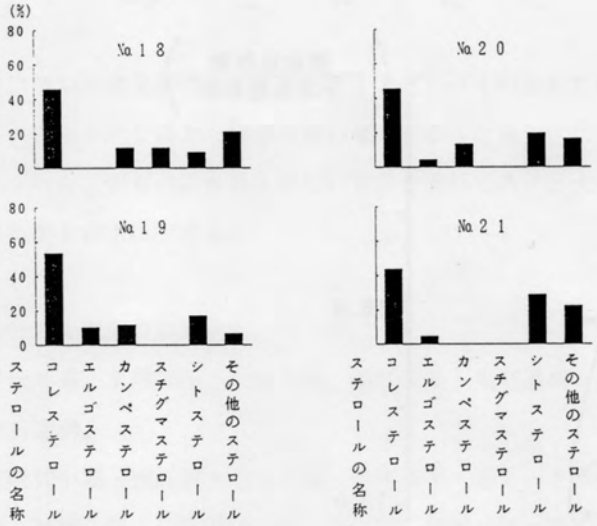


図3－3　出土埋設土器に残存する脂肪のステロール組成

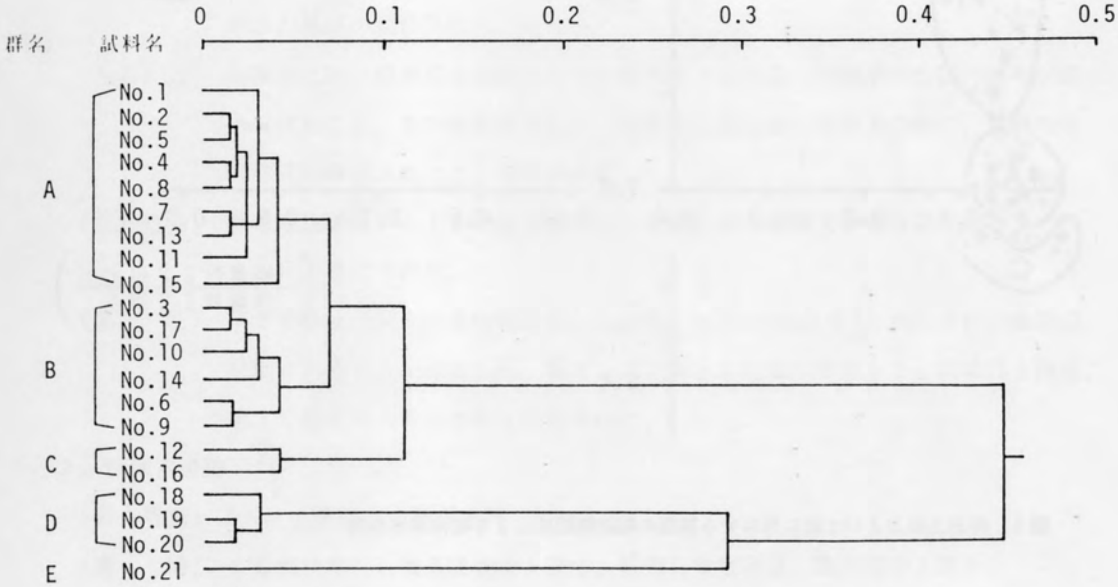


図4　埋設土器および土壌に残存する脂肪酸組成樹状構造図

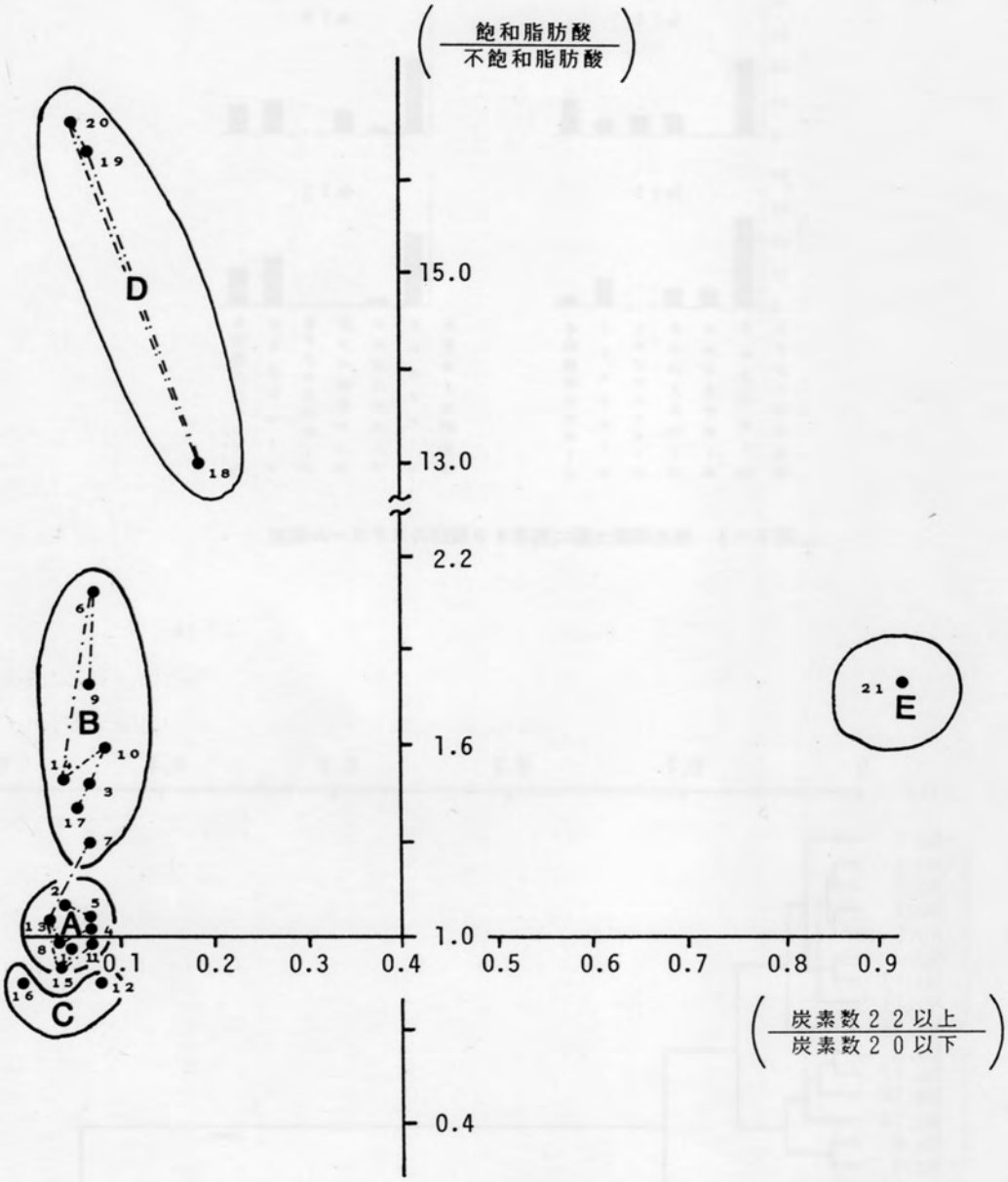


図５　埋設土器および土壌に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

あ と が き

4月から4ヵ月半に及ぶ現地発掘調査、9月から7ヵ月かけて行われた遺物整理と報告書作製作業は、あらゆる人の献身的な協力と研学の強い意志をもった諸先生によって進められ、本書がようやく出来上がった。何ものにも換えがたい貴重な資料であり、大いに活用されることを望んで、調査結果概要を以下に記する。

1．寺東遺跡

（調査規模）1,440㎡、発掘前の現況水田。

（遺　　構）住居址6基、土壙3基、炉址2基、墓址3基、集石遺構8箇所、ピット群、硬玉製大珠包含層、配石遺構。

（時　　期）縄文時代中期・硬玉製大珠包含層、中期後半・第2～6号住居址、ＳＢ1周辺Ｐ群、後期・第1号住居址、第1号土壙、後期初頭・第1～2号炉、後期前半・ピット45（ＳＫ2）、第7号集石遺構、晩期・第1～3号墓址、晩期前葉・第8号集石遺構、その他ピット群は中期～晩期が混在する。

（埋　　甕）ＳＢ2に4、ＳＢ3に2、ＳＢ4に5、ＳＢ5に1、ＳＢ6に1箇所、その他1箇所。埋甕内土壌及び埋甕土器片の脂肪酸分析により、埋設土器内に動物遺体が存在していた可能性が高い。住居址内覆土と埋甕上層土とは同様に植物腐植土の組成が分析された。

（土器形式）中期末には、信州系を主体として、東海系・北陸系・関西系の土器の共存が認められたこと、また後期前半には、関東系・関西系・北陸系の中に、飛騨特有の形式が確認されたことなどがある。

（自然遺物）第5号住居址からトチの実が出土し、飛騨における縄文中期後葉段階のトチの食用化が確認された。

（墓　　址）第2号墓址の炭片の年代測定をした結果、2610±40(ＢＰ)と測定され、晩期の墓址であることが確認され、第1、3号墓址も同様の形態をなし同時代と推定。第1号墓址の人骨は女性と推定された。

2．西保木遺跡

（調査規模）500㎡、発掘前の現況水田

（遺　　構）土器集積地点、掘立建物址1箇所、打製石斧包含層、集石遺構2箇所。

（時　　期）遺物包含層（第Ⅳ、Ⅴ層）から出土した土器は中期が少量、大部分は晩期中葉に属するものであった。

（土器形式）北陸との密接なかかわりが認められた。

図版100　SB I（挿図60－1）

図版101　SK I（挿図61－1）

図版102　SK I（挿図61－1）

図版103　SK I（挿図61－1）

図版104　1・2号炉（挿図62）

図版105　2号炉（挿図62）

図版106　2号炉（挿図62）

図版107　SB1周辺P群（挿図63）

図版108　SB2 SX1（挿図64－1）

図版109　SB2 SX2（挿図64－1）

図版110　SB2 SX3（挿図64－1）

図版111　SB2 SX4（挿図64－1）

図版112　SB2（挿図64－1）

図版113　SB2（挿図64－1）

挿図114　SB2（挿図64－1）

図版115　SB2（挿図64－2）

図版116　SB2（挿図64－2）

図版117　SB3 SX1（挿図65－1）

図版118　SB3 SX2（挿図65－1）

図版119 SB3（挿図65—1）

図版121 SB4 SX1（挿図66—1）

図版120 SB3（挿図65－1）

図版122 SB4 SX2（挿図66－1）

図版123 SB4 SX3（挿図66－1）

図版124 SB4 SX4（挿図66—1）

図版125 SB4 SX5（挿図66—1）

図版126 SB4（挿図66—2）

図版127 SB4（挿図66—2）

図版128 SB4（挿図66—2）

図版129 SB5 SXI（挿図67—1）

図版130　SB5（挿図67－1）

図版131　SB5（挿図67－1）

図版133　SB6（挿図68－1）

図版132　SB6 SXI（挿図68－1）

図版134　集石遺構（挿図69－2）

図版135　P45（挿図70－1）

図版136　P45（挿図70－2）

図版137　P45（挿図70－2）

図版138　第1号墓址（挿図74）

図版139　その他埋甕施設（挿図73）

図版140　その他埋甕施設（挿図73）

図版141　西P群（挿図72）

図版142　ピット群（挿図71—1）

図版143　ピット群（挿図71—1）

図版144　ピット群（挿図71—1）

図版145　ピット群（挿図71—1）

図版146 （挿図75・76）

図版147 （挿図76）

図版148 （挿図77）

図版149 （挿図77）

図版151 （挿図77）

図版150 （挿図77）

図版152 （挿図79）

図版153 （挿図79）

図版154 （挿図80）

図版155　（挿図81）

図版156　（挿図81）

図版158　西保木の土器（挿図93）

図版160　西保木の土器（挿図94）

図版157　（挿図81）

図版159　西保木の土器（挿図94）

図版161　SBⅠ（挿図60－2）

図版162　SBⅠ（挿図60－3）

図版163　SKⅠ、1・2号炉（挿図61－2）

図版164　SB2（挿図64－3）

図版165　SB2（挿図64－3）

図版166　SB2（挿図64－4）

図版167　SB2（挿図64－4）

図版168　SB3（挿図65－2）

図版169　SB4（挿図66－3）

図版170　SB4（挿図66－4）

図版171　SB4（挿図66－5）

図版172　SB5（挿図67－2）

図版173　SB6（挿図68－2）

図版174　SC3（挿図69－1）

図版175　SC8（挿図69－3）

図版176　P45（挿図70－3）

図版177　SK3（挿図70－3）

図版178　硬玉製大珠
（挿図69－2）

図版179　硬玉製大珠

図版180　ピット群（挿図71－2）

図版181　遺構外（挿図82）

図版182　遺構外（挿図82）

図版183　遺構外（挿図83）

図版184　遺構外（挿図84）

図版185　遺構外（挿図85）

図版186　遺構外（挿図86）

図版187　遺構外（挿図87）

図版188　遺構外（挿図88）

図版189　遺構外（挿図89）

図版190　遺構外（挿図89）

図版191　遺構外（挿図90）

図版192　遺構外（挿図90）

図版193　遺構外（挿図91）

図版194　遺構外（挿図92）

図版196　西保木（挿図96）

図版195　西保木（挿図95）

図版197　大江命氏、大江真人氏

図版199　岩滝校下見学会

図版198　発掘調査団（SB4の前）

寺東遺跡、西保木(対岸)遺跡
発掘調査報告書

昭和63年3月　発行

編集・発行　高山市教育委員会
印　　刷　大　　進　　社
高　山　市　有　楽　町